廃棄物処理センター環境影響評価
及び
廃棄物処理センター（最終処分場）増設事業
に係る環境影響評価
事後調査報告書

（令和７年度）

令和８年　３月

一般財団法人三重県環境保全事業団

はじめに

本報告書は、一般財団法人三重県環境保全事業団廃棄物処理センター事業（最終処分場事業）の実施にあたり、「廃棄物処理センター建設計画に係る環境影響評価書（平成 12 年 8 月）」及び「廃棄物処理センター建設計画に係る環境影響評価書検討報告書（平成 20 年 7 月）」（以下、「既設事業評価書」及び「検討書」という。）並びに「廃棄物処理センター（最終処分場）増設事業に係る環境影響評価書（令和 3 年 4 月）」（以下、「増設事業評価書」という。）に示した環境保全対策を図るために実施することとした事後調査のうち、令和 7 年度に実施した調査結果をとりまとめたものです。

目　　次

第１章　事業の概要・・・

第2節　植物相・・・

第１章　事業の概要

第１節　事業主体、住所及び代表者

事業主体：一般財団法人三重県環境保全事業団

住　　所：三重県津市河芸町上野 3258 番地

代 表 者：理事長　　森　　靖　洋

第２節　指定事業の名称、種類、規模及び実施場所

【既設事業】

事業の名称：廃棄物処理センター事業

事業の種類：廃棄物処理施設（産業廃棄物最終処分場（管理型））の設置の事業

事業の規模：最終処分場　285,200 ㎡　　埋立総容量　1,672,000 ㎥

実 施 場 所：四日市市小山町地内

【増設事業】

事業の名称：廃棄物処理センター（最終処分場）増設事業

事業の種類：廃棄物処理施設（産業廃棄物最終処分場（管理型））の変更の事業

事業の規模：最終処分場　327,700 ㎡※　　埋立総容量　3,657,800 ㎥※

実 施 場 所：四日市市小山町地内

※既設事業を含む増設後全体の規模を示しています。

第 2 章　事業の進捗状況と事後調査の実施状況

最終処分場事業のうち、既設事業は、平成 22 年 8 月より建設工事に着手し、平成 24 年 12 月より供用を開始しました。

また、増設事業は、令和 4 年 4 月より建設工事に着手し、令和 7 年 1 月より供用を開始しました。

既設事業及び増設事業の事後調査の実施状況は表 2-1 に、事業範囲は図 2-1 に示したとおりです。

なお、既設事業における事後調査は、過年度と同様に供用による影響の把握を目的として行いました。但し、粉じん（ＳＰＭ）および地下水質については、増設事業の供用を受けて、一部調査内容を変更しました。

また、増設事業における事後調査は、増設事業評価書において影響が予測された、工事による地下水位への影響の把握、および重要な動植物種に対する継続的なモニタリングを目的として行いました。

表 2-1(1)　事後調査の実施状況（既設事業）

項目 ＼ 年度 月			令和7年度										
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業		最終処分場（既設事業）	供用中											
環境影響評価事後調査	最終処分場事業供用後に係る調査	① 粉じん（ＳＰＭ）	●			●			●			●		
		② 悪　臭		●		●			●			●		
		③ 環境騒音・振動	●			●			●			●		
		④ 河川水の水質	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		⑤ 地下水（モニター井戸）	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		⑥ 地下水（処分場地下水集排水）	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		⑦ 浸出水処理水	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	既設事業に係る動物・植物等の調査	⑧ 水生生物（淡水魚類）		●			●			●			●	
		⑨ 植物相						●						

注：表中「●」は今回報告する調査内容を表す。

表 2-1(2)　事後調査の実施状況（増設事業）

項目 ＼ 年度 月			令和7年度											
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業		最終処分場（増設事業）	供用中											
環境影響評価事後調査	※	⑩ 地下水位	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
	増設事業に係る動物・植物の調査	⑪ 哺乳類の重要種（ユビナガコウモリ、コウモリ類）			●					●				
		⑫ 鳥類の重要種（キビタキ）			●									
		⑬ 昆虫類の重要種（トゲアリ）			●									
		⑭ クモ類の重要種（コガネグモ）				●								
		⑮ 土壌動物の重要種（ゴホントゲザトウムシ）		●						●				
		⑯ 鳥類相		●									●	
		⑰ 維管束植物の重要種（キンラン）	●	●					●					
		⑱ 維管束植物の重要種（カラタチバナ、タシロラン）			●									
		⑲ 維管束植物の重要種（ツツイトモ）					●							
		⑳ 葉状地衣類									●			
		㉑ 生態系上位性注目種（フクロウ）	●	●	●	●				●		●	●	●
		㉒ 生態系特殊性注目種（ムカシヤンマ）	●	●										
		㉓ 維持管理作業							●	●				

※：増設事業工事に係る調査

注：表中「●」は今回報告する調査内容を表す。

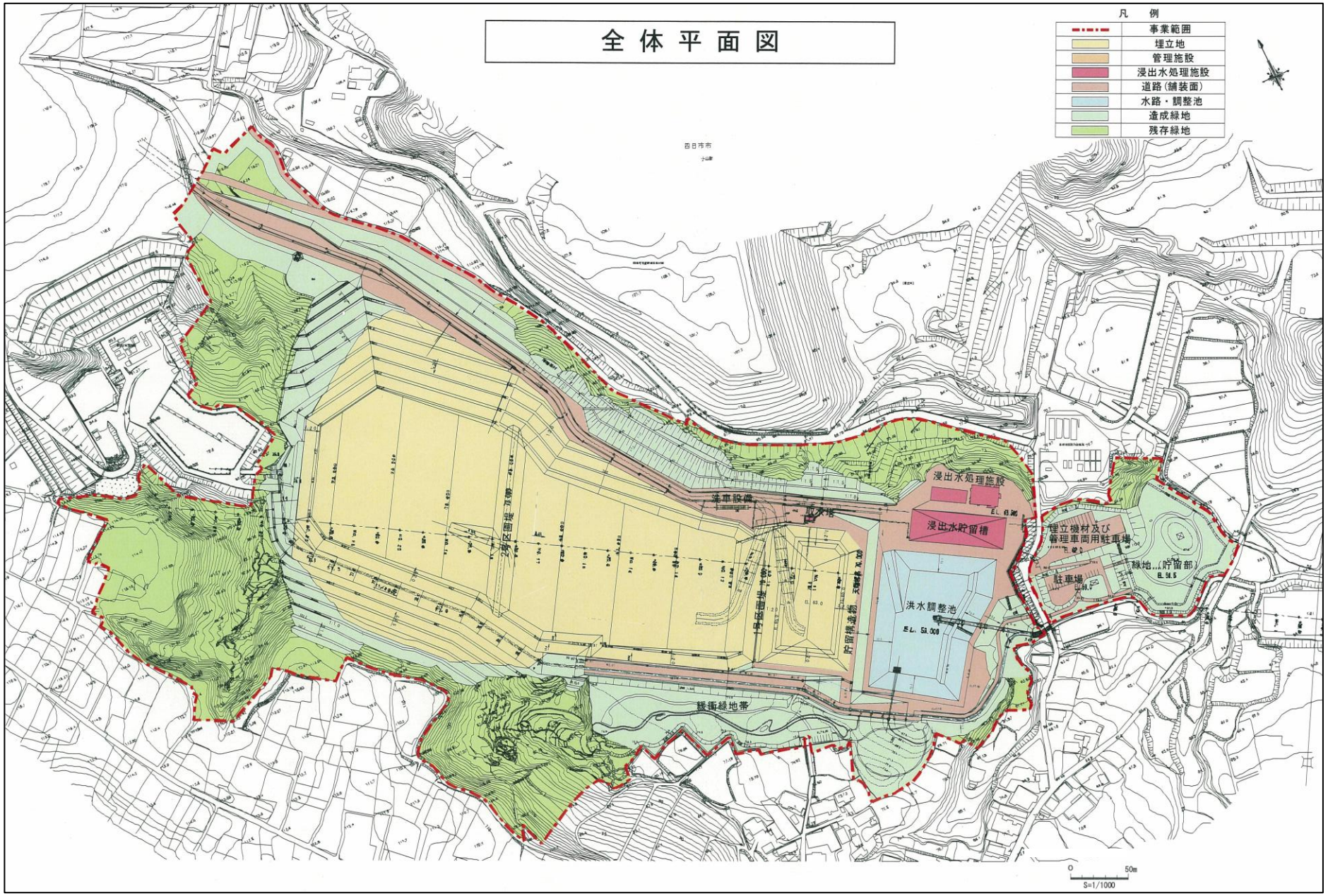


図 2-1(1)　最終処分場（既設事業）事業実施区域

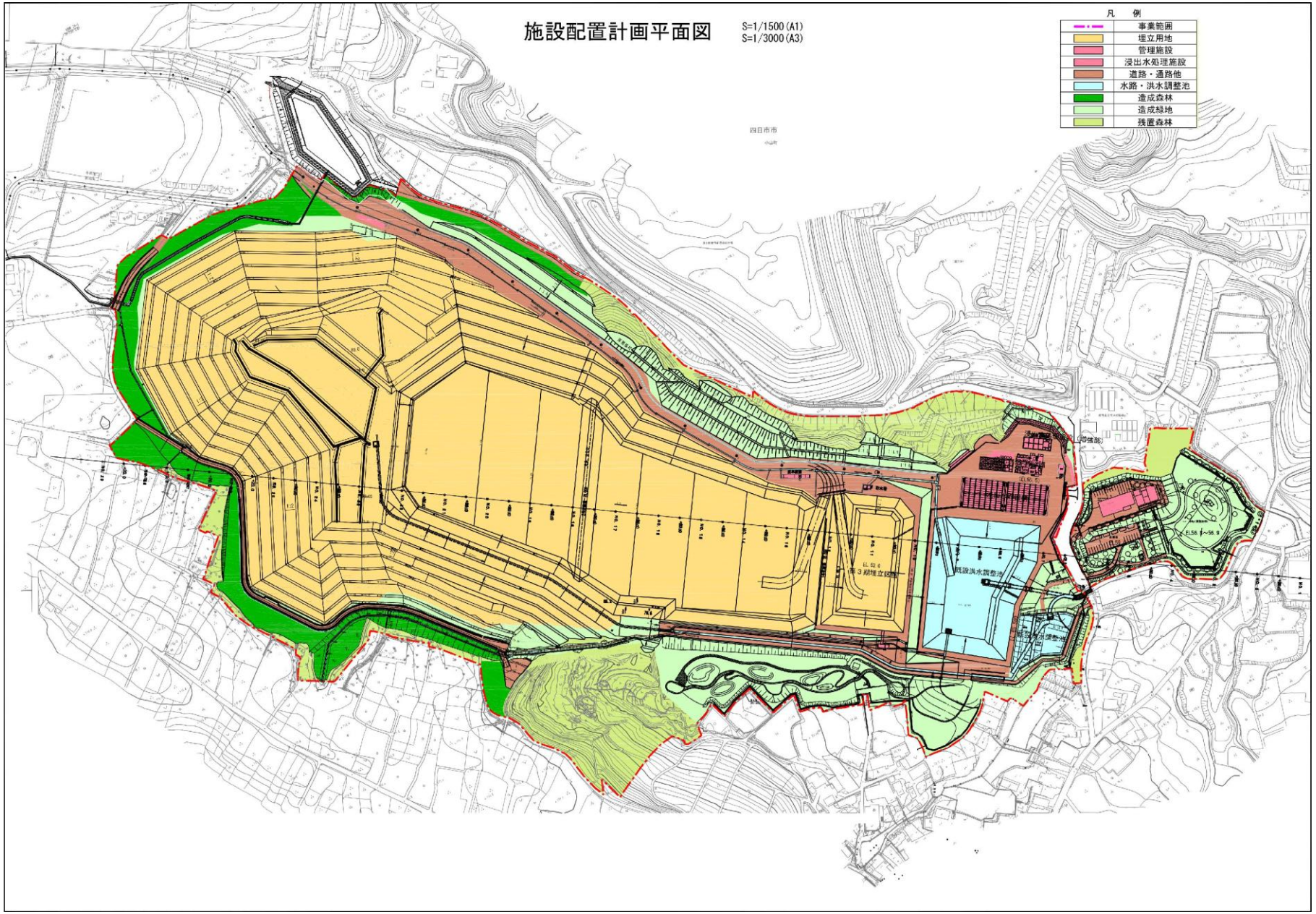


図 2-1(2)　最終処分場（既設及び増設事業）事業実施区域

第 3 章　最終処分場供用後に係る調査結果

第 1 節　大気質

第 1 項　調査概要

最終処分場事業の供用に伴う施設内の粉じんの飛散状況を把握するため、調査を実施しました。

1-1　調査地点

調査地点は、図 3-1-1 に示したとおり事業実施区域内の 2 地点としました。

1-2　調査項目及び調査時期

調査は浮遊粒子状物質（ＳＰＭ）を対象項目とし、調査時期は表 3-1-1 に示したとおり、各季 1 回、1 季あたり 7 日間連続測定を実施しました。

表 3-1-1　調査項目及び調査期間

調査項目	調査年月日	
浮遊粒子状物質（ＳＰＭ）	令和 7 年　4 月 18 日～ 4 月 24 日	(春季)
	令和 7 年　7 月　4 日～ 7 月 10 日	(夏季)
	令和 7 年 10 月　3 日～10 月　9 日	(秋季)
	令和 8 年　1 月 21 日～ 1 月 27 日	(冬季)

1-3　調査方法

分析方法は表 3-1-2 に示したとおりです。

表 3-1-2　調査項目及び分析方法

測定項目	分析方法
浮遊粒子状物質（ＳＰＭ）	昭和 48 年環境庁告示第 25 号　別表に示すβ線吸収法

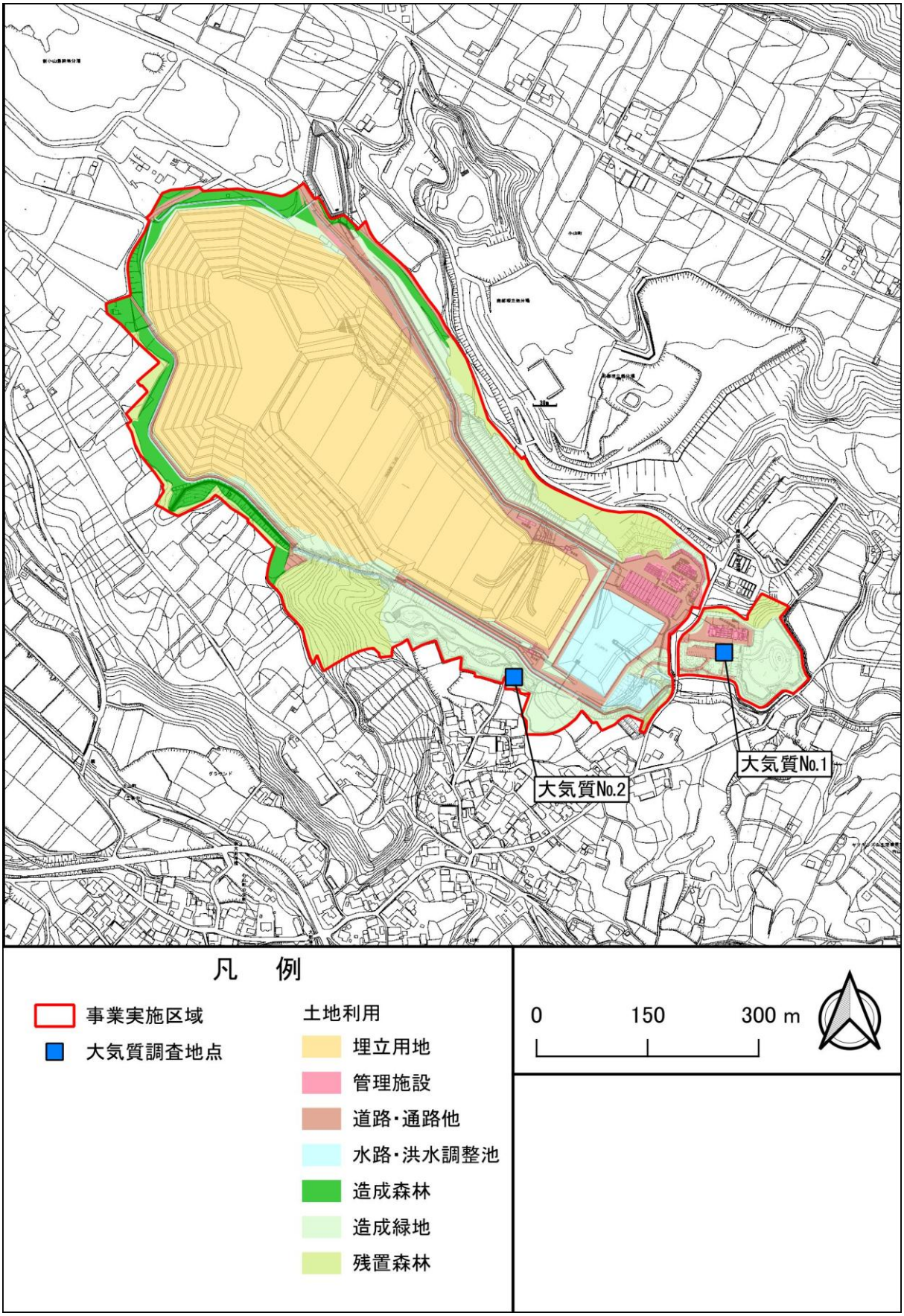


図 3-1-1　大気質（浮遊粒子状物質：ＳＰＭ）調査地点

第 2 項　調査結果

調査結果は表 3-1-3 に示したとおりです。また、測定時の風配図は資料編に記載しました。

全ての測定期間において、№1 の日平均値は 0.005～0.070mg/㎥、1 時間値の最大値は 0.018～0.106mg/㎥、№2 の日平均値は 0.002～0.065mg/㎥、1 時間値の最大値は 0.008～0.111mg/㎥であり、いずれも環境基準を満足していました。

表 3-1-3　浮遊粒子状物質調査結果

項目	ＳＰＭ（mg/㎥）							
環境基準※	1時間値の1日平均値				0.10以下			
	1時間値				0.20以下			
調査期間	春季（令和7年4月18日～4月24日）				夏季（令和7年7月4日～7月10日）			
調査地点	No.1		No.2		No.1		No.2	
	日平均値	1時間値の最大値	日平均値	1時間値の最大値	日平均値	1時間値の最大値	日平均値	1時間値の最大値
1日目	0.034	0.047	0.037	0.057	0.043	0.076	0.039	0.075
2日目	0.033	0.061	0.044	0.078	0.062	0.082	0.061	0.093
3日目	0.035	0.061	0.041	0.075	0.026	0.049	0.031	0.057
4日目	0.011	0.039	0.013	0.048	0.039	0.101	0.040	0.092
5日目	0.025	0.073	0.026	0.073	0.070	0.106	0.065	0.104
6日目	0.005	0.023	0.006	0.026	0.066	0.104	0.065	0.111
7日目	0.009	0.042	0.008	0.029	0.013	0.024	0.017	0.039
調査期間	秋季（令和7年10月3日～10月9日）				冬季（令和8年1月21日～1月27日）			
調査地点	No.1		No.2		No.1		No.2	
	日平均値	1時間値の最大値	日平均値	1時間値の最大値	日平均値	1時間値の最大値	日平均値	1時間値の最大値
1日目	0.013	0.041	0.016	0.034	0.007	0.036	0.004	0.017
2日目	0.015	0.028	0.017	0.034	0.008	0.020	0.003	0.010
3日目	0.017	0.037	0.019	0.054	0.007	0.026	0.003	0.011
4日目	0.013	0.039	0.014	0.043	0.008	0.018	0.011	0.026
5日目	0.012	0.026	0.014	0.031	0.008	0.034	0.002	0.008
6日目	0.020	0.050	0.022	0.051	0.006	0.019	0.004	0.011
7日目	0.013	0.031	0.013	0.038	0.009	0.029	0.009	0.024

※「環境基準」：「大気の汚染に係る環境基準について」（昭和48 年環告25）

第 2 節　悪　臭

第 1 項　調査概要

最終処分場事業の供用に伴い、同施設からの悪臭が周辺環境に与える影響を把握するため、調査を実施しました。

1-1　調査時期

調査は表 3-2-1 に示したとおり、各季 1 回実施しました。

表 3-2-1　調査時期

時　期	調査年月日
春　季	令和 7 年　5 月 28 日
夏　季	令和 7 年　7 月 14 日
秋　季	令和 7 年 10 月 15 日
冬　季	令和 8 年　1 月 16 日

1-2　調査地点

調査地点は図 3-2-1 に示した事業実施区域の敷地境界に予め設定した 3 地点で調査を実施しました。

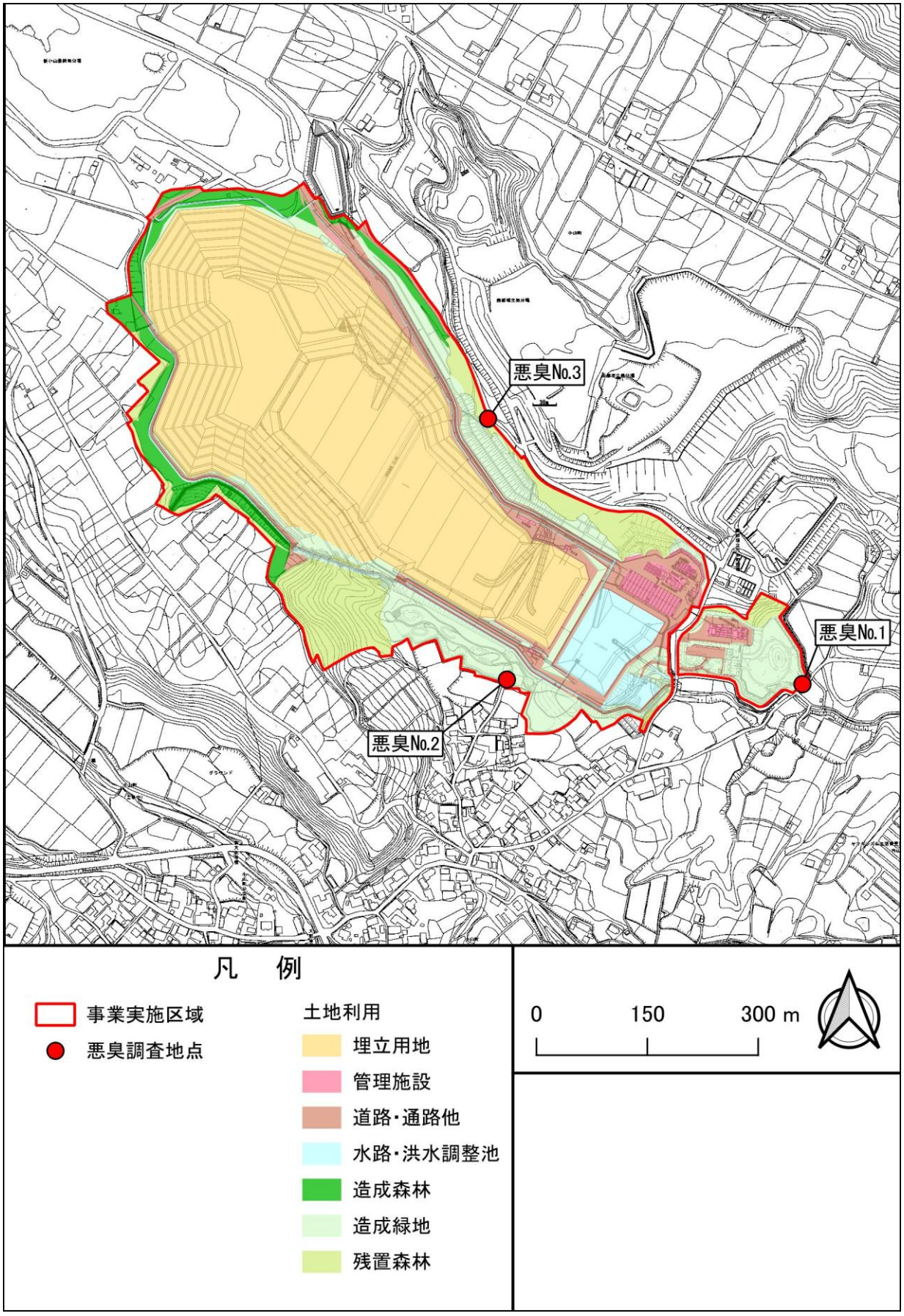

悪臭No.3
悪臭No.1
悪臭No.2
凡　例
事業実施区域
悪臭調査地点
土地利用
埋立用地
管理施設
道路・通路他
水路・洪水調整池
造成森林
造成緑地
残置森林
0
150
300 m

図 3-2-1　悪臭調査地点

1-3　調査項目及び分析方法

調査項目は悪臭防止法に定める特定悪臭物質（22 物質)、臭気指数及び気象とし、分析方法は表 3-2-2 に示したとおりです。

表 3-2-2　調査項目及び分析方法

項　目		分析方法
アンモニア		昭和47年環境庁告示第9号別表第1
メチルメルカプタン 硫化水素 硫化メチル 二硫化メチル		昭和47年環境庁告示第9号別表第2
トリメチルアミン		昭和47年環境庁告示第9号別表第3
アセトアルデヒド プロピオンアルデヒド ノルマルブチルアルデヒド イソブチルアルデヒド ノルマルバレルアルデヒド イソバレルアルデヒド		昭和47年環境庁告示第9号別表第4の3
イソブタノール 酢酸エチル メチルイソブチルケトン トルエン		昭和47年環境庁告示第9号別表第9
スチレン		昭和47年環境庁告示第9号別表第7の2
キシレン		昭和47年環境庁告示第9号別表第9
プロピオン酸 ノルマル酪酸 ノルマル吉草酸 イソ吉草酸		昭和47年環境庁告示第9号別表第8
臭気指数		平成7年環境庁告示第63号
気象	風　向	ビラム型風向風速計
	風　速	
	気　温	アスマン通風乾湿計
	湿　度	

第 2 項　調査結果

調査結果は表 3-2-3 に示したとおりです。夏季の No.1 と秋季の No.2 においてアンモニアが 0.1ppm 検出されました。

No.1 は事業実施区域の東側敷地境界であり、同日測定時の No.1 における風向は南西であること、また、同日測定時に事業実施区域の風下にあたる No.3 においては、アンモニアは検出されなかったことから、夏季の No.1 から検出されたアンモニアは本事業に起因するものではないと考えられました。

さらに、No.2 は事業実施区域の南側敷地境界であり、同日測定時の No.2 における風向きは南西であること、また、同日測定時に事業実施区域の風下にあたる No.3 においては、アンモニアは検出されなかったことから、秋季の No.2 から検出されたアンモニアは本事業に起因するものではないと考えられました。

なお、夏季の No.1 と秋季の No.2 で検出されたアンモニア以外は、いずれの地点も特定悪臭物質は検出されませんでした。

また、人の嗅覚により試験を行う臭気指数も、春季、夏季、秋季、冬季のいずれの地点も 10 未満でした。

表 3-2-3(1)　悪臭調査結果（春季・夏季）

（単位：ppm、臭気指数は単位なし）

項　目		春季			夏季			排出規制基準※
		No.1	No.2	No.3	No.1	No.2	No.3	
アンモニア		<0.1	<0.1	<0.1	0.1	<0.1	<0.1	1以下
メチルメルカプタン		<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002以下
硫化水素		<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.02以下
硫化メチル		<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01以下
二硫化メチル		<0.0009	<0.0009	<0.0009	<0.0009	<0.0009	<0.0009	0.009以下
トリメチルアミン		<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.005以下
アセトアルデヒド		<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.05以下
プロピオンアルデヒド		<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.05以下
ノルマルブチルアルデヒド		<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.009以下
イソブチルアルデヒド		<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.02以下
ノルマルバレルアルデヒド		<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.009以下
イソバレルアルデヒド		<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.003以下
イソブタノール		<0.09	<0.09	<0.09	<0.09	<0.09	<0.09	0.9以下
酢酸エチル		<0.3	<0.3	<0.3	<0.3	<0.3	<0.3	3以下
メチルイソブチルケトン		<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	1以下
トルエン		<1	<1	<1	<1	<1	<1	10以下
スチレン		<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	0.4以下
キシレン		<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	1以下
プロピオン酸		<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	0.03以下
ノルマル酪酸		<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.001以下
ノルマル吉草酸		<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0009以下
イソ吉草酸		<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.001以下
臭気指数		<10	<10	<10	<10	<10	<10	—
気象	天候	晴	晴	晴	曇	曇	曇	—
	気温(℃)	21.9	22.5	25.8	31.1	32.0	31.8	—
	湿度(%)	60	57	54	77	78	81	—
	風向	NNE	SSW	SE	SW	SSE	NW	—
	風速(m/s)	0.8	1.4	1.0	1.3	1.7	1.2	—

※:「排出規制基準」は悪臭防止法の規定に基づく規制地域の指定及び規制基準（平成 10 年 7 月 10 日三重県告示第 323 号）

表 3-2-3(2)　悪臭調査結果（秋季・冬季）

（単位：ppm、臭気指数は単位なし）

項　目		秋季			冬季			排出規制基準※
		No.1	No.2	No.3	No.1	No.2	No.3	
アンモニア		<0.1	0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	1以下
メチルメルカプタン		<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002以下
硫化水素		<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.02以下
硫化メチル		<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01以下
二硫化メチル		<0.0009	<0.0009	<0.0009	<0.0009	<0.0009	<0.0009	0.009以下
トリメチルアミン		<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.005以下
アセトアルデヒド		<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.05以下
プロピオンアルデヒド		<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.05以下
ノルマルブチルアルデヒド		<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.009以下
イソブチルアルデヒド		<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.02以下
ノルマルバレルアルデヒド		<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.009以下
イソバレルアルデヒド		<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.003以下
イソブタノール		<0.09	<0.09	<0.09	<0.09	<0.09	<0.09	0.9以下
酢酸エチル		<0.3	<0.3	<0.3	<0.3	<0.3	<0.3	3以下
メチルイソブチルケトン		<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	1以下
トルエン		<1	<1	<1	<1	<1	<1	10以下
スチレン		<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	0.4以下
キシレン		<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	1以下
プロピオン酸		<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	0.03以下
ノルマル酪酸		<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.001以下
ノルマル吉草酸		<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0009以下
イソ吉草酸		<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.001以下
臭気指数		<10	<10	<10	<10	<10	<10	—
気象	天候	曇	曇	曇	晴	晴	晴	—
	気温(℃)	23.8	24.5	23.3	12.3	14.5	16.2	—
	湿度(%)	74	68	72	57	51	38	—
	風向	SW	SW	W	Calm	Calm	Calm	—
	風速(m/s)	1.5	1.2	0.6	<0.5	<0.5	<0.5	—

※:「排出規制基準」は悪臭防止法の規定に基づく規制地域の指定及び規制基準（平成 10 年 7 月 10 日三重県告示第 323 号）

第 3 節　環境騒音

第 1 項　調査概要

最終処分場事業の供用に伴う騒音の影響を把握するため、最終処分場周辺で環境騒音の調査を実施しました。

1-1　調査時期

調査は表 3-3-1 に示したとおり、各季 1 回、1 回あたり 24 時間連続測定としました。

表 3-3-1　調査時期

時　期	調査年月日
春　季	令和 7 年　4 月 17 日～ 18 日
夏　季	令和 7 年　7 月 15 日～ 16 日
秋　季	令和 7 年 10 月 16 日～ 17 日
冬　季	令和 8 年　1 月 15 日～ 16 日

1-2　調査地点

調査地点は図 3-3-1 に示した事業実施区域周辺の 2 地点としました。

1-3　調査項目及び調査方法

調査項目は環境騒音とし、調査方法は「騒音に係る環境基準について」（平成 10 年　環境庁告示第 64 号）に準じて実施しました。

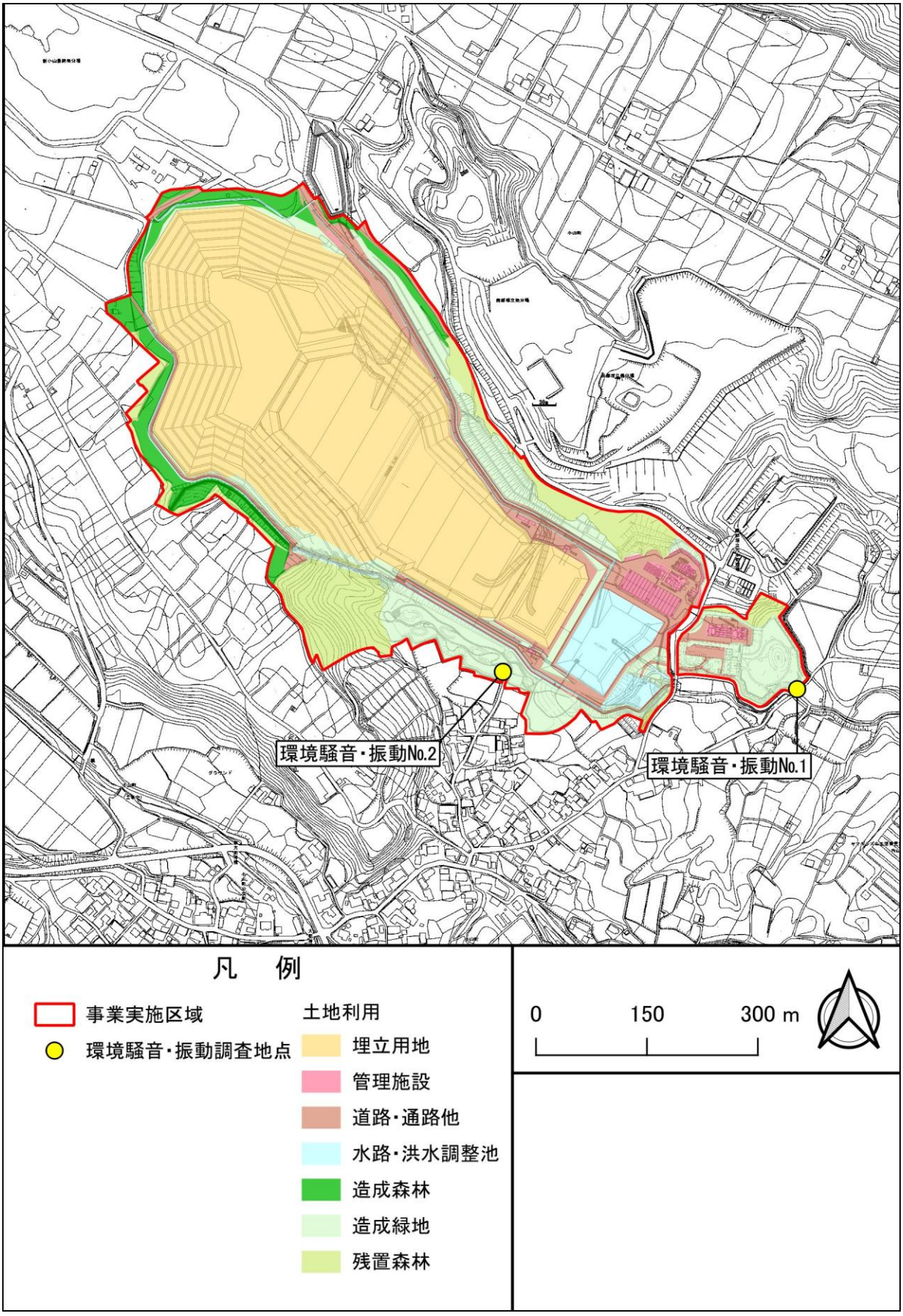


図 3-3-1　環境騒音・環境振動調査地点

第 2 項　調査結果

調査結果は表 3-3-2 に示したとおりであり、No.1 の 6 時から 22 時までの昼間の基準時間帯における等価騒音レベルは 39～65dB、22 時から 6 時までの夜間の基準時間帯における等価騒音レベルは 40～61dB、同じくNo.2 の昼間の等価騒音レベルは 34～60dB、夜間の等価騒音レベルは 37～57dB でした。

春季及び夏季はいずれの地点・時間帯においても高い値がみられましたが、春季はカエルの鳴き声によるものが、夏季はセミやカエルの鳴き声によるものが含まれていたためです。

表 3-3-2(1)　環境騒音調査結果（春季・夏季）

単位：dB(A)

測定時間	春季				夏季			
	No.1		No.2		No.1		No.2	
	L_{Aeq-1h}	L_{50}※	L_{Aeq-1h}	L_{50}※	L_{Aeq-1h}	L_{50}※	L_{Aeq-1h}	L_{50}※
12:00 ～	47	44	39	36	53	52	48	46
13:00 ～	46	44	41	35	54	53	48	46
14:00 ～	48	44	44	37	55	54	49	47
15:00 ～	48	45	45	39	54	53	49	48
16:00 ～	46	44	41	35	53	52	47	46
17:00 ～	47	44	40	36	51	49	46	45
18:00 ～	55	50	54	45	51	50	46	45
19:00 ～	64	64	60	59	53	52	44	42
20:00 ～	65	65	60	60	49	48	48	46
21:00 ～	64	64	58	57	50	50	54	53
22:00 ～	61	61	57	57	51	51	55	55
23:00 ～	60	59	56	54	52	52	55	55
0:00 ～	55	54	55	55	52	52	55	55
1:00 ～	52	51	52	49	51	51	54	54
2:00 ～	49	48	46	43	50	50	49	47
3:00 ～	48	47	44	41	53	51	49	48
4:00 ～	48	47	43	41	54	52	47	47
5:00 ～	50	49	41	39	50	49	47	46
6:00 ～	49	47	41	38	51	49	45	44
7:00 ～	49	46	41	38	54	52	45	44
8:00 ～	50	45	41	36	53	52	45	44
9:00 ～	48	45	41	37	54	53	46	45
10:00 ～	48	45	43	37	54	53	45	44
11:00 ～	46	44	41	35	53	51	45	44
昼間平均	58	49	53	41	53	51	48	46
夜間平均	56	52	53	47	52	51	53	51

※：現在、環境基準は L_{Aeq} で評価するため、L_{50} は参考値として示した。

表 3-3-2(2)　環境騒音調査結果（秋季・冬季）

単位：dB(A)

測定時間	秋季				冬季			
	No.1		No.2		No.1		No.2	
	L_{Aeq-1h}	L_{50}※	L_{Aeq-1h}	L_{50}※	L_{Aeq-1h}	L_{50}※	L_{Aeq-1h}	L_{50}※
12:00 ～	53	52	47	46	44	40	39	33
13:00 ～	52	51	44	42	43	39	37	33
14:00 ～	51	50	42	42	44	39	34	33
15:00 ～	52	50	43	42	41	39	36	34
16:00 ～	50	49	44	43	43	40	37	35
17:00 ～	50	49	43	43	43	39	38	36
18:00 ～	53	53	47	46	40	40	38	37
19:00 ～	52	51	45	45	41	39	39	36
20:00 ～	50	49	44	43	39	39	37	36
21:00 ～	53	53	49	49	40	40	37	37
22:00 ～	52	52	48	47	40	40	38	37
23:00 ～	52	52	48	47	40	40	38	37
0:00 ～	52	52	48	48	40	40	37	36
1:00 ～	52	52	49	48	40	40	37	36
2:00 ～	52	52	46	46	41	41	40	39
3:00 ～	49	49	43	43	41	41	39	39
4:00 ～	49	48	43	43	41	41	39	38
5:00 ～	49	48	43	43	41	41	40	40
6:00 ～	49	48	45	43	42	42	41	40
7:00 ～	50	48	43	43	46	42	41	40
8:00 ～	49	47	41	40	45	41	41	39
9:00 ～	48	47	42	40	46	41	41	39
10:00 ～	48	47	41	39	44	41	41	36
11:00 ～	47	46	38	36	43	40	38	36
昼間平均	51	49	44	43	43	40	39	36
夜間平均	51	51	47	46	41	40	39	38

※：現在、環境基準は L_{Aeq} で評価するため、L_{50} は参考値として示した。

第 4 節　環境振動

第 1 項　調査概要

最終処分場事業の供用に伴う振動の影響を把握するため、最終処分場周辺で環境振動の調査を実施しました。

1-1　調査時期

調査は表 3-4-1 に示したとおり、各季 1 回、1 回あたり 24 時間連続測定としました。

表 3-4-1　調査時期

時　期	調査年月日
春　季	令和 7 年　4 月 17 日～ 18 日
夏　季	令和 7 年　7 月 15 日～ 16 日
秋　季	令和 7 年 10 月 16 日～ 17 日
冬　季	令和 8 年　1 月 15 日～ 16 日

1-2　調査地点

調査地点は前掲の図 3-3-1 に示したとおり、事業実施区域周辺の 2 地点としました。

1-3　調査項目及び調査方法

調査項目は環境振動とし、調査方法は「JIS Z 8735-1981」により実施しました。

第 2 項　調査結果

振動レベルの調査結果は表 3-4-2 に示したとおり、すべての調査時期、調査地点及び調査時間帯で測定機器の保証最低値（30dB）未満でした。

表 3-4-2　環境振動調査結果

単位：dB(Z)

時　季	地点 / 測定時間	No.1	No.2
		L_{10}	
春　季	12:00 ～	30未満	30未満
	13:00 ～	30未満	30未満
	14:00 ～	30未満	30未満
	15:00 ～	30未満	30未満
	16:00 ～	30未満	30未満
	17:00 ～	30未満	30未満
	18:00 ～	30未満	30未満
	19:00 ～	30未満	30未満
	20:00 ～	30未満	30未満
	21:00 ～	30未満	30未満
	22:00 ～	30未満	30未満
	23:00 ～	30未満	30未満
	0:00 ～	30未満	30未満
	1:00 ～	30未満	30未満
	2:00 ～	30未満	30未満
	3:00 ～	30未満	30未満
	4:00 ～	30未満	30未満
	5:00 ～	30未満	30未満
	6:00 ～	30未満	30未満
	7:00 ～	30未満	30未満
	8:00 ～	30未満	30未満
	9:00 ～	30未満	30未満
	10:00 ～	30未満	30未満
	11:00 ～	30未満	30未満
夏　季	12:00 ～	30未満	30未満
	13:00 ～	30未満	30未満
	14:00 ～	30未満	30未満
	15:00 ～	30未満	30未満
	16:00 ～	30未満	30未満
	17:00 ～	30未満	30未満
	18:00 ～	30未満	30未満
	19:00 ～	30未満	30未満
	20:00 ～	30未満	30未満
	21:00 ～	30未満	30未満
	22:00 ～	30未満	30未満
	23:00 ～	30未満	30未満
	0:00 ～	30未満	30未満
	1:00 ～	30未満	30未満
	2:00 ～	30未満	30未満
	3:00 ～	30未満	30未満
	4:00 ～	30未満	30未満
	5:00 ～	30未満	30未満
	6:00 ～	30未満	30未満
	7:00 ～	30未満	30未満
	8:00 ～	30未満	30未満
	9:00 ～	30未満	30未満
	10:00 ～	30未満	30未満
	11:00 ～	30未満	30未満

時　季	地点 / 測定時間	No.1	No.2
		L_{10}	
秋　季	12:00 ～	30未満	30未満
	13:00 ～	30未満	30未満
	14:00 ～	30未満	30未満
	15:00 ～	30未満	30未満
	16:00 ～	30未満	30未満
	17:00 ～	30未満	30未満
	18:00 ～	30未満	30未満
	19:00 ～	30未満	30未満
	20:00 ～	30未満	30未満
	21:00 ～	30未満	30未満
	22:00 ～	30未満	30未満
	23:00 ～	30未満	30未満
	0:00 ～	30未満	30未満
	1:00 ～	30未満	30未満
	2:00 ～	30未満	30未満
	3:00 ～	30未満	30未満
	4:00 ～	30未満	30未満
	5:00 ～	30未満	30未満
	6:00 ～	30未満	30未満
	7:00 ～	30未満	30未満
	8:00 ～	30未満	30未満
	9:00 ～	30未満	30未満
	10:00 ～	30未満	30未満
	11:00 ～	30未満	30未満
冬　季	12:00 ～	30未満	30未満
	13:00 ～	30未満	30未満
	14:00 ～	30未満	30未満
	15:00 ～	30未満	30未満
	16:00 ～	30未満	30未満
	17:00 ～	30未満	30未満
	18:00 ～	30未満	30未満
	19:00 ～	30未満	30未満
	20:00 ～	30未満	30未満
	21:00 ～	30未満	30未満
	22:00 ～	30未満	30未満
	23:00 ～	30未満	30未満
	0:00 ～	30未満	30未満
	1:00 ～	30未満	30未満
	2:00 ～	30未満	30未満
	3:00 ～	30未満	30未満
	4:00 ～	30未満	30未満
	5:00 ～	30未満	30未満
	6:00 ～	30未満	30未満
	7:00 ～	30未満	30未満
	8:00 ～	30未満	30未満
	9:00 ～	30未満	30未満
	10:00 ～	30未満	30未満
	11:00 ～	30未満	30未満

注：調査地点は前掲の図 3-3-1 参照

第 5 節　河川水の水質

第 1 項　調査概要

浸出水処理水の放流先河川である天白川の水質の状況を把握するため、調査を実施しました。

1-1　調査地点

調査地点は図 3-5-1 に示したとおり、最終処分場処理水の放流河川である天白川において 4 地点（№1～4）を設定しました。

1-2　調査時期

調査のうち、生活環境項目等についてはNo.1、2、4 で 4 月から 3 月まで毎月 1 回の計 12 回、No.3 で各季 1 回の計 4 回実施しました。健康項目等についてはNo.1、2、4 で各季 1 回の計 4 回実施しました。

また、環境ホルモンのうち、ダイオキシン類についてはNo.1、2、3、4 で夏季・冬季に各 1 回、その他の項目はNo.1、2、4 で冬季に 1 回実施しました。

調査年月日・調査項目及び調査地点は表 3-5-1 に示したとおりです。

表 3-5-1　調査年月日・調査項目及び調査地点

調査年月日		調査項目			
		生活環境項目等	健康項目等	環境ホルモン	
				ダイオキシン類	その他の項目
令和 7 年	4 月 18 日	No.1、2、4	No.1、2、4	－	－
	5 月 14 日	No.1、2、3、4	－	－	－
	6 月　6 日	No.1、2、4	－	－	－
	7 月　2 日	No.1、2、4	No.1、2、4	No.1、2、3、4	－
	8 月　6 日	No.1、2、3、4	－	－	－
	9 月　2 日	No.1、2、4	－	－	－
	10 月　8 日	No.1、2、4	No.1、2、4	－	－
	11 月　5 日	No.1、2、3、4	－	－	－
	12 月　3 日	No.1、2、4	－	－	－
令和 8 年	1 月　7 日	No.1、2、4	No.1、2、4	No.1、2、3、4	No.1、2、4
	2 月　4 日	No.1、2、3、4	－	－	－
	3 月　6 日	No.1、2、4	－	－	－

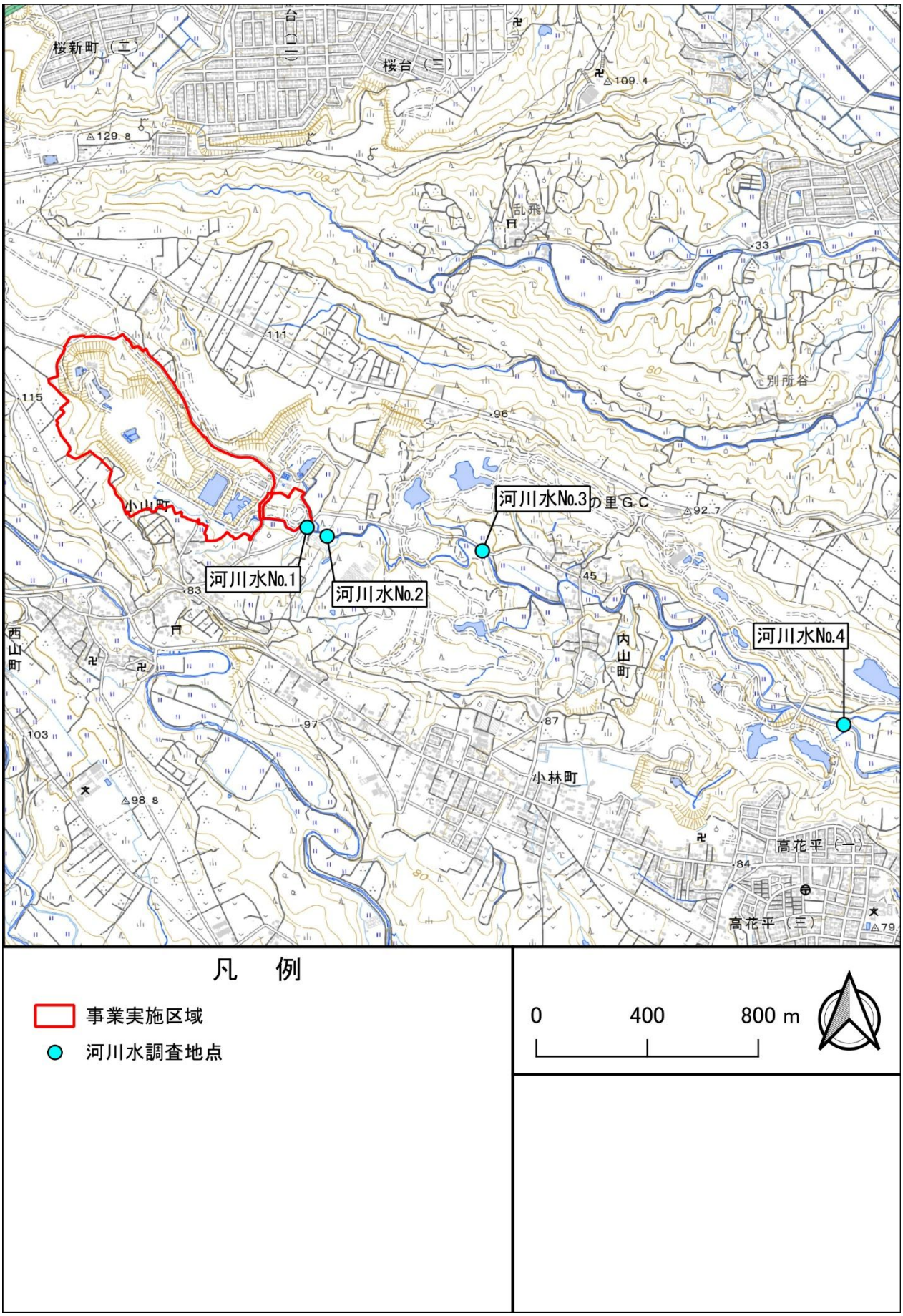


図 3-5-1　河川水調査地点

1-3　調査項目及び分析方法

調査項目は外観、気温、水温、流量の他、水素イオン濃度（ｐＨ)、生物化学的酸素要求量（ＢＯＤ)、化学的酸素要求量（ＣＯＤ）等の生活環境項目等 6 項目、カドミウム、鉛等の健康項目等 15 項目及びダイオキシン類を含む環境ホルモン 8 項目について調査を行いました。

調査項目及び分析方法は表 3-5-2 に示したとおりです。

表 3-5-2　調査項目及び分析方法

項　目		分析方法
外　観		JIS K 0102-1 7
気　温		JIS K 0102-1 6.2
水　温		JIS K 0102-1 6.3
流　量		JIS K 0094 8
生活環境項目等	水素イオン濃度（ｐＨ）	JIS K 0102-1 12
	生物化学的酸素要求量（ＢＯＤ）	JIS K 0102-1 18
	化学的酸素要求量（ＣＯＤ）	JIS K 0102-1 17.2
	浮遊物質量（ＳＳ）	昭和 46 年環境庁告示第 59 号付表 8
	全窒素（T-N）	JIS K 0102-2 17.5
	全　燐（T-P）	JIS K 0102-2 18.4.6
健康項目等	カドミウム	JIS K 0102-3 14.5
	鉛	JIS K 0102-3 13.5
	砒　素	JIS K 0102-3 20.5
	フェノール類	JIS K 0102-4 5.2
	銅	JIS K 0102-3 11.6
	亜　鉛	JIS K 0102-3 12.5
	溶解性鉄	JIS K 0102-3 16.5
	溶解性マンガン	JIS K 0102-3 15.4
	クロム含有量	JIS K 0102-3 24.2.5
	ふっ素	JIS K 0102-2 5.5
	ｎ－ヘキサン抽出物質	JIS K 0102-1 22.5
	大腸菌数(CFU)	JIS K 0102-5 5.6.2
	1,4-ジオキサン	昭和 46 年環境庁告示第 59 号付表 7
	硫酸イオン	JIS K 0102-2 5.5
	硬度	JIS K 0102-3 10.2
環境ホルモン	ダイオキシン類	JIS K 0312（2020）
	ビスフェノールＡ フタル酸ジ-2-エチルヘキシル フタル酸ジ-n-ブチル フタル酸ブチルベンジル フタル酸ジシクロヘキシル フタル酸ジエチル アジピン酸ジ-2-エチルヘキシル	「外因性内分泌攪乱化学物質調査暫定マニュアル」（平成 10 年 10 月）に準拠

第 2 項　調査結果

2-1　生活環境項目等、健康項目等

調査結果のうち、主な項目について表 3-5-3 に示しました。調査結果の詳細は表 3-5-4 に示したとおりです。

天白川には、河川の環境基準の類型指定はありませんが、農業用水として利水されていることから、図 3-5-2～4 に示したとおり主な項目について農業用水基準と比較しました。

その結果、ｐＨは、№2 では 12 回のうち 3 回が、№3 では 4 回のうち 3 回が、№4 では 12 回のうち 8 回の調査日で基準値を上回る状況でしたが、№1 では全ての調査日で基準を満たしていました。また、Ｔ－Ｎは、4 地点とも全ての調査月において基準値を上回る状況でした。

なお、その他の項目については、全て同基準を下回っていました。

表 3-5-3　主な項目の調査結果

	単位	№1	№2	№3（内山町地内）	№4（八王子町地内）
ｐＨ	－	7.5（7.3～7.5）	7.5（7.4～7.8）	7.6（7.5～7.7）	7.6（7.5～7.7）
ＢＯＤ	mg/L	0.5（<0.5～0.6）	0.5（<0.5～0.7）	0.8（<0.5～1.2）	0.7（<0.5～1.0）
ＣＯＤ	mg/L	2.2（1.3～3.3）	2.2（1.4～3.0）	2.7（2.7～2.8）	3.0（2.1～4.3）
ＳＳ	mg/L	1.7（<1.0～5.4）	2.1（<1.0～10）	<1.0	2.6（<1.0～13）
Ｔ－Ｎ	mg/L	7.6（6.3～9.5）	7.4（6.3～9.7）	8.6（7.3～11）	5.6（4.5～7.2）
Ｔ－Ｐ	mg/L	0.032 （0.017～0.066）	0.031 （0.016～0.053）	0.028 （0.009～0.039）	0.041 （0.028～0.063）

注 1：表中の数字は「平均値（最小値～最大値）」を示す。
注 2：№3 は春季（5 月）・夏季（8 月）・秋季（11 月）・冬季（2 月）の結果。

表 3-5-4(1)　水質調査結果（No.1）

項目名		単位	4月18日	5月14日	6月6日	7月2日	8月6日	9月2日	10月8日	11月5日	12月3日	1月7日	2月4日	3月6日	農業用水基準
外観			殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	微混濁	
気温		℃	19.3	22.6	24.1	27.6	33.7	32.1	25.8	14.1	11.8	3.0	4.6	10.0	
水温		℃	17.1	18.6	19.3	21.4	23.6	25.4	21.5	17.0	15.1	11.0	9.6	12.5	
流量		m^3/分	1.6	2.8	2.4	3.5	3.2	2.6	1.9	1.5	2.0	1.9	1.7	0.84	
生活環境項目等	ｐＨ		7.5	7.5	7.5	7.3	7.4	7.5	7.5	7.5	7.3	7.4	7.5	7.5	6.0～7.5
	ＢＯＤ	mg/L	0.5	<0.5	<0.5	<0.5	0.6	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	0.5	
	ＣＯＤ	mg/L	1.9	2.3	3.3	2.5	2.4	1.3	3.1	2.5	1.8	1.4	1.9	2.3	6mg/L以下
	ＳＳ	mg/L	3.8	1.2	1.3	1.6	<1.0	<1.0	1.2	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	5.4	100mg/L以下
	Ｔ－Ｎ	mg/L	7.9	8.0	6.9	7.3	6.3	6.4	6.7	7.4	7.9	8.6	9.5	8.6	1mg/L以下
	Ｔ－Ｐ	mg/L	0.066	0.037	0.041	0.046	0.038	0.035	0.027	0.023	0.019	0.017	0.017	0.022	
健康項目等	カドミウム	mg/L	<0.0003	－	－	<0.0003	－	－	<0.0003	－	－	<0.0003	－	－	
	鉛	mg/L	<0.005	－	－	<0.005	－	－	<0.005	－	－	<0.005	－	－	
	砒素	mg/L	<0.005	－	－	<0.005	－	－	<0.005	－	－	<0.005	－	－	0.05mg/L以下
	フェノール類	mg/L	<0.01	－	－	<0.01	－	－	<0.01	－	－	<0.01	－	－	
	銅	mg/L	<0.01	－	－	<0.01	－	－	<0.01	－	－	<0.01	－	－	0.02mg/L以下
	亜鉛	mg/L	<0.01	－	－	<0.01	－	－	<0.01	－	－	<0.01	－	－	0.5mg/L以下
	溶解性鉄	mg/L	0.03	－	－	0.05	－	－	0.03	－	－	0.03	－	－	
	溶解性マンガン	mg/L	0.07	－	－	0.08	－	－	0.06	－	－	0.07	－	－	
	クロム含有量	mg/L	<0.02	－	－	<0.02	－	－	<0.02	－	－	<0.02	－	－	
	ふっ素	mg/L	0.45	－	－	0.85	－	－	0.78	－	－	0.44	－	－	
	n-ﾍｷｻﾝ抽出物質	mg/L	検出せず (<0.5)	－	－	検出せず (<0.5)	－	－	検出せず (<0.5)	－	－	検出せず (<0.5)	－	－	
	大腸菌数(CFU)	CFU/100mL	28	－	－	64	－	－	14	－	－	35	－	－	
	1,4-ジオキサン	mg/L	<0.005	－	－	<0.005	－	－	<0.005	－	－	<0.005	－	－	
	硫酸イオン	mg/L	360	－	－	400	－	－	560	－	－	360	－	－	
	硬度	mg/L	280	－	－	360	－	－	450	－	－	280	－	－	

注：表中の「－」は調査を実施していないことを示す。

表 3-5-4(2)　水質調査結果（No.2）

項目名		単位	4月18日	5月14日	6月6日	7月2日	8月6日	9月2日	10月8日	11月5日	12月3日	1月7日	2月4日	3月6日	農業用水基準
外観			殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	微混濁	
気温		℃	19.3	22.6	23.3	27.6	33.2	32.1	24.8	14.1	10.5	3.0	4.6	10.0	
水温		℃	16.7	18.2	19.5	25.9	24.6	26.3	21.5	16.8	15.0	10.8	9.4	12.0	
流量		m^3/分	1.7	3.4	3.9	3.7	6.4	2.9	2.4	2.6	3.8	2.3	2.9	0.55	
生活環境項目等	ｐＨ		7.5	7.6	7.5	7.4	7.4	7.6	7.5	7.4	7.4	7.8	7.5	7.5	6.0～7.5
	ＢＯＤ	mg/L	0.7	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	
	ＣＯＤ	mg/L	1.7	2.4	3.0	2.6	2.4	1.4	2.6	2.5	2.2	1.5	1.9	2.3	6mg/L以下
	ＳＳ	mg/L	3.7	<1.0	1.2	<1.0	<1.0	<1.0	1.7	<1.0	<1.0	1.5	1.2	10	100mg/L以下
	Ｔ－Ｎ	mg/L	7.8	7.6	6.4	6.6	6.3	6.7	6.7	7.2	7.2	9.7	9.0	7.8	1mg/L以下
	Ｔ－Ｐ	mg/L	0.053	0.034	0.041	0.047	0.038	0.034	0.026	0.019	0.019	0.016	0.016	0.023	
健康項目等	カドミウム	mg/L	<0.0003	－	－	<0.0003	－	－	<0.0003	－	－	<0.0003	－	－	
	鉛	mg/L	<0.005	－	－	<0.005	－	－	<0.005	－	－	<0.005	－	－	
	砒素	mg/L	<0.005	－	－	<0.005	－	－	<0.005	－	－	<0.005	－	－	0.05mg/L以下
	フェノール類	mg/L	<0.01	－	－	<0.01	－	－	<0.01	－	－	<0.01	－	－	
	銅	mg/L	<0.01	－	－	<0.01	－	－	<0.01	－	－	<0.01	－	－	0.02mg/L以下
	亜鉛	mg/L	<0.01	－	－	<0.01	－	－	<0.01	－	－	<0.01	－	－	0.5mg/L以下
	溶解性鉄	mg/L	0.04	－	－	0.05	－	－	0.05	－	－	0.02	－	－	
	溶解性マンガン	mg/L	0.06	－	－	0.07	－	－	0.05	－	－	0.07	－	－	
	クロム含有量	mg/L	<0.02	－	－	<0.02	－	－	<0.02	－	－	<0.02	－	－	
	ふっ素	mg/L	0.38	－	－	0.84	－	－	0.77	－	－	0.46	－	－	
	n-ﾍｷｻﾝ抽出物質	mg/L	検出せず (<0.5)	－	－	検出せず (<0.5)	－	－	検出せず (<0.5)	－	－	検出せず (<0.5)	－	－	
	大腸菌数(CFU)	CFU/100mL	45	－	－	51	－	－	24	－	－	34	－	－	
	1,4-ジオキサン	mg/L	<0.005	－	－	<0.005	－	－	<0.005	－	－	<0.005	－	－	
	硫酸イオン	mg/L	220	－	－	470	－	－	410	－	－	310	－	－	
	硬度	mg/L	190	－	－	390	－	－	370	－	－	280	－	－	

注：表中の「－」は調査を実施していないことを示す。

表 3-5-4(3)　水質調査結果（№3）

項目名		単位	5月14日	8月6日	11月5日	2月4日	農業用水基準
外観			殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	
気温		℃	22.6	34.3	14.7	7.0	
水温		℃	19.4	25.5	15.5	5.9	
流量		m^3/分	3.5	5.1	3.5	3.5	
生活環境項目等	ｐＨ		7.7	7.7	7.5	7.6	6.0～7.5
	ＢＯＤ	mg/L	<0.5	<0.5	0.8	1.2	
	ＣＯＤ	mg/L	2.7	2.8	2.7	2.7	6mg/L以下
	ＳＳ	mg/L	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	100mg/L以下
	Ｔ－Ｎ	mg/L	7.3	7.7	8.2	11	1mg/L以下
	Ｔ－Ｐ	mg/L	0.039	0.039	0.023	0.009	

表 3-5-4(4)　水質調査結果（No.4）

項目名		単位	4月18日	5月14日	6月6日	7月2日	8月6日	9月2日	10月8日	11月5日	12月3日	1月7日	2月4日	3月6日	農業用水基準
外観			殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	淡黄色	
気温		℃	20.3	22.6	24.1	28.2	33.7	31.9	25.8	14.7	11.8	5.7	4.6	12.0	
水温		℃	15.7	19.6	19.2	22.6	26.0	25.6	21.4	15.4	12.7	7.7	6.3	10.1	
流量		m^3/分	0.67	4.8	4.6	3.2	7.5	4.8	3.9	6.0	4.4	2.4	3.5	1.7	
生活環境項目等	ｐＨ		7.6	7.7	7.6	7.5	7.7	7.7	7.7	7.5	7.5	7.5	7.7	7.6	6.0～7.5
	ＢＯＤ	mg/L	0.6	0.6	0.5	<0.5	0.6	0.9	0.8	1.0	0.8	0.7	0.6	0.6	
	ＣＯＤ	mg/L	2.1	2.7	3.0	3.0	4.3	3.7	3.4	3.1	2.6	2.4	2.2	3.0	6mg/L以下
	ＳＳ	mg/L	1.1	1.2	<1.0	<1.0	3.8	13	2.2	1.0	1.0	<1.0	<1.0	3.6	100mg/L以下
	Ｔ－Ｎ	mg/L	5.4	4.5	4.6	5.2	4.7	5.8	4.8	5.8	6.1	6.9	7.2	6.0	1mg/L以下
	Ｔ－Ｐ	mg/L	0.045	0.042	0.042	0.037	0.063	0.051	0.041	0.035	0.029	0.034	0.028	0.045	
健康項目等	カドミウム	mg/L	<0.0003	－	－	<0.0003	－	－	<0.0003	－	－	<0.0003	－	－	
	鉛	mg/L	<0.005	－	－	<0.005	－	－	<0.005	－	－	<0.005	－	－	
	砒素	mg/L	<0.005	－	－	<0.005	－	－	<0.005	－	－	<0.005	－	－	0.05mg/L以下
	フェノール類	mg/L	<0.01	－	－	<0.01	－	－	<0.01	－	－	<0.01	－	－	
	銅	mg/L	<0.01	－	－	<0.01	－	－	<0.01	－	－	<0.01	－	－	0.02mg/L以下
	亜鉛	mg/L	<0.01	－	－	<0.01	－	－	<0.01	－	－	<0.01	－	－	0.5mg/L以下
	溶解性鉄	mg/L	0.10	－	－	0.10	－	－	0.09	－	－	0.08	－	－	
	溶解性マンガン	mg/L	0.12	－	－	0.12	－	－	0.12	－	－	0.17	－	－	
	クロム含有量	mg/L	<0.02	－	－	<0.02	－	－	<0.02	－	－	<0.02	－	－	
	ふっ素	mg/L	0.19	－	－	0.29	－	－	0.37	－	－	0.17	－	－	
	n-ﾍｷｻﾝ抽出物質	mg/L	検出せず (<0.5)	－	－	検出せず (<0.5)	－	－	検出せず (<0.5)	－	－	検出せず (<0.5)	－	－	
	大腸菌数(CFU)	CFU/100mL	86	－	－	150	－	－	92	－	－	70	－	－	
	1,4-ジオキサン	mg/L	<0.005	－	－	<0.005	－	－	<0.005	－	－	<0.005	－	－	
	硫酸イオン	mg/L	110	－	－	170	－	－	230	－	－	120	－	－	
	硬度	mg/L	120	－	－	180	－	－	220	－	－	130	－	－	

注：表中の「－」は調査を実施していないことを示す。

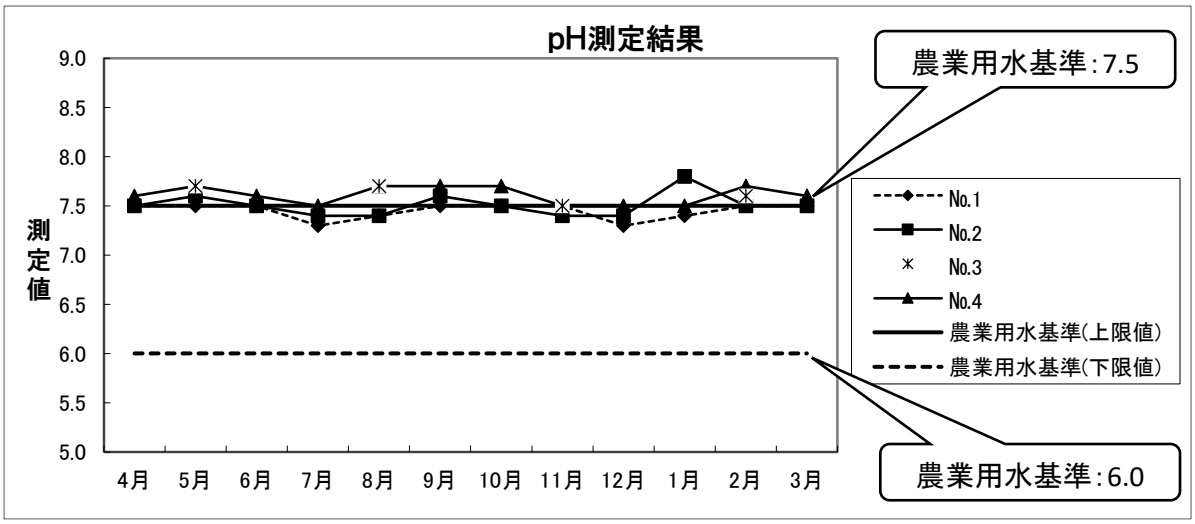


図 3-5-2　水質調査結果（ｐＨ）

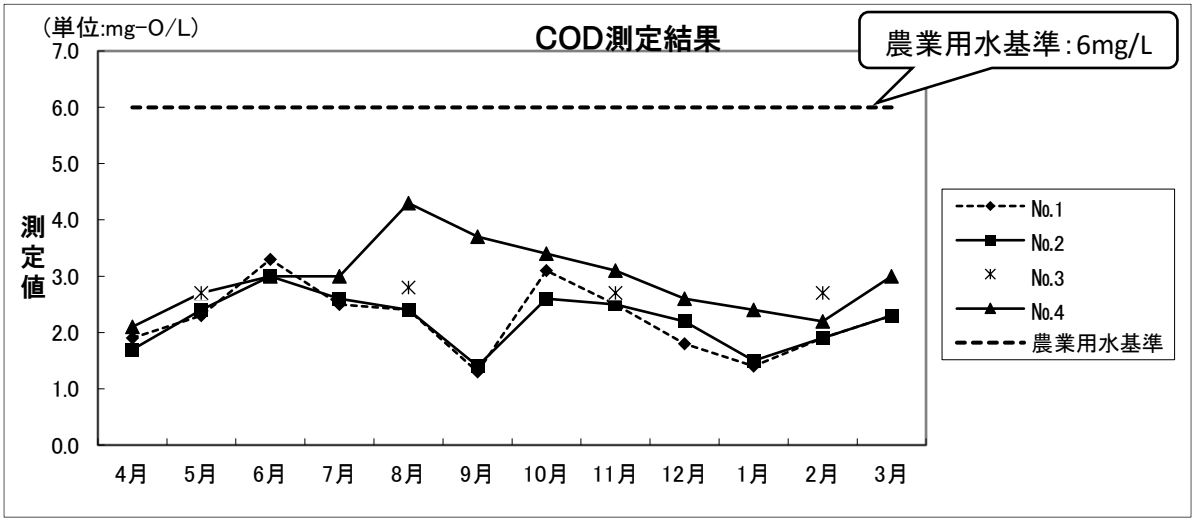


図 3-5-3　水質調査結果（ＣＯＤ）

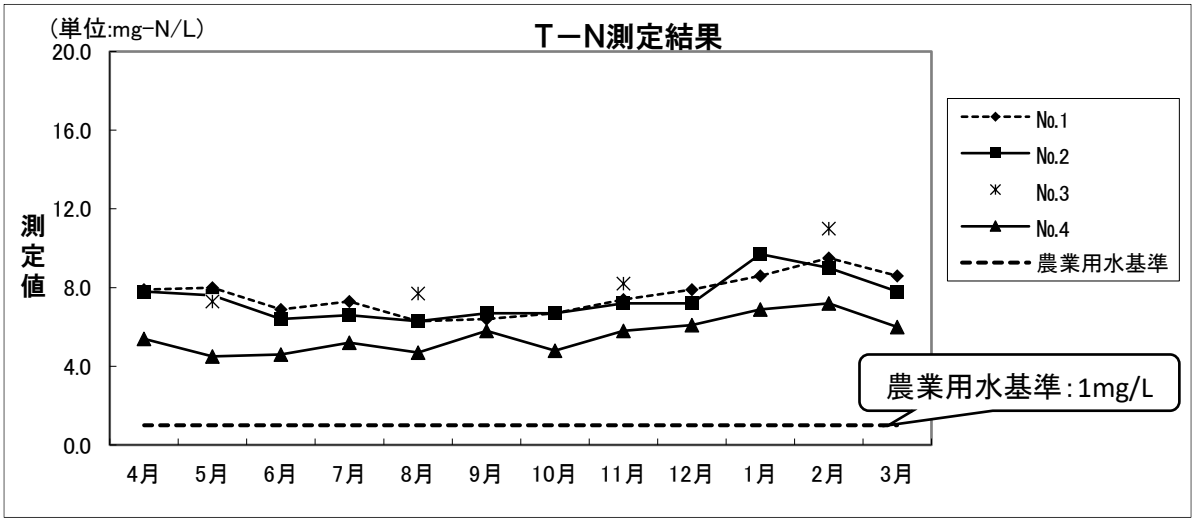


図 3-5-4　水質調査結果（Ｔ－Ｎ）

2-2　環境ホルモン

環境ホルモンの調査結果は表 3-5-5 に示したとおりです。

環境ホルモンのうち、ダイオキシン類は 0.064～0.13pg-TEQ/L の範囲でした。2 季の調査結果の平均値（年平均値）は、№1 では 0.11pg-TEQ/L、№2 では 0.092pg-TEQ/L、№3 では 0.11pg-TEQ/L、№4 では 0.087pg-TEQ/L であり、平成 12 年 1 月から施行されたダイオキシン類対策特別措置法に基づく水質の汚染に係る環境基準（1pg-TEQ/L 以下：年間平均値）を満足していました。

ダイオキシン類以外の環境ホルモンでは、ビスフェノールＡが№4 で 0.01μg/L と検出されましたが、その他の項目は全て定量下限値未満でした。

表 3-5-5　環境ホルモン調査結果

（ダイオキシン類単位：pg-TEQ/L、その他項目単位：μg/L）

地点・調査時期 / 測定項目	№1		№2		№3		№4	
	夏季	冬季	夏季	冬季	夏季	冬季	夏季	冬季
ダイオキシン類	0.13	0.073	0.11	0.073	0.13	0.073	0.11	0.064
（年平均値）	0.11		0.092		0.11		0.087	
ビスフェノールＡ	－	<0.01	－	<0.01	－	－	－	0.01
フタル酸ジ-2-エチルヘキシル	－	<0.5	－	<0.5	－	－	－	<0.5
フタル酸ジ-n-ブチル	－	<0.5	－	<0.5	－	－	－	<0.5
フタル酸ブチルベンジル	－	<0.2	－	<0.2	－	－	－	<0.2
フタル酸ジシクロヘキシル	－	<0.2	－	<0.2	－	－	－	<0.2
フタル酸ジエチル	－	<0.2	－	<0.2	－	－	－	<0.2
アジピン酸ジ-2-エチルヘキシル	－	<0.01	－	<0.01	－	－	－	<0.01

注：ダイオキシン類の毒性等量（TEQ）は、「ダイオキシン類対策特別措置法」H11.7.12(環境庁)に基づき算出した。（検出下限値以上の値はそのまま用い、検出下限値未満の値はその 1/2 を用いて算出した。）

河川中の環境ホルモンについて、今回の調査結果と昨年度（令和 6 年度）の調査結果との比較を表 3-5-6 に示しました。

その結果、全ての項目で昨年度と同程度の値又は定量下限値未満でした。

また、今回の調査結果を三重県が実施している調査結果と比較すると、表 3-5-7 に示したとおり、いずれの項目も三重県の調査結果の範囲内又は定量下限値未満でした。

表 3-5-6　昨年度（令和 6 年度）調査結果との比較

物質名	単　位	令和 7 年度の 事後調査結果	令和 6 年度の 事後調査結果
ダイオキシン類	pg-TEQ/L	0.087～0.11	0.077～0.95
ビスフェノールＡ	μg/L	<0.01～0.01	<0.01～0.01
フタル酸ジ-2-エチルヘキシル	μg/L	<0.5	<0.5
フタル酸ジ-n-ブチル	μg/L	<0.5	<0.5
フタル酸ブチルベンジル	μg/L	<0.2	<0.2
フタル酸ジシクロヘキシル	μg/L	<0.2	<0.2
フタル酸ジエチル	μg/L	<0.2	<0.2
アジピン酸ジ-2-エチルヘキシル	μg/L	<0.01	<0.01

注：各地点の出現範囲。ダイオキシン類は各地点 2 季の算術平均の出現範囲。

表 3-5-7　三重県が実施した調査結果との比較

物質名	単　位	今年度の 事後調査結果※1	三重県が実施した 調査結果の範囲
ダイオキシン類	pg-TEQ/L	0.087～0.11	0.057～2.7※2 （n＝52）
ビスフェノールＡ	μg/L	<0.01～0.01	<0.01～0.04※3 （n＝9）
フタル酸ジ-2-エチルヘキシル	μg/L	<0.5	<0.5～0.9※3 （n＝9）
フタル酸ジ-n-ブチル	μg/L	<0.5	<0.5～0.6※3 （n＝9）
フタル酸ブチルベンジル	μg/L	<0.2	－
フタル酸ジシクロヘキシル	μg/L	<0.2	－
フタル酸ジエチル	μg/L	<0.2	－
アジピン酸ジ-2-エチルヘキシル	μg/L	<0.01	－

※１：各地点の出現範囲。ダイオキシン類は各地点 2 季の算術平均の出現範囲。

※２：「令和 6 年度のダイオキシン類環境調査等結果」（三重県環境生活部大気・水環境課、令和 7 年 12 月 18 日）

※３：「平成 17 年版環境白書（三重県）」（以降最新データなし）

第 6 節　地下水の水質

第 1 項　地下水（モニター井戸）

1-1　調査概要

最終処分場既設事業の供用を受け、同施設周辺の地下水の状況を把握するため、既設事業範囲内のモニター井戸 3 地点（No.A、No.B、No.C）において調査を実施しました。また、最終処分場増設事業の供用を受け、同施設周辺の地下水の状況を把握するため、増設事業範囲内のモニター井戸 2 地点（No.D、No.E）において調査を実施しました。

1-1-1　調査時期

既設事業範囲内のモニター井戸 3 地点および増設事業範囲内のモニター井戸 2 地点において、表 3-6-1 に示したとおり毎月実施しました。

また、環境基準項目と環境ホルモン（ダイオキシン類を含む）については、冬季（1 月）に 1 回実施しました。

表 3-6-1　調査時期

調査年月日
令和 7 年　4 月 16 日
令和 7 年　5 月 20 日
令和 7 年　6 月 12 日
令和 7 年　7 月 11 日
令和 7 年　8 月 14 日
令和 7 年　9 月 10 日
令和 7 年 10 月　1 日
令和 7 年 11 月 11 日
令和 7 年 12 月　9 日
令和 8 年　1 月 13 日
令和 8 年　2 月 10 日
令和 8 年　3 月　4 日

1-1-2　調査地点

調査地点は、図 3-6-1 に示したモニター井戸No.A、No.B、No.C、No.D、No.E の 5 地点としました。

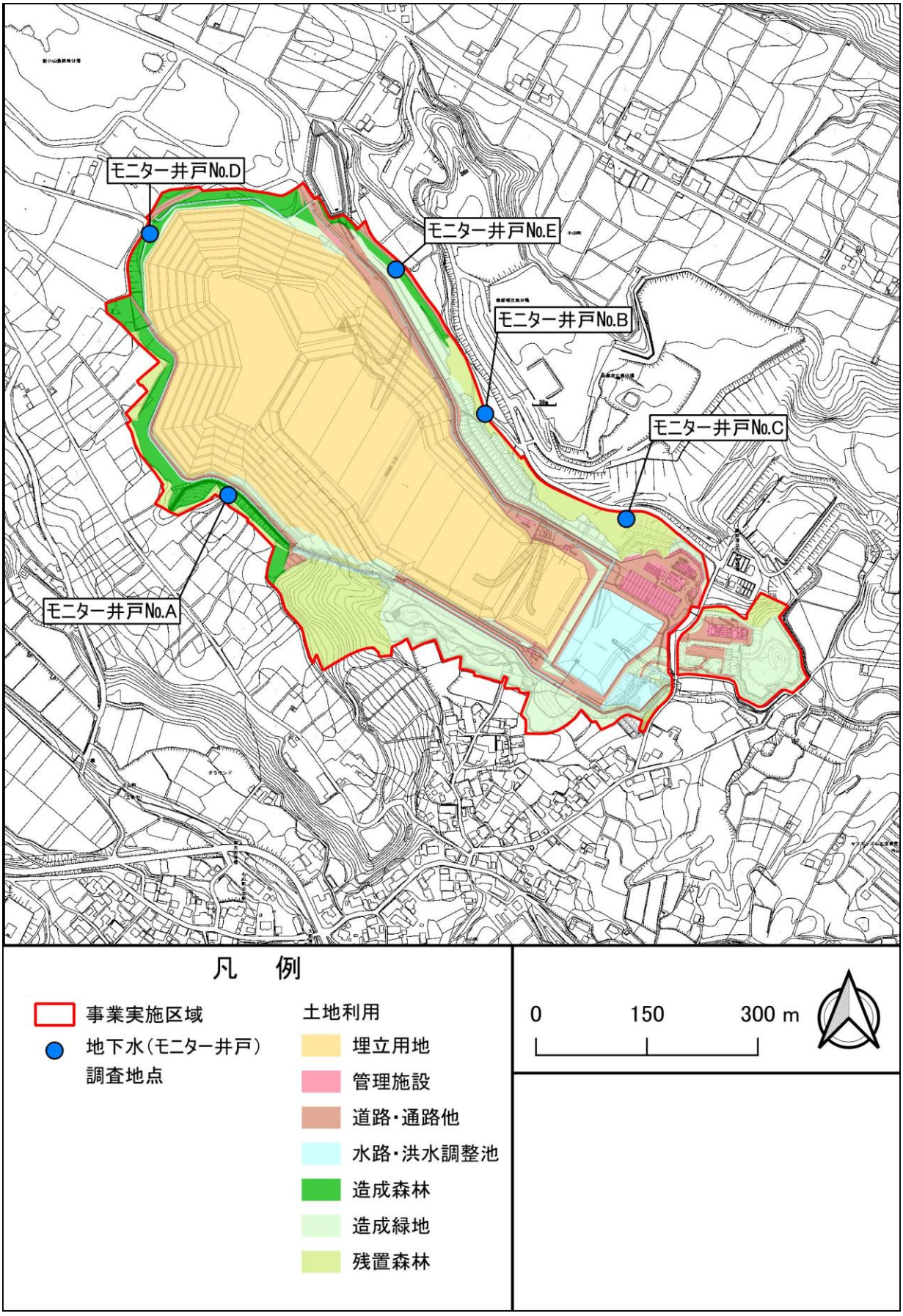


図 3-6-1　地下水（モニター井戸）調査地点

1-1-3　調査項目及び分析方法

調査項目は外観、水素イオン濃度（ｐＨ）、生物化学的酸素要求量（ＢＯＤ）等の生活環境項目等 19 項目、カドミウム、全シアン等の環境基準項目 28 項目及びダイオキシン類を含む環境ホルモン 8 項目について調査を行いました。

調査項目及び分析方法は表 3-6-2 に示したとおりです。

表 3-6-2(1)　調査項目及び分析方法

	項　目	分析方法
生活環境項目等	外　観	JIS K 0102-1 7
	水素イオン濃度（ｐＨ）	JIS K 0102-1 12
	生物化学的酸素要求量（ＢＯＤ）	JIS K 0102-1 18
	化学的酸素要求量（ＣＯＤ）	JIS K 0102-1 17.2
	浮遊物質量（ＳＳ）	昭和 46 年環境庁告示第 59 号付表 8
	ｎ－ヘキサン抽出物質	JIS K 0102-1 22.5
	大腸菌数(CFU)	JIS K 0102-5 5.6.2
	全窒素（Ｔ-Ｎ）	JIS K 0102-2 17.5
	全　燐（Ｔ-Ｐ）	JIS K 0102-2 18.4.6
	電気伝導率	JIS K 0102-1 13
	硫酸イオン	JIS K 0102-2 12.5
	硬　度	JIS K 0102-3 10.2
	フェノール類	JIS K 0102-4 5.2
	銅	JIS K 0102-3 11.6
	亜　鉛	JIS K 0102-3 12.5
	溶解性鉄	JIS K 0102-3 16.5
	溶解性マンガン	JIS K 0102-3 15.4
	クロム含有量	JIS K 0102-3 24.2.5
	塩化物イオン	JIS K 0102-2 6.3

表 3-6-2(2)　調査項目及び分析方法

	項　目	分析方法
環境基準項目	カドミウム	JIS K 0102-3 14.5
	全シアン	JIS K 0102-2 9.3.2 及び 9.6
	鉛	JIS K 0102-3 13.5
	六価クロム	JIS K 0102-3 24.3.6
	砒　素	JIS K 0102-3 20.5
	総水銀	昭和 46 年環境庁告示第 59 号付表 2
	アルキル水銀	昭和 46 年環境庁告示第 59 号付表 3
	ＰＣＢ	昭和 46 年環境庁告示第 59 号付表 4
	ジクロロメタン	JIS K 0125 5.2
	四塩化炭素	JIS K 0125 5.2
	クロロエチレン	平成 9 年環境庁告示第 10 号付表
	1,2-ジクロロエタン	JIS K 0125 5.2
	1,1-ジクロロエチレン	JIS K 0125 5.2
	1,2-ジクロロエチレン	JIS K 0125 5.2
	1,1,1-トリクロロエタン	JIS K 0125 5.2
	1,1,2-トリクロロエタン	JIS K 0125 5.2
	トリクロロエチレン	JIS K 0125 5.2
	テトラクロロエチレン	JIS K 0125 5.2
	1,3-ジクロロプロペン	JIS K 0125 5.2
	チウラム	昭和 46 年環境庁告示第 59 号付表 5
	シマジン	昭和 46 年環境庁告示第 59 号付表 6 第 1
	チオベンカルブ	昭和 46 年環境庁告示第 59 号付表 6 第 1
	ベンゼン	JIS K 0125 5.2
	セレン	JIS K 0102-3 26.4
	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	JIS K 0102-2 14 及び JIS K 0102-2 15
	ほう素	JIS K 0102-3 5.6
	1,4-ジオキサン	昭和 46 年環境庁告示第 59 号付表 7
	ふっ素	JIS K 0102-2 5.5
環境ホルモン	ダイオキシン類	JIS K 0312（2020）
	ビスフェノールＡ フタル酸ジ-2-エチルヘキシル フタル酸ジ-n-ブチル フタル酸ブチルベンジル フタル酸ジシクロヘキシル フタル酸ジエチル アジピン酸ジ-2-エチルヘキシル	「外因性内分泌攪乱化学物質調査暫定マニュアル」（平成 10 年 10 月）に準拠

1-2　調査結果

1-2-1　生活環境項目等、環境基準項目

調査結果のうち、主な項目については表 3-6-3 に示しました。調査結果の詳細は表 3-6-4～8 に示したとおりです。

その結果、既設事業範囲内のモニター井戸 3 地点について表 3-6-3(1)に示したとおり、例年から大きな変化はなく推移しています。

また、増設事業範囲内のモニター井戸 2 地点について表 3-6-3(2)に示したとおり、既設のモニター井戸の数値と同程度の値を示しています。

環境基準項目については、いずれも基準値を下回る値又は定量下限値未満の値でした。

表 3-6-3(1)　主な項目の調査結果（令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月）

項　目	単　位	No.A	No.B	No.C
外　観	－	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明
気　温	℃	19.0 (5.8～31.9)	18.3 (4.1～31.0)	19.3 (6.2～31.9)
水　温	℃	17.1 (16.0～19.0)	19.4 (18.5～20.5)	18.4 (17.4～19.6)
ｐＨ	－	5.9 (5.8～6.1)	5.8 (5.7～5.9)	6.0 (5.9～6.1)
ＢＯＤ	mg/L	<0.5	0.5 (<0.5～0.5)	<0.5
ＣＯＤ	mg/L	<0.5	<0.5	0.5 (<0.5～0.5)
ＳＳ	mg/L	<1.0	1.0 (<1.0～1.2)	<1.0
Ｔ－Ｎ	mg/L	4.2 (3.8～4.7)	5.1 (4.7～5.6)	5.4 (4.9～5.8)
Ｔ－Ｐ	mg/L	0.007 (0.005～0.010)	0.003 (<0.003～0.005)	0.003 (<0.003～0.005)
電気伝導率	mS/m	11 (11～12)	31 (24～36)	38 (34～41)
塩化物イオン	mg/L	8.9 (7.5～11)	35 (23～47)	39 (32～43)

注：値は「平均値（最小値～最大値)」

表 3-6-3(2)　主な項目の調査結果（令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月）

項　目	単　位	No.D	No.E
外　観	－	殆ど透明	殆ど透明
気　温	℃	18.7 (5.8～31.9)	19.3 (6.2～31.9)
水　温	℃	16.5 (14.5～18.6)	16.4 (14.2～17.6)
ｐＨ	－	6.3（6.2～6.5）	6.1（6.0～6.3）
ＢＯＤ	mg/L	0.5（<0.5～0.5）	0.7（<0.5～1.1）
ＣＯＤ	mg/L	0.5（<0.5～0.7）	0.9（<0.5～1.3）
ＳＳ	mg/L	<1.0	1.1（<1.0～2.7）
Ｔ－Ｎ	mg/L	6.1（5.6～6.4）	5.1（4.7～5.6）
Ｔ－Ｐ	mg/L	0.005 (0.003～0.007)	0.008 (0.006～0.010)
電気伝導率	mS/m	14（14～15）	15（15～16）
塩化物イオン	mg/L	7.8（6.5～10）	6.5（5.2～10）

注：値は「平均値（最小値～最大値）」

1-2-2　環境ホルモン

環境ホルモンのうち、ダイオキシン類については表 3-6-9 に、その他の項目については表 3-6-10 に示したとおりです。

ダイオキシン類は 0.044～0.17pg-TEQ/L であり、平成 12 年 1 月から施行されたダイオキシン類対策特別措置法に基づく水質の汚染に係る環境基準（1pg-TEQ/L 以下：年間平均値）を満足していました。

その他の環境ホルモンでは、全ての項目が定量下限値未満でした。

なお、ダイオキシン類について、今回の調査結果と昨年度（令和 6 年度）の調査結果を比較すると、表 3-6-11 に示したとおり、No.D を除く地点では、各地点とも昨年度と同程度の値でした。

また、三重県が実施した調査結果との比較では、表 3-6-12 に示したとおり、No.D を除く地点では、三重県の調査結果の範囲内でした。

表 3-6-4(1)　地下水調査結果（No.A）

項　　目		単　位	4月16日	5月20日	6月12日	7月11日	8月14日	9月10日	10月1日	11月11日	12月9日	1月13日	2月10日	3月4日	基準値[注1)]
生活環境項目等	天　候	－	晴	晴	曇	曇	曇	晴	曇	晴	晴	曇	晴	曇	－
	外　観	－	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	－
	気　温	℃	16.7	24.4	24.8	30.8	28.5	31.9	24.1	14.0	10.0	5.8	6.2	10.4	－
	水　温	℃	16.5	17.9	17.3	18.5	17.4	19.0	17.1	16.5	16.5	16.0	16.4	16.1	－
	ｐ　Ｈ	－	6.0	6.1	5.8	5.8	5.8	5.8	6.0	6.1	6.0	5.8	5.9	5.9	－
	ＢＯＤ	mg/L	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	－
	ＣＯＤ	mg/L	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	－
	ＳＳ	mg/L	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	－
	ｎ－ヘキサン抽出物質	mg/L	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	－
	フェノール類	mg/L	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	－
	銅	mg/L	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	－
	亜　鉛	mg/L	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	－
	溶解性鉄	mg/L	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	－
	溶解性マンガン	mg/L	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	－
	クロム含有量	mg/L	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	－
	Ｔ－Ｎ	mg/L	4.2	4.7	4.2	4.1	4.0	4.2	3.8	4.3	4.1	4.3	3.9	4.1	－
	Ｔ－Ｐ	mg/L	0.007	0.008	0.009	0.010	0.005	0.006	0.006	0.007	0.006	0.006	0.009	0.008	－
	硬　度	mg/L	34	43	35	37	33	32	32	34	32	32	31	30	－
	電気伝導率	mS/m	12	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	－
	硫酸イオン	mg/L	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	－
	大腸菌数（CFU）	CFU/100mL	<1	<1	<1	<1	<1	<1	<1	<1	<1	<1	<1	<1	－
	塩化物イオン	mg/L	8.7	9.9	8.6	9.2	8.8	7.9	8.4	8.5	10	7.5	8.3	11	－

表 3-6-4(2)　地下水調査結果（No.A）

項　　目		単　位	4月16日	5月20日	6月12日	7月11日	8月14日	9月10日	10月1日	11月11日	12月9日	1月13日	2月10日	3月4日	基準値[注1)]
環境基準項目	ふっ素	mg/L	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	0.8mg/L以下
	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	4.1	－	－	10mg/L以下
	ほう素	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.02	－	－	1mg/L以下
	カドミウム	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.0003	－	－	0.003mg/L以下
	全シアン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	検出せず (<0.1)	－	－	検出されないこと
	鉛	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.005	－	－	0.01mg/L以下
	六価クロム	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.01	－	－	0.02mg/L以下
	砒　素	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.005	－	－	0.01mg/L以下
	総水銀	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.0005	－	－	0.0005mg/L以下
	アルキル水銀	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	検出せず (<0.0005)	－	－	検出されないこと
	ＰＣＢ	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	検出せず (<0.0005)	－	－	検出されないこと
	ジクロロメタン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.002	－	－	0.02mg/L以下
	四塩化炭素	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.0002	－	－	0.002mg/L以下
	クロロエチレン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.0002	－	－	0.002mg/L以下
	1,2-ジクロロエタン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.0004	－	－	0.004mg/L以下
	1,1-ジクロロエチレン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.002	－	－	0.1mg/L以下
	1,2-ジクロロエチレン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.004	－	－	0.04mg/L以下
	1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.0005	－	－	1mg/L以下
	1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.0006	－	－	0.006mg/L以下
	トリクロロエチレン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.001	－	－	0.01mg/L以下
	テトラクロロエチレン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.0005	－	－	0.01mg/L以下
	1,3-ジクロロプロペン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.0002	－	－	0.002mg/L以下
	チウラム	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.0006	－	－	0.006mg/L以下
	シマジン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.0003	－	－	0.003mg/L以下
	チオベンカルブ	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.002	－	－	0.02mg/L以下
	ベンゼン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.001	－	－	0.01mg/L以下
	セレン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.002	－	－	0.01mg/L以下
	1,4-ジオキサン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.005	－	－	0.05mg/L以下

注 1：基準値は「地下水の水質汚濁に係る環境基準について」（平成 9 年 3 月 13 日、環境庁告示第 10 号）

表 3-6-5(1)　地下水調査結果（No.B）

項　　目		単　位	4月16日	5月20日	6月12日	7月11日	8月14日	9月10日	10月1日	11月11日	12月9日	1月13日	2月10日	3月4日	基準値[注1)]
生活環境項目等	天　候	－	晴	晴	曇	曇	曇	晴	曇	晴	晴	曇	晴	曇	－
	外　観	－	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	－
	気　温	℃	16.7	24.4	24.0	29.8	27.6	31.0	22.4	15.7	9.5	4.8	4.1	10.0	－
	水　温	℃	19.0	19.5	19.7	20.5	20.0	20.4	19.7	19.2	19.0	18.8	18.5	19.0	－
	ｐ　Ｈ	－	5.9	5.9	5.8	5.7	5.8	5.7	5.8	5.9	5.8	5.8	5.8	5.8	－
	ＢＯＤ	mg/L	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	0.6	－
	ＣＯＤ	mg/L	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	－
	ＳＳ	mg/L	<1.0	1.2	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	－
	ｎ－ヘキサン抽出物質	mg/L	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	－
	フェノール類	mg/L	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	－
	銅	mg/L	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	－
	亜　鉛	mg/L	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.01	<0.01	<0.01	－
	溶解性鉄	mg/L	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	－
	溶解性マンガン	mg/L	0.01	0.01	<0.01	<0.01	0.01	<0.01	<0.01	0.01	<0.01	0.01	<0.01	0.01	－
	クロム含有量	mg/L	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	－
	Ｔ－Ｎ	mg/L	4.7	5.2	4.8	4.9	4.9	5.5	4.9	5.5	4.9	5.4	5.0	5.6	－
	Ｔ－Ｐ	mg/L	0.004	0.004	0.003	0.005	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	－
	硬　度	mg/L	63	59	50	49	40	41	42	49	55	62	63	66	－
	電気伝導率	mS/m	36	32	30	27	24	24	28	29	32	34	35	36	－
	硫酸イオン	mg/L	63	56	57	54	47	43	42	46	47	56	58	58	－
	大腸菌数（CFU）	CFU/100mL	<1	<1	<1	<1	<1	<1	<1	<1	<1	<1	<1	<1	－
	塩化物イオン	mg/L	41	35	28	24	23	26	29	39	42	42	44	47	－

表 3-6-5(2)　地下水調査結果（No.B）

項　　目		単　位	4月16日	5月20日	6月12日	7月11日	8月14日	9月10日	10月1日	11月11日	12月9日	1月13日	2月10日	3月4日	基準値[注1)]
環境基準項目	ふっ素	mg/L	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	0.8mg/L以下
	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	5.0	－	－	10mg/L以下
	ほう素	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.04	－	－	1mg/L以下
	カドミウム	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.0003	－	－	0.003mg/L以下
	全シアン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	検出せず (<0.1)	－	－	検出されないこと
	鉛	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.005	－	－	0.01mg/L以下
	六価クロム	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.01	－	－	0.02mg/L以下
	砒　素	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.005	－	－	0.01mg/L以下
	総水銀	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.0005	－	－	0.0005mg/L以下
	アルキル水銀	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	検出せず (<0.0005)	－	－	検出されないこと
	ＰＣＢ	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	検出せず (<0.0005)	－	－	検出されないこと
	ジクロロメタン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.002	－	－	0.02mg/L以下
	四塩化炭素	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.0002	－	－	0.002mg/L以下
	クロロエチレン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.0002	－	－	0.002mg/L以下
	1,2-ジクロロエタン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.0004	－	－	0.004mg/L以下
	1,1-ジクロロエチレン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.002	－	－	0.1mg/L以下
	1,2-ジクロロエチレン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.004	－	－	0.04mg/L以下
	1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.0005	－	－	1mg/L以下
	1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.0006	－	－	0.006mg/L以下
	トリクロロエチレン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.001	－	－	0.01mg/L以下
	テトラクロロエチレン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.0005	－	－	0.01mg/L以下
	1,3-ジクロロプロペン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.0002	－	－	0.002mg/L以下
	チウラム	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.0006	－	－	0.006mg/L以下
	シマジン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.0003	－	－	0.003mg/L以下
	チオベンカルブ	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.002	－	－	0.02mg/L以下
	ベンゼン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.001	－	－	0.01mg/L以下
	セレン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.002	－	－	0.01mg/L以下
	1,4-ジオキサン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.005	－	－	0.05mg/L以下

注 1：基準値は「地下水の水質汚濁に係る環境基準について」（平成 9 年 3 月 13 日、環境庁告示第 10 号）

表 3-6-6(1)　地下水調査結果（No.C）

項　　目		単　位	4月16日	5月20日	6月12日	7月11日	8月14日	9月10日	10月1日	11月11日	12月9日	1月13日	2月10日	3月4日	基準値[注1)]
生活環境項目等	天　候	－	晴	晴	曇	曇	曇	晴	曇	晴	晴	曇	晴	曇	－
	外　観	－	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	－
	気　温	℃	18.7	24.4	24.8	30.8	28.5	31.9	24.1	15.7	10.0	6.5	6.2	10.4	－
	水　温	℃	18.2	19.4	18.9	19.0	18.9	19.6	18.5	17.8	17.8	17.6	17.5	17.4	－
	ｐ　Ｈ	－	6.1	6.0	5.9	5.9	5.9	5.9	6.0	6.1	6.0	5.9	6.0	5.9	－
	ＢＯＤ	mg/L	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	－
	ＣＯＤ	mg/L	<0.5	<0.5	<0.5	0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	－
	ＳＳ	mg/L	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	－
	ｎ－ヘキサン抽出物質	mg/L	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	－
	フェノール類	mg/L	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	－
	銅	mg/L	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	－
	亜　鉛	mg/L	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	－
	溶解性鉄	mg/L	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	－
	溶解性マンガン	mg/L	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	－
	クロム含有量	mg/L	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	－
	Ｔ－Ｎ	mg/L	5.4	5.8	5.3	4.9	5.1	5.7	5.2	5.5	5.0	5.7	5.1	5.8	－
	Ｔ－Ｐ	mg/L	0.004	0.004	0.003	0.005	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	0.003	0.003	－
	硬　度	mg/L	95	98	110	110	100	110	100	110	110	100	100	100	－
	電気伝導率	mS/m	34	37	41	37	38	38	40	40	39	39	39	38	－
	硫酸イオン	mg/L	63	71	83	84	81	76	74	81	85	79	81	75	－
	大腸菌数（CFU）	CFU/100mL	<1	<1	<1	<1	<1	<1	<1	<1	<1	<1	<1	<1	－
	塩化物イオン	mg/L	32	39	39	37	36	40	43	43	43	35	40	40	－

表 3-6-6(2)　地下水調査結果（No.C）

項　　目		単　位	4月16日	5月20日	6月12日	7月11日	8月14日	9月10日	10月1日	11月11日	12月9日	1月13日	2月10日	3月4日	基準値[注1)]
環境基準項目	ふっ素	mg/L	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	0.8mg/L以下
	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	5.0	－	－	10mg/L以下
	ほう素	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.03	－	－	1mg/L以下
	カドミウム	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.0003	－	－	0.003mg/L以下
	全シアン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	検出せず (<0.1)	－	－	検出されないこと
	鉛	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.005	－	－	0.01mg/L以下
	六価クロム	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.01	－	－	0.02mg/L以下
	砒　素	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.005	－	－	0.01mg/L以下
	総水銀	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.0005	－	－	0.0005mg/L以下
	アルキル水銀	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	検出せず (<0.0005)	－	－	検出されないこと
	ＰＣＢ	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	検出せず (<0.0005)	－	－	検出されないこと
	ジクロロメタン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.002	－	－	0.02mg/L以下
	四塩化炭素	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.0002	－	－	0.002mg/L以下
	クロロエチレン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.0002	－	－	0.002mg/L以下
	1,2-ジクロロエタン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.0004	－	－	0.004mg/L以下
	1,1-ジクロロエチレン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.002	－	－	0.1mg/L以下
	1,2-ジクロロエチレン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.004	－	－	0.04mg/L以下
	1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.0005	－	－	1mg/L以下
	1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.0006	－	－	0.006mg/L以下
	トリクロロエチレン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.001	－	－	0.01mg/L以下
	テトラクロロエチレン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.0005	－	－	0.01mg/L以下
	1,3-ジクロロプロペン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.0002	－	－	0.002mg/L以下
	チウラム	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.0006	－	－	0.006mg/L以下
	シマジン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.0003	－	－	0.003mg/L以下
	チオベンカルブ	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.002	－	－	0.02mg/L以下
	ベンゼン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.001	－	－	0.01mg/L以下
	セレン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.002	－	－	0.01mg/L以下
	1,4-ジオキサン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.005	－	－	0.05mg/L以下

注１：基準値は「地下水の水質汚濁に係る環境基準について」（平成９年３月 13 日、環境庁告示第 10 号）

表 3-6-7(1)　地下水調査結果（No.D）

項　　目		単　位	4月16日	5月20日	6月12日	7月11日	8月14日	9月10日	10月1日	11月11日	12月9日	1月13日	2月10日	3月4日	基準値[注1)]
生活環境項目等	天　候	－	晴	晴	曇	曇	曇	晴	曇	晴	晴	曇	晴	曇	－
	外　観	－	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	－
	気　温	℃	16.7	24.4	24.0	29.8	27.6	31.9	24.1	14.0	10.0	5.8	6.2	10.0	－
	水　温	℃	15.7	16.6	16.0	18.2	17.4	18.6	17.3	16.6	15.7	15.5	15.6	14.5	－
	ｐ　Ｈ	－	6.4	6.4	6.2	6.2	6.3	6.2	6.3	6.5	6.3	6.2	6.3	6.3	－
	ＢＯＤ	mg/L	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	－
	ＣＯＤ	mg/L	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	0.6	0.7	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	－
	ＳＳ	mg/L	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	－
	ｎ－ヘキサン抽出物質	mg/L	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	－
	フェノール類	mg/L	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	－
	銅	mg/L	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	－
	亜　鉛	mg/L	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	－
	溶解性鉄	mg/L	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	－
	溶解性マンガン	mg/L	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	－
	クロム含有量	mg/L	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	－
	Ｔ－Ｎ	mg/L	5.9	6.4	6.3	6.1	6.0	6.4	6.2	6.0	5.7	6.3	5.6	6.4	－
	Ｔ－Ｐ	mg/L	0.005	0.005	0.004	0.007	0.003	0.005	0.005	0.004	0.005	0.005	0.005	0.006	－
	硬　度	mg/L	66	45	45	49	45	44	44	43	43	43	42	44	－
	電気伝導率	mS/m	15	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	－
	硫酸イオン	mg/L	14	14	14	14	14	14	14	14	15	14	14	14	－
	大腸菌数（CFU）	CFU/100mL	<1	<1	<1	<1	<1	<1	<1	<1	<1	<1	<1	<1	－
	塩化物イオン	mg/L	7.1	7.8	7.2	8.3	7.1	7.0	7.9	7.5	9.1	6.5	8.6	10	－

表 3-6-7(2)　地下水調査結果（No.D）

項　　目		単　位	4月16日	5月20日	6月12日	7月11日	8月14日	9月10日	10月1日	11月11日	12月9日	1月13日	2月10日	3月4日	基準値[注1)]
環境基準項目	ふっ素	mg/L	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	0.8mg/L以下
	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	5.9	－	－	10mg/L以下
	ほう素	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.02	－	－	1mg/L以下
	カドミウム	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.0003	－	－	0.003mg/L以下
	全シアン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	検出せず (<0.1)	－	－	検出されないこと
	鉛	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.005	－	－	0.01mg/L以下
	六価クロム	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.01	－	－	0.02mg/L以下
	砒　素	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.005	－	－	0.01mg/L以下
	総水銀	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.0005	－	－	0.0005mg/L以下
	アルキル水銀	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	検出せず (<0.0005)	－	－	検出されないこと
	ＰＣＢ	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	検出せず (<0.0005)	－	－	検出されないこと
	ジクロロメタン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.002	－	－	0.02mg/L以下
	四塩化炭素	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.0002	－	－	0.002mg/L以下
	クロロエチレン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.0002	－	－	0.002mg/L以下
	1,2-ジクロロエタン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.0004	－	－	0.004mg/L以下
	1,1-ジクロロエチレン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.002	－	－	0.1mg/L以下
	1,2-ジクロロエチレン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.004	－	－	0.04mg/L以下
	1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.0005	－	－	1mg/L以下
	1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.0006	－	－	0.006mg/L以下
	トリクロロエチレン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.001	－	－	0.01mg/L以下
	テトラクロロエチレン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.0005	－	－	0.01mg/L以下
	1,3-ジクロロプロペン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.0002	－	－	0.002mg/L以下
	チウラム	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.0006	－	－	0.006mg/L以下
	シマジン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.0003	－	－	0.003mg/L以下
	チオベンカルブ	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.002	－	－	0.02mg/L以下
	ベンゼン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.001	－	－	0.01mg/L以下
	セレン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.002	－	－	0.01mg/L以下
	1,4-ジオキサン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.005	－	－	0.05mg/L以下

注１：基準値は「地下水の水質汚濁に係る環境基準について」（平成９年３月 13 日、環境庁告示第 10 号）

表 3-6-8(1)　地下水調査結果（No.E）

項　　目		単　位	4月16日	5月20日	6月12日	7月11日	8月14日	9月10日	10月1日	11月11日	12月9日	1月13日	2月10日	3月4日	基準値[注1)]
生活環境項目等	天　候	－	晴	晴	曇	曇	曇	晴	曇	晴	晴	曇	晴	曇	－
	外　観	－	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	－
	気　温	℃	18.7	24.4	24.8	30.8	28.5	31.9	24.1	15.7	10.0	6.5	6.2	10.4	－
	水　温	℃	16.3	17.6	16.7	17.3	17.0	17.3	16.6	16.4	16.0	14.2	15.8	15.6	－
	ｐ　Ｈ	－	6.1	6.1	6.0	6.0	6.1	6.0	6.1	6.3	6.1	6.0	6.1	6.0	－
	ＢＯＤ	mg/L	0.6	<0.5	0.9	1.0	1.1	0.8	1.0	<0.5	0.8	<0.5	<0.5	<0.5	－
	ＣＯＤ	mg/L	0.7	0.8	1.3	1.2	<0.5	1.1	1.1	0.8	1.3	1.2	0.6	0.6	－
	ＳＳ	mg/L	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	2.7	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	－
	ｎ－ヘキサン抽出物質	mg/L	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	－
	フェノール類	mg/L	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	－
	銅	mg/L	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	－
	亜　鉛	mg/L	0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	－
	溶解性鉄	mg/L	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	－
	溶解性マンガン	mg/L	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	－
	クロム含有量	mg/L	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	－
	Ｔ－Ｎ	mg/L	5.2	5.6	4.9	4.9	4.8	5.5	5.1	5.2	4.7	5.2	4.8	4.9	－
	Ｔ－Ｐ	mg/L	0.008	0.009	0.009	0.010	0.006	0.007	0.008	0.007	0.008	0.009	0.007	0.008	－
	硬　度	mg/L	54	54	53	57	53	52	51	53	50	50	49	50	－
	電気伝導率	mS/m	16	15	16	15	15	15	16	15	15	15	15	15	－
	硫酸イオン	mg/L	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	－
	大腸菌数（CFU）	CFU/100mL	<1	<1	<1	<1	<1	<1	<1	<1	<1	<1	<1	<1	－
	塩化物イオン	mg/L	5.3	6.8	5.5	6.0	6.4	6.3	6.0	6.2	7.2	5.2	7.3	10	－

表 3-6-8(2)　地下水調査結果（No.E）

項　　目		単　位	4月16日	5月20日	6月12日	7月11日	8月14日	9月10日	10月1日	11月11日	12月9日	1月13日	2月10日	3月4日	基準値[注1)]
環境基準項目	ふっ素	mg/L	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	0.8mg/L以下
	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	4.7	－	－	10mg/L以下
	ほう素	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.02	－	－	1mg/L以下
	カドミウム	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.0003	－	－	0.003mg/L以下
	全シアン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	検出せず (<0.1)	－	－	検出されないこと
	鉛	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.005	－	－	0.01mg/L以下
	六価クロム	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.01	－	－	0.02mg/L以下
	砒　素	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.005	－	－	0.01mg/L以下
	総水銀	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.0005	－	－	0.0005mg/L以下
	アルキル水銀	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	検出せず (<0.0005)	－	－	検出されないこと
	ＰＣＢ	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	検出せず (<0.0005)	－	－	検出されないこと
	ジクロロメタン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.002	－	－	0.02mg/L以下
	四塩化炭素	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.0002	－	－	0.002mg/L以下
	クロロエチレン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.0002	－	－	0.002mg/L以下
	1,2-ジクロロエタン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.0004	－	－	0.004mg/L以下
	1,1-ジクロロエチレン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.002	－	－	0.1mg/L以下
	1,2-ジクロロエチレン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.004	－	－	0.04mg/L以下
	1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.0005	－	－	1mg/L以下
	1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.0006	－	－	0.006mg/L以下
	トリクロロエチレン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.001	－	－	0.01mg/L以下
	テトラクロロエチレン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.0005	－	－	0.01mg/L以下
	1,3-ジクロロプロペン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.0002	－	－	0.002mg/L以下
	チウラム	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.0006	－	－	0.006mg/L以下
	シマジン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.0003	－	－	0.003mg/L以下
	チオベンカルブ	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.002	－	－	0.02mg/L以下
	ベンゼン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.001	－	－	0.01mg/L以下
	セレン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.002	－	－	0.01mg/L以下
	1,4-ジオキサン	mg/L	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<0.005	－	－	0.05mg/L以下

注 1：基準値は「地下水の水質汚濁に係る環境基準について」（平成 9 年 3 月 13 日、環境庁告示第 10 号）

表 3-6-9　ダイオキシン類調査結果

物質名	単　位	令和 7 年度事後調査					三重県の調査結果（県内 6 地点）
		No.A	No.B	No.C	No.D	No.E	
ダイオキシン類	pg-TEQ/L	0.057	0.057	0.057	0.17	0.044	0.058 (0.025～0.090)

注：ダイオキシン類の毒性等量（TEQ）は、「ダイオキシン類対策特別措置法」H11.7.12(環境庁)に基づき算出した。(検出下限以上の値はそのまま用い、検出下限未満の値はその 1/2 を用いて算出した。)

表 3-6-10　その他の環境ホルモン調査結果

物質名	単位	No.A	No.B	No.C	No.D	No.E
ビスフェノールＡ	μg/L	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
フタル酸ジ-2-エチルヘキシル	μg/L	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
フタル酸ジ-n-ブチル	μg/L	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
フタル酸ブチルベンジル	μg/L	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2
フタル酸ジシクロヘキシル	μg/L	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2
フタル酸ジエチル	μg/L	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2
アジピン酸ジ-2-エチルヘキシル	μg/L	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01

表 3-6-11　昨年度（令和 6 年度）調査結果との比較

物質名	単位	今年度の事後調査結果	令和 6 年度の事後調査結果
ダイオキシン類	pg-TEQ/L	0.044～0.17	0.050～0.055
ビスフェノールＡ	μg/L	<0.01	<0.01
フタル酸ジ-2-エチルヘキシル	μg/L	<0.5	<0.5
フタル酸ジ-n-ブチル	μg/L	<0.5	<0.5
フタル酸ブチルベンジル	μg/L	<0.2	<0.2
フタル酸ジシクロヘキシル	μg/L	<0.2	<0.2
フタル酸ジエチル	μg/L	<0.2	<0.2
アジピン酸ジ-2-エチルヘキシル	μg/L	<0.01	<0.01

表 3-6-12　三重県が実施した調査結果との比較

物質名	単位	事後調査結果	三重県が実施した調査結果（ｎ＝6）
ダイオキシン類	pg-TEQ/L	0.044～0.17	0.025～0.090

注：三重県の調査結果は、「令和 6 年度のダイオキシン類環境調査等結果（環境生活部大気・水環境課、令和 7 年 12 月 18 日）」で、値は 9 地点の「最小値～最大値」。

第 2 項　地下水（処分場地下水集排水）

2-1　調査概要

最終処分場事業の供用を受け、処分場内に設置した地下水集排水管で集められた湧水等の水質の状況を把握するため、調査を実施しました。

2-1-1　調査地点

調査地点は図 3-6-2 に示したとおり、処分場地下水集排水口の 1 地点としました。

2-1-2　調査時期

調査は表 3-6-13 に示したとおり毎月実施しました。

なお、調査項目のうち、電気伝導率、塩化物イオンは毎月実施し、カドミウム、全シアン、鉛等 25 項目は冬季（1 月）に 1 回実施しました。

表 3-6-13　調査時期

調査年月日
令和 7 年　4 月 16 日
令和 7 年　5 月 20 日
令和 7 年　6 月 12 日
令和 7 年　7 月 11 日
令和 7 年　8 月 14 日
令和 7 年　9 月 10 日
令和 7 年 10 月　1 日
令和 7 年 11 月 11 日
令和 7 年 12 月　9 日
令和 8 年　1 月 13 日
令和 8 年　2 月 10 日
令和 8 年　3 月　4 日

2-1-3　調査項目及び分析方法

調査項目及び分析方法は表 3-6-14 に示したとおりです。

表 3-6-14　調査項目及び分析方法

項　　目	分析方法
電気伝導率	JIS K 0102-1 13
塩化物イオン	JIS K 0102-2 6.3
カドミウム	JIS K 0102-3 14.5
全シアン	JIS K 0102-2 9.3.2 及び 9.6
鉛	JIS K 0102-3 13.5
六価クロム	JIS K 0102-3 24.3.6
砒　素	JIS K 0102-3 20.5
総水銀	昭和 46 環境庁告示 59 号付表 2
アルキル水銀	昭和 46 環境庁告示 59 号付表 3
ＰＣＢ	昭和 46 環境庁告示 59 号付表 4
ジクロロメタン	JIS K 0125 5.2
四塩化炭素	JIS K 0125 5.2
クロロエチレン	平成 9 年環境庁告示 10 号付表
1,2-ジクロロエタン	JIS K 0125 5.2
1,1-ジクロロエチレン	JIS K 0125 5.2
1,2-ジクロロエチレン	JIS K 0125 5.2
1,1,1-トリクロロエタン	JIS K 0125 5.2
1,1,2-トリクロロエタン	JIS K 0125 5.2
トリクロロエチレン	JIS K 0125 5.2
テトラクロロエチレン	JIS K 0125 5.2
1,3-ジクロロプロペン	JIS K 0125 5.2
チウラム	昭和 46 環境庁告示 59 号付表 5
シマジン	昭和 46 環境庁告示 59 号付表 6 第 1
チオベンカルブ	昭和 46 環境庁告示 59 号付表 6 第 1
ベンゼン	JIS K 0125 5.2
セレン	JIS K 0102-3 26.4
1,4-ジオキサン	昭和 46 環境庁告示 59 号付表 7

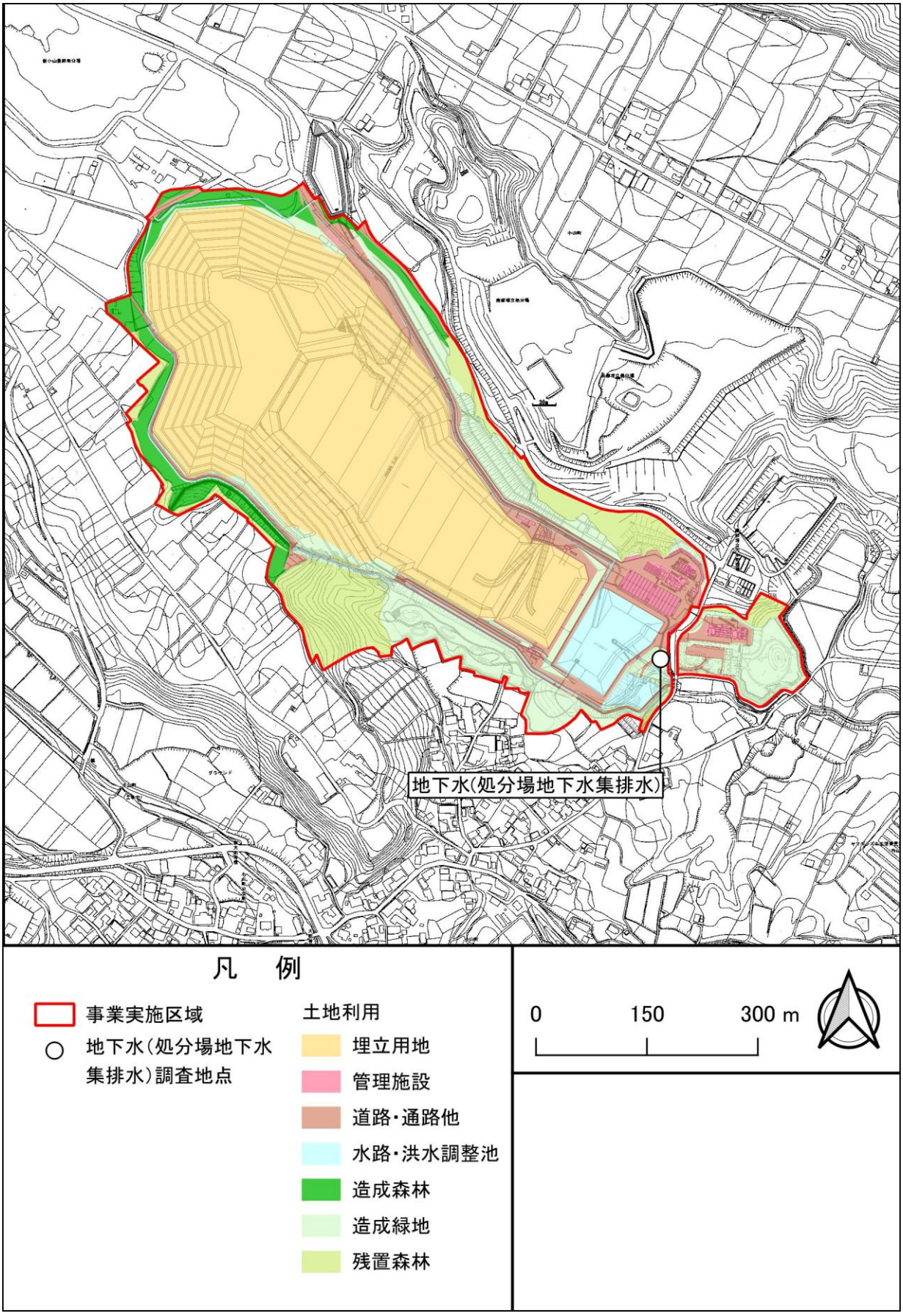


図 3-6-2　地下水（処分場地下水集排水）調査地点

2-2　調査結果

調査の結果は表 3-6-15 に示したとおり、毎月実施することとした項目の電気伝導率は 18～23mS/m、塩化物イオンは 10～15mg/L、１月に実施したその他の項目はいずれも定量下限値未満の値でした。

表 3-6-15(1)　地下水（処分場地下水集排水）調査結果

項　　目	単　位	4月16日	5月20日	6月12日	7月11日	8月14日	9月10日	環境基準値[注1)]
電気伝導率	mS/m	21	19	23	18	19	19	－
塩化物イオン	mg/L	12	11	14	12	12	12	－

表 3-6-15(2)　地下水（処分場地下水集排水）調査結果

項　　目	単　位	10月1日	11月11日	12月9日	1月13日	2月10日	3月4日	環境基準値[注1)]
電気伝導率	mS/m	20	19	18	18	18	21	－
塩化物イオン	mg/L	12	12	13	10	11	15	－
カドミウム	mg/L	－	－	－	<0.0003	－	－	0.003mg/L以下
全シアン	mg/L	－	－	－	検出せず (<0.1)	－	－	検出されないこと
鉛	mg/L	－	－	－	<0.005	－	－	0.01mg/L以下
六価クロム	mg/L	－	－	－	<0.01	－	－	0.02mg/L以下
砒　素	mg/L	－	－	－	<0.005	－	－	0.01mg/L以下
総水銀	mg/L	－	－	－	<0.0005	－	－	0.0005mg/L以下
アルキル水銀	mg/L	－	－	－	検出せず (<0.0005)	－	－	検出されないこと
ＰＣＢ	mg/L	－	－	－	検出せず (<0.0005)	－	－	検出されないこと
ジクロロメタン	mg/L	－	－	－	<0.002	－	－	0.02mg/L以下
四塩化炭素	mg/L	－	－	－	<0.0002	－	－	0.002mg/L以下
クロロエチレン	mg/L	－	－	－	<0.0002	－	－	0.002mg/L以下
1,2-ジクロロエタン	mg/L	－	－	－	<0.0004	－	－	0.004mg/L以下
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	－	－	－	<0.002	－	－	0.1mg/L以下
1,2-ジクロロエチレン	mg/L	－	－	－	<0.004	－	－	0.04mg/L以下
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	－	－	－	<0.0005	－	－	1mg/L以下
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	－	－	－	<0.0006	－	－	0.006mg/L以下
トリクロロエチレン	mg/L	－	－	－	<0.001	－	－	0.01mg/L以下
テトラクロロエチレン	mg/L	－	－	－	<0.0005	－	－	0.01mg/L以下
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	－	－	－	<0.0002	－	－	0.002mg/L以下
チウラム	mg/L	－	－	－	<0.0006	－	－	0.006mg/L以下
シマジン	mg/L	－	－	－	<0.0003	－	－	0.003mg/L以下
チオベンカルブ	mg/L	－	－	－	<0.002	－	－	0.02mg/L以下
ベンゼン	mg/L	－	－	－	<0.001	－	－	0.01mg/L以下
セレン	mg/L	－	－	－	<0.002	－	－	0.01mg/L以下
1,4-ジオキサン	mg/L	－	－	－	<0.005	－	－	0.05mg/L以下

注１：基準値は「地下水の水質汚濁に係る環境基準について」（平成９年３月 13 日、環境庁告示第 10 号）

第 7 節　浸出水処理水

第 1 項　調査概要

最終処分場事業の供用を受け、浸出水処理施設において浸出水が適切に処理されているかを確認するため、処理水の水質調査を実施しました。

1-1　調査地点

調査地点は図 3-7-1 に示したとおり、浸出水処理施設の処理水 1 地点としました。

1-2　調査時期

調査は表 3-7-1 に示したとおり毎月実施しました。

なお、調査項目のうち、ｐＨ、ＢＯＤ、ＣＯＤ、アンモニア性窒素、硫酸イオン等 22 項目は毎月、ほう素、カドミウム、全シアン等 33 項目は冬季（1 月）に 1 回実施しました。

表 3-7-1　調査時期

調査年月日
令和 7 年　4 月 18 日
令和 7 年　5 月 14 日
令和 7 年　6 月　6 日
令和 7 年　7 月　2 日
令和 7 年　8 月　6 日
令和 7 年　9 月　2 日
令和 7 年 10 月　8 日
令和 7 年 11 月 11 日
令和 7 年 12 月　3 日
令和 8 年　1 月　7 日
令和 8 年　2 月　4 日
令和 8 年　3 月　6 日

1-3　調査項目及び分析方法

調査項目及び分析方法は表 3-7-2 に示したとおりです。

表 3-7-2　浸出処理水調査項目及び分析方法

項　　目	分析方法	項　　目	分析方法
ｐＨ	JIS K 0102-1 12	総水銀	昭和 46 環告 59 号 付表 2
ＢＯＤ	JIS K 0102-1 18	アルキル水銀	昭和 46 環告 59 号 付表 3
ＣＯＤ	JIS K 0102-1 17.2	ＰＣＢ	昭和 46 環告 59 号 付表 4
浮遊物質量(ＳＳ)	昭和 46 環告 59 号 付表 8	セレン	JIS K 0102-3 26.3
フェノール類	JIS K 0102-4 5.2	1,4-ジオキサン	昭和 46 環告 59 号 付表 7
ｎ－ヘキサン 抽出物質	JIS K 0102-1 22.4	ジクロロメタン	JIS K 0125 5.2
銅	JIS K 0102-3 11.5	四塩化炭素	JIS K 0125 5.2
亜鉛	JIS K 0102-3 12.4	1,2-ジクロロエタン	JIS K 0125 5.2
溶解性鉄	JIS K 0102-3 16.5	1,1-ジクロロエチレン	JIS K 0125 5.2
溶解性マンガン	JIS K 0102-3 15.4	シス-1,2-ジクロロエチレン	JIS K 0125 5.2
全クロム	JIS K 0102-3 24.2.4	1,1,2-トリクロロエタン	JIS K 0125 5.2
ふっ素	JIS K 0102-2 5.4	ベンゼン	JIS K 0125 5.2
大腸菌数（1mL）	JIS K 0102-5 5.4.2.1	トリクロロエチレン	JIS K 0125 5.2
全窒素（Ｔ－Ｎ）	JIS K 0102-2 17.5	テトラクロロエチレン	JIS K 0125 5.2
全燐（Ｔ－Ｐ）	JIS K 0102-2 18.4.6	1,1,1-トリクロロエタン	JIS K 0125 5.2
アンモニア性窒素	JIS K 0102-2 13.2.2 及び 13.3	1,3-ジクロロプロペン	JIS K 0125 5.2
亜硝酸性窒素	JIS K 0102-2 14.3	チウラム	昭和 46 環告 59 号 付表 5
硝酸性窒素	JIS K 0102-2 15.7	シマジン	昭和 46 環告 59 号 付表 6 第 1
有機態窒素	JIS K 0102-2 16.2 及び 16.3	チオベンカルブ	昭和 46 環告 59 号 付表 6 第 1
硫酸イオン	JIS K 0102-2 12.5	ダイオキシン類	JIS K 0312（2020）
硬度	JIS K 0101 15.1.3	ビスフェノールＡ	「外因性内分泌攪乱化学物質調査暫定マニュアル」（平成 10 年 10 月）に準拠
電気伝導率	JIS K 0102-1 13	フタル酸ジ-2-エチルヘキシル	
ほう素	JIS K 0102-3 5.5	フタル酸ジ-ｎ-ブチル	
カドミウム	JIS K 0102-3 14.4	フタル酸ブチルベンジル	
全シアン	JIS K 0102-2 9.3.2 及び 9.6	フタル酸ジシクロヘキシル	
鉛	JIS K 0102-3 13.4	フタル酸ジエチル	
六価クロム	JIS K 0102-3 24.3.5	アジピン酸ジ-2-エチルヘキシル	
砒素	JIS K 0102-3 20.4		

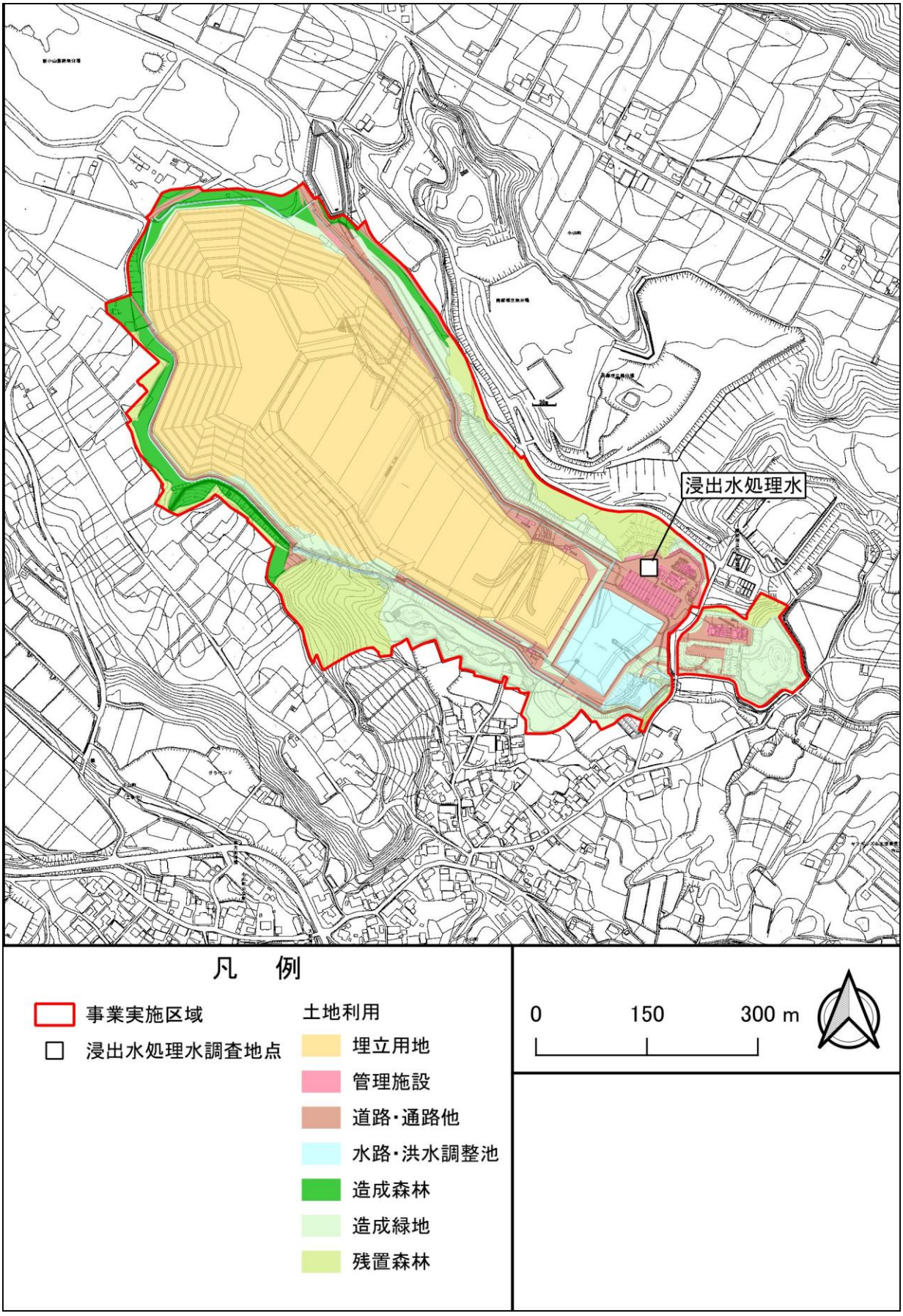


図 3-7-1　浸出水処理水調査地点

第 2 項　調査結果

調査結果のうち、毎月実施項目の結果概要は表 3-7-3 に、調査結果の詳細は表 3-7-4 に示したとおりです。

ダイオキシン類も含め基準値のある項目と管理基準値を設定している項目は、いずれも基準値および管理基準値を下回る値又は定量下限値未満の値でした。

表 3-7-3　浸出水処理水調査結果概要（毎月実施項目）

項　　目	単位	調査結果	基準値※1	管理基準値※2
外　観	－	殆ど透明	－	－
気　温	℃	19.1（3.0～33.2）	－	－
水　温	℃	21.7（14.2～32.5）	－	－
ｐＨ	－	7.5（7.2～7.9）	5.8～8.6	6.0～8.5
ＢＯＤ	mg/L	0.9（<0.5～1.6）	60mg/L 以下	5mg/L 以下
ＣＯＤ	mg/L	4.5（1.1～6.3）	90mg/L 以下	10mg/L 以下
ＳＳ	mg/L	1.3（<1.0～4.1）	60mg/L 以下	5mg/L 以下
フェノール類	mg/L	<0.1	5mg/L 以下	－
n-ヘキサン抽出物質	mg/L	<0.5	鉱油類 5mg/L 以下 動植物油脂類 30mg/L 以下	－
銅	mg/L	<0.1	3mg/L 以下	－
亜　鉛	mg/L	0.1（<0.1～0.2）	2mg/L 以下	－
溶解性鉄	mg/L	<0.5	10mg/L 以下	－
溶解性マンガン	mg/L	0.5（<0.5～0.6）	10mg/L 以下	－
全クロム	mg/L	<0.05	2mg/L 以下	－
ふっ素	mg/L	3.1（2.0～4.7）	15mg/L 以下	－
大腸菌数	CFU/mL	0	日間平均 800 コロニー以下	－
Ｔ－Ｎ	mg/L	3.3（1.3～7.6）	120mg/L 以下 （日間平均 60mg/L 以下）	10mg/L 以下
Ｔ－Ｐ	mg/L	0.05（0.01～0.09）	16mg/L 以下 （日間平均 8mg/L 以下）	0.2mg/L 以下
アンモニア性窒素	mg/L	<0.5	－	－
亜硝酸性窒素	mg/L	<0.01	－	－
硝酸性窒素	mg/L	1.7（0.56～4.8）	－	－
有機態窒素（計算値）	mg/L	1.6（<0.5～3.1）	－	－
硫酸イオン	mg/L	1400（1100～1800）	－	－
硬　度	mg/L	1200（880～1600）	－	－
電気伝導率	mS/m	680（430～840）	－	－

注：値は「平均値（最小値～最大値）」

※1：基準値は「一般廃棄物の最終処分場及び産業廃棄物の最終処分場に係る技術上の基準を定める省令」に基づく排水基準を表示。

※2：管理基準値は新小山最終処分場の浸出水処理施設の計画処理水質を表示。

表 3-7-4(1)　浸出水処理水調査結果（毎月実施項目）

項　　目	単位	4月18日	5月14日	6月6日	7月2日	8月6日	9月2日	基準値[注1)]	管理基準値[注2)]
天　候	－	晴	晴	晴	雨	晴	晴	－	－
外　観	－	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	－	－
気　温	℃	22.3	22.6	23.3	27.6	33.2	32.1	－	－
水　温	℃	17.0	20.2	21.4	26.5	32.0	32.5	－	－
ｐ　Ｈ	－	7.5	7.9	7.5	7.3	7.4	7.7	5.8～8.6	6.0～8.5
ＢＯＤ	mg/L	1.4	<0.5	<0.5	1.0	1.0	<0.5	60mg/L以下	5mg/L以下
ＣＯＤ	mg/L	4.8	4.1	5.9	6.3	4.6	1.1	90mg/L以下	10mg/L以下
ＳＳ	mg/L	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	60mg/L以下	5mg/L以下
フェノール類	mg/L	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	5mg/L以下	－
ｎ－ヘキサン抽出物質	mg/L	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	鉱油類5mg/L以下 動植物油脂類30mg/L以下	－
銅	mg/L	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	3mg/L以下	－
亜　鉛	mg/L	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	2mg/L以下	－
溶解性鉄	mg/L	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	10mg/L以下	－
溶解性マンガン	mg/L	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	10mg/L以下	－
全クロム	mg/L	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	2mg/L以下	－
ふっ素	mg/L	2.5	2.0	2.7	3.3	2.3	3.0	15mg/L以下	－
大腸菌数（1mL）	CFU/mL	0	0	0	0	0	0	日間平均800コロニー以下	－
Ｔ－Ｎ	mg/L	2.6	1.3	2.4	3.0	1.3	2.9	120mg/L以下 （日間平均60mg/L以下）	10mg/L以下
Ｔ－Ｐ	mg/L	0.05	0.02	0.04	0.09	0.07	0.08	16mg/L以下 （日間平均8mg/L以下）	0.2mg/L以下
アンモニア性窒素	mg/L	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	－	－
亜硝酸性窒素	mg/L	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	－	－
硝酸性窒素	mg/L	0.73	0.83	0.90	3.0	0.59	0.82	－	－
有機態窒素（計算値）	mg/L	1.9	0.5	1.5	<0.5	0.7	2.1	－	－
硫酸イオン	mg/L	1100	1100	1300	1500	1100	1400	－	－
硬　度	mg/L	900	930	1000	1200	880	1000	－	－
電気伝導率	mS/L	430	710	590	680	500	630	－	－

注１：基準値は「一般廃棄物の最終処分場及び産業廃棄物の最終処分場に係る技術上の基準を定める省令」に基づく排水基準を表示。
注２：管理基準値は新小山最終処分場の浸出水処理施設の計画処理水質を表示。

表 3-7-4(2)　浸出水処理水調査結果（毎月実施項目）

項　　目	単位	10月8日	11月11日	12月3日	1月7日	2月4日	3月6日	基準値[注1)]	管理基準値[注2)]
天　候	－	晴	曇	曇	晴	晴	曇	－	－
外　観	－	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明	－	－
気　温	℃	25.8	14.7	10.5	3.0	4.6	10.0	－	－
水　温	℃	27.0	20.5	19.5	15.0	14.2	15.0	－	－
ｐ　Ｈ	－	7.4	7.4	7.5	7.4	7.5	7.2	5.8～8.6	6.0～8.5
ＢＯＤ	mg/L	1.1	1.2	<0.5	<0.5	1.0	1.6	60mg/L以下	5mg/L以下
ＣＯＤ	mg/L	5.0	3.7	4.4	4.6	5.1	4.9	90mg/L以下	10mg/L以下
ＳＳ	mg/L	<1.0	<1.0	4.1	<1.0	<1.0	<1.0	60mg/L以下	5mg/L以下
フェノール類	mg/L	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	5mg/L以下	－
ｎ－ヘキサン抽出物質	mg/L	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	鉱油類5mg/L以下 動植物油脂類30mg/L以下	－
銅	mg/L	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	3mg/L以下	－
亜　鉛	mg/L	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	0.2	0.1	2mg/L以下	－
溶解性鉄	mg/L	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	10mg/L以下	－
溶解性マンガン	mg/L	<0.5	<0.5	0.6	<0.5	<0.5	<0.5	10mg/L以下	－
全クロム	mg/L	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	2mg/L以下	－
ふっ素	mg/L	3.4	3.1	3.8	4.7	3.9	2.6	15mg/L以下	－
大腸菌数（1mL）	CFU/mL	0	0	0	0	0	0	日間平均800コロニー以下	－
Ｔ－Ｎ	mg/L	3.9	2.2	1.8	5.1	5.1	7.6	120mg/L以下 （日間平均60mg/L以下）	10mg/L以下
Ｔ－Ｐ	mg/L	0.07	0.04	0.05	0.02	0.02	0.01	16mg/L以下 （日間平均8mg/L以下）	0.2mg/L以下
アンモニア性窒素	mg/L	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	－	－
亜硝酸性窒素	mg/L	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	－	－
硝酸性窒素	mg/L	0.77	0.74	0.56	3.0	4.0	4.8	－	－
有機態窒素（計算値）	mg/L	3.1	1.5	1.2	2.1	1.1	2.9	－	－
硫酸イオン	mg/L	1500	1500	1600	1700	1700	1800	－	－
硬　度	mg/L	1200	1600	1300	1300	1400	1400	－	－
電気伝導率	mS/L	680	650	780	840	840	830	－	－

注１：基準値は「一般廃棄物の最終処分場及び産業廃棄物の最終処分場に係る技術上の基準を定める省令」に基づく排水基準を表示。
注２：管理基準値は新小山最終処分場の浸出水処理施設の計画処理水質を表示。

表 3-7-4(3)　浸出水処理水調査結果（年１回実施項目）

項　　目	単位	1月7日	基準値[注1)]	管理基準値[注2)]
ほう素	mg/L	4.1	50mg/L以下	－
カドミウム	mg/L	<0.003	0.03mg/L以下	－
全シアン	mg/L	<0.1	1mg/L以下	－
鉛	mg/L	<0.01	0.1mg/L以下	－
六価クロム	mg/L	<0.05	0.5mg/L以下	－
砒　素	mg/L	<0.01	0.1mg/L以下	－
総水銀	mg/L	<0.0005	0.005mg/L以下	－
アルキル水銀	mg/L	<0.0005	検出されないこと (<0.005mg/L)	－
ＰＣＢ	mg/L	<0.0005	0.003mg/L以下	－
セレン	mg/L	<0.01	0.1mg/L以下	－
1,4-ジオキサン	mg/L	<0.05	0.5mg/L以下	－
ジクロロメタン	mg/L	<0.02	0.2mg/L以下	－
四塩化炭素	mg/L	<0.002	0.02mg/L以下	－
1,2-ジクロロエタン	mg/L	<0.004	0.04mg/L以下	－
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	<0.02	1mg/L以下	－
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	<0.04	0.4mg/L以下	－
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	<0.006	0.06mg/L以下	－
ベンゼン	mg/L	<0.01	0.1mg/L以下	－
トリクロロエチレン	mg/L	<0.001	0.1mg/L以下	－
テトラクロロエチレン	mg/L	<0.001	0.1mg/L以下	－
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	<0.3	3mg/L以下	－
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	<0.002	0.02mg/L以下	－
チウラム	mg/L	<0.006	0.06mg/L以下	－
シマジン	mg/L	<0.003	0.03mg/L以下	－
チオベンカルブ	mg/L	<0.02	0.2mg/L以下	－
ダイオキシン類	pg-TEQ/L	0.21	10pg-TEQ/L以下[注3)]	－
ビスフェノールＡ	μg/L	<0.01	－	－
ﾌﾀﾙ酸ｼﾞ-2-ｴﾁﾙﾍｷｼﾙ	μg/L	<0.5	－	－
ﾌﾀﾙ酸ｼﾞ-ｎ-ﾌﾞﾁﾙ	μg/L	<0.5	－	－
ﾌﾀﾙ酸ﾌﾞﾁﾙﾍﾞﾝｼﾞﾙ	μg/L	<0.2	－	－
ﾌﾀﾙ酸ｼﾞｼｸﾛﾍｷｼﾙ	μg/L	<0.2	－	－
ﾌﾀﾙ酸ｼﾞｴﾁﾙ	μg/L	<0.2	－	－
ｱｼﾞﾋﾟﾝ酸ｼﾞ-2-ｴﾁﾙﾍｷｼﾙ	μg/L	<0.01	－	－

注１：基準値は「一般廃棄物の最終処分場及び産業廃棄物の最終処分場に係る技術上の基準を定める省令」に基づく排水基準を表示。
注２：管理基準値は新小山最終処分場の浸出水処理施設の計画処理水質を表示。
注３：ダイオキシン類の基準値は「ダイオキシン類対策特別措置法に基づく廃棄物の最終処分場の維持管理の基準を定める省令」（最終改正：平成 12 年 8 月 14 日総厚令第 3 号）に定める維持管理基準を表示。

第 4 章　既設事業に係る動物・植物の調査

第 1 節　水生生物

第 1 項　淡水魚類

1-1　調査時期及び調査内容

調査時期及び調査内容は表 4-1-1 に示したとおりです。

表 4-1-1　調査時期及び調査内容

調査時期	調査年月日	調査内容
春　季	令和 7 年　5 月　7 日	捕獲調査、 任意調査、 目視観察調査
夏　季	令和 7 年　8 月　8 日	
秋　季	令和 7 年 11 月　6 日	
冬　季	令和 8 年　2 月 10 日	

1-2　調査地点

調査は図 4-1-1 に示した 3 地点（P.1、P.2、P.3）で実施しました。

1-3　調査方法

1-3-1　捕獲調査

調査地点にカゴ網、セルビン各 2 個を設置して採集し、生息種の捕獲・確認を行いました。

カゴ網、セルビンは 1 時間設置し、餌として市販の練餌及びサナギ粉を用いました。

1-3-2　任意調査

上記の調査方法に加え、調査地点周辺においてタモ網を用いて任意に採集し、生息種の確認をする任意調査も実施しました。

1-3-3　目視観察調査

岸辺や橋上から目視での観察により、上記調査を補完しました。

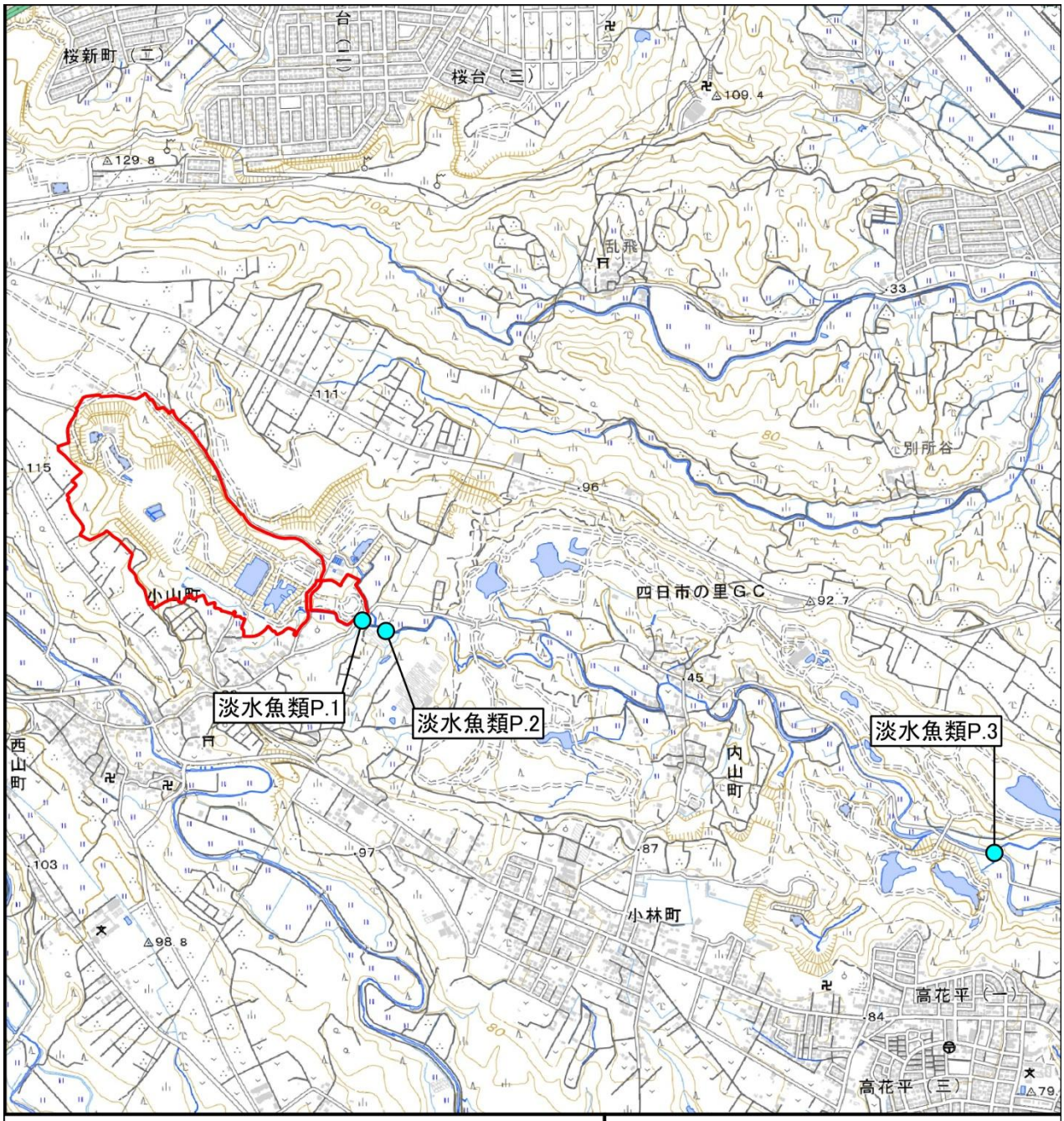


図 4-1-1　淡水魚類調査地点

1-4　調査結果

1-4-1　捕獲調査・任意調査結果

カゴ網、セルビンによる捕獲調査及びタモ網による任意調査により、表 4-1-2 に示したとおりカワムツ、オイカワ、モツゴ、カワヨシノボリ、タモロコ、スミウキゴリの 6 種の淡水魚類を確認しました。

カゴ網による調査では、春季は P.2、3 でオイカワ 1 種を、夏季は P.2 でカワムツ 1 種、P.3 でカワムツ、オイカワの 2 種を、秋季は P.1 でカワムツ 1 種、P.2 でカワムツ、オイカワの 2 種、P.3 でオイカワの 1 種を、冬季は P.2 でカワムツ、オイカワ、カワヨシノボリの 3 種を捕獲しました。

セルビンによる調査では、夏季は P.1、3 でカワムツ 1 種を、秋季は P.1 でカワムツ 1 種、P.2 でカワムツ、オイカワの 2 種、P.3 でカワムツ、タモロコ、カワヨシノボリの 3 種を、冬季は P.1 でカワムツ 1 種を、P.2 でカワムツ、オイカワ、カワヨシノボリの 3 種を捕獲しました。なお、春季はいずれの地点でも捕獲はありませんでした。

タモ網による任意調査では、春季に 2～3 種、夏季に 2～5 種、秋季に 1～4 種、冬季に 2～4 種を確認しました。

表 4-1-2(1)　魚類捕獲調査結果

調査方法	種　名	春季(R7.5.7)			夏季(R7.8.8)		
		調査地点					
		P.1	P.2	P.3	P.1	P.2	P.3
カゴ網	カワムツ	捕獲なし			捕獲なし	2	1
	オイカワ		1	5			2
	種　数		1	1			2
	個体数		1	5			3
セルビン	カワムツ	捕獲なし	捕獲なし	捕獲なし	2	捕獲なし	2
	種　数				1		1
	個体数				2		2
タモ網	カワムツ	○	○	○	○	○	○
	オイカワ		○	○		○	○
	モツゴ						○
	タモロコ					○	
	カワヨシノボリ	○	○	○	○	○	○
	スミウキゴリ						○
	種　数	2	3	3	2	4	5

注：タモ網による捕獲個体数は、その作業量に比例して多くなるため、種類のみの確認とした。

表 4-1-2(2)　魚類捕獲調査結果

調査方法	種　名	秋季(R7.11.6)			冬季(R8.2.10)		
		調査地点					
		P.1	P.2	P.3	P.1	P.2	P.3
カゴ網	カワムツ	1	2		捕獲なし	4	捕獲なし
	オイカワ		1	2		1	
	カワヨシノボリ					1	
	種　数	1	2	1		3	
	個体数	1	3	2		6	
セルビン	カワムツ	1	15	5	6	25	捕獲なし
	オイカワ		7			5	
	タモロコ			2			
	カワヨシノボリ			1		1	
	種　数	1	2	3	1	3	
	個体数	1	22	8	6	31	
タモ網	カワムツ		○	○	○	○	○
	オイカワ		○	○		○	○
	モツゴ						○
	タモロコ			○		○	
	カワヨシノボリ	○	○	○	○	○	○
	種　数	1	3	4	2	4	4

注：タモ網による捕獲個体数は、その作業量に比例して多くなるため、種類のみの確認とした。

1-4-2　目視観察調査結果

各季に実施した調査では、上記確認種以外に魚影を確認することはできませんでした。

1-5 まとめ

今回の調査では、表 4-1-3 に示したとおり、2 目 2 科 6 種の淡水魚類を確認しました。

季節別では、春季は 3 種、夏季は 6 種、秋季は 4 種、冬季は 5 種、地点別では、P.1 が 2 種、P.2 が 4 種、P.3 が 6 種でした。

表 4-1-3　魚類捕獲調査結果（確認種）

目 名	科 名	種 名	調査時季				調査地点		
			春季	夏季	秋季	冬季	P.1	P.2	P.3
コイ	コイ	オイカワ	○	○	○	○		○	○
		カワムツ	○	○	○	○	○	○	○
		モツゴ		○		○			○
		タモロコ		○	○	○		○	○
スズキ	ハゼ	カワヨシノボリ	○	○	○	○	○	○	○
		スミウキゴリ		○					○
2 目 2 科 6 種		種数	3	6	4	5	2	4	6

また、今回の調査結果を、表 4-1-4 に示した昨年度（令和 6 年度）の調査結果と比べてみると、今年度は昨年度確認されなかったタモロコとスミウキゴリが確認され、昨年度の確認種数より多くなりました。

季節別では、今年度の確認種数は夏季で昨年度より多くなりました。春季、秋季、冬季は同等の結果となりました。

なお、今年度の調査では、確認された個体数及び種構成は大きく変わりませんでした。

よって、事業の実施による当該水域に生息する魚類相に大きな変化はみられないものと考えられます。

表 4-1-4　魚類捕獲調査結果（確認種：令和 6 年度の調査）

目 名	科 名	種 名	調査時季				調査地点		
			春季	夏季	秋季	冬季	P.1	P.2	P.3
コイ	コイ	オイカワ	○	○	○	○	○	○	○
		カワムツ	○	○	○	○	○	○	○
		モツゴ		○	○				○
スズキ	ハゼ	カワヨシノボリ	○	○	○	○	○	○	○
2 目 2 科 4 種		種数	3	4	4	3	3	3	4

第 2 節　植物相

第 1 項　調査概要

既設事業区域内の残存緑地について、事業の実施による影響の有無を把握するため調査を実施しました。また、回復緑地におけるの緑化植物の生育状況についても調査を実施しました。

1-1　調査時期及び調査内容

調査時期及び調査内容は表 4-2-1 に示したとおりです。

表 4-2-1　調査時期及び調査内容

調査対象種	調査年月日	調査内容
残存緑地 回復緑地	令和 7 年　9 月 26 日	生育状況調査

1-2　調査場所

調査地点は図 4-2-1 に示したとおりです。

1-3　調査方法

残存緑地の調査は、定点を設定して、その地点から写真撮影を行い、その状況を記録しました。

回復緑地については、植栽樹の中から任意の個体（図 4-2-2 参照）を選定し、その個体について表 4-2-2 に示した活力度の判定基準に基づき、簡易的に樹木活力度を把握しました。

表 4-2-2　樹木活力度の判定基準

項　目	〈判定基準〉 ← 良好な状態　　不良な状態 →							
活力度	1	正常な開花や良好な枝葉、樹勢等、旺盛な生育状況を示し、被害がまったくみられない	2	開花状況や枝葉、樹勢等にわずかに異常がみられ、幾分被害の影響を受けているがあまり目立たない	3	開花状況や枝葉、樹勢等に異常が明らかに認められる	4	生育の状態が劣悪で回復の見込みがない

参考：「地上調査に基づく樹木活力指標」（昭和 47 年、科学技術庁資源調査会）

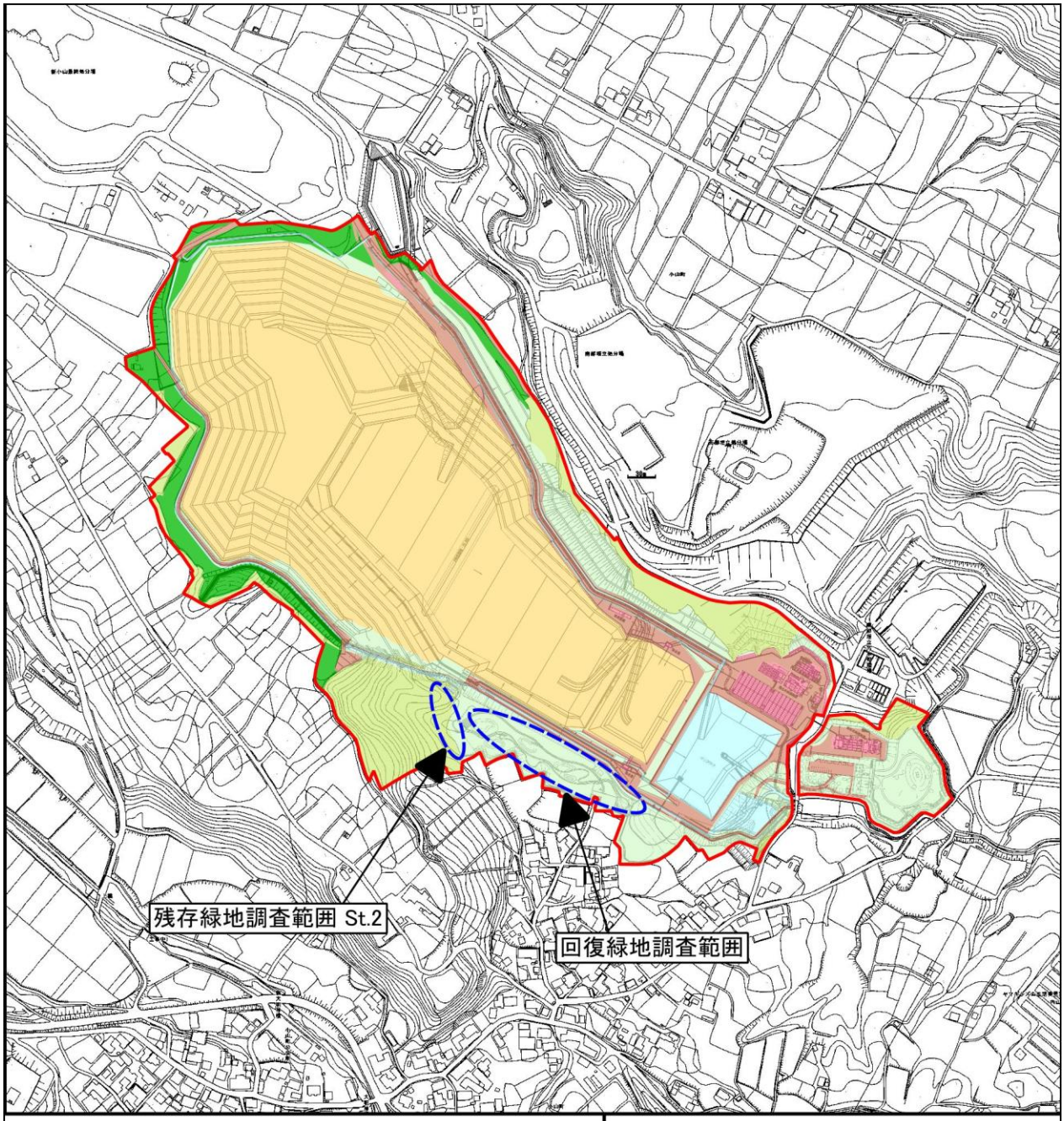


図 4-2-1　残存緑地・回復緑地調査場所

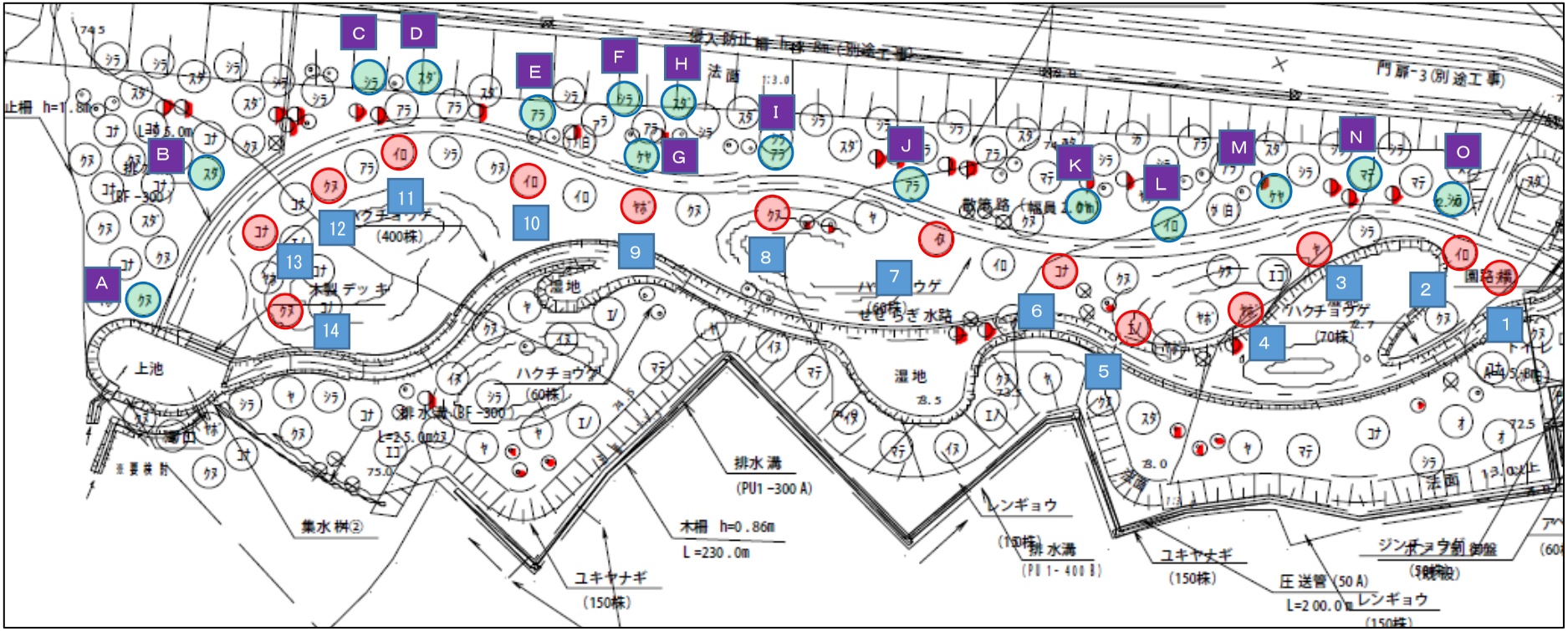


図 4-2-2　回復緑地のうち調査対象とした種

第 2 項　調査結果

2-1　残存緑地

設定した 1 か所の残存緑地について調査 13 年目の状況を写真 4-2-1 に示しました。参考として昨年度（調査 12 年目）の写真も併せて掲載しました。

残存緑地は、林域となっており主に常緑樹やスギが高木層に優占しています。高木層にタブノキ、カクレミノ、マダケ、シロダモ、アラカシ、スギが、亜高木層や低木層にハゼノキ、ヤブツバキ、シロダモ、タブノキ、アラカシ、ヒサカキ、ナンテン、アオキ、ネズミモチ、クロガネモチなどの生育が見られました。草本層には上記木本類の幼木の他、ケチヂミザサ、ナガバジャノヒゲ、ドクダミなどの草本類、テイカカズラ、サネカズラ、フジ、フユイチゴなどのツル植物、ベニシダ、イワガネゼンマイ、フモトシダなどのシダ植物など多様な種が生育しています。このように林内は階層構造をもつ安定した環境にあり、経年的には、特に高木のタブノキ、アラカシ、スギの樹高や林冠の生長が良好です。

公園に面した林縁部は、今年度、クサギ、マダケ、タラノキ、アラカシ、アオキなどの亜高木や低木類、アオツヅラフジ、ヤブマメなどのツル植物の伐採により、林床のベニシダやアラカシの幼木などが散生する開けた景観になっていますが、公園に植栽されたクヌギ、コナラの生長によって林縁部は、安定した環境となっています。

谷部の林縁部では、マダケ、クサギ、アラカシ、ヒメコウゾ、ハゼノキ、アオキなどの木本類が生長して、林床はネザサ、フユイチゴ、フモトシダなどの増加が認められました。また、この林縁部から連続する公園の湿地にはミゾソバ、ガマ、セリ、ヌカキビなどの草本類が旺盛に生育しており、多様性のある連続した環境を形成しています。

以上より、過年度と比較して緑地の状況に大きな変化はないことから、本事業の実施による周辺環境への影響はないものと考えられます。

今後も樹林の状況を継続的に監視していきます。



写真 4-2-1(1)　残存緑地の状況（St.2）



写真 4-2-1(2)　残存緑地の状況（St.2：令和 6 年度参考）

2-2　回復緑地

回復緑地での調査の結果を表 4-2-3 に示しました。

現地調査では、生育状況の悪い個体がやや多くみられましたが、順調に生育する個体もみられました。その結果、全体としては昨年度と同程度の生育状態を保っていました。

表 4-2-3　植栽樹種の生育状況

植栽位置	No.	調査年月日	H26.8.14	H27.5.15	H28.6.2	H29.9.8	H30.8.14	R1.9.18	R2.9.14	R3.9.9	R4.9.22	R5.9.4	R6.9.10	R7.9.26
		種名	活力度											
遊歩道南側	1	シラカシ	1	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	2	イロハモミジ	1	1	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3
	3	ウメ（図ではヤマザクラ）	3	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
	4	エノキ（図ではヤマボウシ）	1	2	3	3	3	3	3	-	-	-	-	-
	5	エノキ	1	-	2	3	3	3	3	3	2	2	1	1
	6	コナラ	2	2	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	7	イヌシデ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	8	クヌギ	1	1	1	1	1	2	2	1	1	1	1	1
	9	レモンマイヤー										1	2	3
	10	イロハモミジ	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3
	11	イロハモミジ	2	2	2	2	2	3	3	3	2	3	3	3
	12	クヌギ	1	1	1	1	2	2	2	2	2	1	1	2
	13	コナラ	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	14	クヌギ	1	1	1	2	2	2	2	2	2	1	1	2
遊歩道北側	A	クヌギ	1	1	1	2	2	2	2	1	1	1	1	2
	B	スダジイ	1	2	1	2	2	2	2	2	2	1	2	2
	C	シラカシ	1	1	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3
	D	スダジイ	2	2	2	1	2	2	2	3	2	1	1	2
	E	アラカシ	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1
	F	シラカシ	1	2	1	1	2	2	3	3	3	3	2	2
	G	ケヤキ	1	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	3
	H	スダジイ	1	1	1	1	1	1	1	2	1	2	2	1
	I	アラカシ	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	J	アラカシ	1	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1
	K	ケヤキ	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4
	L	イロハモミジ	1	2	2	3	3	3	3	4	4	-	-	-
	M	ケヤキ	1	2	2	3	3	3	3	3	3	4	-	-
	N	マテバシイ	1	1	4	4	4	4	-	-	-	-	-	-
	O	シラカシ	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2
平均活力度			1.4	1.7	1.9	2.1	2.2	2.4	2.3	2.3	2.1	2.0	2.0	2.2

第 5 章　増設事業工事中に係る調査

第 1 節　地下水位

第 1 項　調査概要

増設事業評価書における予測結果において、事業実施区域周辺の帯水層や周辺の既設井戸への影響の程度は小さいと予測されたものの、本事業の事業特性に鑑み、工事期間中及び施設供用後 1 年間の継続的なモニタリングを実施することで、影響の程度を把握するとともに予測結果を検証する計画としています。

事後調査のフローは図 5-1-1 に示したとおりです。

今年度は施設供用後における地下水位の把握を目的とした調査を実施しました。

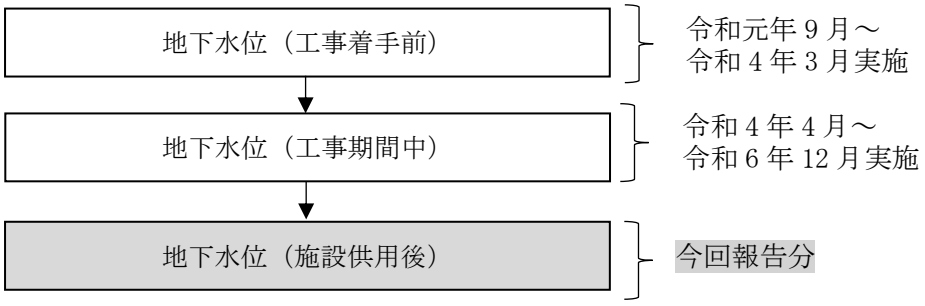


図 5-1-1　事後調査フロー

1-1　調査方法

事業実施区域内のモニタリング井戸に自記水位計を設置し、毎正時 1 回の頻度で水位データを記録しました。

設置機器の仕様は表 5-1-1 に示したとおりです。

表 5-1-1　自記水位計の仕様

調査地点		メーカー及び型式	分解能
既設事業範囲内のモニタリング井戸	モニタリング井戸No.A	メーカー：OSASI 型式：NetLG-001	1 ㎝又は 1 ㎜
	モニタリング井戸No.B		
	モニタリング井戸No.C		
増設事業範囲内のモニタリング井戸	モニタリング井戸No.D（旧名：Env-7）	メーカー：In-Situ Inc. 型式：Rugged TROL	0.01％FS 以上
	モニタリング井戸No.E（旧名：Env-6）		

1-2　調査地点

調査地点は図 5-1-2 に示したとおり、既設事業範囲内のモニタリング井戸 3 地点（No.A、No.B、No.C）及び増設事業範囲内のモニタリング井戸 2 地点（No.D、No.E）の計 5 地点で実施しました。

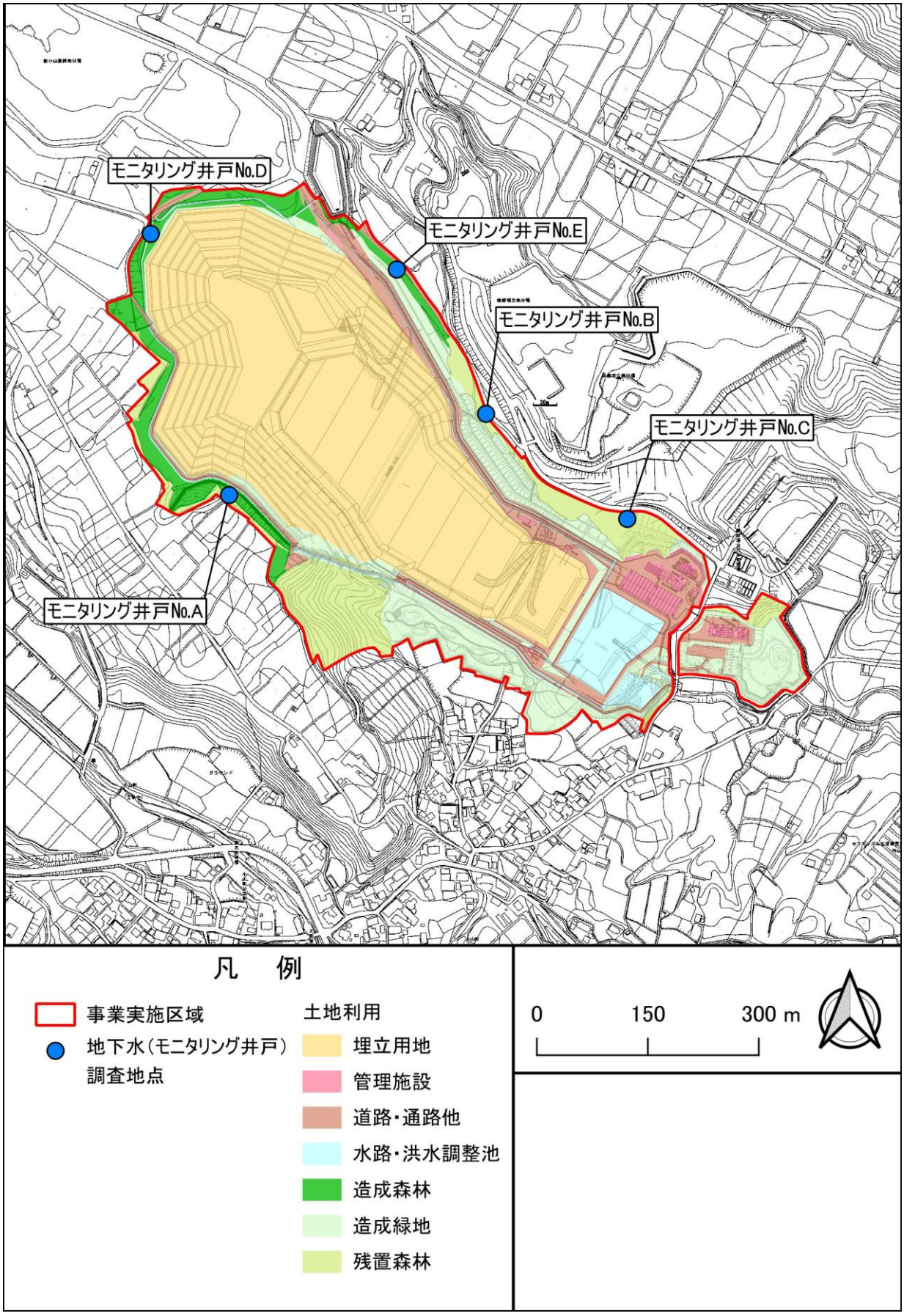


図 5-1-2　地下水位調査地点

1-3　調査時期

調査時期は表 5-1-2 に示したとおりです。

既設事業及び増設事業の各モニタリング井戸については、令和 7 年 1 月の供用開始から 1 年間が経過し、後述のとおり特に異常がみられないことから、当初の予定通り令和 8 年 1 月 31 日で計測を終了しました。

表 5-1-2　調査時期

調査地点		調査年月日
既設事業範囲のモニタリング井戸	モニタリング井戸№A	令和 7 年　4 月　1 日～令和 8 年　1 月 31 日
	モニタリング井戸№B	
	モニタリング井戸№C	
増設事業範囲のモニタリング井戸	モニタリング井戸№D	
	モニタリング井戸№E	

第 2 項　調査結果

評価書においてモニタリングリングを計画した地下水について、工事期間中及び施設供用後の地下水位の変化を調査しました。自記水位計により記録した地下水位と、事業実施区域の最寄りの気象観測所である四日市特別地域気象観測所の降水量の関係をグラフにして、図 5-1-3 に示しました。

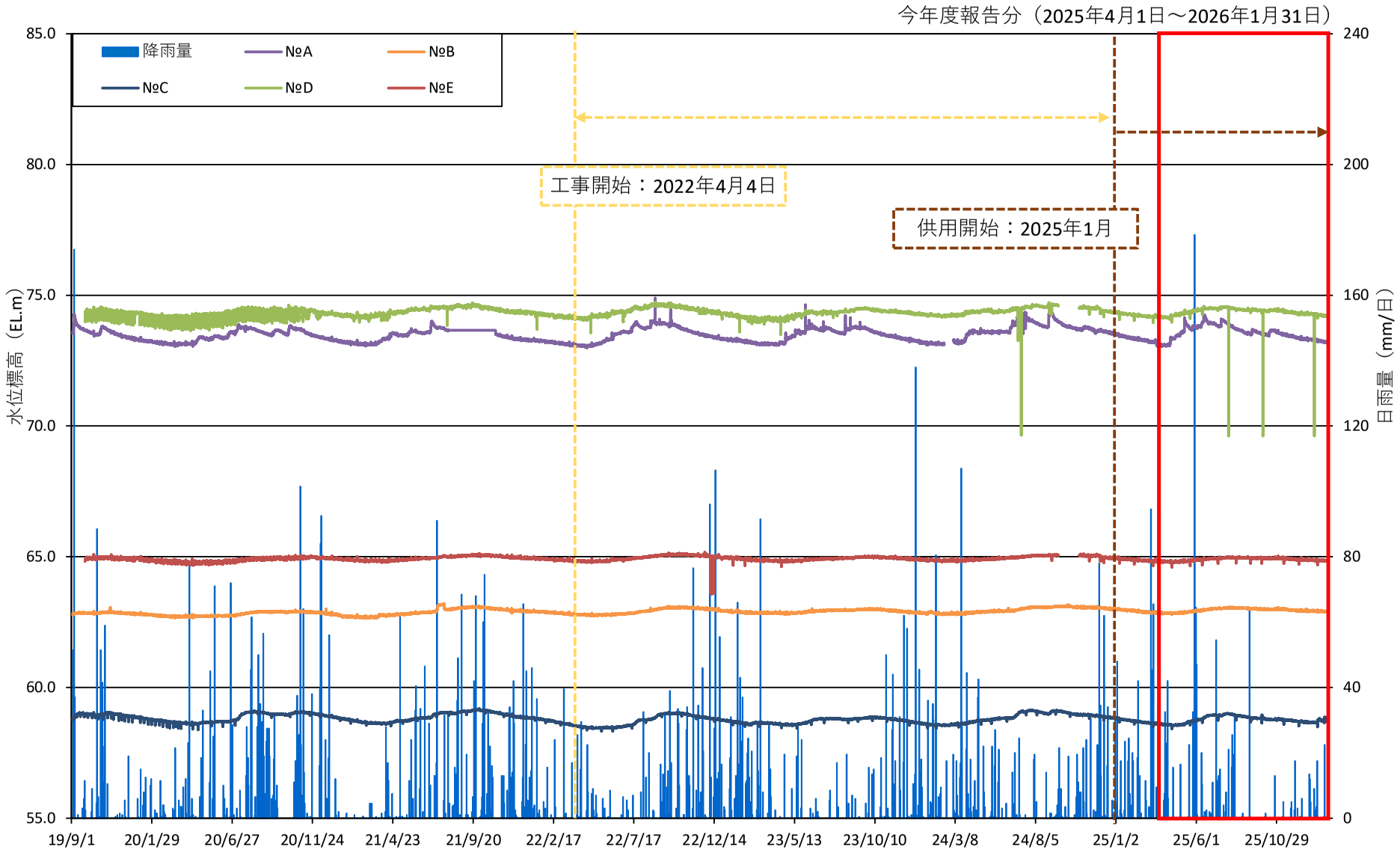
今年度の調査結果と過年度の結果を比較すると、いずれのモニタリング井戸でも大きな水位の変化はみられませんでした。

いずれのモニタリング井戸も、本事業の埋立地の底面を北東流する同一の被圧帯水層を対象としていることから、降雨による変動はほとんど受けず、概ね一定の水位を保っています。

なお、№D では、複数回大きな水位減少が見られましたが、その後は平常時の水位に回復しています。この水位減少は、本事業に関連する定期的な調査の際に、一時的に水位計を取り出した時間帯と重なっており、これに起因するものと考えられました。

以上のことから、調査期間を通じて、工事の実施に伴う同帯水層への影響はみられませんでした。

その結果、令和 8 年 1 月末で工事終了から 1 年間が経過し、事業による地下水位への影響が認められなかったことから、今年度をもって本調査を終了することとします。



※降雨量は気象庁ホームページ四日市特別地域気象観測所データより引用

図 5-1-3　地下水位と降水量の状況

第 6 章　増設事業に係る動物・植物の調査

第 1 節　重要な陸生動物

第 1 項　哺乳類（ユビナガコウモリ、コウモリ類休息・越冬地）

1-1　調査概要

増設事業評価書における現況調査の際に、既設の暗渠排水路内において、重要な哺乳類であるユビナガコウモリの越冬個体やコウモリ類の休息個体群が確認されました。本事業の実施に伴い、これらの生息環境の消失が予測されたことから、代替となる生息環境を整備することで、事業による影響を代償する計画としています。また、代替生息地の整備については、学識経験者の意見に基づき実施し、令和 4 年 5 月 30 日に完了しました。

調査対象種の概要は表 6-1-1-1 に、事後調査のフローは図 6-1-1-1 に示したとおりです。

今年度は、施設供用 1 年目における代替生息地の利用状況の確認を目的とした調査を実施しました。

表 6-1-1-1　調査対象種の概要

No.	分類	種名	重要種指定状況※1
			三重県 RDB
1	哺乳類	ユビナガコウモリ	NT
2		コウモリ類※2	

※1：重要種のカテゴリーは以下のとおり。
三重県 RDB：「三重県レッドデータブック 2015」（三重県、平成 27 年）掲載種
NT＝準絶滅危惧

※2：コウモリ類が生息する既設暗渠排水路を「注目すべき生息地」として選定したことから、生息するコウモリ類全種を重要種に準じて扱うこととした。

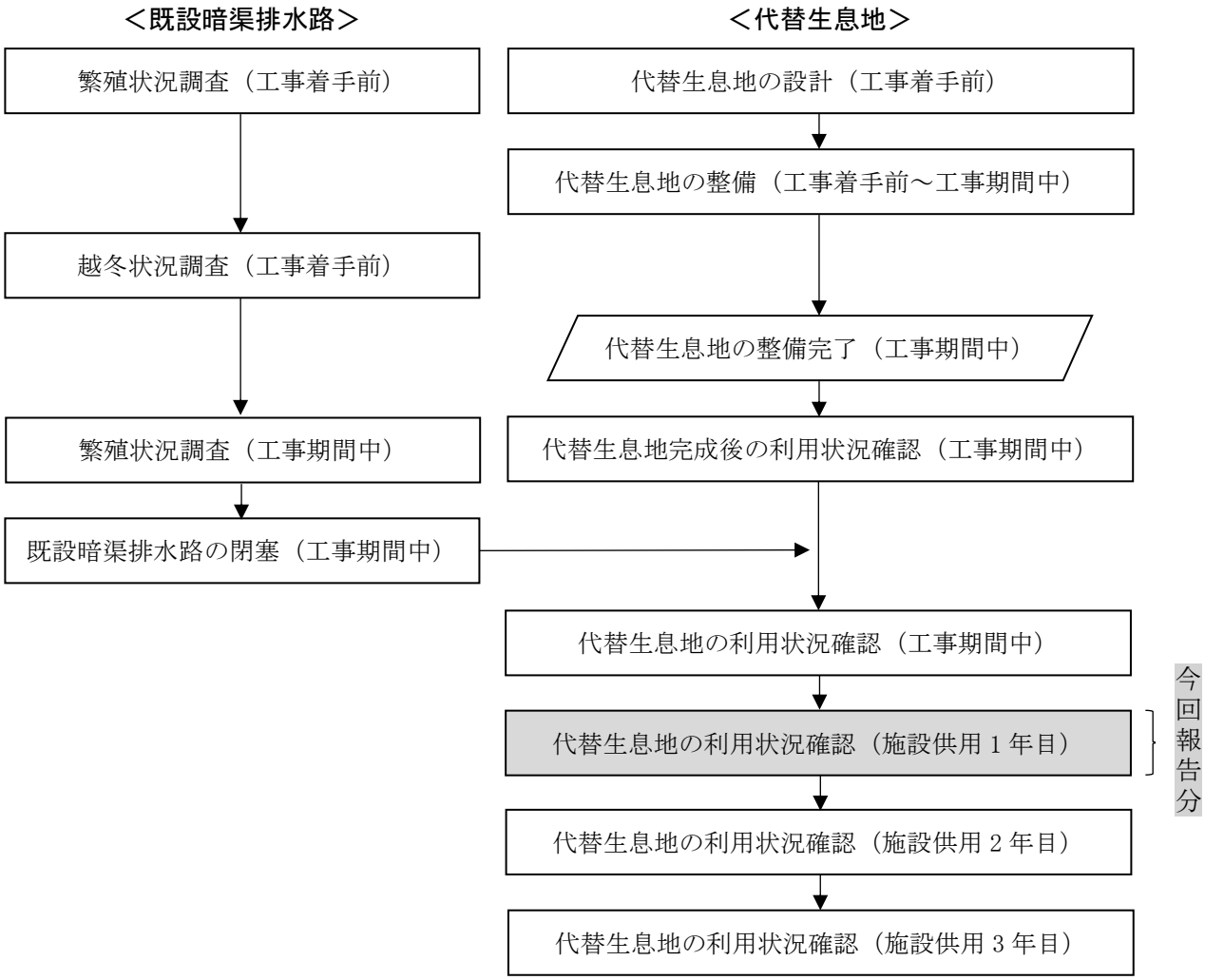


図 6-1-1-1　事後調査フロー

1-2　調査方法

代替生息地におけるユビナガコウモリ及びコウモリ類の利用状況（繁殖状況、越冬状況）を、日中の任意踏査により把握しました。なお、繁殖または越冬中の個体が確認できた場合は、種の同定及び個体数の概数の把握を行うとともに、写真撮影による記録を行いました。

1-3　調査範囲

調査はユビナガコウモリ及びコウモリ類の生息地の代償環境として整備された代替生息地において実施しました。調査範囲は図 6-1-1-2 に示したとおりです。

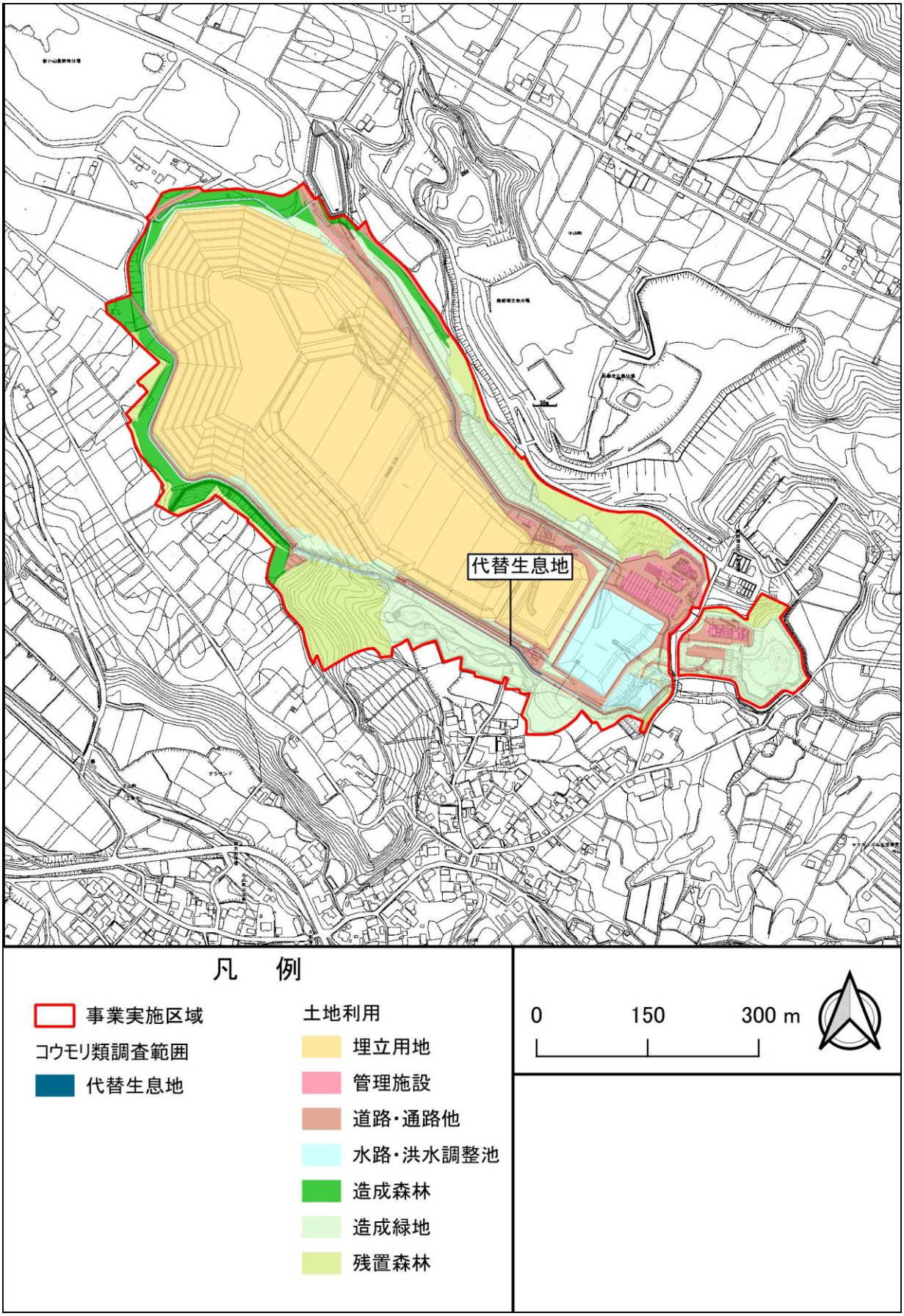


図 6-1-1-2　哺乳類（ユビナガコウモリ、コウモリ類）調査範囲

1-4　調査時期

調査時期は表 6-1-1-2 に示したとおりです。

代替生息地完成後の利用状況確認は、コウモリ類の一般的な出産・哺育期にあたる 6 月及び越冬期にあたる 11 月に実施しました。

表 6-1-1-2　調査時期

対象種		調査項目		調査年月日
哺乳類	・ユビナガコウモリ ・コウモリ類 （モモジロコウモリ）	代替生息地の利用状況確認	出産・哺育期	令和 7 年　6 月 20 日
			越冬期	令和 7 年 11 月 25 日

1-5　調査結果

代替生息地の利用状況を確認した結果、6 月の繁殖期と、11 月の越冬期におけるコウモリ類の代替生息地の利用は確認されませんでした。利用状況調査の結果は表 6-1-1-3 に示したとおりです。

表 6-1-1-3　代替生息地の利用確認状況

<table>
<tr><td colspan="2">  </td><td colspan="2">  </td></tr>
<tr><td>繁殖期
調査
の状況</td><td>繁殖期に実施した代替生息地のコウモリ類利用状況調査では、コウモリ類の利用は確認できなかった。（令和 7 年 6 月 20 日）</td><td>繁殖期
調査
の状況</td><td>繁殖期に実施した代替生息地のコウモリ類利用状況調査では、コウモリ類の利用は確認できなかった。（令和 7 年 6 月 20 日）</td></tr>
<tr><td colspan="2">  </td><td colspan="2">  </td></tr>
<tr><td>越冬期
調査
の状況</td><td>越冬期に実施した代替生息地のコウモリ類利用状況調査では、コウモリ類の利用は確認できなかった。（令和 7 年 11 月 25 日）</td><td>越冬期
調査
の状況</td><td>越冬期に実施した代替生息地のコウモリ類利用状況調査では、コウモリ類の利用は確認できなかった。（令和 7 年 11 月 25 日）</td></tr>
</table>

1-6　まとめ

過年度に引き続き、今年度も代替生息地の利用状況の確認を目的とした調査を繁殖期の 6 月と越冬期の 11 月に実施しました。

代替生息地のコウモリ類の利用は、繁殖期、越冬期ともに確認されませんでした。

代替生息地の利用状況が確認されないことを鑑み、学識経験者からの意見を踏まえ、今年度は新たなコウモリ類のとまり場として、表 6-1-1-4 に示したとおり、風除板に空間を設けた木製の板を取り付けました。

表 6-1-1-4　コウモリ類の新たなとまり場の設置状況





次年度以降も代替生息地におけるコウモリ類の利用状況について引き続きモニタリング調査を実施します。また、学識経験者からの代替生息地に対する意見もふまえ、必要に応じて追加の保全措置を検討していくこととします。

第 2 項　鳥類（キビタキ）

2-1　調査概要

既設事業における事後調査の対象種としたキビタキは、平成 21 年の調査開始以降、散発的に確認されており、特に平成 29 年以降は継続して生息が確認されています。また、増設事業評価書における現況調査では、改変区域内で生息が確認されており、事業の実施により、生息環境の消失及び生息個体数の減少が予測されました。

これに対する環境保全措置として、残置森林内への巣箱の架設を行うことで本種の生息環境を代償するとともに、架設以降の巣箱の利用状況のモニタリングを実施する計画としています。

調査対象種の概要は表 6-1-2-1 に、事後調査のフローは図 6-1-2-1 に示したとおりです。

今年度は施設供用 1 年目における巣箱の利用状況確認調査を実施しました。

表 6-1-2-1　調査対象種の概要

No.	分類	種名	重要種指定状況※1 三重県 RDB
1	鳥類	キビタキ	NT

※1：重要種のカテゴリーは以下のとおり。
三重県 RDB：「三重県レッドデータブック 2015」（三重県、平成 27 年）掲載種
NT＝準絶滅危惧

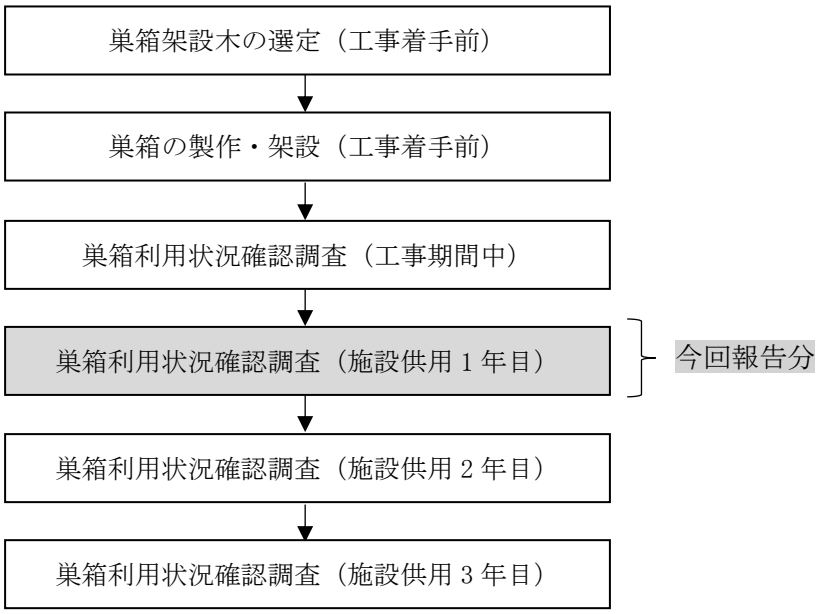


図 6-1-2-1　事後調査フロー

2-2　調査方法

令和 3 年度調査時に架設した巣箱を目視による利用状況の把握を行うとともに、写真撮影による記録を行いました。その際、繁殖中であれば繁殖段階等を、既に巣外育雛期に入り、巣材のみが残されている状況であれば、巣材の確認等を実施することとしました。

2-3　調査範囲及び調査地点

調査地点は図 6-1-2-2 に示したとおり、過年度調査時に巣箱を架設した地点及びその周辺の残置森林を対象としました。

2-4　調査時期

調査時期は表 6-1-2-2 に示したとおり、本種繁殖期の後期にあたる時期に 1 回実施しました。

表 6-1-2-2　調査時期

対象種		調査項目	調査年月日
鳥類	キビタキ	巣箱利用状況確認調査	令和 7 年　6 月 20 日

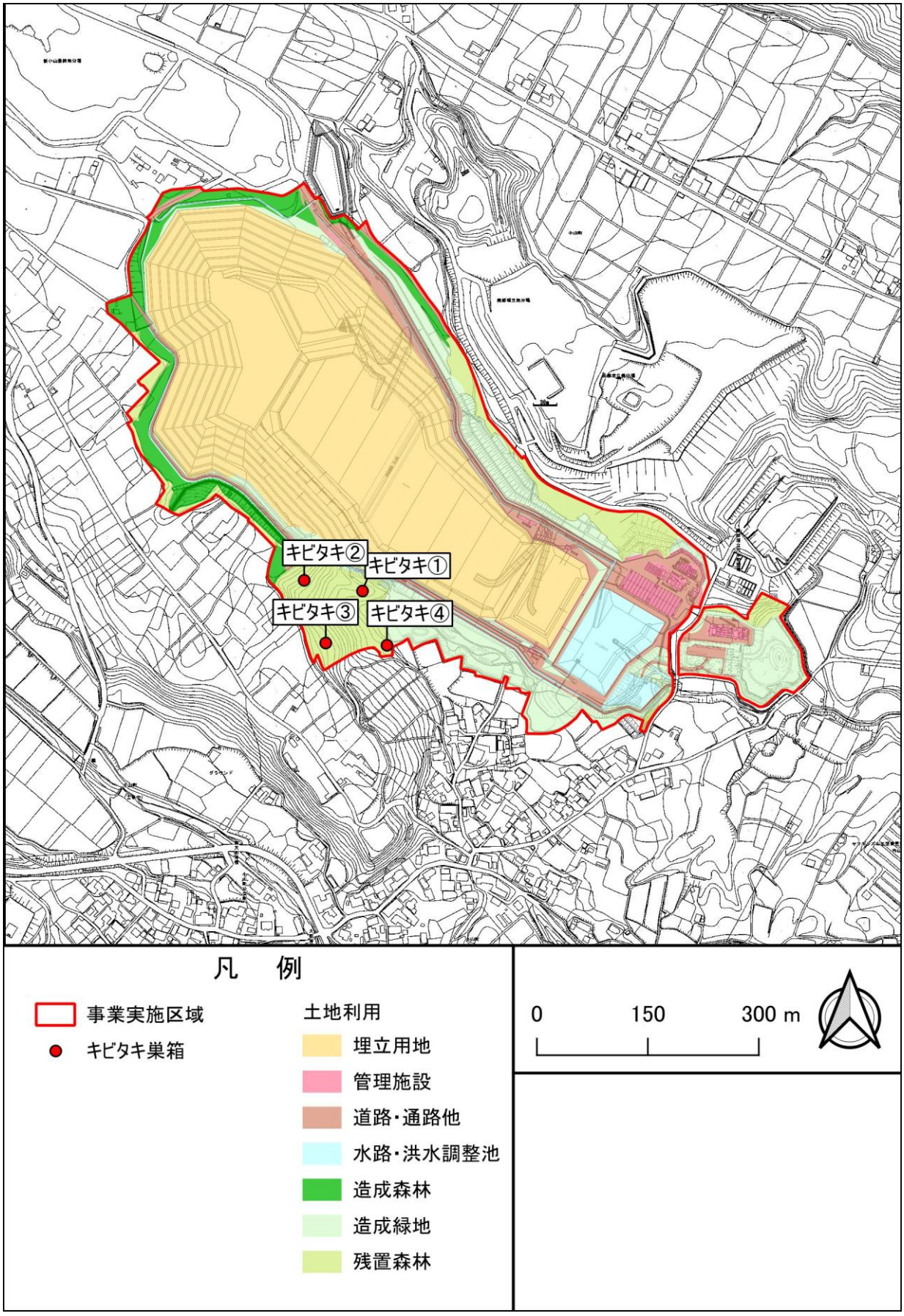


図 6-1-2-2(1)　キビタキ調査範囲・地点（広域図）

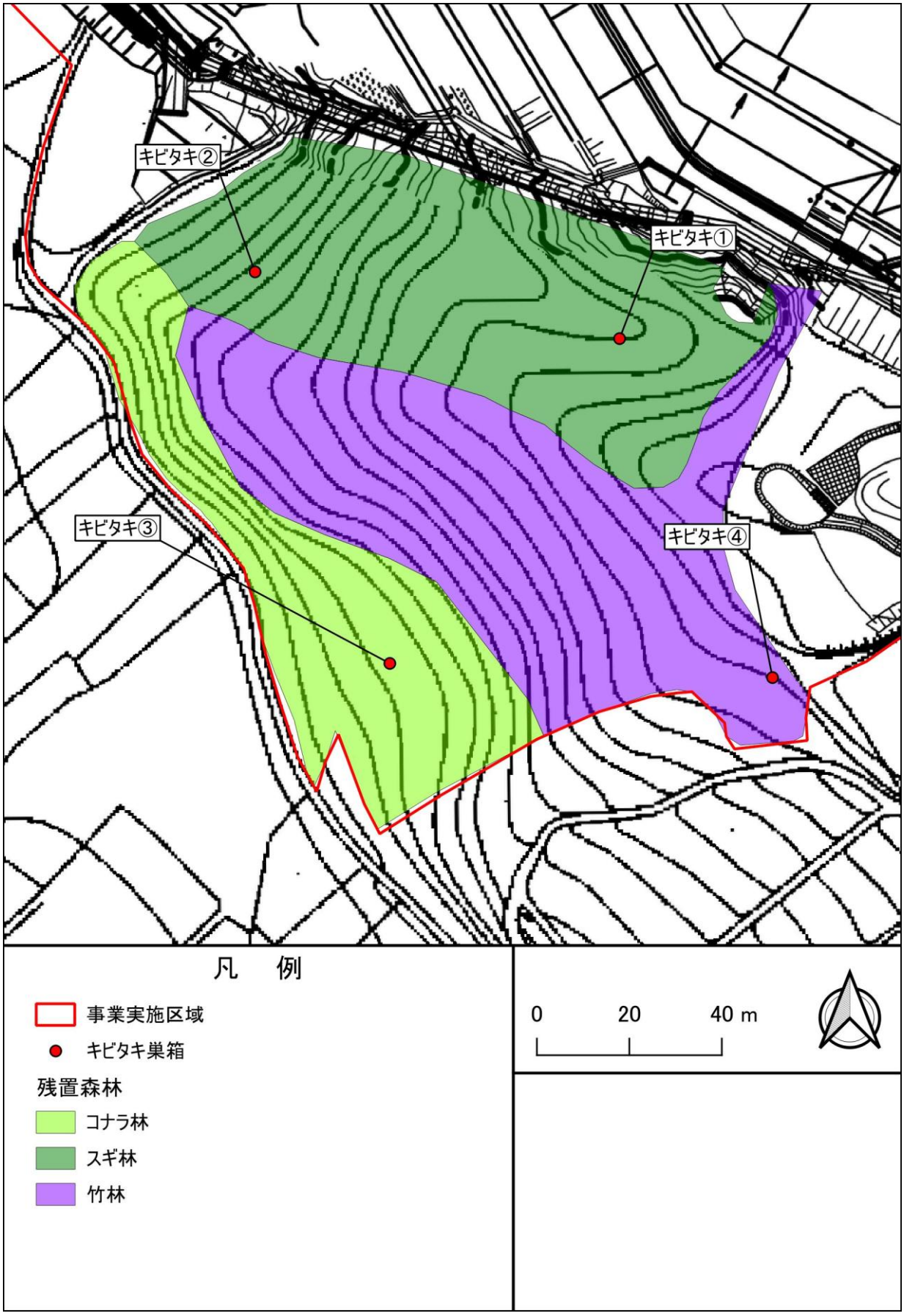


図 6-1-2-2(2)　キビタキ調査範囲・地点（詳細図）

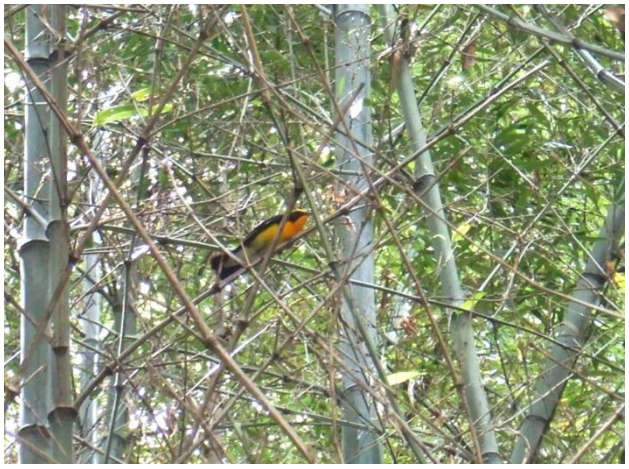
2-5　調査結果

巣箱架設木及び巣箱内部の状況は、表 6-1-2-4 に示したとおりです。

架設した巣箱は、いずれも繁殖に利用した形跡は確認されませんでした。

なお、5 月 1 日のフクロウ調査の際に、残置森林内でキビタキ雄を目撃し、同時にさえずりを確認した（表 6-1-2-3）ことから、林内において繁殖している可能性があります。

表 6-1-2-3　キビタキ確認状況



確認個体の状況	残置森林内のキビタキ巣箱②付近の樹林内において、キビタキの雄個体を目撃し、さえずりも確認した。（令和 7 年 5 月 1 日）

2-6　まとめ

今年度は、令和 3 年度に架設した巣箱の利用状況の確認調査を行いました。

架設した巣箱は、いずれも繁殖に利用した形跡は確認されなかったものの、残置森林内ではキビタキ雄のさえずりが確認されており、今後、巣箱が利用される可能が考えられます。

次年度以降も巣箱の利用状況について引き続きモニタリング調査を実施し、必要に応じて追加の保全措置を検討していきます。

表 6-1-2-4　巣箱架設木及び巣箱内部の状況

	巣箱架設木の状況	巣箱内部の状況
キビタキ①		
キビタキ②		
キビタキ③		
キビタキ④		

第 3 項　昆虫類（トゲアリ）

3-1　調査概要

増設事業評価書における予測結果において、生息環境や生息個体の消失が予測されたトゲアリについて、事業による影響の代償として営巣木ごと代替の生息環境に移設し、モニタリングを行う計画としています。

調査対象種の概要は表 6-1-3-1 に、事後調査のフローは図 6-1-3-1 に示したとおりです。

今年度は移設 3 年後の定着状況の確認を実施しました。

表 6-1-3-1　調査対象種の概要

No.	分類	種名	重要種指定状況※1
			環境省 RL
1	昆虫類	トゲアリ	VU

※1：重要種のカテゴリーは以下のとおり。
環境省 RL：「環境省レッドリスト 2020」（環境省、令和 2 年）掲載種
VU＝絶滅危惧Ⅱ類

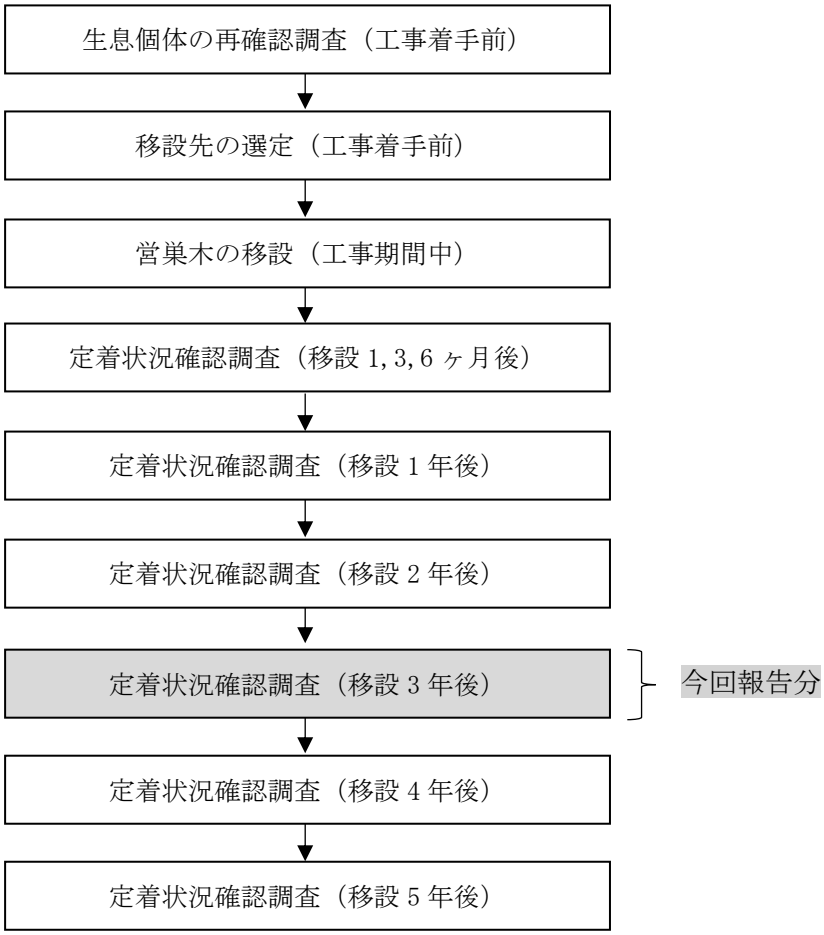


図 6-1-3-1　事後調査フロー

3-2　調査方法

移設 3 年後に相当する時期に、移設を行った営巣木における本種の定着状況を目視により確認し、ワーカー（働きアリ）の概数と活動の状況を把握するとともに、写真撮影による記録を行いました。

3-3　調査地点

調査地点は図 6-1-3-2 に示したとおり、定着状況の確認は移設地点及びその周辺の残置森林内としました。

3-4　調査時期

調査時期は表 6-1-3-2 に示したとおりです。

表 6-1-3-2　調査時期

対象種		調査項目		調査年月日
昆虫類	トゲアリ	定着状況確認調査	移設 3 年後	令和 7 年　6 月 20 日

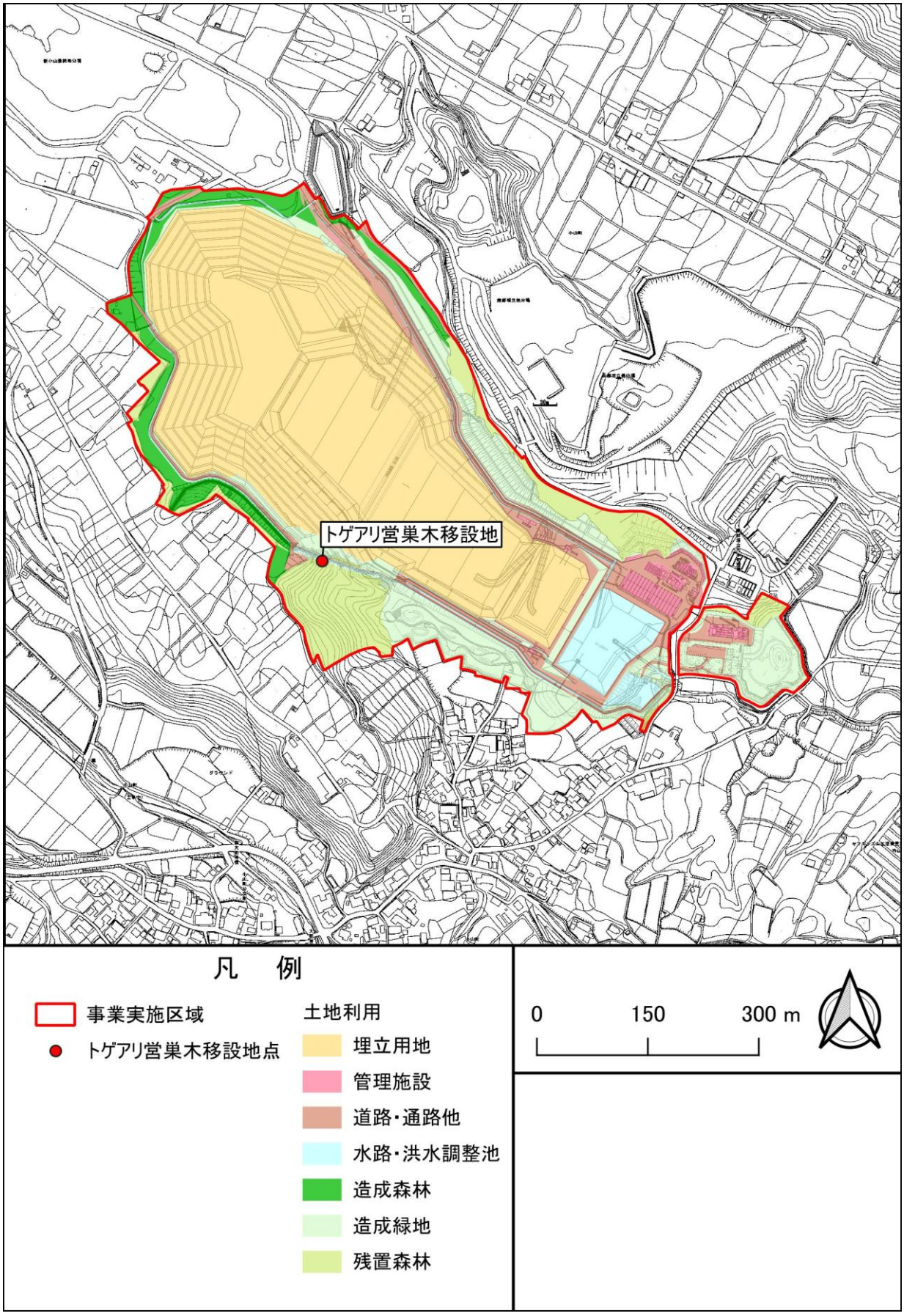


図 6-1-3-2(1)　トゲアリ調査地点（広域）

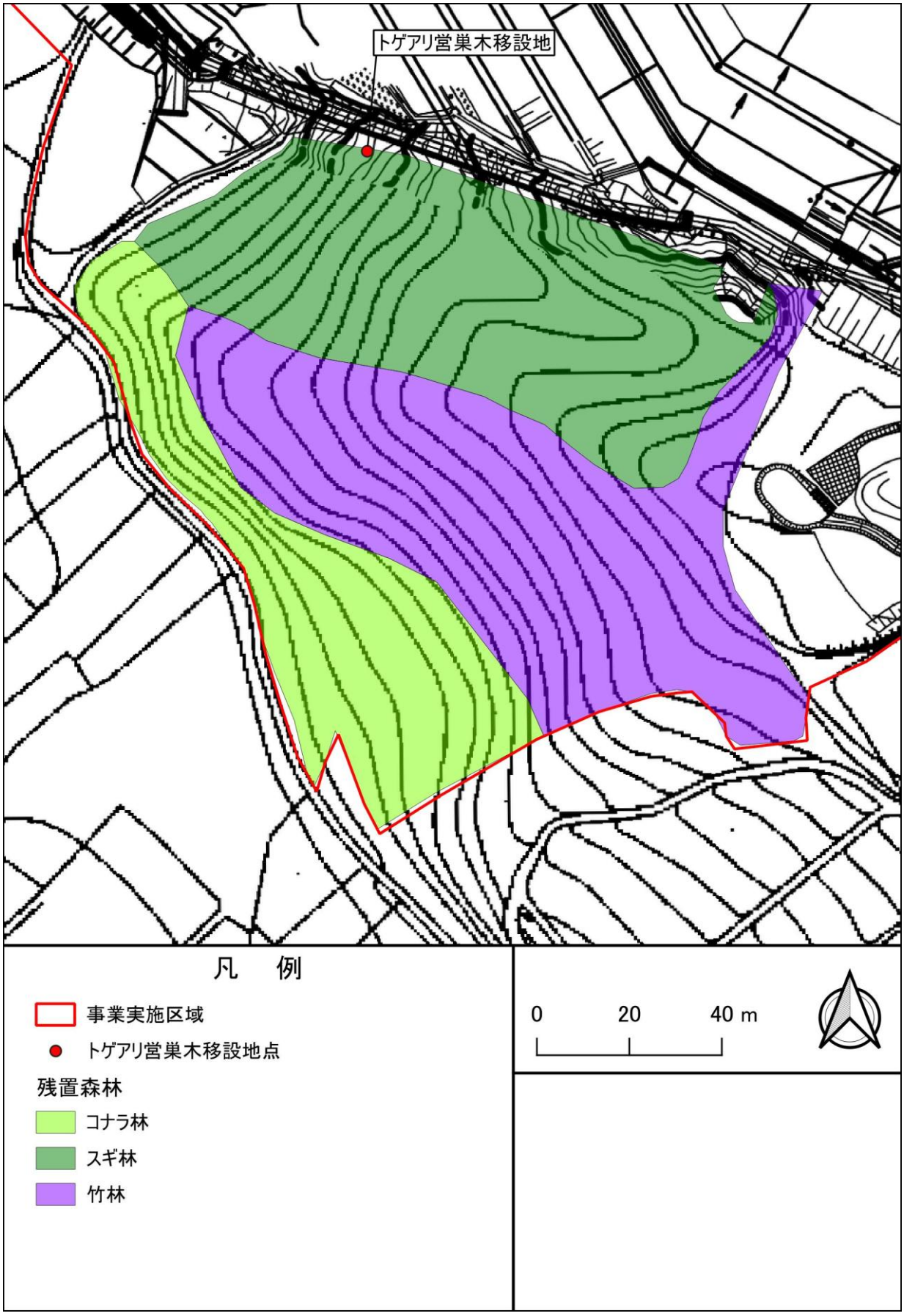


図 6-1-3-2(2)　トゲアリ調査地点（詳細）

3-5　調査結果

営巣木の移設 3 年後の調査結果は表 6-1-3-3 に、確認状況は表 6-1-3-4 に示したとおりです。

移設 3 年後は、移設した営巣木ではトゲアリの生息は認められませんでした。

しかし、昨年度（令和 6 年度）調査時に、この移設営巣木から約 10m程度林内に入った斜面に生育しているヒノキの根元に新たなトゲアリのコロニーが認められ、移設したトゲアリのコロニーがそのまま巣の場所を移動したものと考えられており、今年度の調査時にも同一の地点でコロニーを確認しました。

表 6-1-3-3　移設後のトゲアリ調査結果

日付	確認状況
令和 7 年　6 月 20 日 （移設 3 年後）	・移設営巣木（元巣）から約 10m林内に入った斜面に生育しているヒノキの根元（昨年と同じ場所）にトゲアリの巣が形成されており、根元付近では多くのワーカーが観察された。 ・トゲアリのワーカーは巣となっているヒノキの幹を登っていた。近隣から倒れかかり、その幹に接触している樹木を移動経路として利用していた。 ・ワーカーの確認数（概数）は 150～200 個体。

表 6-1-3-4　トゲアリの確認状況

<table>
<tr><td colspan="2">  </td><td colspan="2">  </td></tr>
<tr><td>移設営巣木の状況</td><td>移設営巣木では、トゲアリは確認されなかった。（令和 7 年 6 月 20 日）</td><td>新しい巣の状況</td><td>移設営巣木（元巣）から約 10m林内に入った斜面に生育しているヒノキの根元にトゲアリの新しい巣ができており、根元付近では多くのワーカーが観察された。（令和 7 年 6 月 20 日）</td></tr>
<tr><td colspan="2">  </td><td colspan="2">  </td></tr>
<tr><td>新しい巣の状況</td><td>ヒノキの根元にトゲアリの新しい巣ができており、根元付近では多くのワーカーが観察された。（令和 7 年 6 月 20 日）</td><td>確認個体の状況</td><td>トゲアリワーカーは巣となっているヒノキの幹を登っていた。近隣から倒れかかり、その幹に接触している樹木を移動経路として利用していた。（令和 7 年 6 月 20 日）</td></tr>
</table>

3-6　まとめ

移設 3 年後の定着状況は、移設した営巣木ではトゲアリは見られなくなり、昨年度と同様に、10m程度林内に入った斜面に生育しているヒノキの根元に本種コロニーが認められ、移設した本種コロニーがそのまま営巣場所を移動したものと考えられました。

次年度は、移設した営巣木および新たな営巣木を中心に、移設 4 年後の定着状況について引き続きモニタリング調査を実施することとします。

第 4 項　クモ類（コガネグモ）

4-1　調査概要

増設事業評価書における予測結果において、生息環境や生息個体の一部の消失が予測されたコガネグモについて、生息環境である草地を継続的に維持管理することとしており、生息状況を把握する目的として、本種の継続的なモニタリングを実施することとしています。

調査対象種の概要は表 6-1-4-1 に、事後調査のフローは図 6-1-4-1 に示したとおりです。

今年度は施設供用 1 年目における生息状況の確認を目的とした調査を実施しました。

表 6-1-4-1　調査対象種の概要

No.	分類	種名	重要種指定状況※1
			三重県 RDB
1	クモ類	コガネグモ	NT

※1：重要種のカテゴリーは以下のとおり。
三重県 RDB：「三重県レッドデータブック 2015」（三重県、平成 27 年）掲載種
NT＝準絶滅危惧

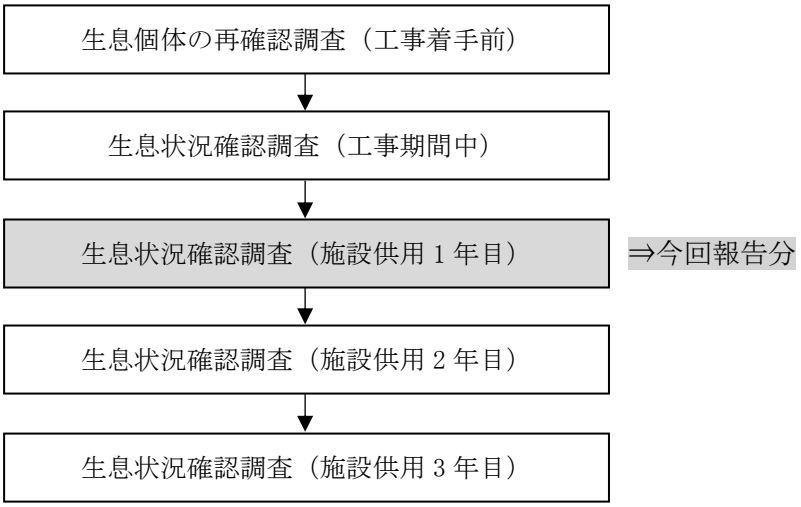


図 6-1-4-1　事後調査フロー

4-2　調査方法

本種の一般的な生息環境である事業実施区域内の草地環境を任意に踏査し、目視により確認に努めました。また、並行して事業実施区域内の人工構造物も適宜確認を行いました。

4-3　調査範囲

調査範囲は埋立部法面や調整池法面等に形成されている草地環境としました。調査範囲は図 6-1-4-2 に示したとおりです。

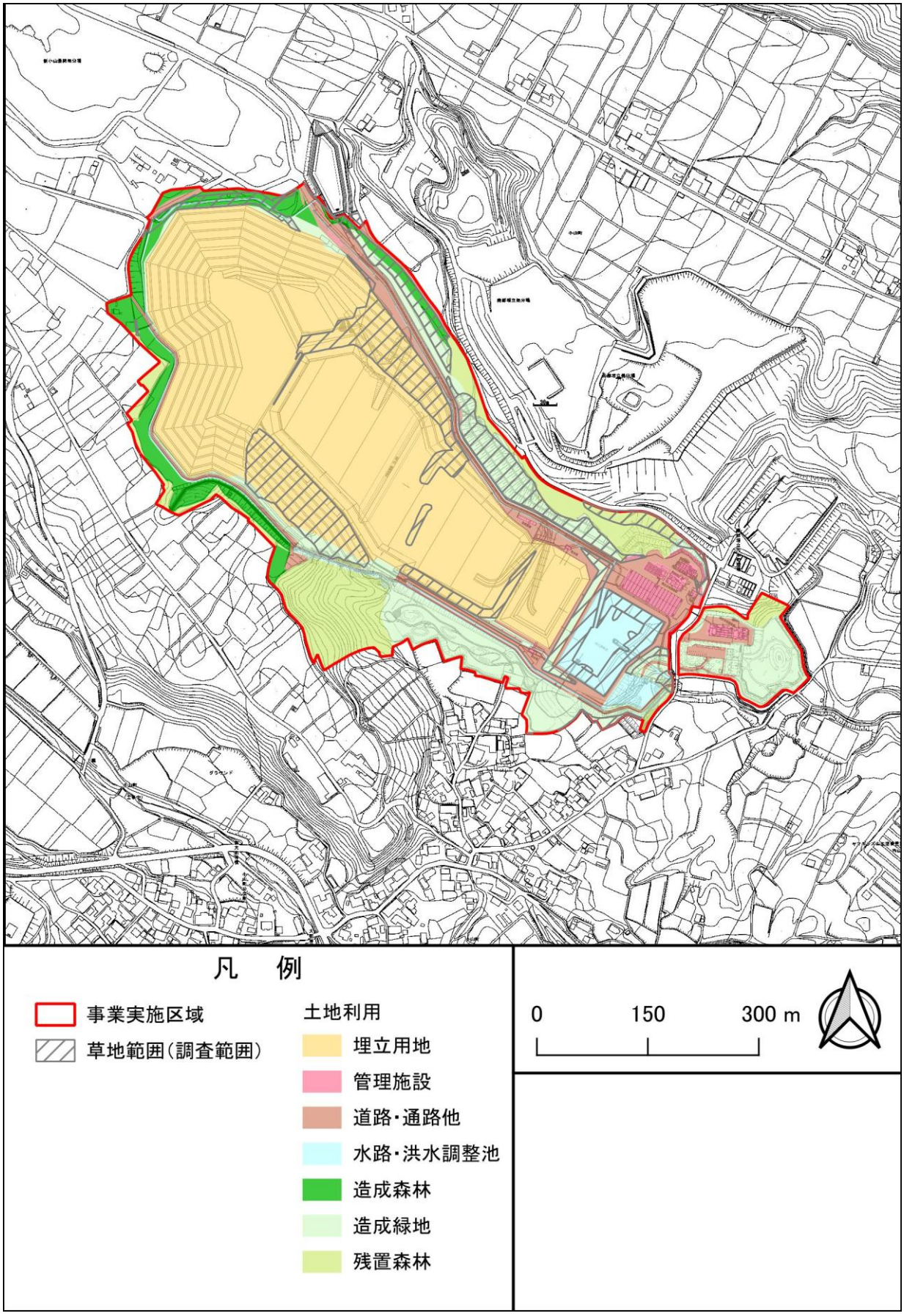


図 6-1-4-2　コガネグモ調査範囲

4-4　調査時期

調査時期は表 6-1-4-2 に示したとおり、本種成体が確認しやすい初夏季に実施しました。

表 6-1-4-2　調査時期

対象種		調査項目	調査年月日
クモ類	コガネグモ	生息状況確認調査	令和 7 年　7 月　7 日

4-5　調査結果

調査の結果、コガネグモの一般的な生息環境である事業実施区域内の草地環境および人工構造物において、本種の生息は確認できませんでした。

今回､生息個体の確認はありませんでしたが､周囲の草地環境は良好に保たれていることから、秋に孵化した本種幼体がバルーニングによって分散し、事業実施区域内の草地環境に再度定着する可能性が考えられます。

4-6　まとめ

施設供用 1 年目における草地環境及び人工構造物を対象に調査した結果、コガネグモの生息は確認できませんでした｡事業実施区域内には本種が好む良好な草地環境が保たれていることから、再度定着する可能性が考えられます。

次年度以降も引き続き草地環境の維持管理に努めるとともに、草地環境や人工構造物等を対象に本種の生息状況確認調査を実施していくこととします。

第 5 項　土壌動物（ゴホントゲザトウムシ）

5-1　調査概要

増設事業評価書における予測結果において、生息環境や生息個体の一部の消失が予測されたゴホントゲザトウムシについて、生息状況を継続的に確認し、必要に応じて生息環境の再生や創出等の対策を講じる計画としています。

調査対象種の概要は表 6-1-5-1 に、事後調査のフローは図 6-1-5-1 に示したとおりです。

今年度は施設供用 1 年目における生息状況の確認を目的とした調査を実施しました。

表 6-1-5-1　調査対象種の概要

No.	分類	種名	重要種指定状況※1
			三重県 RDB
1	土壌動物	ゴホントゲザトウムシ	NT

※1：重要種のカテゴリーは以下のとおり。
三重県 RDB：「三重県レッドデータブック 2015」（三重県、平成 27 年）掲載種
NT＝準絶滅危惧

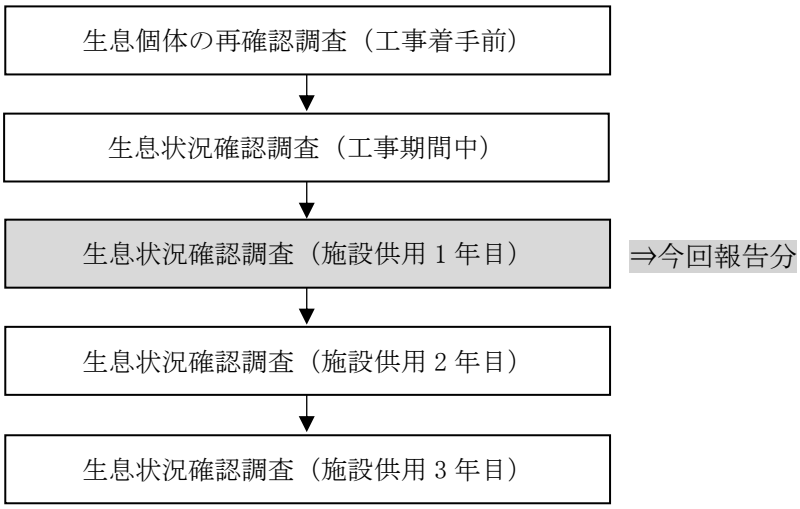


図 6-1-5-1　事後調査フロー

5-2　調査方法

① ベイトトラップ調査

ゴホントゲザトウムシの成虫を対象として、残置森林内のスギーヒノキ植林、モウソウチクーハチク群落、及びコナラ群落内にベイトトラップを各 20 個設置し、捕獲調査を実施しました。また、これと並行して残置森林内を任意に踏査し、本種の確認に努めました。

② 任意確認調査

残置森林内全域を対象に任意に踏査し、林床に生息する本種の発見に努めました。

5-3　調査範囲

調査範囲は、増設事業評価書における現地調査において本種を確認した残置森林としました。確認調査を実施した残置森林及びトラップの設置地点は図 6-1-5-2 に示したとおりです。ベイトトラップは、後述する「第 6 節　動物相、植物相及び植生（残置森林の順応的管理)」において示した植生コドラートのうち、「コナラ林」、「スギ林」、「竹林」の各コドラート内に設置して調査を実施しました。

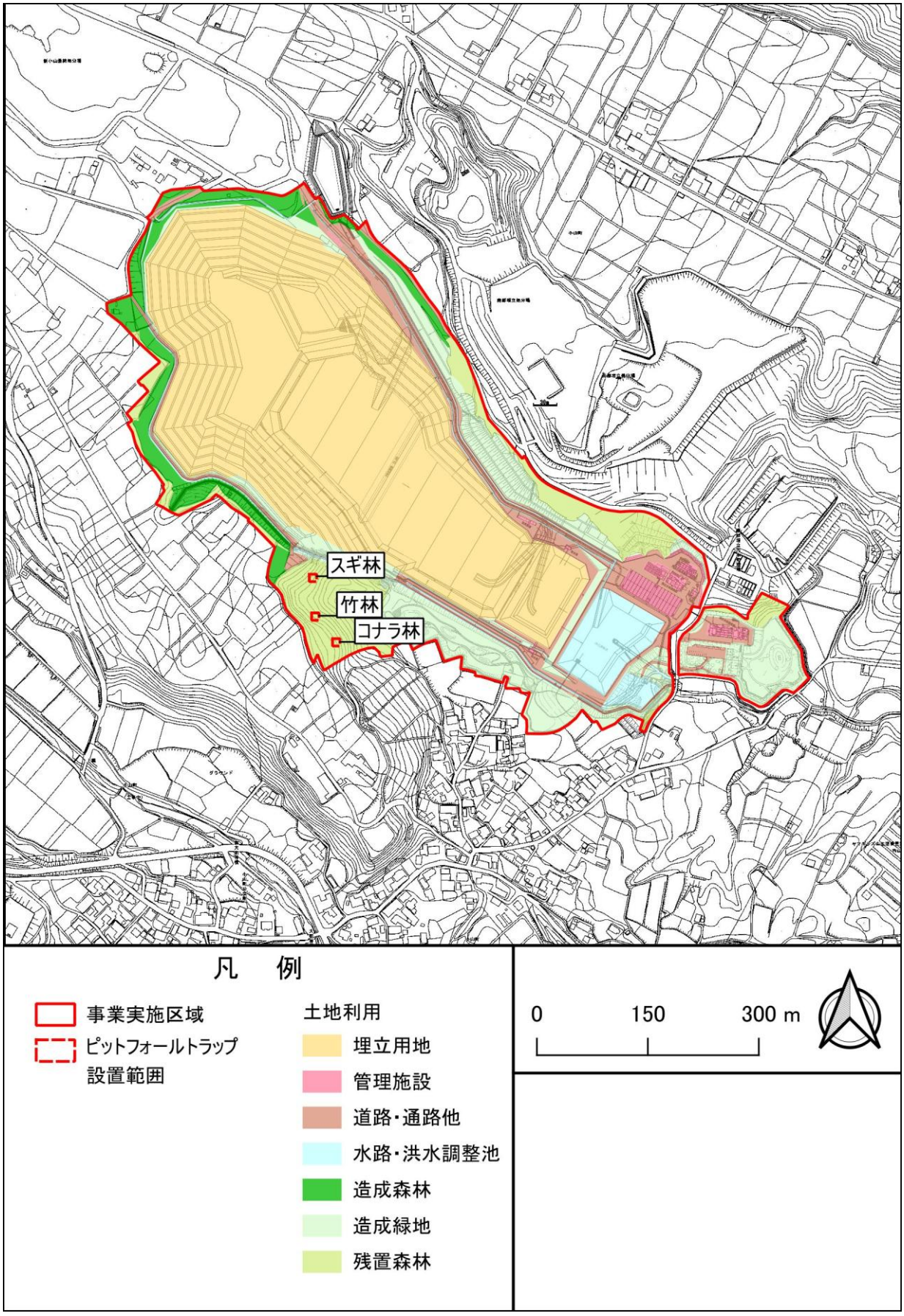


図 6-1-5-2(1)　ゴホントゲザトウムシ調査範囲（広域図）

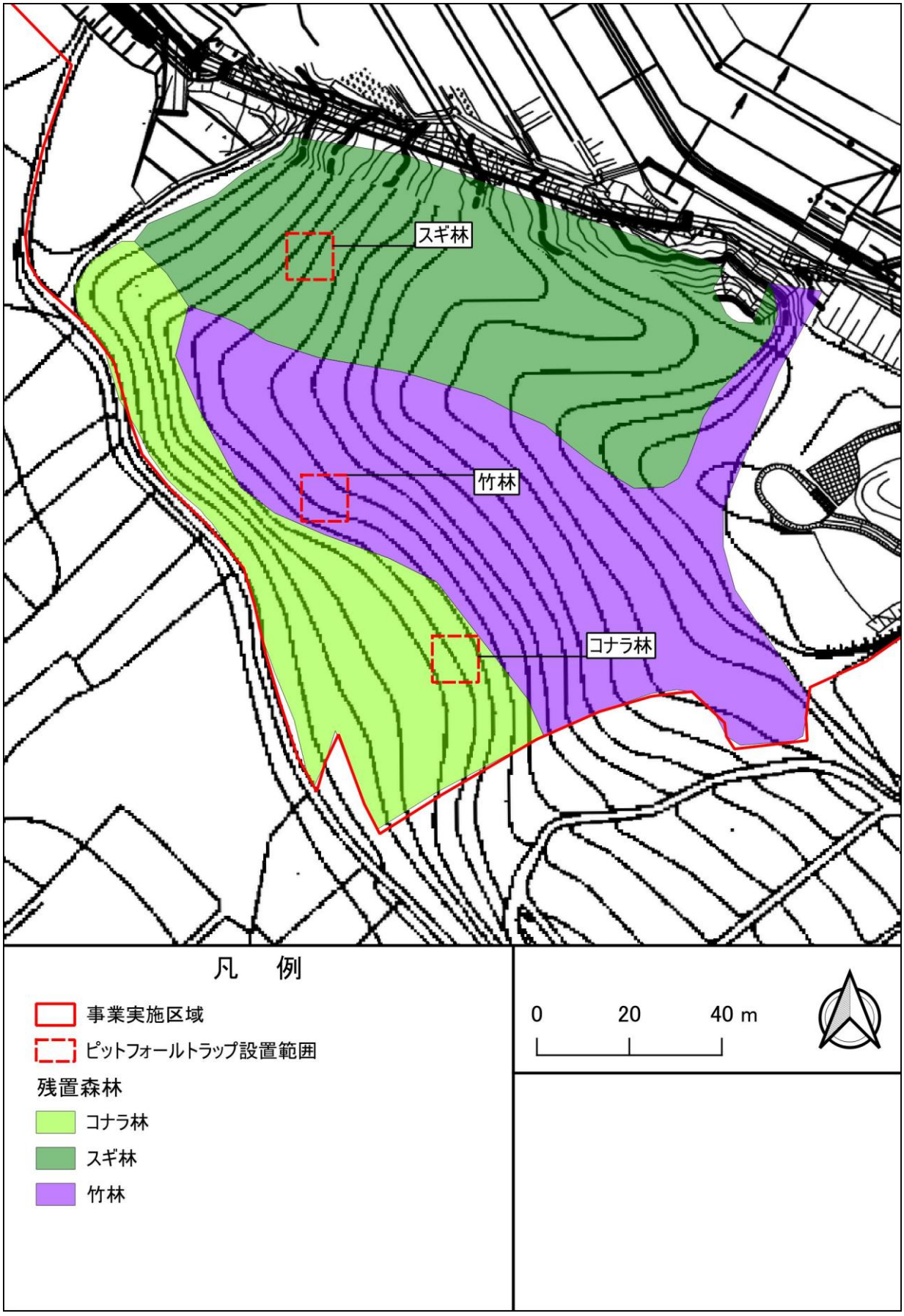


図 6-1-5-2(2)　ゴホントゲザトウムシ調査範囲（詳細図）

5-4　調査時期

調査時期は表 6-1-5-2 に示したとおり、ベイトトラップ調査及び任意調査は本種成体の出現時期にあたる 5 月に 1 回実施しました。

表 6-1-5-2　調査時期

対象種		調査項目	調査年月日
土壌動物	ゴホントゲザトウムシ	ベイトトラップ調査	令和 7 年 5 月 1 日～2 日
		任意確認調査	

5-5　調査結果

ゴホントゲザトウムシを対象としたベイトトラップ調査と任意確認調査は、表 6-1-5-3 に示したとおりです。本種成体の出現時期に合わせて実施しましたが、本種を確認することはできませんでした。

なお、本種の調査対象エリアは増設事業による改変区域を外れていることから、人為的な攪乱による大きな影響は受けていないものと考えられます。

5-6　まとめ

今年度は、施設供用 1 年目における残置森林内での生息状況の確認を実施しましたが、本種を確認することはできませんでした。

次年度は、施設供用 2 年目の生育状況確認調査を実施しますが、調査時期の設定を現況調査時に本種が確認された時期と同一とするとともに、引き続きベイトトラップに入れる誘因餌を変更するなど、効率的な捕獲方法を検討することにより、本種の確認に努めることとします。

表 6-1-5-3　ベイトトラップ調査の結果

<table>
<tr><td>  </td><td>  </td></tr>
<tr><td>コナラ林の状況</td><td>ベイトトラップ調査では、各地点の林床にスチロールカップ 20 個を設置し、誘因餌は煮干しを使用した。
（令和 7 年 5 月 1 日）</td><td>スギ林の状況</td><td>ベイトトラップ調査では、各地点の林床にスチロールカップ 20 個を設置し、誘因餌は煮干しを使用した。
（令和 7 年 5 月 1 日）</td></tr>
<tr><td>  </td><td>  </td></tr>
<tr><td>竹林の状況</td><td>ベイトトラップ調査では、各地点の林床にスチロールカップ 20 個を設置し、誘因餌は煮干しを使用した。
（令和 7 年 5 月 1 日）</td><td>ベイトトラップ設置状況</td><td>各植生コドラート内にそれぞれ 20 個のスチロールカップを設置した。
（令和 7 年 5 月 1 日）</td></tr>
<tr><td>  </td><td>  </td></tr>
<tr><td>ベイトトラップの状況</td><td>スチロールカップを利用したベイトトラップでは、誘因餌として煮干しを使用した。
（令和 7 年 5 月 1 日）</td><td>任意確認調査状況</td><td>残置森林内全域を対象として、ザトウムシ類を対象とした任意確認調査を実施した。
（令和 7 年 5 月 2 日）</td></tr>
</table>

第 2 節　鳥類相

第 1 項　調査概要

既設事業の事後調査において、周辺動物相への影響を把握するため、環境の変化を数値として把握できる鳥類を対象に、調査が実施されています。

本増設事業においても、事業実施区域内の改変はあるものの周辺環境への影響は小さいと予測していますが、周辺動物相への影響を把握するため、既設事業と同様に事業実施区域周辺の動物相への影響を把握する目的で、鳥類相の調査を実施する計画としています。

事後調査のフロー図は図 6-2-1-1 に示したとおり、今年度は施設供用 1 年目における春季の鳥類相調査を実施しました。

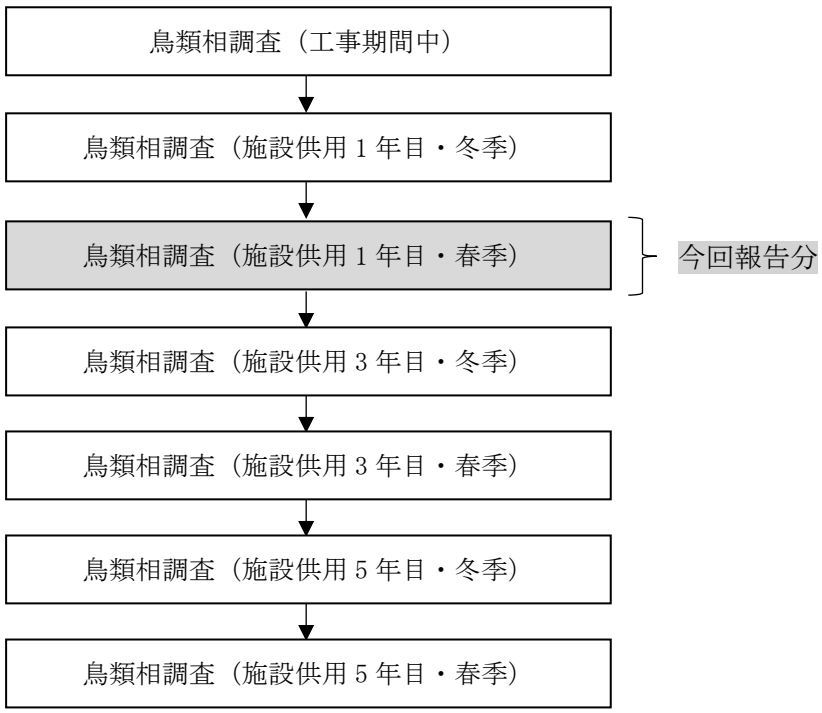


図 6-2-1-1　事後調査フロー

1-1　調査方法

調査は予め設定した踏査ルートを、時速 2km 程度の速さで踏査し、片側 25m（両側で 50m）の範囲に出現する種及び個体数を記録しました。

なお、調査には 8～10 倍程度の双眼鏡を用いました。

1-2　調査地点

調査ルートは図 6-2-1-2 に示したとおり、現況調査時に鳥類相調査を実施した 4 ルートのうち、事業実施区域の外周に設定した R1、R2、R4 の 3 ルートで実施しました。

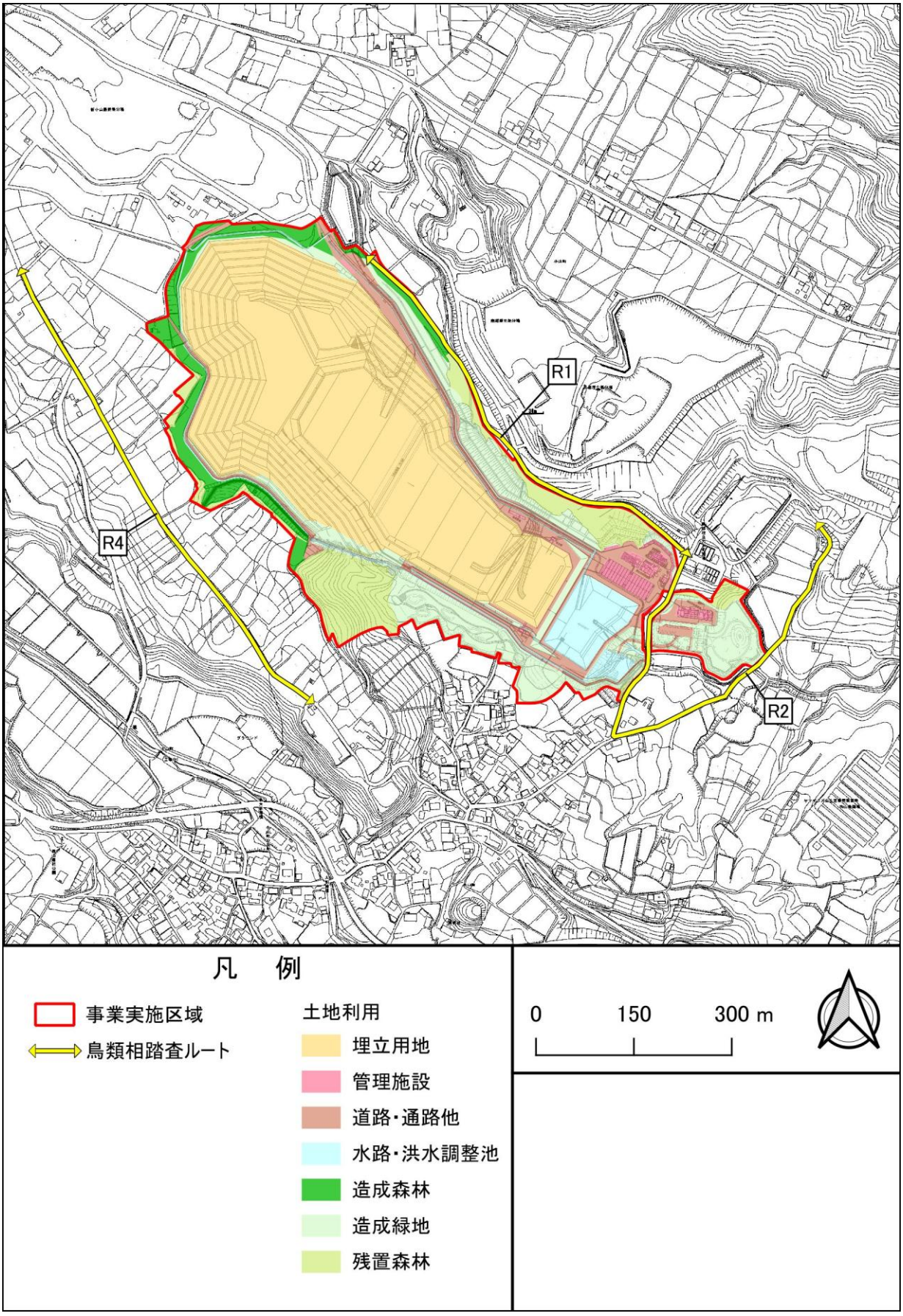


図 6-2-1-2　鳥類相調査ルート図

1-3　調査時期

調査時期は表 6-2-1-1 に示したとおり、鳥類の繁殖期に当たる春季に 1 回実施しました。

なお、施設供用 1 年目における越冬期に当たる冬季調査については、昨年度に実施しています（結果については、令和 6 年度事後調査報告書にて報告済）。

表 6-2-1-1　調査時期

対象種	調査項目	調査年月日
鳥類相	ラインセンサス法	令和 7 年　5 月 20 日（春季）

第 2 項　調査結果

2-1　結果

調査結果は表 6-2-2-1 に示したとおり、R1 では 18 種 36 個体、R2 では 15 種 30 個体、R4 では 14 種 46 個体が確認されました。調査地の状況は表 6-2-2-2 に示したとおりです。

確認種は、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、スズメ、ホオジロなどのスズメ目が合計個体数の 8 割を占めており、全体として樹林、草地、農地等を好む多様な鳥類が記録されました。

表 6-2-2-1　鳥類相確認種一覧（施設供用 1 年目：春季）

No.	目名	科名	種名	春季		
				R1	R2	R4
1	キジ	キジ	コジュケイ		1	1
2			キジ	1	1	1
3	ハト	ハト	キジバト	2	1	
4	カッコウ	カッコウ	ホトトギス	1	1	1
5	チドリ	チドリ	コチドリ	3		
6	タカ	タカ	トビ		1	1
7	キツツキ	キツツキ	コゲラ	1		
8	スズメ	モズ	モズ			2
9		カラス	ハシボソガラス			2
10			ハシブトガラス	2	4	1
11		シジュウカラ	シジュウカラ	1		
12		ヒバリ	ヒバリ	1		2
13		ツバメ	ツバメ	2	2	6
14			コシアカツバメ	2		
15		ヒヨドリ	ヒヨドリ	5	8	12
16		ウグイス	ウグイス	5	3	5
17		エナガ	エナガ	2		
18		メジロ	メジロ	1	2	3
19		ムクドリ	ムクドリ		1	
20		ヒタキ	キビタキ		1	
21		スズメ	スズメ	3	1	3
22		セキレイ	セグロセキレイ	1		
23		アトリ	カワラヒワ	1	1	
24		ホオジロ	ホオジロ	2	2	6
確認種数				18	15	14
確認個体数				36	30	46

表 6-2-2-2　鳥類ラインセンサスの状況

<table>
<tr><td colspan="2">  </td><td colspan="2">  </td></tr>
<tr><td>ラインセンサスの実施状況</td><td>R1、R2、R4 の 3 ルートを時速 2km 程度の速さで踏査し、片側 25m（両側で 50m）の範囲に出現する種および個体数を記録した。
（令和 7 年 5 月 20 日）</td><td>R1 の景観</td><td>処分場の北西側に沿って隣接するルート。ルート沿いには樹林が比較的多く存在する。
（令和 7 年 5 月 20 日）</td></tr>
<tr><td colspan="2">  </td><td colspan="2">  </td></tr>
<tr><td>R2 の景観</td><td>処分場の南西側に隣接するルート。ルート沿いには比較的農地（水田・畑）が多い。
（令和 7 年 5 月 20 日）</td><td>R4 の景観</td><td>処分場から東側に 100～200m 離れたルート。ルート沿いには茶畑が多い。
（令和 7 年 5 月 20 日）</td></tr>
</table>

2-2 考察

今回の調査をうけて、現況調査と施設供用1年目の冬季・春季の結果が揃ったことから、結果の比較を行いました。結果を解釈しやすくするため、各調査における3本のルートの結果を統合して比較を行いました。各調査結果を統合したものは表6-2-2-3に示したとおりです。

表6-2-2-3 ルート統合した調査結果

No.	目名	科名	種名	春季		冬季	
				現況調査 (R2.5)	供用1年目 (R7.5)	現況調査 (R2.2)	供用1年目 (R7.1)
1	キジ	キジ	コジュケイ	1	2		
2			キジ	6	3	1	
3	ハト	ハト	カワラバト（ドバト）	1			2
4			キジバト	2	3	4	5
5	カツオドリ	ウ	カワウ	1			2
6	ペリカン	サギ	コサギ				1
7	カッコウ	カッコウ	ホトトギス		3		
8	チドリ	チドリ	コチドリ		3		
9	タカ	タカ	トビ	2	2	7	3
10			ノスリ			3	
11	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	1			
12	キツツキ	キツツキ	コゲラ	2	1		1
13	スズメ	モズ	モズ	2	2	2	1
14		カラス	ハシボソガラス	4	2	3	3
15			ハシブトガラス	4	7	11	8
16		シジュウカラ	ヤマガラ	1			
17			シジュウカラ		1		1
18		ヒバリ	ヒバリ	2	3		
19		ツバメ	ツバメ	3	10		
20			コシアカツバメ		2		
21		ヒヨドリ	ヒヨドリ	13	25	11	19
22		ウグイス	ウグイス	7	13	3	1
23		エナガ	エナガ		2	2	2
24		メジロ	メジロ	7	6	8	11
25		ムクドリ	ムクドリ	3	1	10	
26		ヒタキ	キビタキ		1		
27			アカハラ	1			
28			シロハラ			2	2
29			ツグミ	1		9	2
30			ジョウビタキ			2	2
31			ルリビタキ			1	
32		スズメ	スズメ	5	7		20
33		セキレイ	セグロセキレイ	1	1	2	2
34			ハクセキレイ			3	
35		アトリ	カワラヒワ	2	2		
36			イカル	1			
37		ホオジロ	ホオジロ	7	10	3	10
38			カシラダカ			12	4
39			アオジ			1	5
確認種数				25	24	21	22
確認個体数				80	112	100	107

また、本調査の目的である周辺動物相への影響を客観的に評価するため、特徴の異なる 2 種類の生物多様性指数（シャノン多様度指数、シンプソン多様度指数）を算出しました。各多様度指数については、表 6-2-2-4 に示すとおりです。

表 6-2-2-4　多様度指数について

	シャノン多様度指数（H'）	シンプソン多様度指数（$1-D$）
定義式	$H' = -\sum_{i=1}^{S} p_i \ln\ p_i$ S：確認種数 p_i：種 i の個体数の全体に占める割合	$1 - D = 1 - \sum_{i=1}^{S} (p_i)^2$ S：確認種数 p_i：種 i の個体数の全体に占める割合
特徴	・0 から 5 の値を取り、値が大きいほど多様性が高い。 ・種の豊富さと各種の個体数の偏りをバランスよく反映する。 ・比較的、希少種の確認が反映されやすい。	・0 から 1 の値を取り、値が大きいほど多様性が高い。 ・無作為に 2 個体を選んだ時、それらが異なる種である確率を表している。 ・比較的、優占種の確認が反映されやすい。

各調査結果に基づき算出した多様度指数は表 6-2-2-5 に示すとおりです。

表 6-2-2-5　各調査結果の多様度指数

	春季調査		冬季調査	
	現況調査 (R2.5)	供用 1 年目 (R7.5)	現況調査 (R2.2)	供用 1 年目 (R7.1)
確認種数（種）	25	24	21	22
確認個体数（個体）	80	112	100	107
シャノン多様度指数（H'）	2.89	2.72	2.76	2.62
シンプソン多様度指数（$1-D$）	0.928	0.904	0.924	0.898

春季の鳥類調査は、繁殖期となる種が増えるため、なわばり行動による個体の分散によって観察機会の増加と、さえずりによる聴覚的な観察のしやすさが期待されます。

春季の現況と供用開始 1 年目の調査を比較すると、確認種数が 25 種から 24 種に、確認個体数が 80 個体から 112 個体に、シャノン多様度指数が 2.89 から 2.72 に、シンプソン多様度指数が 0.928 から 0.904 になりました。変化量としては、確認個体数が 32 個体増加したものの、確認種数が 1 種減少と同程度の結果となりました。

また、施設供用 1 年目のシャノン多様度指数は 2.72 を示しており、一般的な環境下ではシャノン多様度指数は 1.5～3.5 を示す[1]ことから、中～上位の水準を示しており、シンプソン多様度指数も 0.904 と、バランスの取れた群集構造を持つことが期待されます。

冬季の鳥類調査は、冬の渡り鳥が増えるため、渡りコースや越冬地の選択、渡来時期のずれなどから、他の季節より比較的年度による確認種のばらつきが生まれやすく、また小鳥が体温維持と捕食回避のため混群を形成することから確認個体数のばらつきも生まれやすいとされています。

冬季の現況と供用開始1年目の調査を比較すると、確認種数が21種から22種に、確認個体数が100個体から107個体に、シャノン多様度指数が2.76から2.62に、シンプソン多様度指数が0.924から0.898になりました。変化量としては、確認個体数が7個体増加、確認種数が1種増加と同程度の結果となりました。

また、施設供用1年目のシャノン多様度指数は2.88と中～上位の水準を示しており、シンプソン多様度指数も0.898と、バランスの取れた群集構造を持つことが期待されます。

以上のことから、鳥類の生息環境は適切に維持されており、施設の工事、供用に伴う周辺動物への影響は小さいと考えられました。

2-3 まとめ

施設供用1年目の春季調査を実施した結果、R1では18種36個体、R2では15種30個体、R4では14種46個体が確認されました。

これらの結果をもとに、現況調査時と施設供用1年目との調査結果を、多様度指数を算出して比較したところ、いずれも同程度の高い水準を示していることから、鳥類の生息環境は適切に維持され、周辺動物への影響は小さいと考えられました。

令和8年度は施設供用3年目の冬季調査を実施し、引き続き周辺環境についてモニタリングを実施することとします。

---

[1] Magurran, Anne E. Measuring biological diversity. John Wiley & Sons, 2003.

第 3 節　重要な陸生植物

第 1 項　キンラン

1-1　調査概要

増設事業評価書における予測結果において、生育個体の消失が予測されたキンランについて、事業による影響の代償として、消失が予測される個体を代替の生育環境に移植する計画としています。また、これと並行して、人工授粉の実施による種子採取を実施し、播種による個体の増殖も計画しています。

調査対象種の概要は表 6-3-1-1 に、事後調査のフローは図 6-3-1-1 に示したとおりです。

今年度は、移植個体の移植 3 年後の活着状況の確認を実施しました。また、今年度も移植個体に開花が見られたことから、昨年度に引き続き、人工授粉の実施による種子採取を実施しました。

表 6-3-1-1　調査対象種の概要

No.	分類	種名	重要種指定状況※1		
			環境省 RL	三重県 RDB	改訂・近畿
1	維管束植物	キンラン	VU	VU	C

※1：重要種のカテゴリーは以下のとおり。
環境省 RL：「環境省レッドリスト 2020」（環境省、令和 2 年）掲載種
VU＝絶滅危惧Ⅱ類
三重県 RDB：「三重県レッドデータブック 2015」（三重県、平成 27 年）掲載種
VU＝絶滅危惧Ⅱ類
改訂・近畿：「改訂・近畿地方の保護上重要な植物-レッドデータブック近畿 2001」（レッドデータブック近畿研究会、平成 13 年）掲載種
C＝絶滅危惧種 C

＜移植個体＞

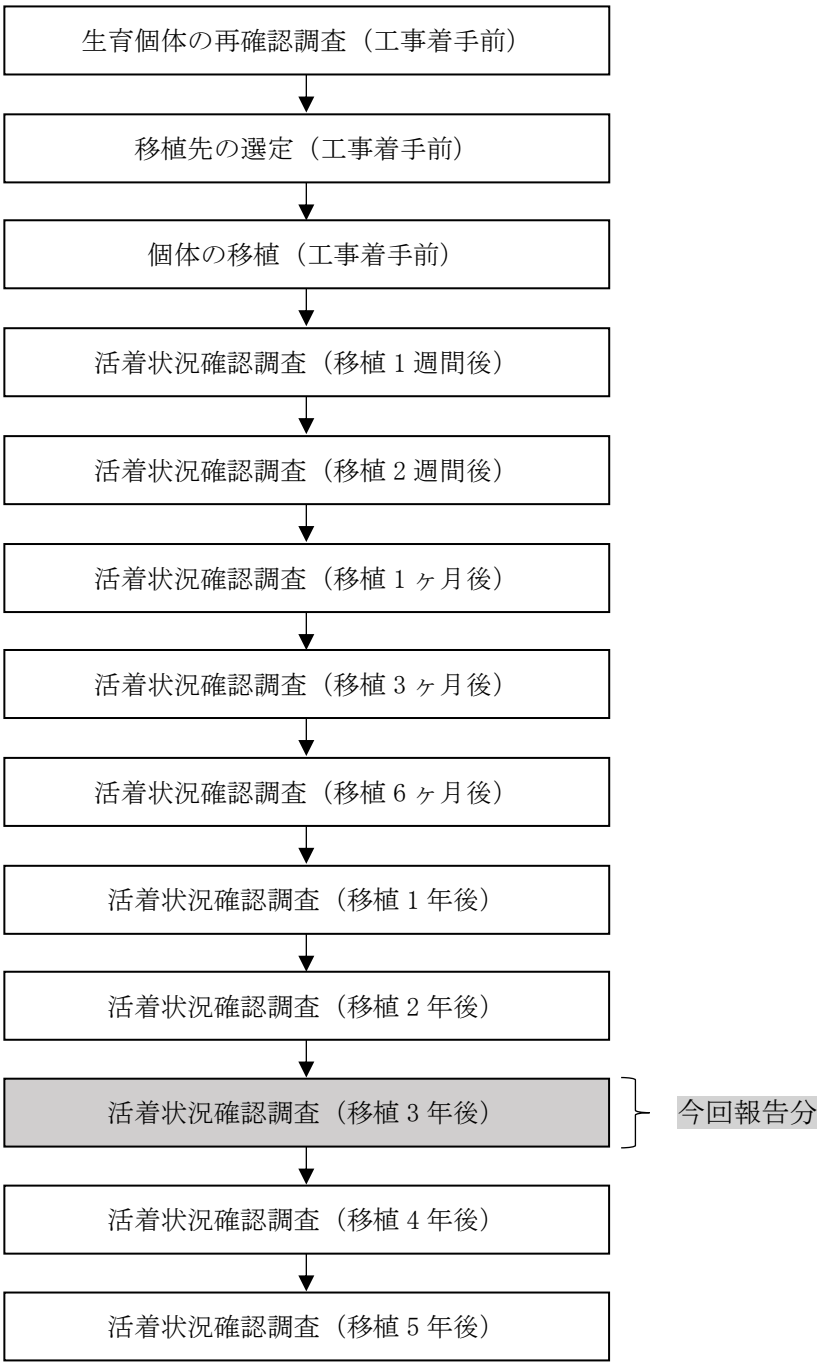


図 6-3-1-1(1)　事後調査フロー

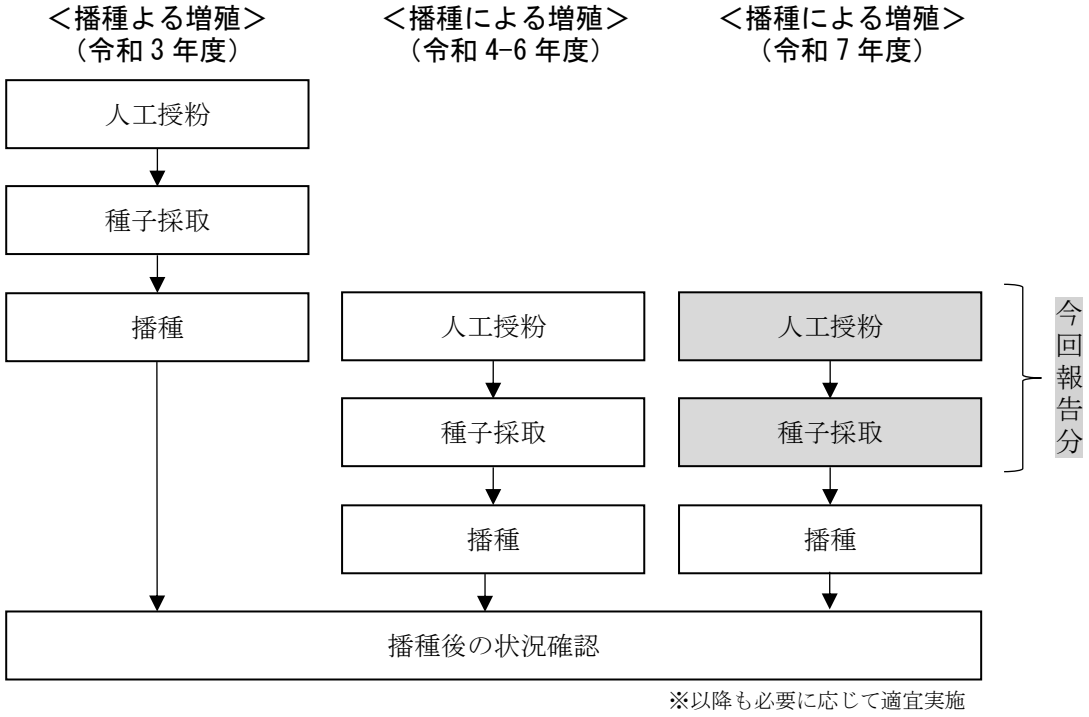


図 6-3-1-1(2)　事後調査フロー

1-2　調査方法

①活着状況確認調査

移植 3 年後に相当する時期に、個体の生育状況を目視により確認し、草丈や葉数等を測定するとともに、写真撮影による記録を行いました。

②令和 7 年度人工授粉・果実採取

人工授粉は、昨年度と同様に開花個体を対象に行いました。

人工授粉作業では、袋掛けを一時的に取り除いたうえで、各花の花被片を切除し、蕊柱を露出させ、ピンセット及び粘着テープを用いて取り出した花粉塊を他個体の柱頭に付着させました。人工授粉後の個体については、速やかに再び袋掛けを行い、その後は随時、生育状況の確認を行いました。

果実採取は、秋季に果実の成熟が確認できたものから順次行い、1 週間程度風乾させたのち、果実を割って内部の種子を採取しました。採取した種子は、ジップ付き袋に入れ、播種作業まで冷蔵庫にて保存することとしました。

1-3　調査範囲及び調査地点

残置森林内の移植地は図 6-3-1-2 に、移植地の詳細は図 6-3-1-3、4 に示したとおりです。また、本種の人工授粉・種子採取・播種作業についても、残置森林内の移植地内において実施しました。

なお、本種移植地は、後述する「第 6 節　動物相、植物相及び植生（残置森林の順応的管理）」において示した A ゾーン（コナラ林）コドラート設置地点に当たります。

1-4　調査時期

調査時期は表 6-3-1-2 に示したとおり、活着状況確認調査は本種の開花期後に、人工授粉は本種の開花期にあたる春季に、種子採取は本種種子の成熟期（秋季）に適宜実施しました。

表 6-3-1-2　調査時期

対象種	調査項目		調査年月日
キンラン	①活着状況確認調査	移植 3 年後	令和 7 年 5 月　1 日
	②令和 7 年度 人工授粉・種子採取	人工授粉	令和 7 年 4 月 28 日
		果実・種子採取	成熟期に適宜実施

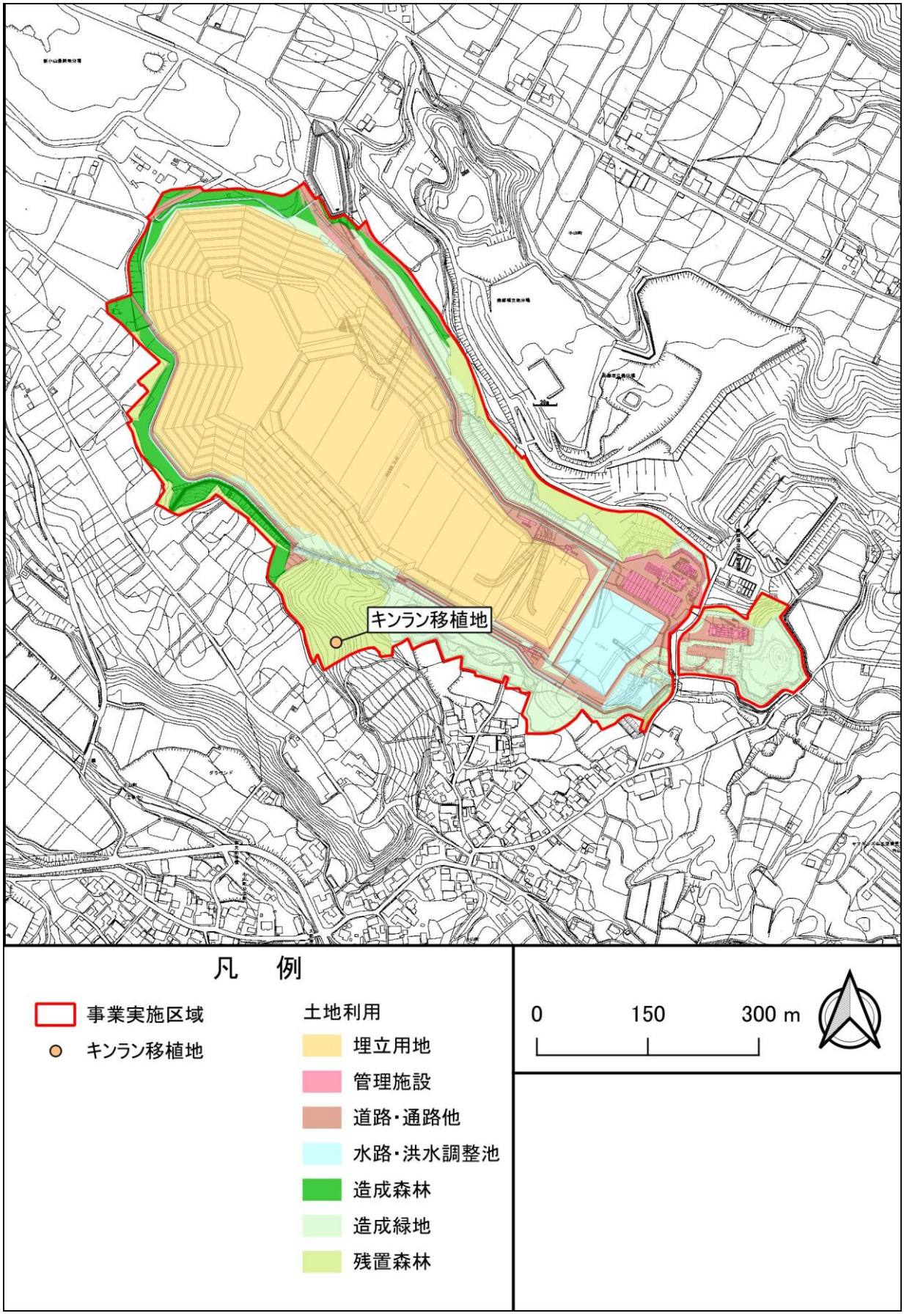


図 6-3-1-2　キンラン移植地（広域）

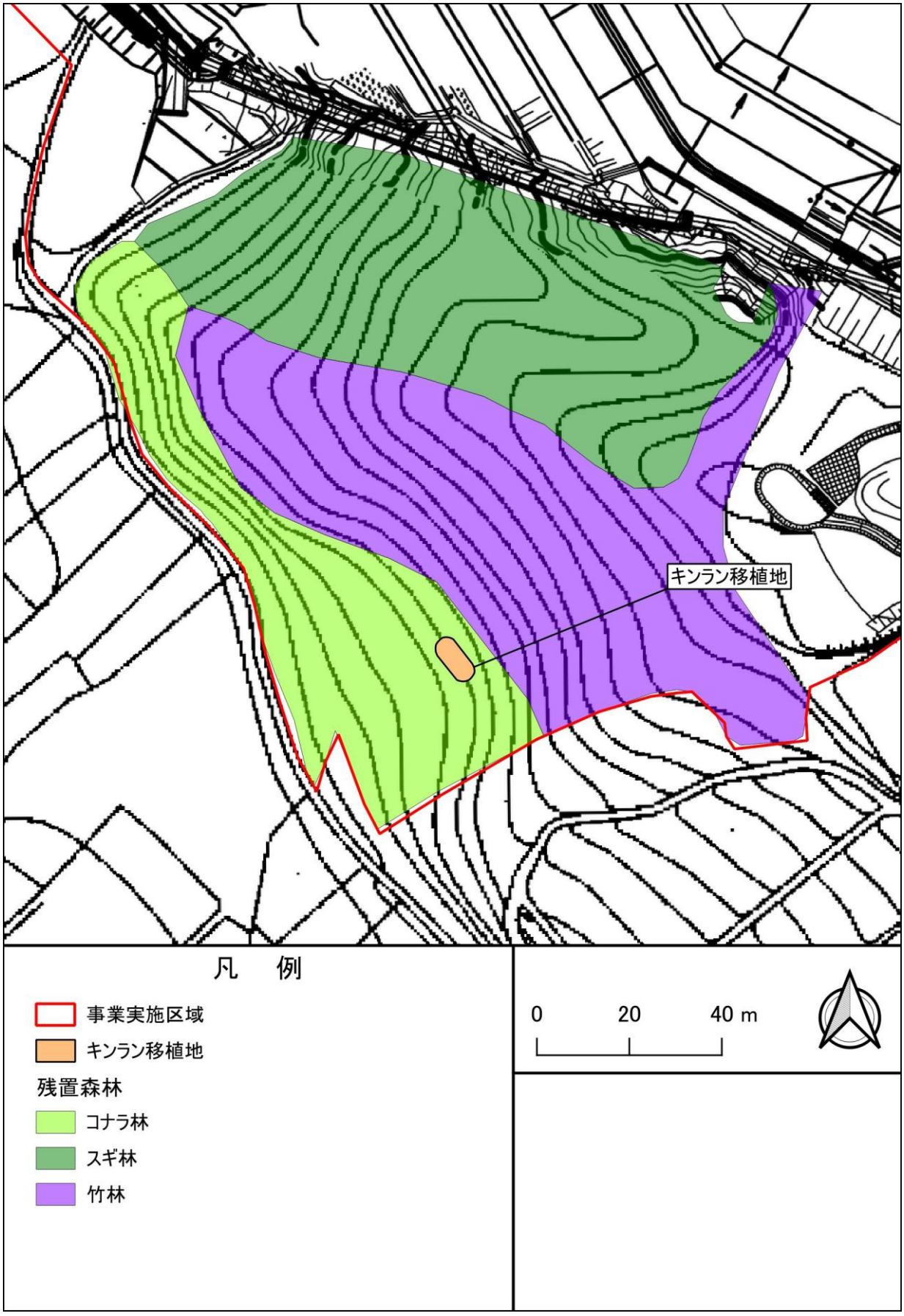


図 6-3-1-3　キンラン移植地（詳細）

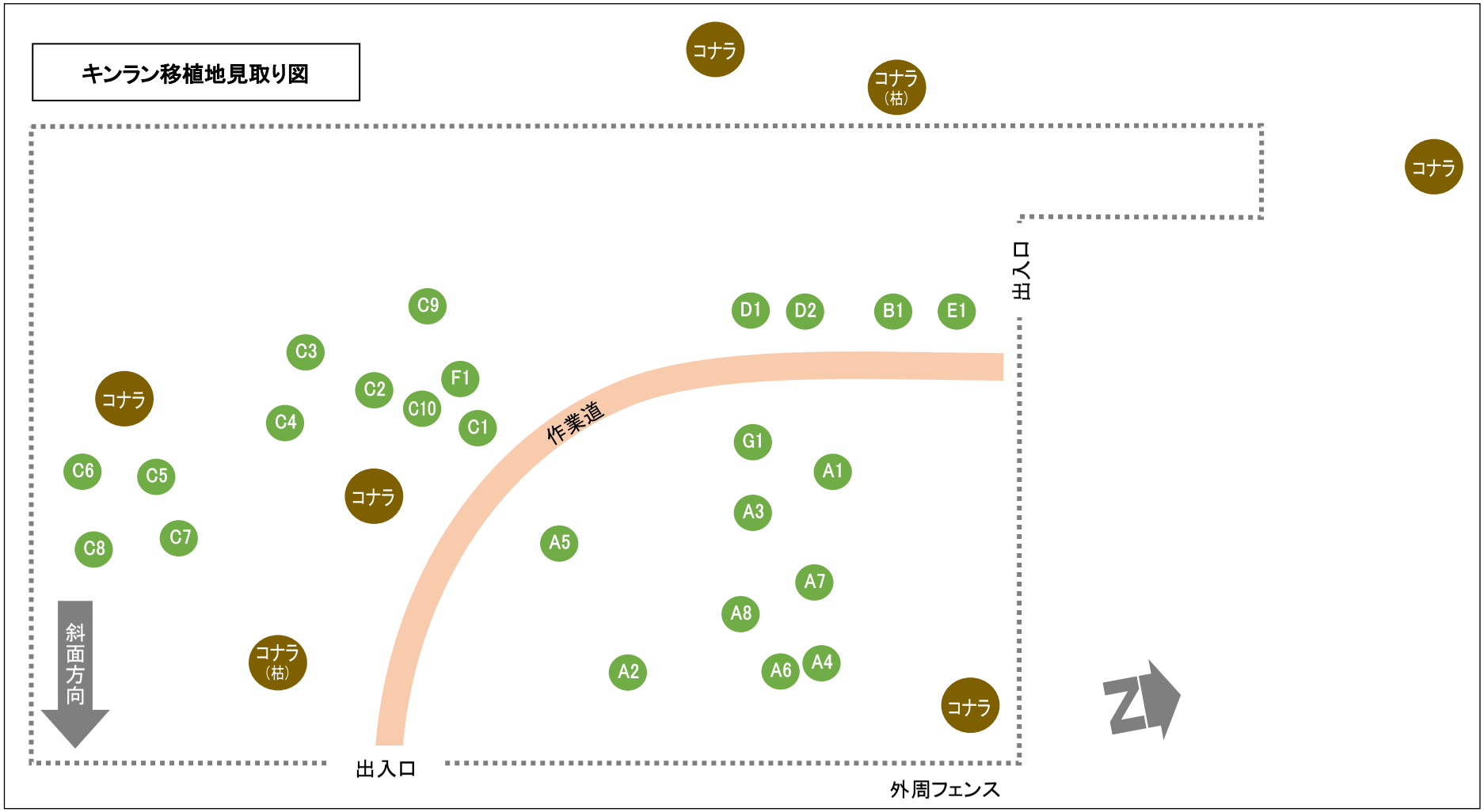


図 6-3-1-4　キンラン移植地の見取り図

1-5　調査結果

①　活着状況確認調査

移植 3 年後における調査結果の概要は表 6-3-1-3 に、個体№別の調査結果は表 6-3-1-4 に示したとおりです。なお、写真等の詳細については資料編に記載しました。

調査の結果、移植した 26 個体のうち、12 個体は生育が良好でした。12 個体すべてで開花が見られましたが、移植 2 年後の昨年調査時よりも開花個体数は 2 個体の減少が認められました。

今年度の調査では、地上部の見られない個体が、昨年同時期の 3 個体から 8 個体に増加していました。

表 6-3-1-3　キンラン調査結果（概要）

生育状況	令和 4 年					令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年
	4 月 13 日 (1 週間後)	4 月 22 日 (2 週間後)	5 月 17 日 (1 ヶ月後)	7 月 14 日 (3 ヶ月後)	10 月 3 日 (6 ヶ月後)	5 月 1 日 (1 年後)	5 月 1 日 (2 年後)	5 月 1 日 (3 年後)
良好	20	21	23	19	16	13	16	12
やや不良	3	1	0	0	0	6	6	6
不良	0	1	0	2	0	1	0	0
枯れ	0	0	1	3	8	0	1	0
地上部なし	3	3	2	2	2	6	3	8

注：表中の数字は個体数

表 6-2-1-4　キンラン調査結果（個体№別）

個体№	令和 4 年度						令和 5 年度		令和 6 年度		令和 7 年度	
	4/13（1 週間後）	4/22（2 週間後）	5/17（1 ヶ月後）	7/14（3 ヶ月後）	10/3（6 ヶ月後）	開花有無	5/1（1 年後）	開花有無	5/1（2 年後）	開花有無	5/1（3 年後）	開花有無
A-1	◎	◎	◎	◎	◎	●	◎	●	◎	●	◎	●
A-2	◎	◎	◎	◎	◎	●	◎		◎	●	○	
A-3	◎	◎	◎	◎	◎	●	◎	●	◎	●	◎	●
A-4	◎	◎	◎	△	×	●	△		○		○	
A-5	◎	◎	◎	◎	◎		◎	●	◎	●	○	
A-6	○	◎	◎	◎	◎		―		○		○	
A-7	◎	◎	◎	◎	×	●	―		○		○	
A-8	―	―	―	―	―		―		○		―	
B-1	◎	◎	◎	◎	◎	●	◎		○		―	
C-1	―	―	―	―	―		―		―		―	
C-2	◎	◎	◎	◎	◎	●	◎	●	◎	●	―	
C-3-a	◎	◎	◎	◎	◎	●	◎	●	◎	●	◎	●
C-3-b	◎	◎	◎	◎	◎	●	◎	●	◎	●	◎	●
C-4	◎	◎	◎	◎	×	●	○		―		―	
C-5	◎	◎	◎	×	×	●	○		◎	●	○	
C-6	◎	◎	◎	◎	◎	●	◎	●	×		◎	●
C-7	○	△	×	×	×		―		―		―	
C-8	◎	◎	◎	◎	◎	●	○		◎	●	◎※1	●
C-9	◎	◎	◎	◎	◎		―		◎	●	―	
C-10	◎	○	◎	×	×		○		◎	●	―	
D-1	◎	◎	◎	◎	×	●	◎	●	○		◎	●
D-2	◎	◎	◎	△	×	●	○		◎	●	◎	●
E-1	◎	◎	◎	◎	◎	●	○		◎		◎	●
F-1	◎	◎	◎	◎	◎	●	◎	●	◎		◎	●
G-1-a	○	◎	◎	◎	◎	●	◎	●	◎	●	◎	●
G-1-b	―	―	◎	◎	◎		◎		◎	●	◎	●

注：「◎」良好　「○」やや不良　「△」不良　「×」枯れ　「ー」地上部なし　「●」開花あり

※1：C-8 は花を付けた個体が茎の途中で折れ、上部が枯れていた。開花後に外的要因で折れたものと考えられる。

② 令和 7 年度人工授粉・種子採取・播種

移植個体の開花が確認されたことから、昨年度と同様に人工授粉及び果実採取を行い、種子繁殖による増殖を試みました。

人工授粉作業については、本種の花期にあたる 4 月下旬に移植地点を踏査し、生育・開花を確認した個体から順次実施しました。また、その後は随時、生育状況の確認を行い、秋季に果実の成熟が確認できたものから採取することとしました。

しかし、人工授粉後の経過では、直後の落果や袋の内部に侵入したアブラムシの吸汁による萎縮、枯死などが確認され、今年度は果実を採取することはできませんでした。

1-6 まとめ

移植 3 年後の活着状況を確認し、開花がみられた個体については、再び人工授粉の実施による種子採取を行いました。

移植した 26 個体のうち、前年度に地上部が確認できなかった 3 個体に加え、さらに 5 個体、合計 8 個体について地上部が確認されませんでした。残った 18 個体では発芽がみられ、そのうち半数を超える 12 個体で開花が確認されました。このように、移植個体の中には一部地上部が消失した個体があるものの、全体として生育状況は概ね良好であり、本種の活着状況は順調であると考えられます。

次年度は、本種の移植 4 年後の活着状況についてモニタリング調査を実施し、必要に応じて追加の保全措置を検討していきます。また、開花が確認された個体については人工授粉の実施による種子採取を試み、引き続き播種による増殖を目的とした試みを継続することとします。

第 2 項　カラタチバナ、タシロラン

2-1　調査概要

増設事業評価書における予測結果において、生育個体の消失が予測されたカラタチバナについて、事業による影響の代償として、代替の生育環境に移植する計画としています。また、カラタチバナの再確認調査時に、新たに重要な維管束植物であるタシロランが改変区域内で確認されたことから、本種についてもカラタチバナと同様に、代替の生育環境に移植をおこなっています。

調査対象種の概要は表 6-3-2-1 に、事後調査のフローは図 6-3-2-1 に示したとおりです。

今年度は、移植 3 年後の活着状況の確認を実施しました。

表 6-3-2-1　調査対象種の概要

No.	分類	種名	重要種指定状況※1		
			環境省 RL	三重県 RDB	改訂・近畿
1	維管束植物	カラタチバナ		NT	
2		タシロラン	NT	VU	準

※1：重要種のカテゴリーは以下のとおり。
環境省 RL：「環境省レッドリスト 2020」（環境省、令和 2 年）掲載種
NT＝準絶滅危惧
三重県 RDB：「三重県レッドデータブック 2015」（三重県、平成 27 年）掲載種
VU＝絶滅危惧Ⅱ類、NT＝準絶滅危惧
改訂・近畿：「改訂・近畿地方の保護上重要な植物-レッドデータブック近畿 2001」（レッドデータブック近畿研究会、平成 13 年）掲載種
準＝準絶滅危惧

2-2　調査方法

移植 3 年後に相当する時期に、個体の生育状況を目視により確認し、草丈や葉数等を測定するとともに、写真撮影による記録を行いました。

2-3　調査範囲及び調査地点

残置森林内の移植地は図 6-3-2-2 に、移植地の詳細は図 6-3-2-3 に示したとおりです。



図 6-3-2-1　事後調査フロー

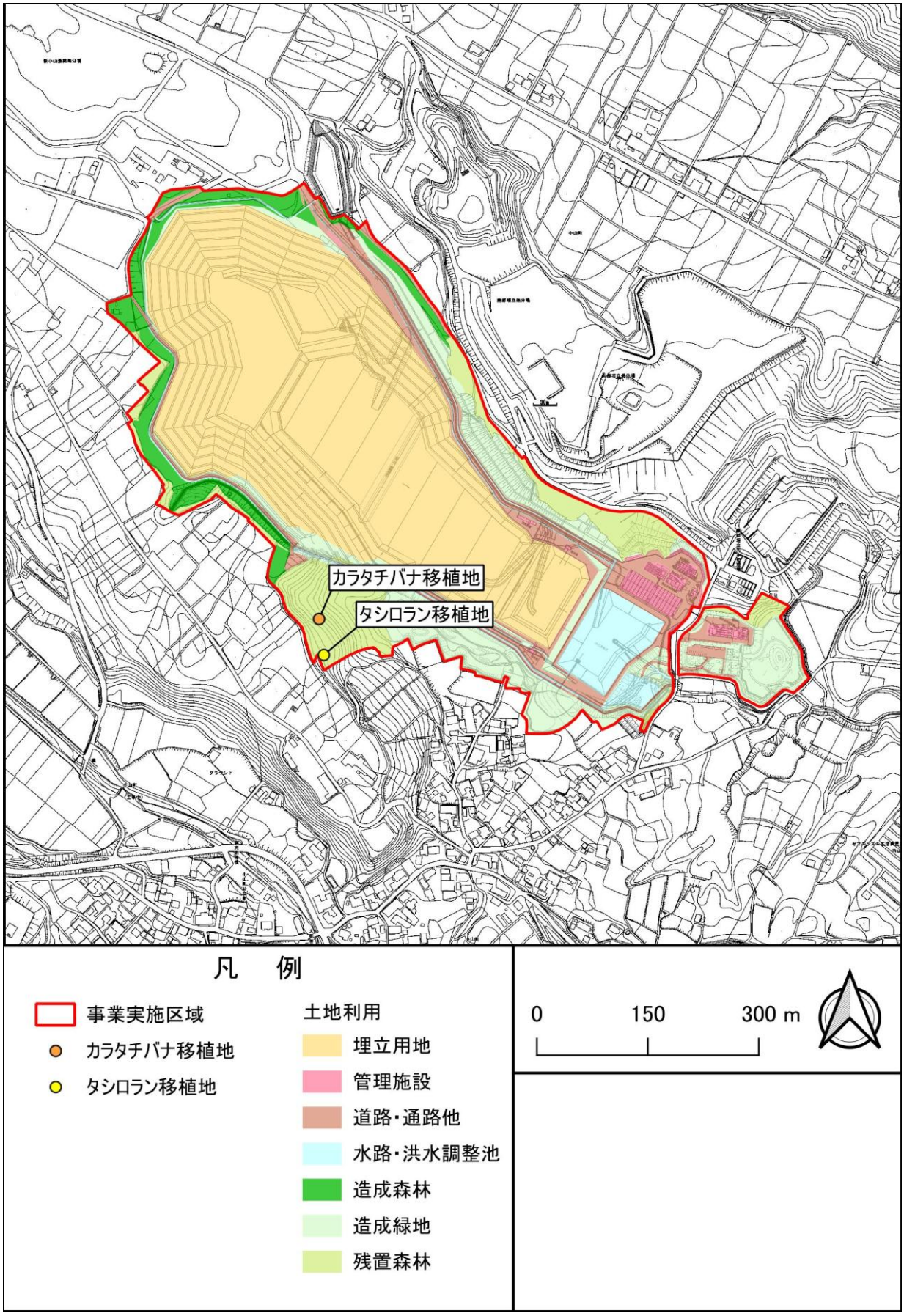


図 6-3-2-2　カラタチバナ・タシロラン移植地（広域）

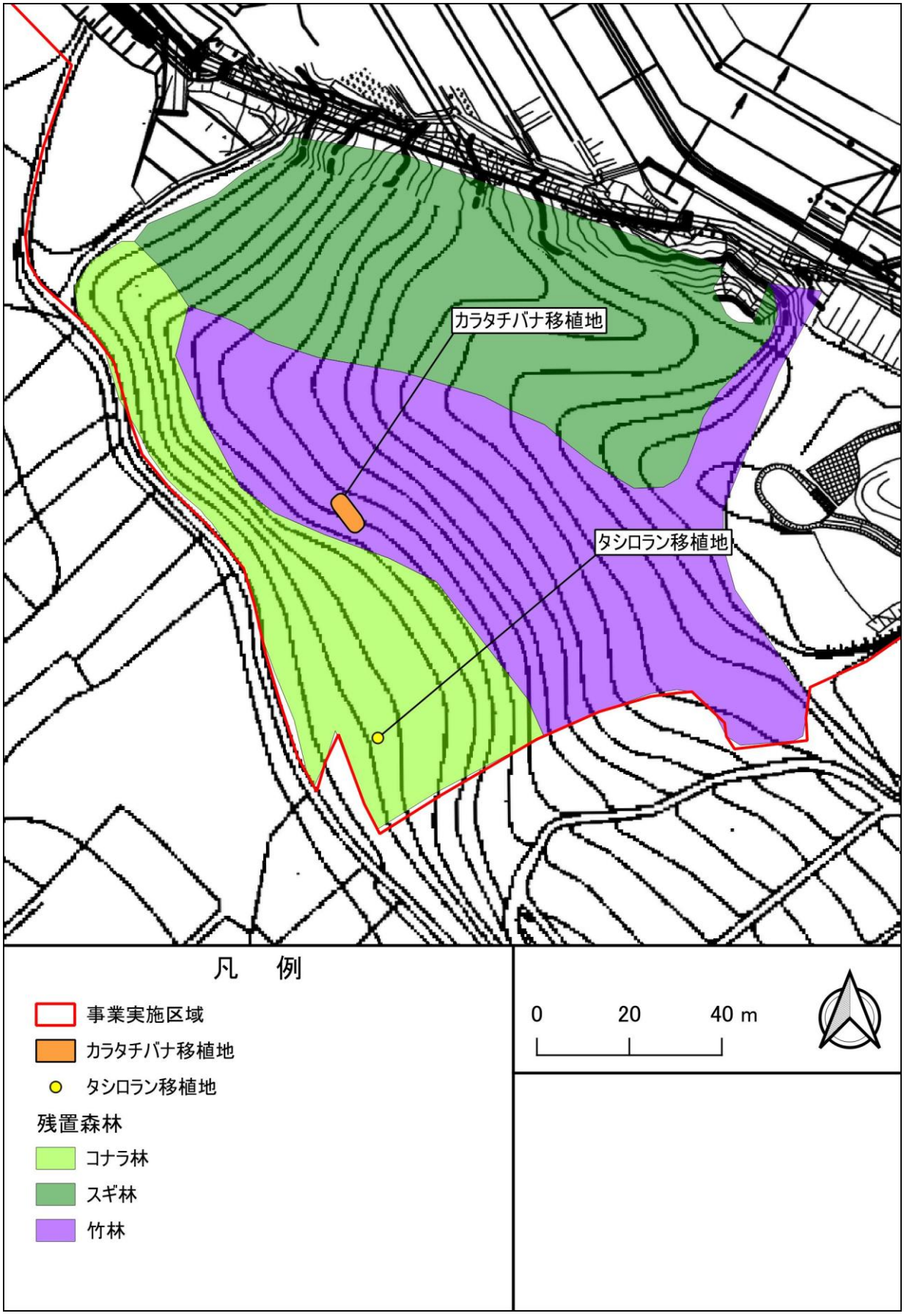


図 6-3-2-3　カラタチバナ・タシロラン移植地（詳細）

2-4　調査時期

調査時期は表 6-3-2-2 に示したとおり、活着状況の確認は調査対象のうち、タシロランの地上部が確認される時期に実施しました。

表 6-3-2-2　調査時期

対象種	調査項目		調査年月日
・カラタチバナ ・タシロラン	活着状況確認調査	移植 3 年後	令和 7 年　6 月 9 日

2-5　調査結果

移植 3 年後におけるカラタチバナの調査結果の概要は表 6-3-2-3 に、詳細は表 6-3-2-4 に、タシロランの調査結果は表 6-3-2-5 に示したとおりです。なお、写真等の詳細については資料編に記載します。

カラタチバナについては、今回の移植 3 年後調査では、生育が良好な個体は 4 個体と減少しており、開花個体は 3 個体のみでした。一方、生育がやや不良な個体が 1 個体、主幹が枯死し脇芽のみが残存しているなど衰弱した個体が 8 個体、すべて枯死した個体が 4 個体とそれぞれ増加しました。芽や花、葉などに食痕がみられる個体が多いことから、食害が生育不良の原因となっている可能性が考えられました。

一方、タシロランの地上部は確認されませんでした。

表 6-3-2-3　カラタチバナ調査結果（概要）

生育状況	令和 4 年 10 月 3 日 (6 ヶ月後)	令和 5 年 5 月 1 日 (1 年後)	令和 6 年 5 月 1 日 (2 年後)	令和 7 年 6 月 9 日 (3 年後)
開花	5	8	3	3
良好	17	14	6	4
やや不良	0	2	3	1
衰弱	0	0	5	8
枯死	0	1	3	4

注：表中の数字は個体数

表 6-3-2-4　カラタチバナ調査結果

個体No.	生育状況	令和4年						令和5年		令和6年		令和7年	
		4/13 (1週間後)	4/22 (2週間後)	5/17 (1ヶ月後)	7/14 (3ヶ月後)	10/3 (6ヶ月後)	開花	6/26 (1年後)	開花	6/11 (2年後)	開花	6/9 (3年後)	開花
①	生育状態	良好	良好	良好	良好	良好		良好		良好	○	枯死	
	草丈(cm)	20.5	20.5	20.5	22.0	23.0		28.0		31.0		7.0	
②	生育状態	良好	良好	良好	良好	良好		良好	○	良好		衰弱	
	草丈(cm)	44.5	44.5	45.0	48.0	51.0		53.0		61.0		35.0	
③-a	生育状態	良好	良好	良好	良好	良好		良好		良好	○	枯死	
	草丈(cm)	24.0	24.0	24.0	30.0	34.0		31.0		45.0		27.0	
③-b	生育状態	良好	良好	良好	良好	良好		良好	○	良好	○	衰弱	
	草丈(cm)	26.5	26.5	26.5	30.5	34.0		50.0		47.0		14.0	
④	生育状態	良好	良好	良好	良好	良好		良好	○	良好		衰弱	
	草丈(cm)	37.0	37.0	40.5	42.0	43.5		32.0		45.0		41.0	
⑤	生育状態	良好	良好	良好	良好	良好		良好	○	衰弱		衰弱	
	草丈(cm)	19.0	19.0	19.0	22.0	23.5		32.0		20.0		29.0	
⑥	生育状態	良好	良好	良好	良好	良好	○	良好	○	衰弱		衰弱	
	草丈(cm)	31.5	31.5	34.0	38.0	38.0		43.0		11.0		19.0	
⑦	生育状態	良好	良好	良好	良好	良好		良好		衰弱		やや不良	
	草丈(cm)	13.5	13.5	14.5	15.0	14.0		9.5		6.0		13.5	
⑧	生育状態	良好	良好	良好	良好	良好	○	やや不良		衰弱		衰弱	
	草丈(cm)	39.0	39.0	42.5	46.0	47.0		39.5		22.0		29.0	
⑨	生育状態	良好	良好	良好	良好	良好		良好		やや不良		衰弱	
	草丈(cm)	13.0	13.0	15.0	15.0	16.0		16.5		19.0		18.0	
⑩	生育状態	良好	良好	良好	良好	良好		良好		やや不良		良好	○
	草丈(cm)	18.0	18.0	18.0	18.0	19.5		19.0		17.0		24.0	
⑪	生育状態	良好	良好	良好	良好	良好		良好		良好		良好	○
	草丈(cm)	40.0	40.0	41.0	42.0	43.5		46.0		51.0		22.0	
⑫	生育状態	良好	良好	良好	良好	良好	○	枯死		枯死		枯死	
	草丈(cm)	39.5	39.5	45.0	46.0	46.0		—		—		—	
⑬	生育状態	良好	良好	良好	良好	良好		やや不良	○	枯死		枯死	
	草丈(cm)	33.5	33.5	36.0	36.0	38.0		37.5		—		—	
⑭	生育状態	良好	良好	良好	良好	良好		良好	○	やや不良		良好	○
	草丈(cm)	14.5	14.5	14.5	18.0	19.5		22.5		14.0		27.0	
⑮	生育状態	良好	良好	良好	良好	良好	○	良好		衰弱		衰弱	
	草丈(cm)	21.0	21.0	22.0	22.0	23.0		21.5		8.0		11.0	
⑯	生育状態	良好	良好	良好	良好	良好	○	良好	○	枯死		良好	
	草丈(cm)	19.5	19.5	19.5	19.5	19.5		22.5		—		20.0	

表 6-3-2-5　タシロラン調査結果

個体No.	生育状況	令和4年					令和5年	令和6年	令和7年
		4/13 (1週間後)	4 /22 (2週間後)	5/17 (1ヶ月後)	7/14 (3ヶ月後)	10/3 (6ヶ月後)	6/26 (1年後)	6/11 (2年後)	6/9 (3年後)
①	生育状態 草丈（cm） 花・結実数	地上部なし	地上部なし	地上部なし	地上部なし	地上部なし	地上部なし	地上部なし	地上部なし

2-6　まとめ

令和 4 年度に移植を行ったカラタチバナとタシロランについて、移植 3 年後の活着状況の確認を行いました。

カラタチバナについては、哺乳類（食痕からニホンノウサギと予想される）による食害によって、枯死個体や衰弱した個体が増加しました。その対策として、全個体にニホンノウサギ等の小動物による食害を防止する柵を設置しました。食害防止柵を設置した様子は、表 6-3-2-6 に示したとおりです。

タシロランは移植 3 年後の時点では地上部は確認されませんでしたが、本種は菌従属栄養植物であり環境条件が整わないと花序を発生させない可能性があることから、次年度以降に再び発生する可能性があると考えられます。

表 6-3-2-6　カラタチバナの食害防止柵の様子



食害 防止柵	ニホンノウサギとみられる食痕が葉に多数見られたことから、食害防止柵を設置した。 （令和 7 年 6 月 20 日）

第 3 項　ツツイトモ

3-1　調査概要

増設事業評価書における予測結果において、濁水の流入による生育個体への影響が予測されたツツイトモについて、必要に応じて早期の対策が講じられるよう本種の消長を継続的に確認する計画としています。

調査対象種の概要は表 6-3-3-1 に、事後調査のフローは図 6-3-3-1 に示したとおりです。

今年度は施設供用 1 年目における生育状況の確認を目的とした調査を実施しました。

表 6-3-3-1　調査対象種の概要

No.	分類	種名	重要種指定状況※1	
			環境省 RL	三重県 RDB
1	維管束植物	ツツイトモ	VU	VU

※1：重要種のカテゴリーは以下のとおり。
環境省 RL：「環境省レッドリスト 2020」（環境省、令和 2 年）掲載種
VU＝絶滅危惧Ⅱ類
三重県 RDB：「三重県レッドデータブック 2015」（三重県、平成 27 年）掲載種
VU＝絶滅危惧Ⅱ類

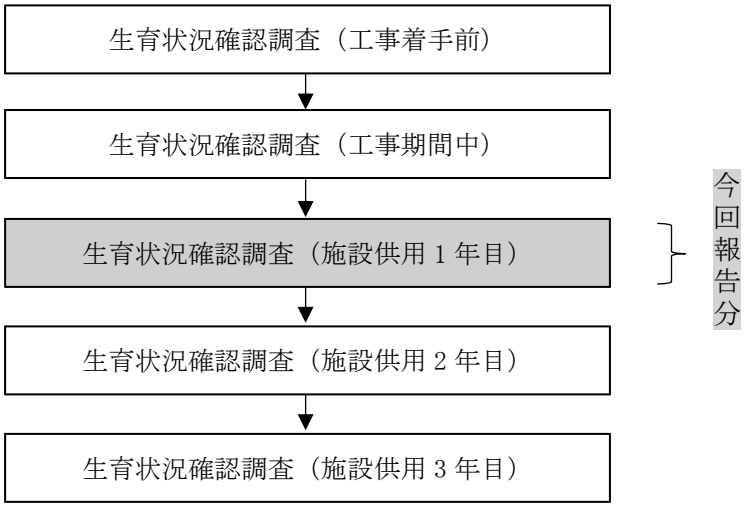


図 6-3-3-1　事後調査フロー

3-2　調査方法

生育個体の既知の確認地点を踏査し、個体の生育状況を目視により確認するとともに、写真撮影による記録を行いました。

3-3　調査範囲

調査範囲は図 6-3-3-2 に示したとおり、既知の生育確認地点である既設洪水調整池において実施しました。

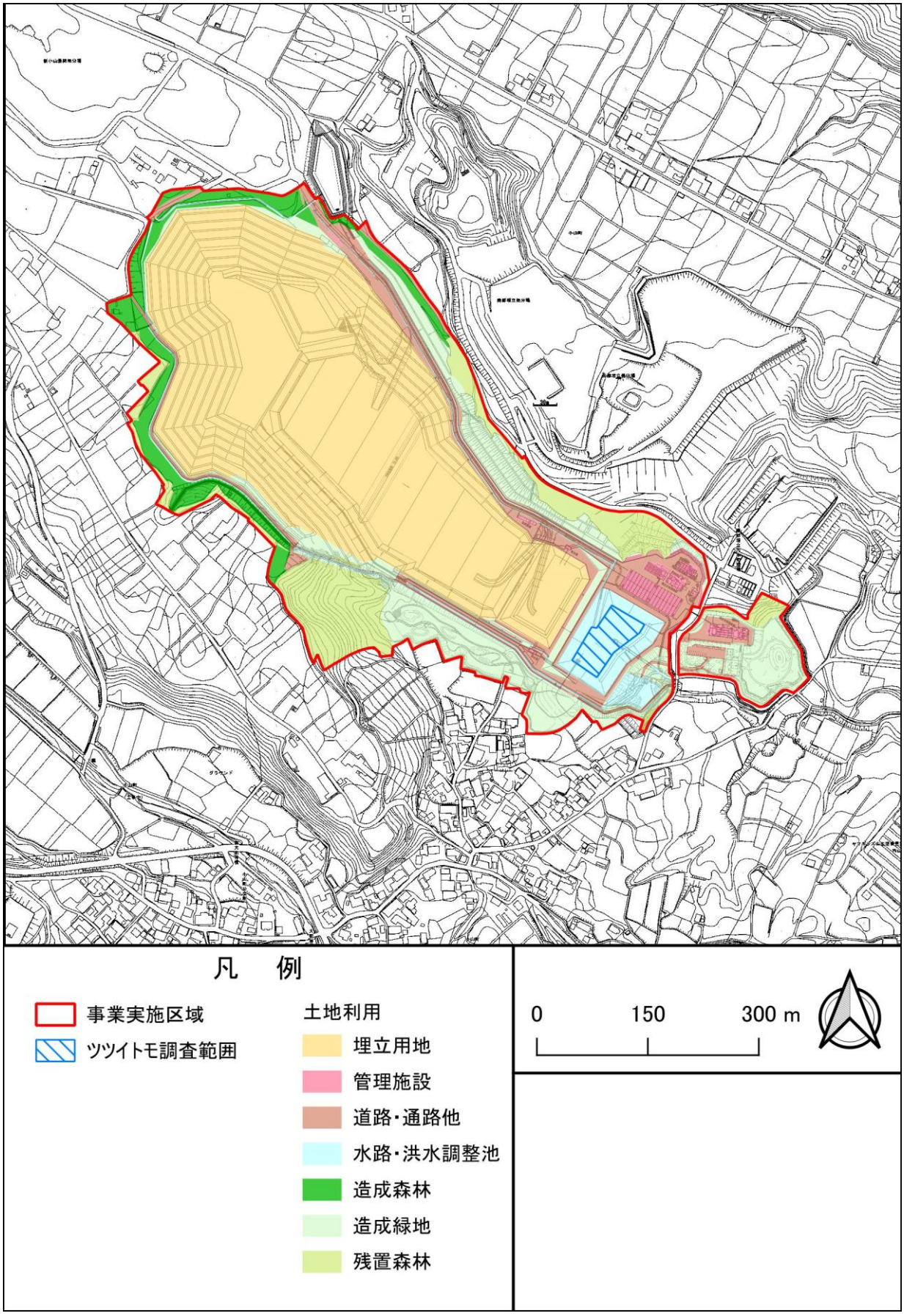


図 6-3-3-2(1)　ツツイトモ調査範囲（広域図）

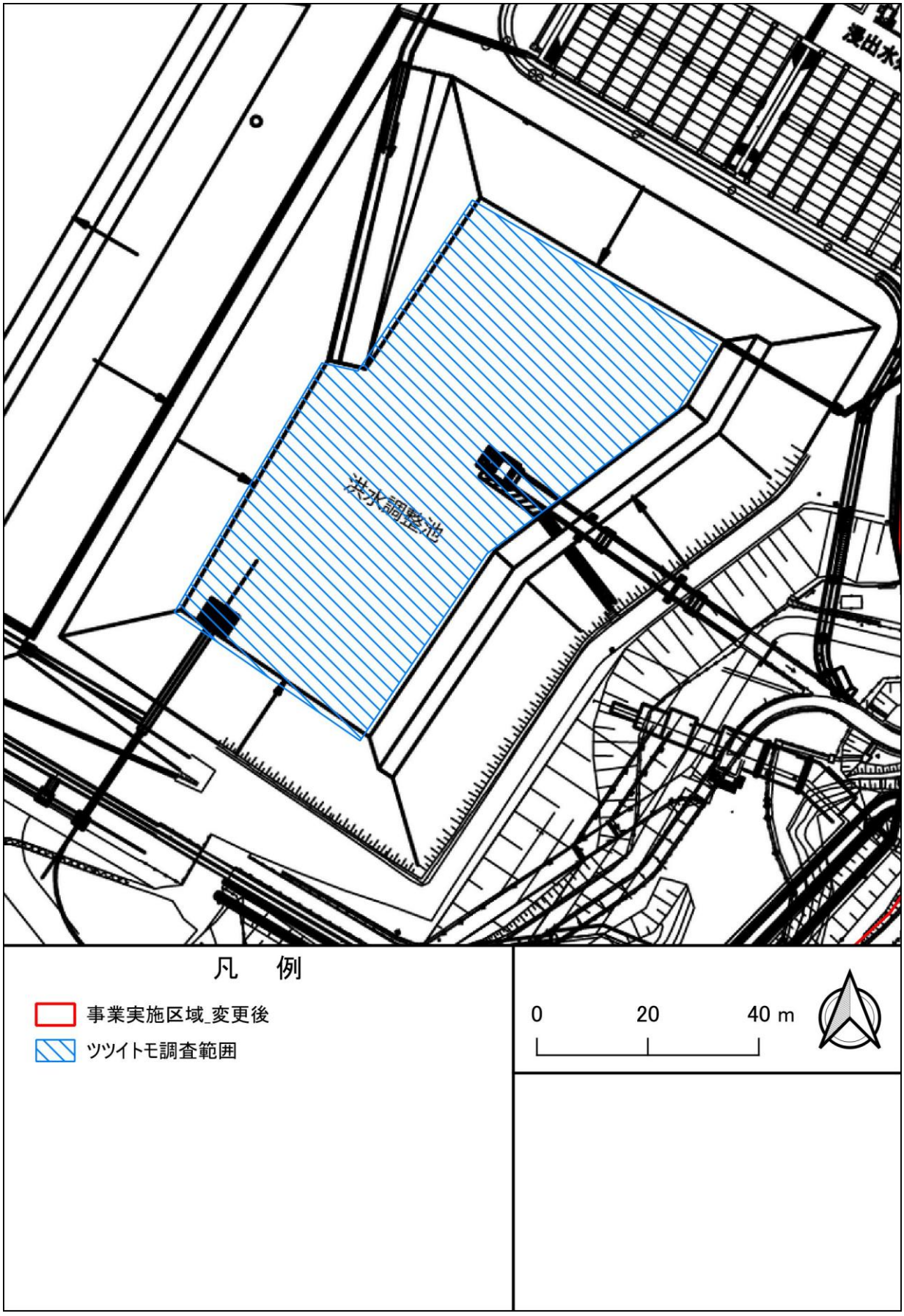


図 6-3-3-2(2)　ツツイトモ調査範囲（詳細図）

3-4　調査時期

調査時期は表 6-3-3-2 に示したとおり、生育が最も活発になると考えられる夏季に実施しました。

表 6-3-3-2　調査時期

対象種	調査項目	調査年月日
ツツイトモ	生育状況確認調査	令和 7 年　7 月　28 日

3-5　調査結果

本年度は既設洪水調整池においてツツイトモの生育は確認できませんでした。調整池の状況は表 6-2-3-3 に、調整池と周辺の植生は図 6-3-3-3 に示したとおりです。

調整池の水面にはヒシが広範囲で分布しており、開放水面は排水口周辺のごく一部のエリアに限られた状態でした。

ツツイトモが見られなくなった原因としては以下のような原因が考えられます。

・砂質から泥質への底質の変化

調整池の開放水面内の広い範囲でツツイトモの生育が確認された令和 4 年度調査時は、前年に実施された工事の影響で、池の底質は広い範囲が砂質であった。その後シルト質の流入、堆積が進み、今年度調査時は池の全域で、砂質底の上層に 20～30 ㎝程度の軟泥の堆積が認められた。

ツツイトモの種子は他種と比較して重く、底泥に沈み込む傾向があり、泥の下に沈んだ種子は嫌気的で光の当たらない環境のため発芽しにくい[1]。

・ヒシの繁茂による生育阻害

調整池の開放水面内では、ヒシは令和 5 年以降、広範囲にわたり急激に繁茂したが、ヒシの浮葉による水中での日照条件の悪化、栄養塩類の競合や、貧酸素環境への変化などによる、ツツイトモへの生育阻害が生じている可能性が高い。

[1] 北畠他,2008,絶滅危惧水生植物ツツイトモ Potamogeton panormitanus の再生・保全の研究.水利科学 52(1):16-25

表 6-3-3-3　既設洪水調整池の状況

			
調整池の遠景	前年同時期には広く開放水面が確認されたが、今年度は開放水面がほとんど見られない。（令和 7 年 7 月 28 日）	ヒシの繁茂状況	ヒシは調整池のほぼ全域に生育し、水面のほぼ全域をヒシの浮葉が覆っている。（令和 7 年 7 月 28 日）
			
ヒシの繁茂状況	ヒシは調整池のほぼ全域に生育し、水面のほぼ全域をヒシの浮葉が覆っている。（令和 7 年 7 月 28 日）	ヒシの繁茂状況	ヒシは調整池のほぼ全域に生育し、水面のほぼ全域をヒシの浮葉が覆っている。開放水面が認められるのは、放水口周辺のごく一部に限られる。（令和 7 年 7 月 28 日）

3-6　まとめ

令和 4 年度には、ツツイトモはほぼ池全体に生育していましたが、令和 5 年度にはヒシの分布が拡大する一方、本種の生育面積の大幅な減少が見られました。令和 6 年度はさらに生育面積が縮小し、切れ藻の状態で浮遊している個体が多く見られました。このように調整池のツツイトモは数年で急激に減少し、今年度には見られなくなりました。

一方、今年度末には調整池内の浚渫を実施し、シルト質のほとんどを除去しました。また、シルト質の除去と同時にヒシの種子についても大半が除去されたものと考えられます。

次年度は、埋土種子からの本種の発生の可能性を踏まえ、引き続き調査を実施することとします。



図 6-3-3-3　既設洪水調整池植生図

第 4 節　葉状地衣類（大気汚染指標種）

第 1 項　調査概要

増設事業準備書に対して、有識者から大気汚染の指標となる葉状地衣類（ウメノキゴケ類）の生育状況を確認することが望ましいとの助言を受けたことから、葉状地衣類の生育状況を継続的に調査する計画としています。

事後調査のフローは図 6-4-1-1 に示したとおりです。

今年度は、過年度調査時に指標対象とした葉状地衣類③、④について、施設供用 1 年目における生育状況の確認を実施しました。

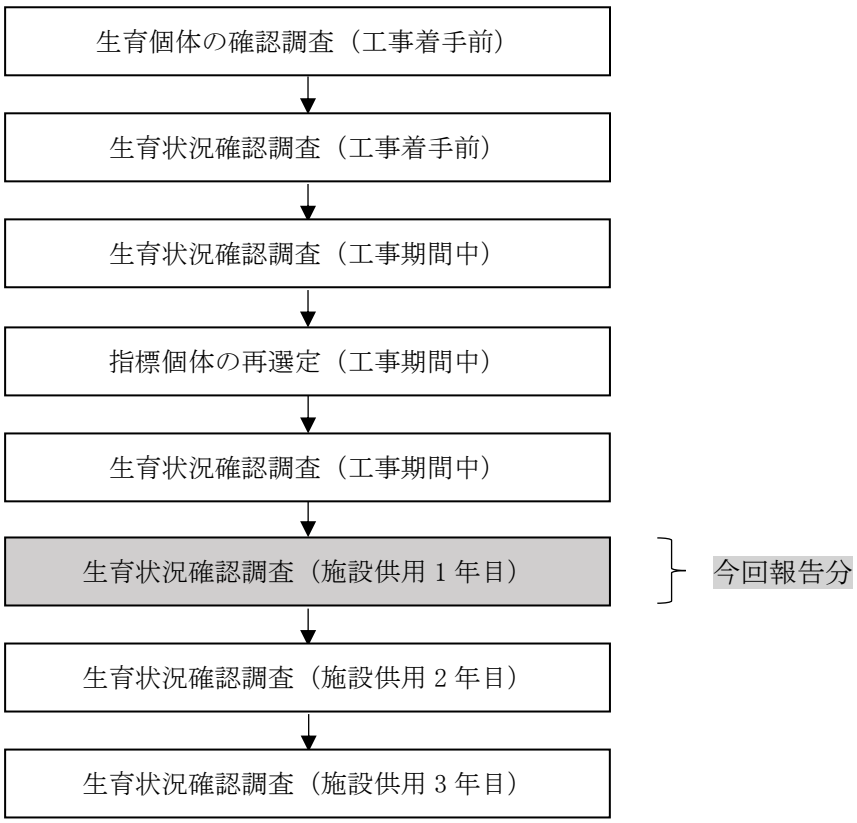


図 6-4-1-1　事後調査フロー

1-1　調査方法

令和 3 年度の事後調査時点では、現況調査で確認していた事業実施区域外に生育する葉状地衣類①、②を指標対象としていましたが、令和 4 年度調査時に事業実施区域内を再踏査した結果、事業実施区域内の回復緑地において新たに葉状地衣類の生育を確認したことから、これらを葉状地衣類再選定個体③、④として新たにマーキングを行いました。

以降は、葉状地衣類再選定個体③、④について、写真撮影を行うとともに、その大きさや生育状況を記録しました。

1-2　調査範囲及び調査地点

葉状地衣類③、④の生育状況確認調査については図 6-4-1-2 に示したとおり、事業実施区域内の生育地点において調査を実施しました。

1-3　調査時期

調査時期は表 6-4-1-1 に示したとおり、葉状地衣類が確認しやすい冬季に実施しました。

表 6-4-1-1　調査時期

対象種	調査項目	調査年月日
葉状地衣類（ウメノキゴケ類）	生育状況確認調査	令和 7 年 11 月 25 日

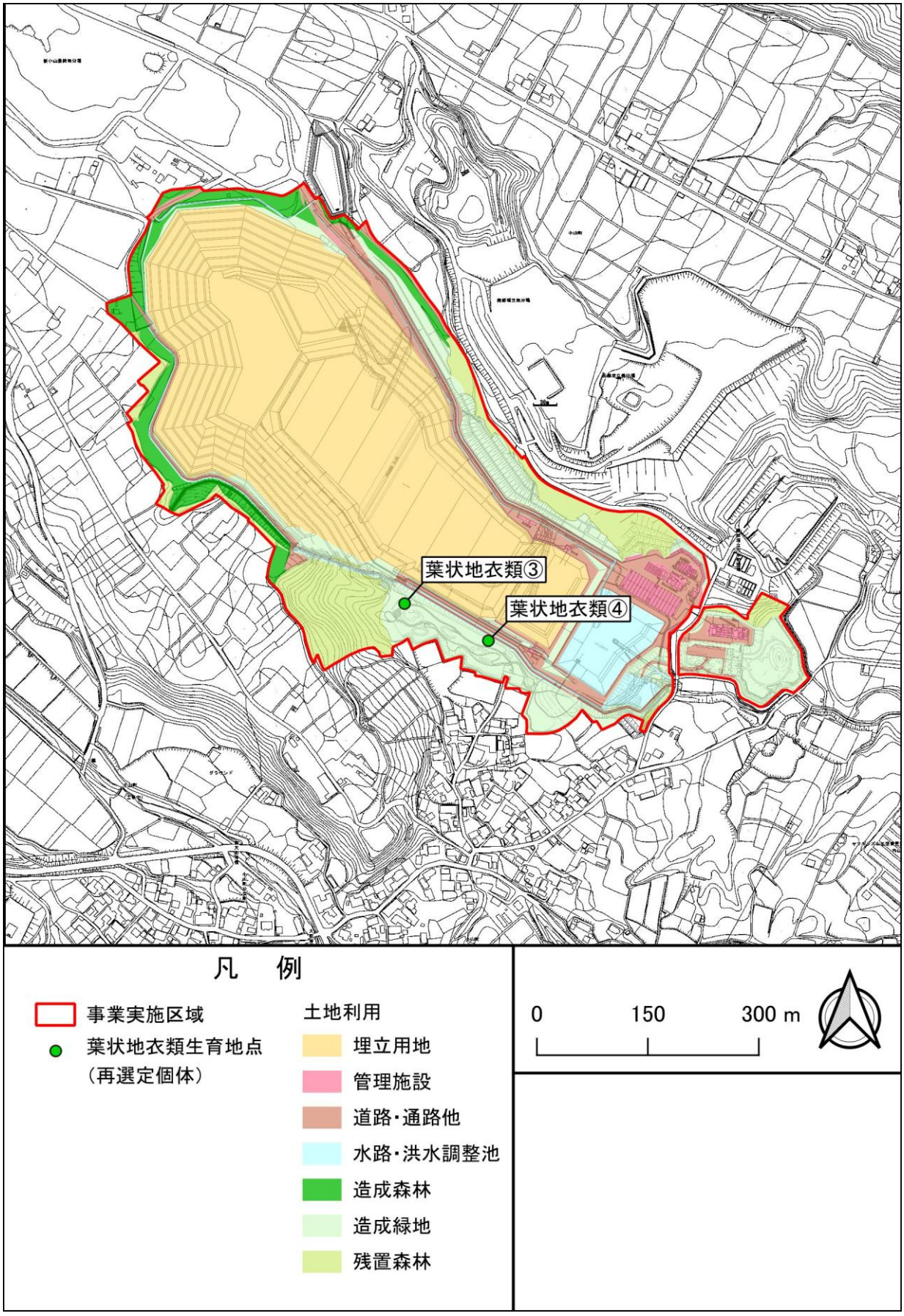


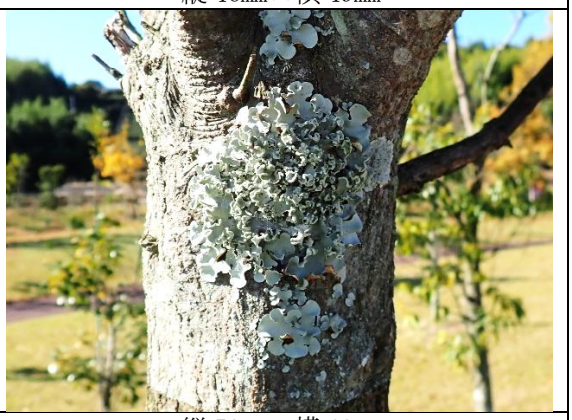
図 6-4-1-2　葉状地衣類調査範囲及び調査地点

第 2 項　調査結果

いずれの個体も昨年度と比較して生育範囲の拡大が認められました。葉状地衣類③、④の生育状況は、表 6-4-2-1 に示したとおりです。

各個体の生育状態は、変色等は認められず、良好な状態と判断されました。

表 6-4-2-1　葉状地衣類生育状況

	葉状地衣類③	葉状地衣類④
種名	ナミガタウメノキゴケ	ナミガタウメノキゴケ
着生基物	樹木（クヌギ）の樹皮	樹木（アラカシ）の樹皮
令和 5 年 2 月 20 日	縦 98㎜×横 91㎜	縦 38㎜×横 39㎜
令和 5 年 11 月 27 日		
	縦 115㎜×横 121㎜	縦 46㎜×横 49㎜
令和 6 年 11 月 25 日		
	縦 146㎜×横 127㎜	縦 58㎜×横 63㎜
令和 7 年 11 月 25 日		
	縦 175㎜×横 142㎜	縦 84㎜×横 77㎜

2-1　まとめ

令和 5 年度に事業実施区域内の回復緑地において葉状地衣類の生育を確認したことから、令和 6 年度からは生育環境の維持に関してより確実性の高い事業実施区域内の葉状地衣類③、④を指標対象として調査を実施することとしました。

今年度の調査では、葉状地衣類③、④ともに生育範囲を拡大しており、色の変化も認められなかったことから、良好な生育状態と判断されました。

次年度も大気汚染の指標として、引き続き葉状地衣類の生育状況のモニタリング調査を実施することとします。

第 5 節　生態系

第 1 項　上位性注目種：フクロウ

1-1　調査概要

増設事業評価書における現況調査において、増設事業における改変区域で営巣・繁殖している状況が確認されました。そのため、本種を当該地域の生態系上位性注目種に選定し、本事業の実施に伴う影響を予測した結果、本種の営巣木の消失が予測されたことから、代替となる繁殖環境（巣箱）を整備することで、事業による影響を代償し、モニタリングを行う計画としています。

調査対象種の概要は表 6-5-1-1 に、事後調査のフロー図は 6-5-1-1 に示したとおりです。

今年度は、すでに架設している巣箱の利用状況及び残置森林とその周辺における繁殖状況の確認を目的とした調査を実施しました。

表 6-5-1-1　調査対象種の概要

No.	分類	種名	重要種指定状況※1
			三重県 RDB
1	上位性注目種 （鳥類）	フクロウ	NT

※1：重要種のカテゴリーは以下のとおり。
三重県 RDB：「三重県レッドデータブック 2015」（三重県、平成 27 年）掲載種
NT＝準絶滅危惧

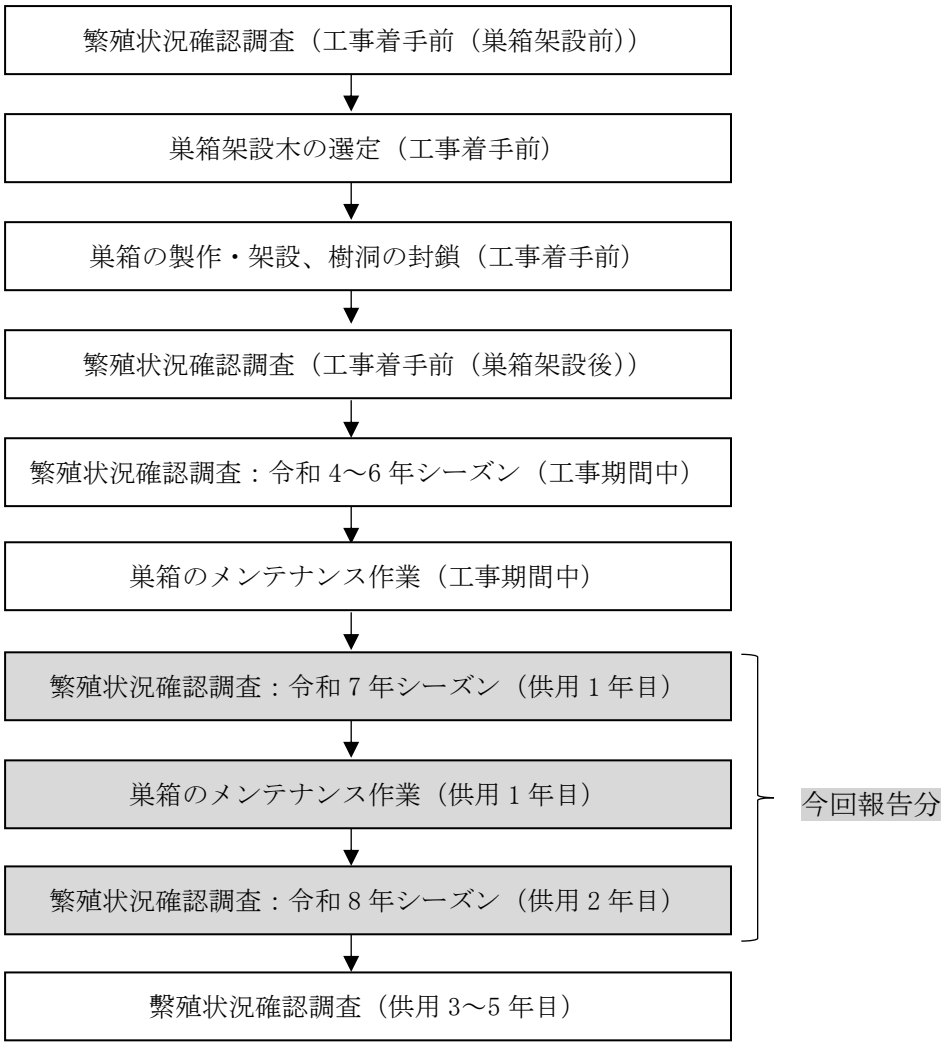


図 6-5-1-1　事後調査フロー

1-2　調査方法

① 令和 7 年シーズンの繁殖状況及び巣箱利用状況確認調査

令和 6 年度事後調査報告書のとおり、令和 7 年 3 月に、フクロウ巣箱②において本種の抱卵を確認しました。そのため、増設事業評価書の事後調査実施計画に基づき、令和 6 年シーズンの繁殖状況確認調査を 7 月の巣外育雛期まで継続して実施することとしました。

調査は基本的に夜間に実施することとし、任意観察による調査と併用して、声聞き調査や日中の直接観察調査を適宜実施しました。また、フクロウ巣箱①～③を対象に、自動撮影カメラ調査として令和 4 年 12 月に開始し、定期的に撮影画像を確認することで本種の行動を観察しました。

② 巣箱のメンテナンス作業

本種は 1 月頃から繁殖期に入ることから、繁殖期に入る前の令和 7 年 11 月に巣箱のメンテナンス作業を実施しました。

メンテナンス作業では、巣箱設置状況（巣箱の安定度等）の確認、巣箱内の清掃、内部底面に敷いたミズゴケの交換、餌の残渣の採取、自動撮影カメラの設置等を行いました。

③ 令和 8 年シーズンの繁殖状況及び巣箱利用状況確認調査

本種は 1 月頃から繁殖期に入ることから、「①令和 7 年シーズンの巣箱利用状況及び繁殖状況確認調査」と同様に調査を実施しました。

なお本シーズンは、代償措置として巣箱を設置してから 5 回目の繁殖期にあたり、引き続き 3 ヶ所の巣箱付近を中心に調査を実施しました。

また、各巣箱に自動撮影カメラを設置し、定期的に撮影画像を確認することで本種の行動を観察しました。

1-3　調査範囲及び調査地点

繁殖状況確認調査は事業実施区域内の樹林を対象とし、樹林からの鳴き声が聞き取れる位置に適宜移動して実施しました。また、巣箱の利用状況確認調査は図 6-5-1-2 に示した地点で行いました。

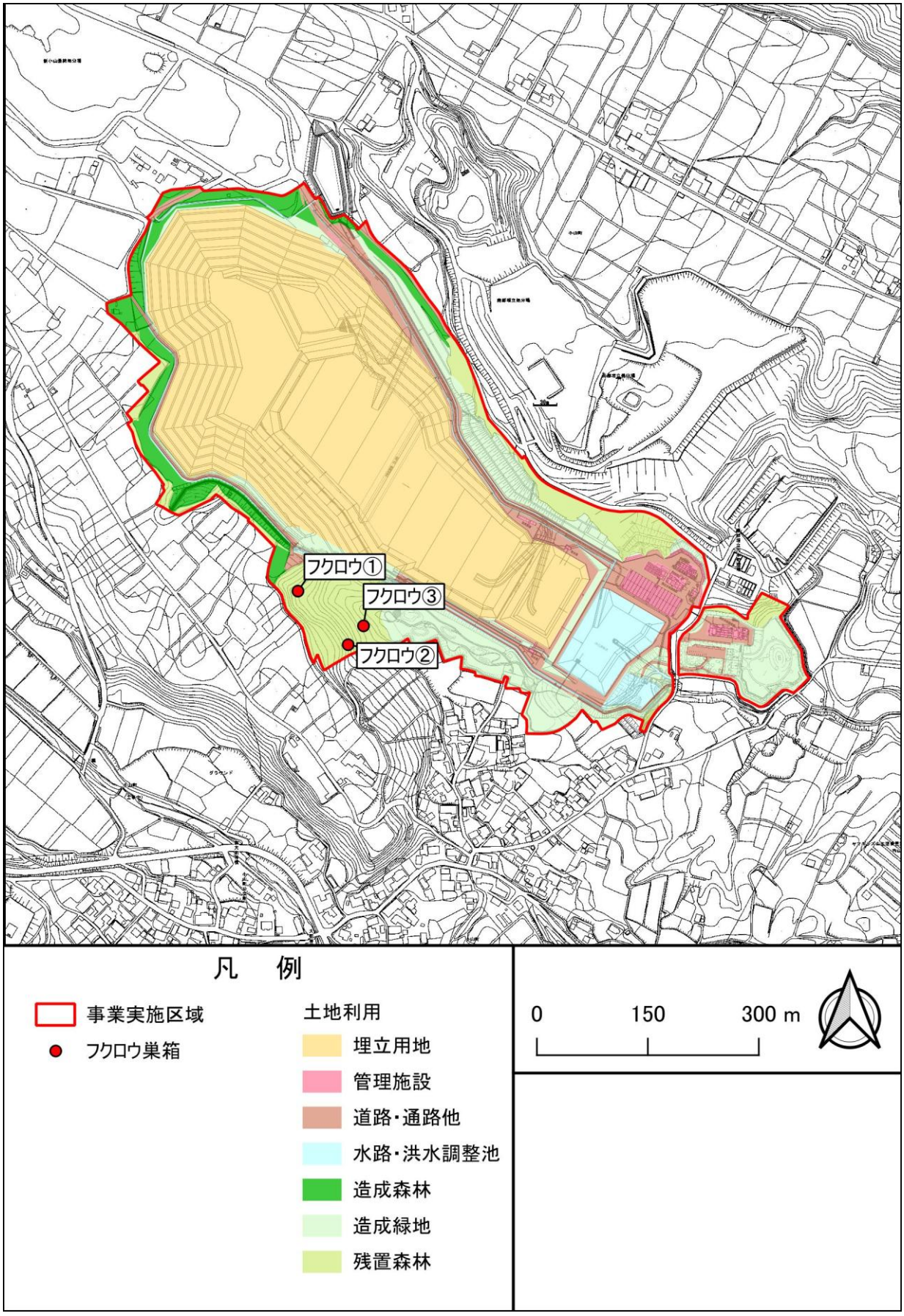


図 6-5-1-2(1)　フクロウ調査範囲・地点（広域図）

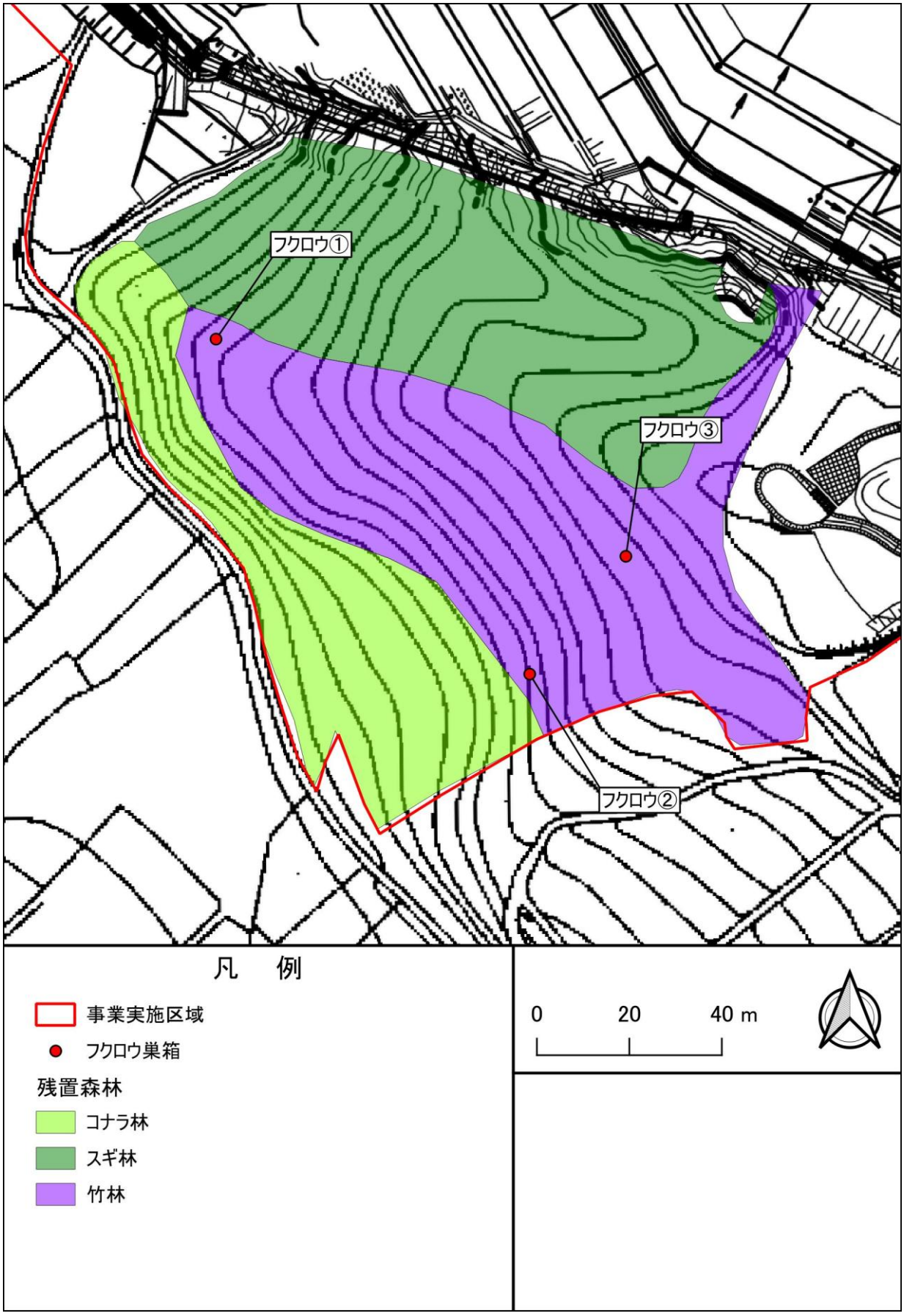


図 6-5-1-2(2)　フクロウ調査範囲・地点（詳細図）

1-4　調査時期

調査時期は表6-5-1-2に示したとおり、令和7年シーズンは本種の幼鳥が確認される7月まで、巣箱のメンテナンス作業は令和8年シーズンの繁殖期前に、令和8年シーズンは本種の繁殖活動が始まる1月から実施しました。

表 6-5-1-2　調査時期

対象種		調査項目	調査年月日
【増設事業】 ・上位性注目種 （鳥類）	フクロウ	①令和7年シーズン繁殖状況及び巣箱利用状況確認調査	令和7年　4月 16日 令和7年　5月 20日 令和7年　6月 20日 令和7年　7月　7日
		②巣箱のメンテナンス作業	令和7年 11月 25日
		③令和8年シーズン繁殖状況及び巣箱利用状況確認調査	令和8年　1月 23日 令和8年　2月 24日 令和8年　3月 16日

1-5　調査結果

①令和7年シーズン繁殖状況及び巣箱利用状況確認調査

夜間調査による鳴き声の確認状況は図6-5-1-3に、自動撮影カメラ及び直接観察による確認状況は表6-5-1-3に示したとおりです。

令和7年1月から3月（前半）の確認状況は、1月は巣箱①、2月は巣箱③を出入りする成鳥（性不明）が確認されました。3月は直接観察により、巣箱②の内部においてフクロウ雌の抱卵が確認されました。

4月は、声聞きによって、巣箱②付近の樹林からフクロウ雄の声を確認したほか、自動撮影カメラのデータでは巣箱②を出入りするフクロウ成鳥（性不明）を確認しました。巣箱内で抱卵している雌への給餌と思われました。

5月は、直接観察によって、巣箱②内においてフクロウの雛2個体を確認しました。また、自動撮影カメラのデータでは、巣箱②の入り口にとまるフクロウ成鳥（性不明）や幼鳥が確認されました。フクロウ幼鳥2羽は、5月10日に確認されて以降は自動撮影カメラに記録されていないことから、この日に巣立ちしたものと考えられました。

6月は、声聞きによって残置森林からフクロウ幼鳥の声が確認され、巣外育雛中と考えられました。

7月は、フクロウの声や姿の確認はありませんでした。

以上の調査結果から、令和 7 年シーズンは巣箱②において繁殖に成功し、2 羽の幼鳥が巣立ったと判断しました。代替巣での繁殖の成功は、代替巣を設置した直後の令和 4 年以降、4 年連続となります。

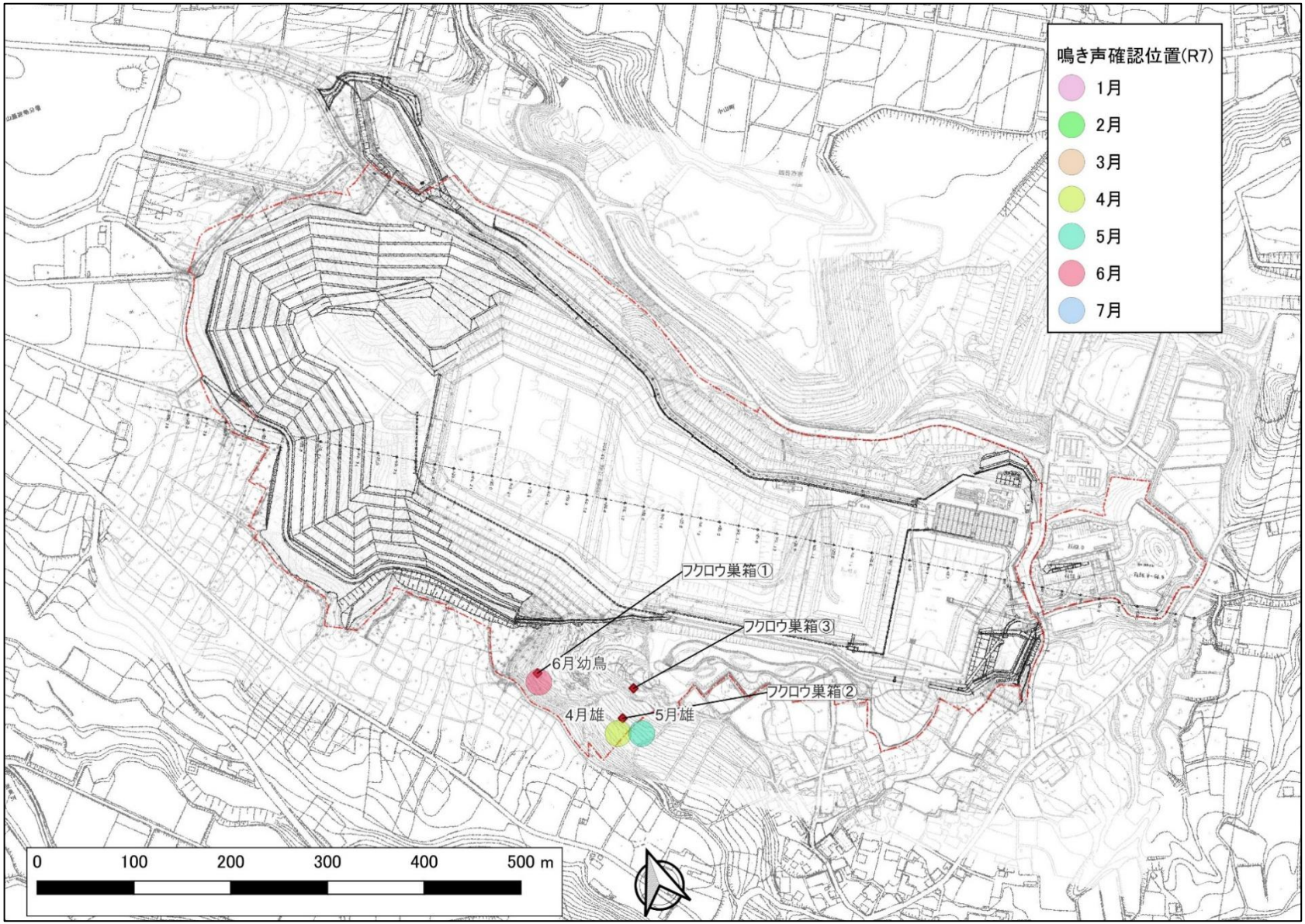


図 6-5-1-3　フクロウ鳴き声確認位置（令和 7 年シーズン）

表 6-5-1-3(1)　自動撮影カメラ・直接観察による確認状況（令和 7 年シーズン）

日付	時間	確認方法	確認内容
令和 7 年 3 月 19 日	15:09	直接観察	巣箱②にてフクロウ雌の抱卵を確認 
令和 7 年 3 月 19 日	日没-20:00	声聞き	鳴き声の確認なし
令和 7 年 3 月 20 日	23:04	無人撮影	巣箱②を出入りするフクロウ成鳥を確認
令和 7 年 3 月 23 日	0:14	無人撮影	巣箱②を出入りするフクロウ成鳥を確認
令和 7 年 4 月 11 日	19:00	無人撮影	巣箱②を出入りするフクロウ成鳥を確認
令和 7 年 4 月 14 日	22:33	無人撮影	巣箱①の上に止まっているフクロウ成鳥を確認
令和 7 年 4 月 16 日	10:22	直接観察	巣箱②にてフクロウ雌の抱卵を確認 
令和 7 年 4 月 16 日	日没-20:00	声聞き	残地林（巣箱②付近）からフクロウ雄の声を確認
令和 7 年 4 月 21 日	12:09	無人撮影	巣箱②を出入りするフクロウ成鳥を確認
令和 7 年 4 月 22 日	21:44	無人撮影	巣箱②を出入りするフクロウ成鳥を確認
令和 7 年 4 月 23 日	21:00	無人撮影	巣箱②を出入りするフクロウ成鳥を確認
令和 7 年 4 月 24 日	0:57	無人撮影	巣箱②を出入りするフクロウ成鳥を確認
令和 7 年 4 月 24 日	9:51	無人撮影	巣箱②を出入りするフクロウ成鳥を確認
令和 7 年 4 月 24 日	22:16	無人撮影	巣箱②を出入りするフクロウ成鳥を確認
令和 7 年 4 月 27 日	20:06	無人撮影	巣箱②付近の落葉樹に止まっているフクロウ成鳥を確認
令和 7 年 4 月 27 日	21:05	無人撮影	巣箱②付近の落葉樹に止まっているフクロウ成鳥を確認
令和 7 年 4 月 27 日	22:33	無人撮影	巣箱②を出入りするフクロウ成鳥を確認
令和 7 年 4 月 27 日	23:41	無人撮影	巣箱②付近の落葉樹に止まっているフクロウ成鳥を確認
令和 7 年 4 月 28 日	10:00	目視観察	巣箱②付近の落葉樹に止まっているフクロウ成鳥を確認
令和 7 年 4 月 28 日	19:29	無人撮影	巣箱②を出入りするフクロウ成鳥を確認
令和 7 年 4 月 30 日	9:29	無人撮影	巣箱②を出入りするフクロウ成鳥を確認
令和 7 年 4 月 30 日	12:58	無人撮影	巣箱②を出入りするフクロウ成鳥を確認
令和 7 年 5 月 1 日	2:23	無人撮影	巣箱②を出入りするフクロウ成鳥を確認
令和 7 年 5 月 1 日	10:28	直接観察	巣箱②内にフクロウ雛が 2 個体いることを確認 

表 6-5-1-3(2)　自動撮影カメラ・直接観察による確認状況（令和 7 年シーズン）

日付	時間	確認方法	確認内容
令和 7 年 5 月 1 日	日没-20:00	声聞き	残置森林（巣箱②付近）からフクロウ雄の声を確認
令和 7 年 5 月 2 日	19:08	無人撮影	巣箱②を出入りするフクロウ成鳥を確認、餌運びだと思われる 
令和 7 年 5 月 3 日	17:39	無人撮影	巣箱②の入り口にとまるフクロウ幼鳥 1 羽を確認
令和 7 年 5 月 4 日	6:14	無人撮影	巣箱②の入り口にとまるフクロウ幼鳥 1 羽を確認
令和 7 年 5 月 7 日	6:39	無人撮影	巣箱②の入り口にとまるフクロウ幼鳥 1 羽を確認
令和 7 年 5 月 9 日	5:07	無人撮影	巣箱②の入り口にとまるフクロウ幼鳥 1 羽を確認 
令和 7 年 5 月 10 日	9:48	無人撮影	巣箱②の入り口にとまるフクロウ幼鳥 1 羽を確認、巣立ちと思われる 
令和 7 年 5 月 20 日	14:30	目視観察	巣箱①付近の樹上に止まっているフクロウ成鳥を確認、その後、カラスに追われて飛翔
令和 7 年 5 月 20 日	日没-20:15	声聞き	残置森林（巣箱②付近）からフクロウ幼鳥の声を確認、巣外育雛中だと思われる
令和 7 年 6 月 20 日	日没-20:15	声聞き	残置森林（巣箱①付近）からフクロウ幼鳥の声を確認、巣外育雛中だと思われる
令和 7 年 7 月 7 日	10:15	目視観察	巣箱①付近の樹上に止まっているフクロウ成鳥を確認、カラスに追われて飛翔
令和 7 年 7 月 7 日	日没-20:15	声聞き	鳴き声の確認なし
令和 7 年 11 月 25 日	9:30-10:00	目視観察	巣箱②内の清掃時、餌として利用されたネズミ類の頭骨や鳥類の羽などを確認

②巣箱のメンテナンス作業

メンテナンス作業の状況は表 6-5-1-4 に示したとおりです。

令和 7 年シーズンでの繁殖に利用された巣箱②のメンテナンス作業（巣箱固定状況の確認、巣箱内の清掃、内部底面に敷いたミズゴケの交換）を実施しました。

巣箱内の清掃によって、餌として利用されたネズミ類、鳥類の骨や羽などが収集されました。

表 6-5-1-4　巣箱のメンテナンス作業状況

<table>
<tr><td colspan="2">  </td><td colspan="2">  </td></tr>
<tr><td>清掃作業の状況</td><td>巣箱に梯子をかけ、巣箱前蓋を外して巣箱内部の清掃を行った。
（令和 7 年 11 月 25 日）</td><td>清掃作業の状況</td><td>巣箱に梯子をかけ、巣箱前蓋を外して巣箱内部の清掃を行った。
（令和 7 年 11 月 25 日）</td></tr>
<tr><td colspan="2">  </td><td colspan="2">  </td></tr>
<tr><td>巣箱内の状況</td><td>巣箱内部の様子。底面に敷いたミズゴケの交換を行った。
（令和 7 年 11 月 25 日）</td><td>巣箱内の残渣状況</td><td>巣箱内の清掃時に、ネズミ類の骨や鳥類の羽などが確認された。
（令和 7 年 11 月 25 日）</td></tr>
</table>

③令和 8 年シーズン繁殖状況及び巣箱利用状況確認調査

鳴き声の確認状況は図 6-5-1-4 に、自動撮影カメラ及び直接観察による確認状況は表 6-5-1-5 に示したとおりです。

令和 8 年 1 月は、夜間調査時に声聞き調査を実施しましたが、本種の鳴き声は確認されませんでした。自動撮影カメラのデータでは、13 日に巣箱②、14 日に巣箱③を出入りするフクロウ成鳥（性不明）が確認されました。また、1 日および 3 日に巣箱③、1 月 23 日に巣箱②の周辺で活動するイタチ属の一種が、それぞれ確認されました。

令和 8 年 2 月は、24 日の夜間に声聞き調査を実施しましたが、本種の鳴き声は確認されませんでした。自動撮影カメラのデータでは、2 日、9 日、21 日、23 日に巣箱①を出入りするフクロウ成鳥（性不明）、24 日に巣箱②を出入りするフクロウ成鳥（性不明）が、それぞれ確認されました。

令和 8 年 3 月は、巣箱②において、16 日に直接観察によりフクロウ雌の抱卵を確認しました。一方、夜間調査時に声聞き調査を実施しましたが、本種の鳴き声は確認されませんでした。自動撮影カメラのデータでは、6 日、7 日に巣箱②および巣箱③を出入りするフクロウ成鳥（性不明）を確認しました。また、8 日に巣箱③周辺で活動するハシブトガラス、11 日に同じく巣箱③で活動するイタチ属の一種を、それぞれ確認しました。

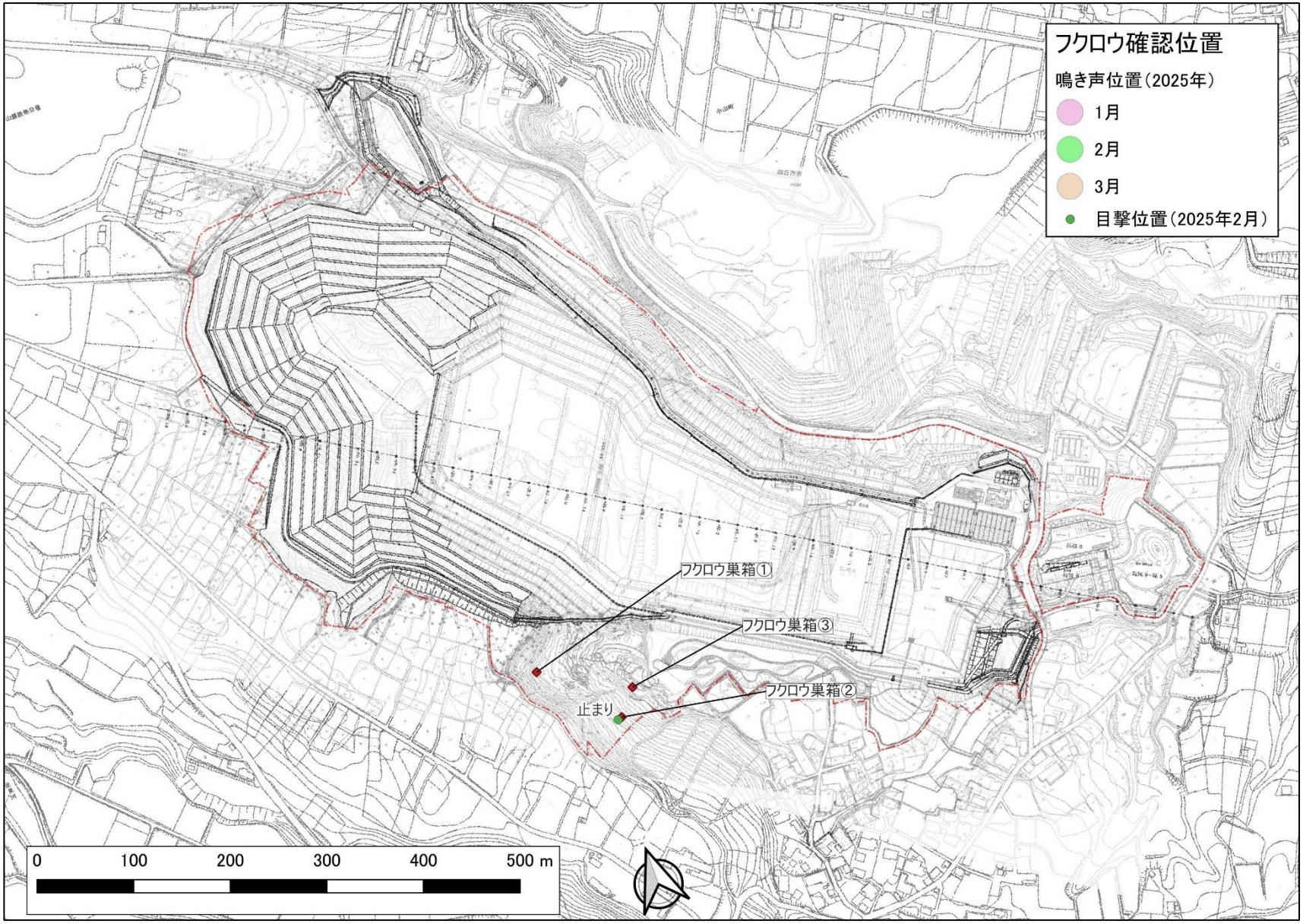


図 6-5-1-4　フクロウ鳴き声確認位置（令和 7 年シーズン）

表 6-5-1-5(1)　自動撮影カメラ・直接観察による確認状況（令和 8 年シーズン）

調査日	時間	確認方法	確認状況
令和 8 年 1 月 1 日	8:49	無人撮影	巣箱 3 周辺で活動するイタチ属の一種を確認
令和 8 年 1 月 3 日	23:26	無人撮影	巣箱 3 周辺で活動するイタチ属の一種を確認
令和 8 年 1 月 11 日	12:21	無人撮影	巣箱 2 周辺で活動するシジュウカラを確認
令和 8 年 1 月 13 日	17:44	無人撮影	巣箱 2 を出入りするフクロウ成鳥を確認 
令和 8 年 1 月 14 日	8:54	無人撮影	巣箱 2 周辺で活動するシジュウカラを確認
令和 8 年 1 月 14 日	17:56	無人撮影	巣箱 3 に止まるフクロウ成鳥を確認 
令和 8 年 1 月 23 日	4:04	無人撮影	巣箱 2 周辺で活動するイタチ属の一種を確認 
令和 8 年 1 月 23 日	19:44	無人撮影	巣箱 2 を出入りするフクロウ成鳥を確認
令和 8 年 1 月 23 日	日没-19:30	声聞き	鳴き声の確認なし
令和 8 年 1 月 24 日	3:14-3:17	無人撮影	巣箱 2 を出入りするフクロウ成鳥を確認
令和 8 年 1 月 28 日	1:34	無人撮影	巣箱 3 周辺で活動するイタチ属の一種を確認
令和 8 年 1 月 28 日	13:15	無人撮影	巣箱 3 周辺で活動するイタチ属の一種を確認

表 6-5-1-5(2)　自動撮影カメラ・直接観察による確認状況（令和 8 年シーズン）

調査日	時間	確認方法	確認状況
令和 8 年 2 月 2 日	17:59	無人撮影	巣箱 1 を出入りするフクロウ成鳥を確認
令和 8 年 2 月 9 日	20:27	無人撮影	巣箱 1 に止まるフクロウ成鳥を確認 
令和 8 年 2 月 21 日	18:12	無人撮影	巣箱 1 を出入りするフクロウ成鳥を確認 
令和 8 年 2 月 23 日	18:48	無人撮影	巣箱 1 を出入りするフクロウ成鳥を確認
令和 8 年 2 月 24 日	17:45	無人撮影	巣箱 2 を出入りするフクロウ成鳥を確認 
令和 8 年 2 月 24 日	17:54	無人撮影	巣箱 2 を出入りするフクロウ成鳥を確認
令和 8 年 2 月 24 日	日没-19:30	声聞き	鳴き声の確認なし

表 6-5-1-5(3)　自動撮影カメラ・直接観察による確認状況（令和 8 年シーズン）

調査日	時間	確認方法	確認状況
令和 8 年 3 月 6 日	2:08	無人撮影	巣箱 2 を出入りするフクロウ成鳥を確認
令和 8 年 3 月 6 日	3:00	無人撮影	巣箱 3 の上に止まるフクロウ成鳥を確認
令和 8 年 3 月 7 日	21:44	無人撮影	巣箱 2 を出入りするフクロウ成鳥を確認 
令和 8 年 3 月 7 日	21:47	無人撮影	巣箱 2 を出入りするフクロウ成鳥を確認
令和 8 年 3 月 8 日	11:10	無人撮影	巣箱 3 周辺で活動するハシブトガラスを確認
令和 8 年 3 月 11 日	14:24	無人撮影	巣箱 3 周辺で活動するイタチ属の一種を確認 
令和 8 年 3 月 16 日	15:46	直接観察	巣箱 1 にてフクロウ雌の抱卵を確認 
令和 8 年 3 月 16 日	日没-20:00	声聞き	鳴き声の確認なし

1-6 まとめ

今年度は令和3年度に架設した巣箱の継続的な利用状況の確認とともに、本種の繁殖状況の確認調査を実施しました。

令和7年シーズンは、前年度の調査を受けて継続して実施し、増設事業に対する代償措置として架設した巣箱3ヶ所のうち、巣箱②において令和6年シーズンに引き続き、繁殖の成功と幼鳥2羽の巣立ちを確認しました。巣箱を設置して以降、令和4年、5年、6年の3シーズンは巣箱①、令和7年は巣箱②にて、それぞれ抱卵と幼鳥の巣立ちが継続して確認されたことになります。

令和8年シーズン（前半）は、令和7年度とは異なり、巣箱①において抱卵が確認されました。引き続き令和8年シーズン（後半）の巣箱利用状況及び繁殖状況確認調査を継続して実施するとともに、同年シーズン（後半）の調査を行います。また、適宜巣箱のメンテナンス作業を行い、本種の繁殖環境の維持に努めていきます。

第 2 項　特殊性注目種：ムカシヤンマ（幼虫）

2-1　調査概要

増設事業評価書における現況調査において、改変区域内で幼虫の生息が確認されており、予測結果において、生息環境及び生息個体の一部の消失が予測されました。

これに対する環境保全措置として、生息個体の移設、移設以降の生息状況のモニタリングを実施する計画としています。

調査対象種の概要は表 6-5-2-1 に、事後調査のフローは図 6-5-2-1 に示したとおりです。

今年度は移設 3 年後の定着状況の確認調査を実施しました。

表 6-5-2-1　調査対象種の概要

No.	分類	種名	重要種指定状況※1
			三重県 RDB
1	特殊性注目種 （昆虫類）	ムカシヤンマ	NT

※1：重要種のカテゴリーは以下のとおり。
三重県 RDB：「三重県レッドデータブック 2015」（三重県、平成 27 年）掲載種
NT＝準絶滅危惧

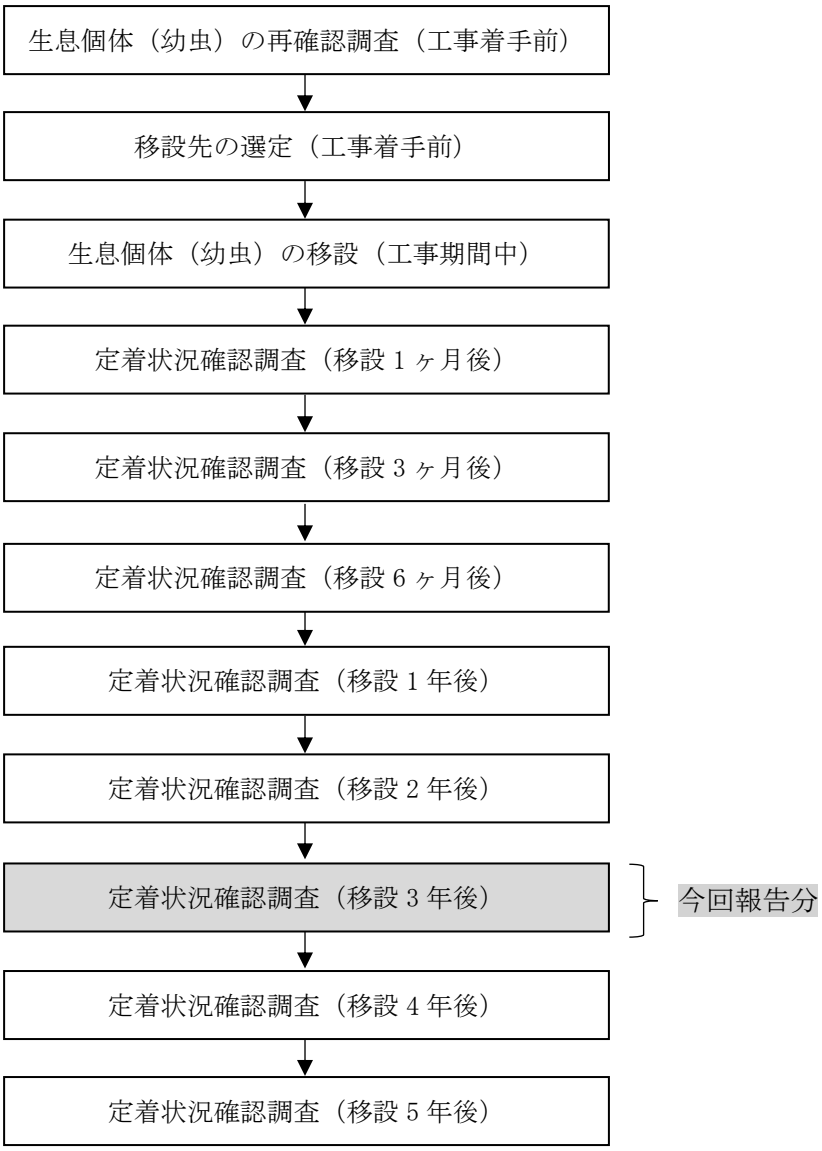


図 6-5-2-1　事後調査フロー

2-2　調査方法

本種の定着状況を確認するため、移設 3 年後に相当する時期に、羽化前の 4 月に移設先の湿性環境を踏査し、本種の確認に努めました。あわせて、残置森林内では移設前から本種の生息が確認されていることから、移設地周辺の湿生環境においても本種の生息状況を確認しました。

また残置森林周辺において、5 月に成虫の確認調査を実施しました。

2-3　調査範囲及び調査地点

本種生息個体（幼虫）の残置森林内の移設地は図 6-5-2-2 に、移設地の詳細は図 6-5-2-3 に示したとおりです。

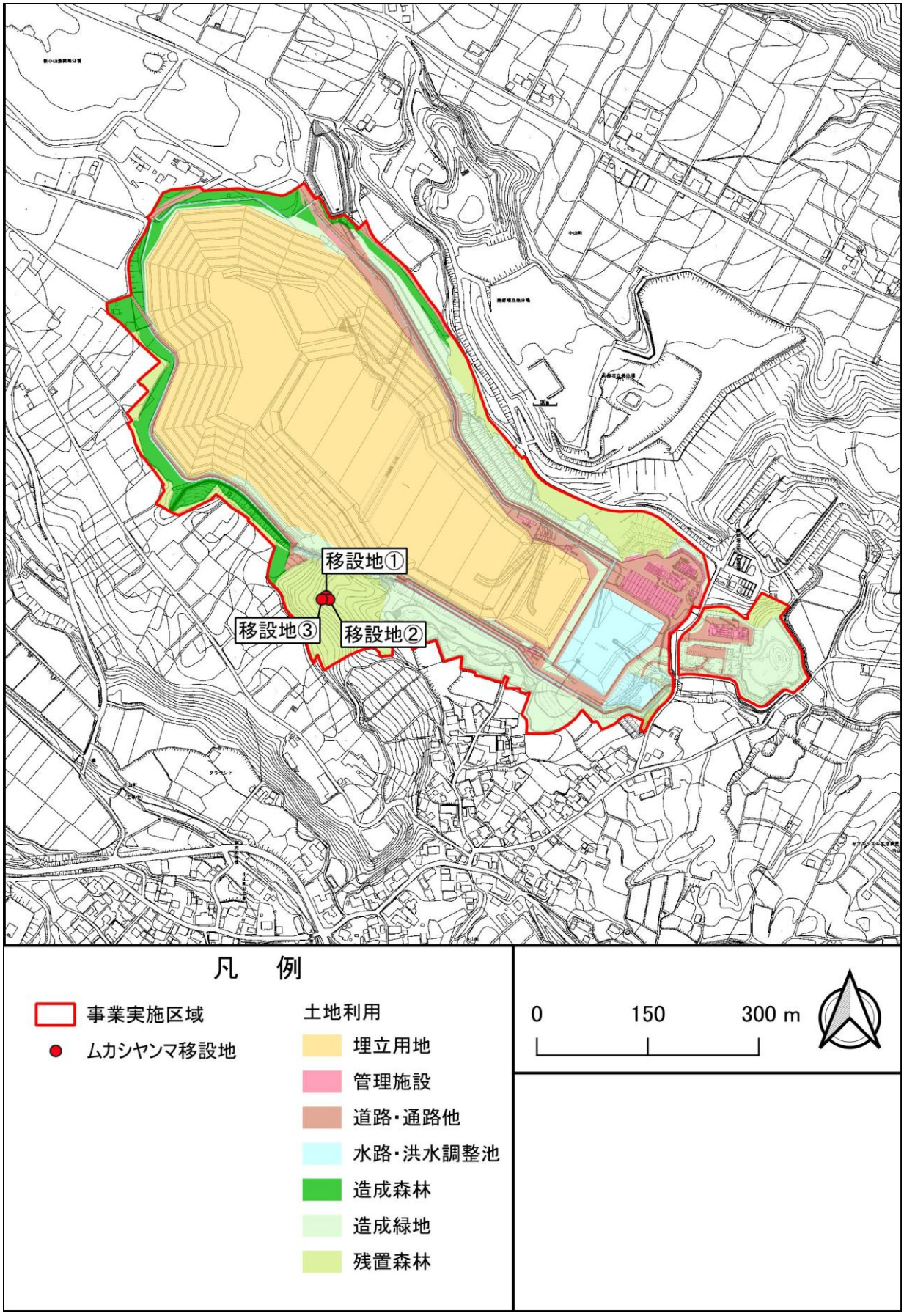


図 6-5-2-2　ムカシヤンマ（幼虫）移設地（広域）

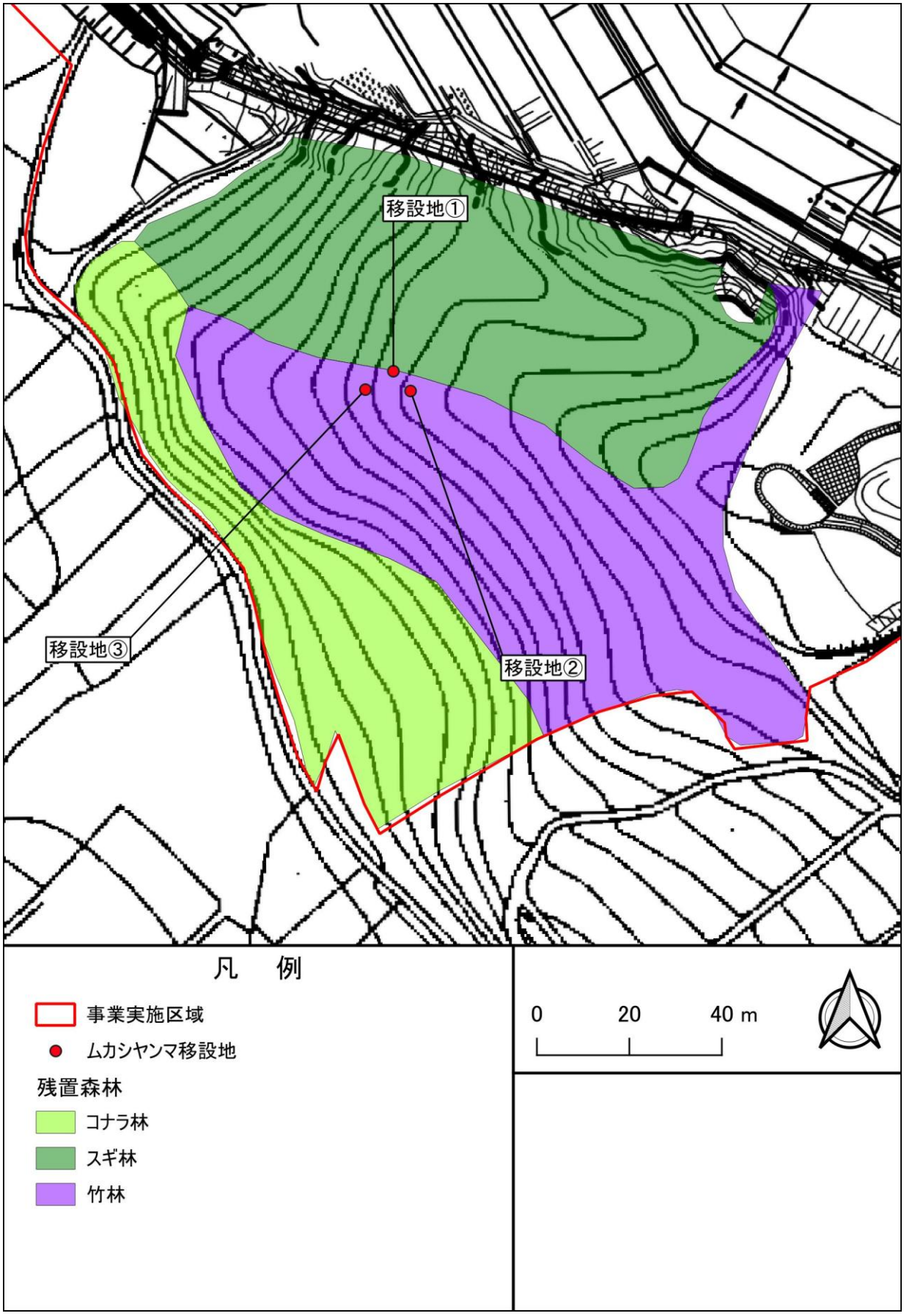


図 6-5-2-3　ムカシヤンマ（幼虫）移設地（詳細）

2-4　調査時期

調査時期は表 6-5-2-2 に示したとおり、本種幼虫の確認調査を羽化期前にあたる春季に実施しました。

表 6-5-2-2　調査時期

対象種		調査項目		調査年月日
特殊性注目種（昆虫類）	ムカシヤンマ	幼虫の定着状況の確認	移設 3 年後	令和 7 年　4 月 16 日
		成虫の生息状況の確認（補足調査）		令和 7 年　5 月　1 日

2-5　調査結果

移設 3 年後の移設地①～③における調査結果は表 6-5-2-3 に示したとおりです。

4 月 10 日に実施したムカシヤンマ幼虫の生息確認調査では、移設地①～③ではその近隣も含めてムカシヤンマ幼虫の生息を確認することはできませんでした。また、移設地周辺の湿地を広い範囲で探索しましたが、同様にムカシヤンマの幼虫は確認できませんでした。

同様に、残置森林内および周辺を対象として 5 月 1 日に実施したムカシヤンマ成虫調査では、ムカシヤンマ成虫を確認することはできませんでした。

表 6-5-2-3　ムカシヤンマ（幼虫）移設地の状況

<table>
<tr><td colspan="2">  </td><td colspan="2">  </td></tr>
<tr><td>移設地の全</td><td>移設先の 3 カ所および周辺の広い範囲の同様な環境において幼虫の探索を実施した。(令和 7 年 4 月 16 日)</td><td>移設地①の状況</td><td>移設地①では、移設場所およびその周囲においてもムカシヤンマ幼虫は確認できなかった。(令和 7 年 4 月 16 日)</td></tr>
<tr><td colspan="2">  </td><td colspan="2">  </td></tr>
<tr><td>移設地②の状況</td><td>移設地②では、移設場所およびその周囲においてもムカシヤンマ幼虫は確認できなかった。(令和 7 年 4 月 16 日)</td><td>移設地③の状況</td><td>移設地③では、移設場所およびその周囲においてもムカシヤンマ幼虫は確認できなかった。(令和 7 年 4 月 16 日)</td></tr>
</table>

2-6　まとめ

今年度は、移設を行った 3 カ所ではムカシヤンマ幼虫は確認できず、移設地周辺の広い範囲の湿地においても同様に、ムカシヤンマ幼虫は確認できませんでした。また、残置森林内及び周辺では、ムカシヤンマの成虫も確認できませんでした。

移設先である残置林内の湿地は、移設前から本種の生息が確認されていることから、今後も幼虫が定着する可能性があり、次年度も引き続き本種の生息状況確認を継続することとします。なお、調査時期は羽化時期を過ぎると幼虫の大型個体がいなくなり、発見が困難なことから、羽化時期前の調査を基本とします。

第 6 節　動物相、植物相及び植生（残置森林の順応的管理）

第 1 項　本項の位置付け

陸生動物相及び陸生植物相並びにこれらの生息・生育環境について、増設事業の実施によって増設事業区域の森林面積が減少することから、樹林地に依存する動植物種の生息・生育環境及び生息・生育個体数の減少が生じると予測されました。そのため、これに対する保全措置として、残置森林等の順応的管理を実施し、動植物相の多様化を目標に、残置森林等の質の向上を図ることとしています。

また、残置森林等の順応的管理については、増設事業準備書に対する四日市市長からの意見として、「具体的な内容及び管理方法、それに伴うロードマップを示した上で、生物相の特性に応じた適切な措置を講じること」とされています。これに対しては、図 6-6-1-1 に示したとおり、現存植生調査の結果から対象とするエリアを「A ゾーン：コナラ林」、「B ゾーン：スギ林」、「C ゾーン：竹林」の 3 つのゾーンに分類したうえで、図 6-6-1-2 に示したとおり、各ゾーンについて具体的な管理方法及びロードマップを検討、作成しています。

更に、令和 6 年度事後調査報告書において、新たな「ゾーニング」を実施するとともに、各ゾーニングの目指すべき姿（ゴール）を設定し、ゴールに向けた維持管理手法の検討を行いました。新たなゾーニングは図 6-6-1-3 に、各ゾーニングのゴールについては表 6-6-1-1 に示したとおりです。

今後は、上記のゾーニングに基づいて残置森林等の管理を実施するとともに、これと並行して残置森林内の動物相、植物相及び植生の状況を調査し、その結果に応じて、順応的な維持管理を実施していく計画です。

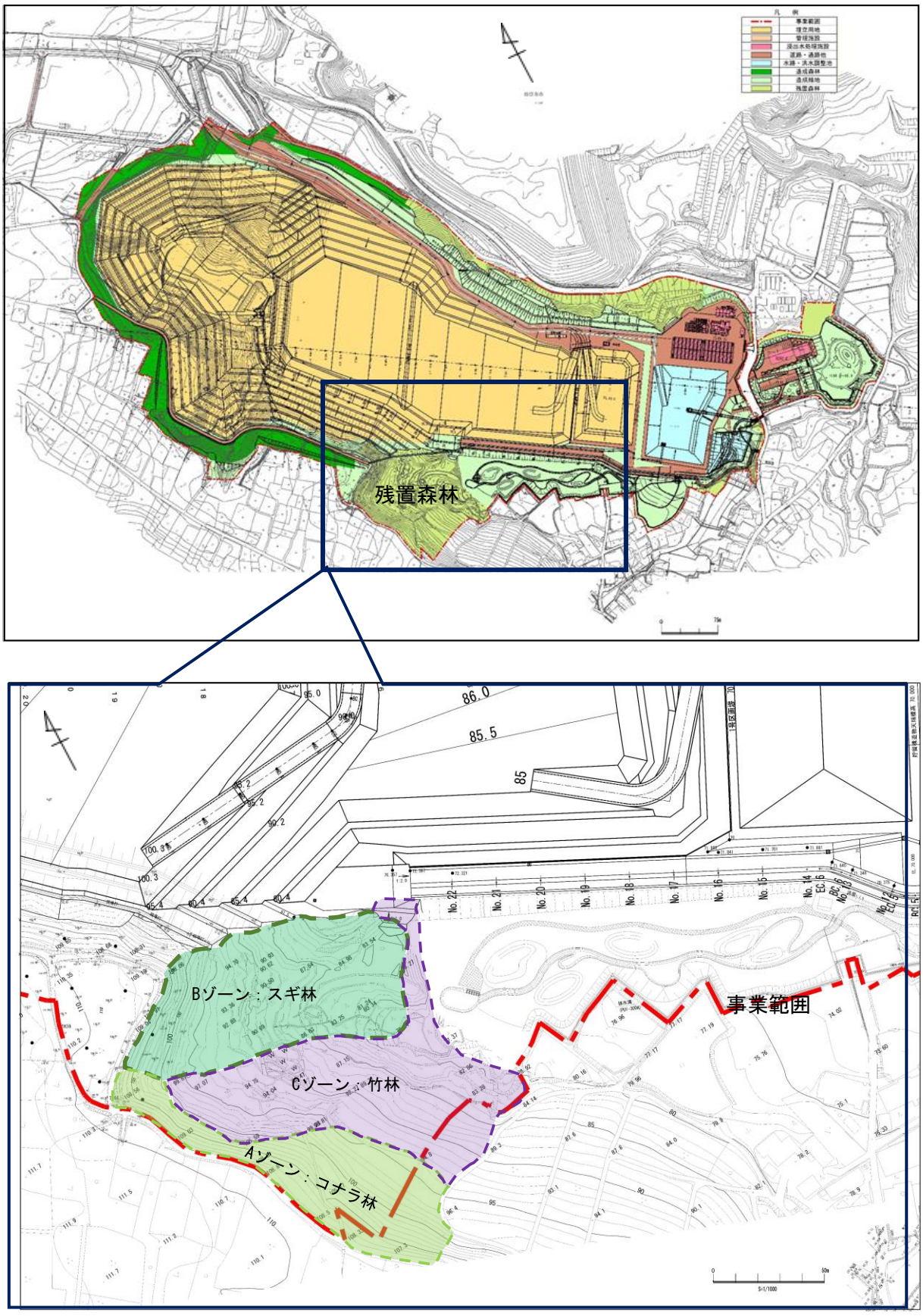


図 6-6-1-1　ゾーン分類

図 6-6-1-2　ロードマップ

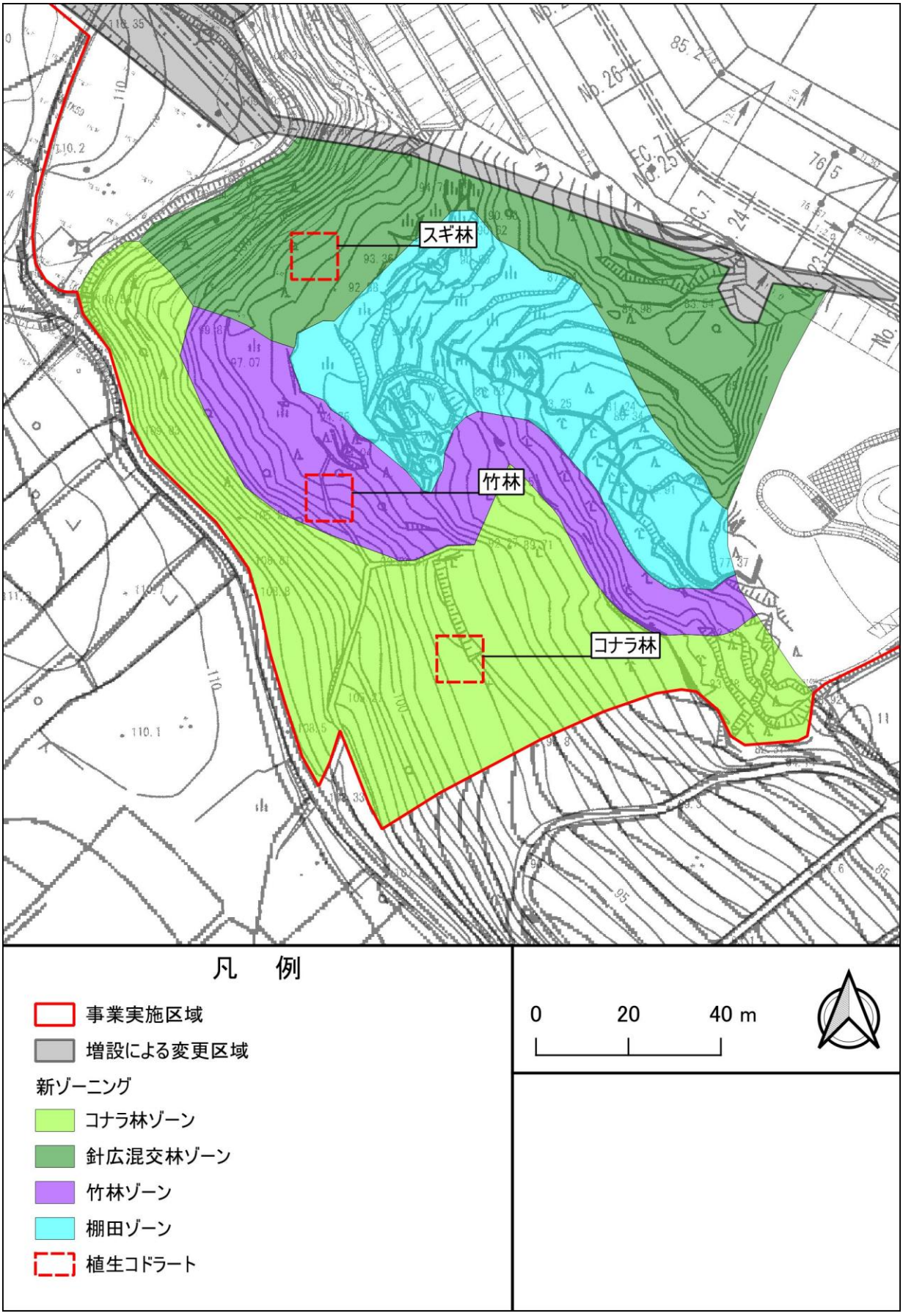


図 6-6-1-3　残置森林の新ゾーニング

表 6-6-1-1　新ゾーニングにおけるゴール

＜コナラ林ゾーン＞		
	テーマ	キンランの咲く里山環境の再生
	指標生物	キンラン（維管束植物、環境省 RL：VU、三重県 RDB：VU）
	準指標生物	コナラ
	目指す姿	タケ類の侵入によって荒廃した“竹広混交林”様の状況にあるコナラ林から、薪炭林として過去に利用されていた里山のコナラ林への転換を目指す。指標生物として、コナラ及びその菌根菌と共生関係を結ぶキンランを選定する。 タケ類の除伐と並行して、残置森林で採取した種子によるコナラ幼木の育成を行い、植栽によるコナラ林への転換の促進を図る。
＜針広混交林ゾーン＞		
	テーマ	フクロウの息づく生態系の維持
	指標生物	フクロウ（鳥類、三重県 RDB：NT）
	準指標生物	ネズミ類（アカネズミ、ヒメネズミ等）（哺乳類）
	目指す姿	これまで安定して繁殖を成功させているフクロウを指標生物とし、同種が継続して生息できるような環境の維持を目標とする。具体的には、同種の採餌行動を鑑み、自由な飛翔が可能となるよう低木・亜高木層を過密状態にならないよう管理を行う。 また、準指標生物とするネズミ類の個体数推定を実施し、良好な餌場環境の整備を目指す。
＜竹林ゾーン＞		
	テーマ	希少種保護と竹林の機能的活用
	指標生物	アキザキヤツシロラン（維管束植物、三重県 RDB：VU） ムヨウラン属の一種（維管束植物、一部種は環境省 RL、三重県 RDB に該当） カラタチバナ（維管束植物、三重県 RDB：NT） ムカシヤンマ（昆虫類、三重県 RDB：NT）
	目指す姿	本植生内ではオニノヤガラ属のアキザキヤツシロランや、ムヨウラン属の一種の生育が確認されている他、事業実施に伴う改変による消失可能性のあったカラタチバナの移植も行われている。そのため、これらの確認・移植地点を含め大幅な植生の転換は行わず、タケ類の過密化を起こさないよう定期的な植生管理を実施する。 また、同エリアに含まれる湧水箇所の崖地については、ムカシヤンマを指標生物とし、本事業の改変によって失われた同種幼虫の生息環境の再生を目標として実施する。 加えて、旧来より用いられているタケ・ササ類の斜面崩壊防止機能を活用し、新たに設定した「棚田ゾーン」の斜面崩壊を防止するために、同ゾーンに沿った部分を残置させることとする。
＜棚田ゾーン＞		
	テーマ	残置森林と緩衝緑地帯との連続性の構築
	指標生物	アカハライモリ（両生類、環境省 RL：NT） モリアオガエル（両生類）
	準指標生物	水生昆虫類
	目指す姿	本ゾーンにおける湧水は、本事業の緩衝緑地帯内に形成されている“せせらぎ水路”の上池への水の供給源の一部であり、本ゾーンには棚田跡が形成されているが、現況はタケ類の侵入や豪雨による出水により畦畔が崩壊するなど荒廃した状況にある。 そこで、上池との連続性を持たせるよう畦畔の修復等を行い、エコトーン（移行帯）に生息する両生類、特に評価書現況調査で確認されているアカハライモリやモリアオガエルの生息できる環境の成立を目指す。 また、灌木や亜高木の伐採を行い、やや開けた谷津田様の環境を目標とし、飛翔能力のある水生昆虫類を準指標生物として、これらの導入を図ることとする。

第 2 項　動物相

2-1　調査概要

増設事業の実施に伴い増設事業区域内の森林面積が減少することから、増設事業区域内の動物相に対する影響が予測されました。これに対する保全措置として、「残置森林・造成森林等の順応的管理」を行うこととしています。また、順応的管理の指標として、動物相の状況に応じて、管理手法の検討を継続的に実施することとしています。

事後調査のフローは図 6-6-2-1 に示したとおり、今年度は増設事業に係る工事の実施や森林施業による影響を受けた現状を把握するためのデータ収集を行いました。

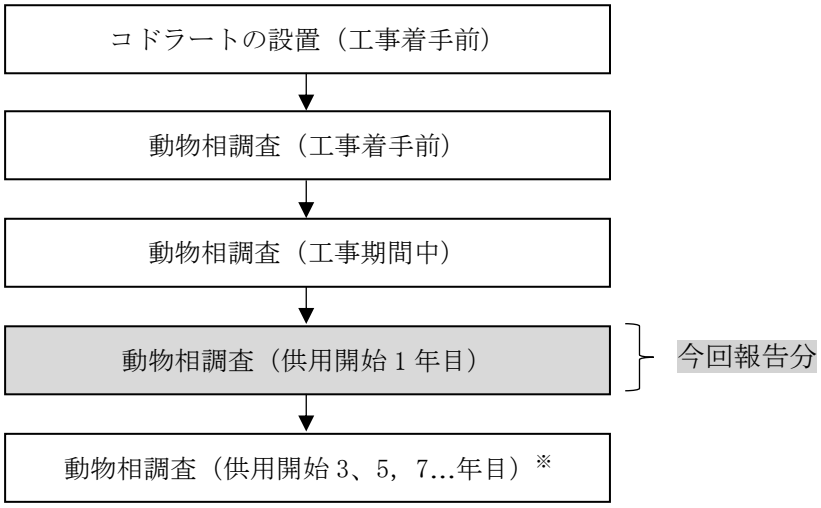


図 6-6-2-1　事後調査フロー

2-2　調査方法

残置森林内に 3 ヵ所、造成森林内に 2 ヵ所、計 5 ヵ所に 10m×10mのコドラートを設置し、コドラート及びその近辺で直接観察法及び任意採集法により動物相を記録しました。

また、コドラート内にはピットフォールトラップ 10 個を 1 晩設置し、地上徘徊性昆虫類やクモ類等の採集を行いました。

2-3　調査範囲及び調査地点

設置したコドラートの位置は、図 6-6-2-2 および図 6-6-2-3 に示したとおりです。

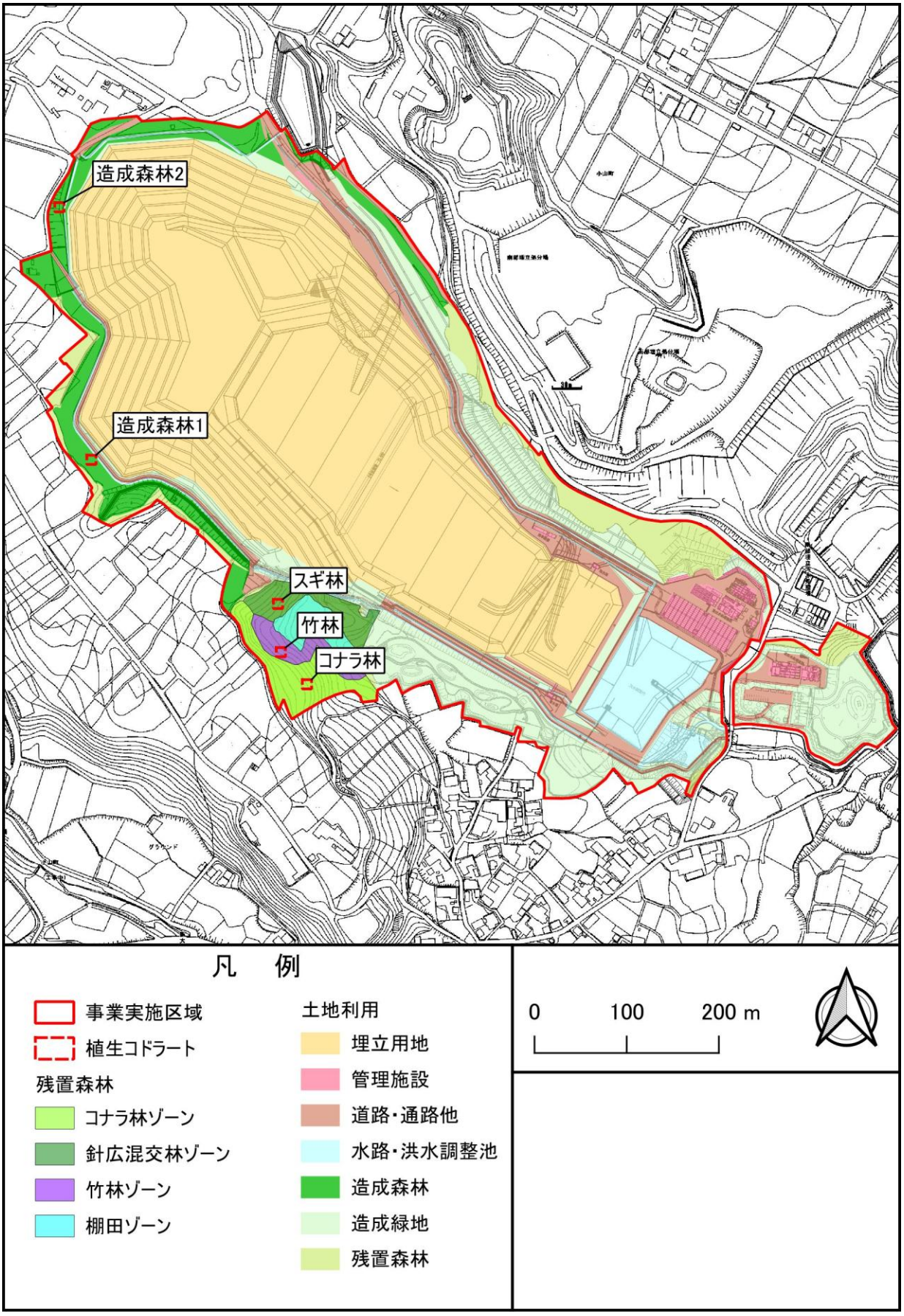


図 6-6-2-2　コドラート設置地点（広域）

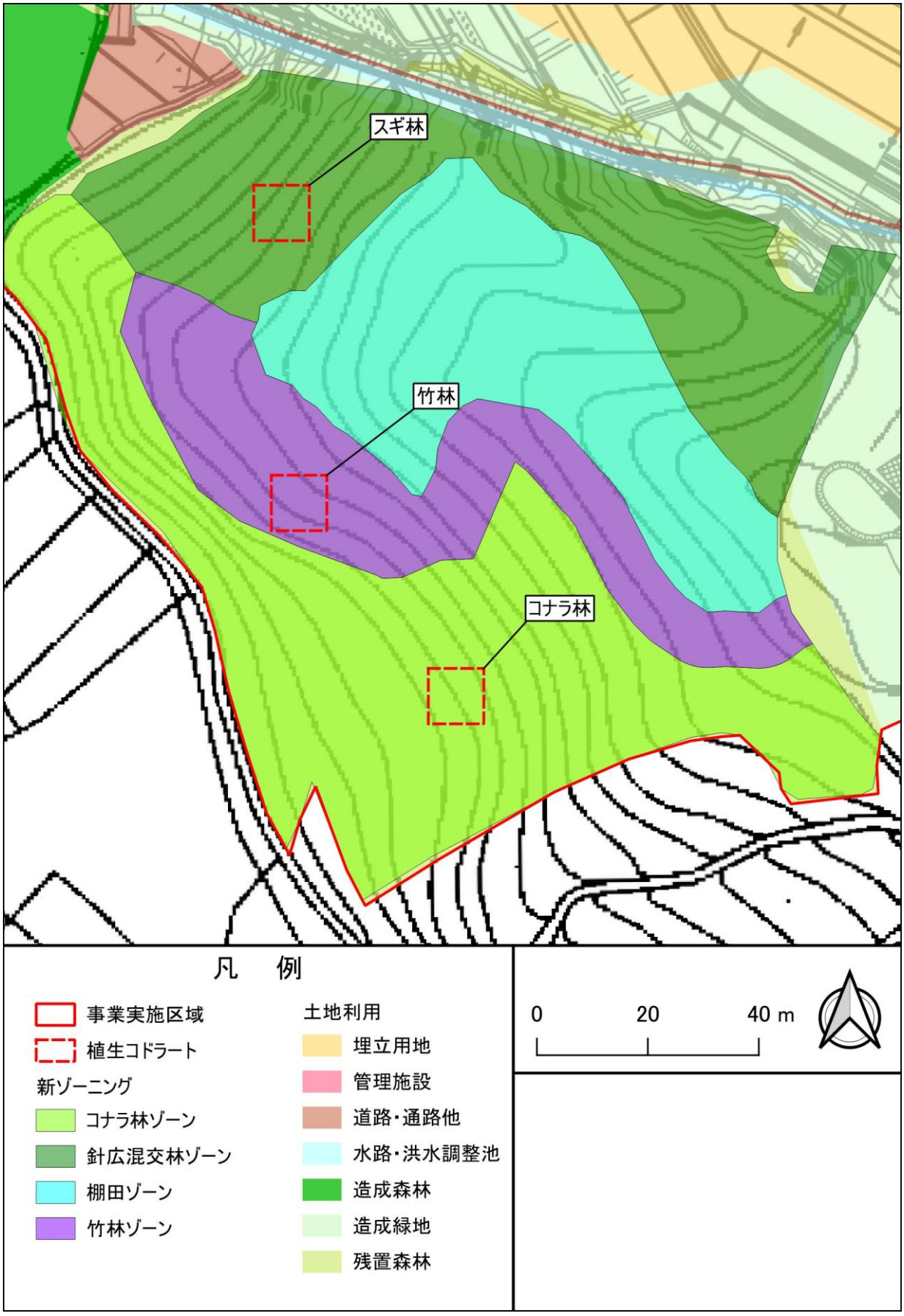


図 6-6-2-3(1)　コドラート設置地点（詳細）

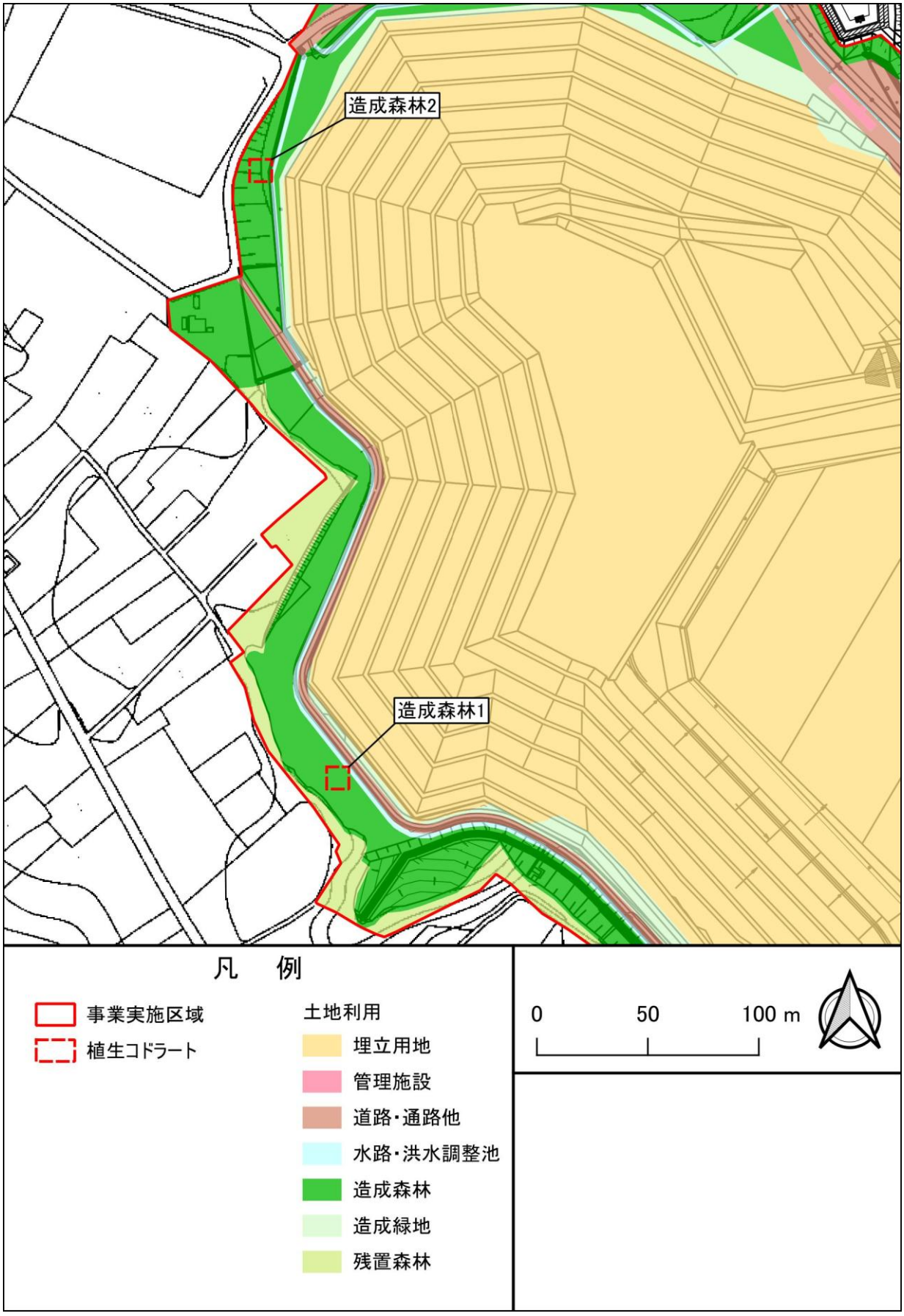


図 6-6-2-3(2)　コドラート設置地点（詳細）

2-4　調査時期

調査時期は表 6-6-2-1 に示したとおりです。

表 6-6-2-1　調査時期

対象	調査法	実施日
動物相	・直接観察法、任意採集法 ・ピットフォールトラップ法	令和 7 年 7 月　7 日～　8 日

2-5　調査結果

調査の結果、残置森林のうち、コナラ林ゾーンでは 57 種、スギ林ゾーンでは 45 種、竹林ゾーンでは 36 種の動物種が確認されました。

また、造成森林のうち、造成森林 1 では 11 種、造成森林 2 では 34 種が確認されました。

確認種の一覧は表 6-6-2-2 に示したとおりです。

確認種数はコナラ林で最も多く、確認種の大部分はクモ類、ヤスデ類、ムカデ類、昆虫類の節足動物門で構成されていますが、コナラ林では両生類であるニホンアマガエル、竹林では爬虫類であるニホンマムシも確認されました。

表 6-6-2-2(1)　動物相確認種一覧

No.	綱	科	種名	学名	コナラ林	スギ林	竹林	造成 1	造成 2
1	腹足	キセルガイ	シリオレギセル	*Tyrannophaedusa bilabrata*		5			
2		ナンバンマイマイ	ニッポンマイマイ	*Satsuma japonica japonica*			1		
3		オナジマイマイ	イセノナミマイマイ	*Euhadra eoa communisiformis*		1			
4	ミミズ	フトミミズ	フトミミズ属	*Pheretima* sp.	7	3			
5			フトミミズ科	Megascolecidae			4		
6	クモ	カマアカザトウムシ	ニホンアカザトウムシ	*Pseudobiantes japonicus*		1			
7		マシラグモ	ヨコフマシラグモ属	*Falcileptoneta* sp.	1				
8		ウズグモ	オウギグモ	*Hyptiotes affinis*	1				
9			マネキグモ	*Miagrammopes orientalis*			1		
10		ホラヒメグモ	コホラヒメグモ	*Nesticella brevipes*			1		
11		ヒメグモ	ムラクモヒシガタグモ	*Episinus nubilus*			1		
12		サラグモ	テナガグモ	*Bathyphantes gracilis*			1		
13			コデーニッツサラグモ	*Doenitzius pruvus*			1		
14			ノコギリヒザグモ	*Erigone prominens*					1
15			ナニワナンキングモ	*Mermessus naniwaensis*				1	
16			ニッポンケシグモ属	*Nippononeta* sp.		1			
17			サラグモ科	Linyphiidae	1	1			
18		アシナガグモ	チュウガタシロカネグモ	*Leucauge blanda*	1				
19			シロカネグモ属	*Leucauge* sp.			1		
20			アシナガグモ属	*Tetragnatha* sp.					1
21		コガネグモ	ナガコガネグモ	*Argiope bruennichi*					1
22			コガネグモ属	*Argiope* sp.	1	1			
23			ヒメオニグモ属	*Neoscona* sp.					3
24		コモリグモ	ウヅキコモリグモ	*Pardosa astrigera*				2	2
25		キシダグモ	スジブトハシリグモ	*Dolomedes saganus*	1				
26		ササグモ	ササグモ属	*Oxyopes* sp.					1
27		シボグモ	シボグモ	*Anahita fauna*	3	2			
28		タナグモ	クサグモ	*Agelena silvatica*	1		1		
29			コクサグモ	*Allagelena opulenta*	1				
30		ガケジグモ	ウスイロヤチグモ	*Coelotes decolor*	1		1		
31			ヤチグモ属	*Coelotes* sp.	4	1	3		
32			シモフリヤチグモ属	*Iwogumoa* sp.	1		1		
33		ウエムラグモ	イタチグモ	*Itatsina praticola*	1	1	3		
34			コムラウラシマグモ	*Otacilia komurai*	2	1			
35		フクログモ	フクログモ属	*Clubiona* sp.	2				
36		ワシグモ	ケムリグモ属	*Zelotes* sp.	1				
37		アシダカグモ	コアシダカグモ	*Sinopoda forcipata*		1	1		
38		カニグモ	ハナグモ	*Ebrechtella tricuspidata*					2
39			カニグモ属	*Xysticus* sp.	1				
40		ハエトリグモ	ジャバラハエトリ	*Helicius yaginumai*			1		
41			アリグモ属	*Myrmarachne* sp.	1				
42			シラホシコゲチャハエトリ	*Sitticus penicillatus*					1
43	軟甲	オカダンゴムシ	オカダンゴムシ	*Armadillidium vulagare*	1	25	7		
44		フナムシ	ニホンヒメフナムシ	*Ligidium japonicum*	2	8			
45		サワガニ	サワガニ	*Geothelphusa dehaani*		1			
46	ヤスデ	シロハダヤスデ	マクラギヤスデ	*Niponia nodulosa*		1			
47	ムカデ	ゲジ	ゲジ	*Thereuonema tuberculata*					1
48		イッスンムカデ	イッスンムカデ属	*Bothropolys* sp.	1		2		
49		メナシムカデ	アカムカデ	*Scolopocryptops sexspinosus*	5				
50		オオムカデ	アオズムカデ	*Scolopendra subspinipes japonica*		1			
51		ナガズジムカデ	ゴシチナガズジムカデ	*Mecistocephalus diversisternus*	1				

表 6-6-2-2(2)　動物相確認種一覧

No.	綱	科	種名	学名	コナラ林	スギ林	竹林	造成 1	造成 2
52	ムカデ	-	ジムカデ目	*Geophilomorpha*		1			
53	昆虫	アヤトビムシ	アヤトビムシ科	Entomobryidae			1	4	
54		ツチトビムシ	ツチトビムシ科	Isotomidae	3				
55		クモマルトビムシ	クモマルトビムシ科	Dicyrtomidae			1		
56		イシノミ	イシノミ	*Pedetontus nipponicus*			1		
57		カワトンボ	ハグロトンボ	*Atrocalopteryx atrata*			1		
58		カマキリ	オオカマキリ	*Tenodera sinensis*			1		
59		マルムネハサミムシ	ヒゲジロハサミムシ	*Anisolabella marginalis*	2				
60		オオハサミムシ	オオハサミムシ	*Labidura riparia*					2
61		カマドウマ	カマドウマ科	Rhaphidophoridae	1				
62		コオロギ	コオロギ科	Gryllidae	2		1		
63		ヒバリモドキ	マダラスズ	*Dianemobius nigrofasciatus*					1
64		バッタ	ショウリョウバッタ	*Acrida cinerea*					1
65		オンブバッタ	オンブバッタ科	Pyrgomorphidae				1	
66		ヒシバッタ	ヒシバッタ科	Tetrigidae					1
67		セミ	ニイニイゼミ	*Platypleura kaempferi*	2		2		
68		ヨコバイ	オオヨコバイ	*Cicadella viridis*				7	1
69		グンバイムシ	アワダチソウグンバイ	*Corythucha marmorata*				2	1
70		カスミカメムシ	ナカグロカスミカメ	*Adelphocoris suturalis*					1
71			アカホシカスミカメ	*Creontiades coloripes*					6
72			イネホソミドリカスミカメ	*Trigonotylus caelestialium*				1	
73			カスミカメムシ科	Miridae					10
74		マキバサシガメ	ハネナガマキバサシガメ	*Nabis stenoferus*					4
75		オオホシカメムシ	オオホシカメムシ	*Physopelta gutta*	1	1			
76		ホソヘリカメムシ	ヒメクモヘリカメムシ	*Paraplesius unicolor*	1				
77		ヘリカメムシ	ヒメトゲヘリカメムシ	*Coriomeris scabricornis*					1
78			ホシハラビロヘリカメムシ	*Homoeocerus unipunctatus*		2			
79		ナガカメムシ	ヒメオオメナガカメムシ	*Geocoris proteus*					1
80			オオモンシロナガカメムシ	*Metochus abbreviatus*	1				
81			ルイスチャイロナガカメムシ	*Neolethaeus lewisi*		1			
82			Nysius 属	*Nysius* sp.					5
83			ミナミホソナガカメムシ	*Paromius exiguus*					4
84		カメムシ	ウズラカメムシ	*Aelia fieberi*					1
85			ブチヒゲカメムシ	*Dolycoris baccarum*					5
86			ナガメ	*Eurydema rugosa*					1
87			ムラサキシラホシカメムシ	*Eysarcoris annamita*					1
88			シラホシカメムシ	*Eysarcoris ventralis*				1	
89			ミナミアオカメムシ	*Nezara viridula*					2
90			イチモンジカメムシ	*Piezodorus hybneri*					5
91		クサカゲロウ	クサカゲロウ科	Chrysopidae					1
92		タテハチョウ	クロコノマチョウ	*Melanitis phedima oitensis*		1	1		
93		オビヒメガガンボ	ダイミョウガガンボ	*Pedicia daimio*		3			
94		ガガンボ	ミカドガガンボ	*Holorusia mikado*		1			
95		カ	カ科	Culicidae	12	10	10		
96		ミズアブ	ハキナガミズアブ	*Rhaphiocerina hakiensis*		1			
97		ムシヒキアブ	ナミマガリケムシヒキ	*Neoitamus angusticornis*		1			
98		アシナガバエ	アシナガバエ科	Dolichopodidae	2				
99		ハナアブ	シロスジナガハナアブ	*Milesia undulata*	1				
100		ショウジョウバエ	ショウジョウバエ科	Drosophilidae			1		
101		ホソクビゴミムシ	オオホソクビゴミムシ	*Brachinus scotomedes*	1	1			
102		オサムシ	マヤサンオサムシ鈴鹿山脈南東部亜種	*Carabus maiyasanus suzukanus*	9		5		
103			オオアトボシアオゴミムシ	*Chlaenius micans*			3		

表 6-6-2-2(3)　動物相確認種一覧

No.	綱	科	種名	学名	コナラ林	スギ林	竹林	造成 1	造成 2
104	昆虫	オサムシ	アトボシアオゴミムシ	*Chlaenius naeviger*	23		8		
105			スジアオゴミムシ	*Haplochlaenius costiger*	1				
106			オオゴミムシ	*Lesticus magnus*	1				
107			キアシツヤヒラタゴミムシ	*Synuchus callitheres callitheres*			1		
108			オオクロツヤヒラタゴミムシ	*Synuchus nitidus*			1		
109		エンマムシ	コエンマムシ	*Margarinotus niponicus*		1			
110		ハネカクシ	ムネビロハネカクシ	*Algon grandicollis*		2			
111			ツマグロムネスジハネカクシ	*Hesperus tiro*		1			
112		センチコガネ	センチコガネ	*Phelotrupes laevistriatus*		3			
113		コガネムシ	ナガチャコガネ	*Heptophylla picea*		1			
114			マメダルマコガネ	*Panelus parvulus*	1	2			
115			ツヤエンマコガネ	*Parascatonomus nitidus*		1			
116			カブトムシ	*Trypoxylus dichotomus septentrionalis*	1				
117		コメツキムシ	ヒラタクシコメツキ	*Spheniscosomus koikei*	1	1			
118		ジョウカイモドキ	ヒロオビジョウカイモドキ	*Intybia historio*					1
119		テントウムシ	マクガタテントウ	*Coccinula crotchi*				1	1
120			ナミテントウ	*Harmonia axyridis*					1
121		キスイムシ	キスイムシ科	Cryptophagidae		1			
122		ケシキスイ	アカマダラケシキスイ	*Phenolia picta*	2				
123			ケシキスイ科	Nitidulidae		1			
124		ゴミムシダマシ	ニホンキマワリ本土亜種	*Plesiophthalmus nigrocyaneus nigrocyaneus*	1				
125			モトヨツコブエグリゴミムシダマシ	*Uloma bonzica*	1				
126		カミキリムシ	ホシベニカミキリ	*Eupromus ruber*		1			
127			ノコギリカミキリ	*Prionus insularis insularis*	4				
128		ハムシ	サメハダツブノミハムシ	*Aphthona strigosa*	1				
129		ヒゲナガゾウムシ	キマダラヒゲナガゾウムシ	*Tropideres naevulus*		1			
130		ゾウムシ	ホソゲチビツチゾウムシ	*Trachyphloeosoma advena*	2				
131		オサゾウムシ	スギキクイサビゾウムシ	*Dryophthorus japonicus*		1			
132		キクイムシ	キクイムシ科	Scolytidae	2	1			
133		アリ	オオハリアリ	*Brachyponera chinensis*	10	10	18		
134			ムネアカオオアリ	*Camponotus obscuripes*	4				
135			クロヤマアリ	*Formica japonica* (s. l.)				2	2
136			トビイロケアリ	*Lasius japonicus*	7	10			
137			ヒメアリ	*Monomorium intrudens*	10				
138			アメイロアリ	*Nylanderia flavipes*	1	1	1		
139			アミメアリ	*Pristomyrmex punctatus*	10			2	
140		スズメバチ	オオスズメバチ	*Vespa mandarinia*			1		
141	両生	アマガエル	ニホンアマガエル	*Dryophytes japonicus*	1				
142	爬虫	クサリヘビ	ニホンマムシ	*Gloydius blomhoffii*			1		
種類数					57	45	36	11	34

※表中の数字は任意採集及びピットフォールトラップによる確認数

2-6　過年度との比較

過年度の調査結果との比較は表 6-6-2-4 に示したとおりです。

確認種のうち大半を占める節足動物について、年度ごとに群集多様度を示す特徴の異なる 2 種類の生物多様性指数（シャノン多様度指数、シンプソン多様度指数）を算出しました。

各多様度指数については、表 6-6-2-3 に示すとおりです。

表 6-6-2-3　多様度指数について

	シャノン多様度指数（H'）	シンプソン多様度指数（$1-D$）
定義式	$H' = -\sum_{i=1}^{S} p_i \ln\ p_i$ S：確認種数 p_i：種 i の個体数の全体に占める割合	$1 - D = 1 - \sum_{i=1}^{S} (p_i)^2$ S：確認種数 p_i：種 i の個体数の全体に占める割合
特徴	・0 から 5 の値を取り、値が大きいほど多様性が高い。 ・種の豊富さと各種の個体数の偏りをバランスよく反映する。 ・比較的、希少種の確認が反映されやすい。	・0 から 1 の値を取り、値が大きいほど多様性が高い。 ・無作為に 2 個体を選んだ時、それらが異なる種である確率を表している。 ・比較的、優占種の確認が反映されやすい。

その結果は表 6-6-2-5 に示したとおり、群集多様度の推移はいずれの地点も現況調査である令和 3 年度と比較して、令和 4 年度に積極的な施業を行った直後の調査である令和 5 年度にはシャノン多様度指数が低下し、その後、下層植生が回復した令和 7 年度調査では向上していることが確認されました。

2-7　まとめ

今年度は、残置森林内で過年度に設置した 3 ヵ所のコドラートにおいて、コドラート内の動物相の調査を実施しました。

過年度の調査結果と比較したところ、森林施業を行うことで一時的に動物種の多様度が低下するものの、その後、一定期間を経て向上することが認められ、森林施業によって動物相の多様化につながる可能性が示唆されました。

以降も施業の実施と、隔年での調査を実施し、残置森林の質の向上に向けた取り組みと、その効果の検証を継続していくこととします。

また、施設の供用に伴い、新たに造成森林の 2 カ所にコドラートを設置し、コドラート内の動物相の調査を実施しました。

以降も隔年での調査を実施し、造成森林の成長に伴う動物相の変化について確認を継続していくこととします。

表 6-6-2-4(1)　過年度との比較（動物相）

No.	門	綱	科	種名	学名	コナラ林			スギ林			竹林		
						R3	R5	R7	R3	R5	R7	R3	R5	R7
1	軟体動物	腹足	キセルガイ	シリオレギセル	*Tyrannophaedusa bilabrata*						5			
2			ナンバンマイマイ	ニッポンマイマイ	*Satsuma japonica japonica*									1
3			オナジマイマイ	イセノナミマイマイ	*Euhadra eoa communisiformis*						1			
4	環形動物	ミミズ	フトミミズ	フトミミズ属	*Pheretima* sp.		1	7			3			
5				フトミミズ科	Megascolecidae									4
6	節足動物	クモ	ツチカニムシ	ツチカニムシ科	Chthoniidae		1					1		
7			カマアカザトウムシ	ニホンアカザトウムシ	*Pseudobiantes japonicus*						1			
8			イレコダニ	イレコダニ属	*Phthiracarus* sp.				1				1	
9			ウズタカダニ	ウズタカダニ属	*Neoliodes* sp.				1			1	1	
10			マシラグモ	ヨコフマシラグモ属	*Falcileptoneta* sp.			1	1					
11			タマゴグモ	ナルトミダニグモ	*Ischnothyreus narutomii*	2								
12			ウズグモ	オウギグモ	*Hyptiotes affinis*			1						
13				マネキグモ	*Miagrammopes orientalis*									1
14			ホラヒメグモ	コホラヒメグモ	*Nesticella brevipes*									1
15			ヒメグモ	ムラクモヒシガタグモ	*Episinus nubilus*									1
16			ヨリメグモ	ヨロイヒメグモ	*Comaroma maculosa*	4	1		1					
17			サラグモ	テナガグモ	*Bathyphantes gracilis*									1
18				コデーニッツサラグモ	*Doenitzius pruvus*									1
19				ニッポンケシグモ属	*Nippononeta* sp.						1			
20				サラグモ科	Linyphiidae			1			1			
21			アシナガグモ	チュウガタシロカネグモ	*Leucauge blanda*			1						
22				シロカネグモ属	*Leucauge* sp.									1
23			コガネグモ	コガネグモ属	*Argiope* sp.			1			1			
24			キシダグモ	スジブトハシリグモ	*Dolomedes saganus*			1						
25			シボグモ	シボグモ	*Anahita fauna*			3	1		2	2		
26			タナグモ	クサグモ	*Agelena silvatica*			1						1
27				コクサグモ	*Allagelena opulenta*			1						
28			ナミハグモ	Cybaeus 属	*Cybaeus* sp.	2								
29				ナミハグモ科	Cybaeidae	1	1		3	1				
30			ガケジグモ	ウスイロヤチグモ	*Coelotes decolor*			1						1
31				ヤチグモ属	*Coelotes* sp.			4			1			3
32				シモフリヤチグモ属	*Iwogumoa* sp.			1						1
33			ウエムラグモ	イタチグモ	*Itatsina praticola*	4	1	1	2		1			3
34				コムラウラシマグモ	*Otacilia komurai*			2			1			
35			フクログモ	フクログモ属	*Clubiona* sp.			2						
36			ワシグモ	ケムリグモ属	*Zelotes* sp.			1						
37			アシダカグモ	コアシダカグモ	*Sinopoda forcipata*						1			1
38			カニグモ	カニグモ属	*Xysticus* sp.			1						
39			ハエトリグモ	ウデブトハエトリ	*Harmochirus insulanus*		1							
40				ジャバラハエトリ	*Helicius yaginumai*									1
41				アリグモ属	*Myrmarachne* sp.			1						
42		軟甲	コシビロダンゴムシ	タマコシビロダンゴムシ属	*Spherillo* sp.	5			6			1		
43			オカダンゴムシ	オカダンゴムシ	*Armadillidium vulagare*			1			25			7
44			フナムシ	ニホンヒメフナムシ	*Ligidium japonicum*	2	1	2	8	3	8	3	1	
45				Ligidium 属	*Ligidium* sp.					1			1	
46			サワガニ	サワガニ	*Geothelphusa dehaani*						1			
47		ヤスデ	ヒメヤスデ	Anaulaciulus 属	*Anaulaciulus* sp.							1		
48			ヤケヤスデ	ヤケヤスデ科	Paradoxosomatidae		1					1		
49			オビヤスデ	Epanerchodus 属	*Epanerchodus* sp.		2						1	
50			シロハダヤスデ	マクラギヤスデ	*Niponia nodulosa*						1			
51		ムカデ	イッスンムカデ	イッスンムカデ属	*Bothropolys* sp.			1						2
52				Bothropolys 属	*Bothropolys* sp.	2	1		1			1		

表 6-6-2-4(2)　過年度との比較（動物相）

No.	門	綱	科	種名	学名	コナラ林			スギ林			竹林		
						R3	R5	R7	R3	R5	R7	R3	R5	R7
53	節足動物	ムカデ	メナシムカデ	アカムカデ	*Scolopocryptops sexspinosus*			5	1	1		1		
54			オオムカデ	アオズムカデ	*Scolopendra subspinipes japonica*						1			
55			アカムカデ	ケアカムカデ	*Scolopocryptops elegans*								1	
56			ナガズジムカデ	ゴシチナガズジムカデ	*Mecistocephalus diversisternus*			1						
57				ツメジムカデ属	*Arrup* sp.	1			1					
58			–	ジムカデ目	*Geophilomorpha*						1			
59		昆虫	イボトビムシ	イボトビムシ科	Neanuridae	40	5					30	3	
60			アヤトビムシ	アヤトビムシ科	Entomobryidae									1
61			ツチトビムシ	ツチトビムシ科	Isotomidae			3						
62			トゲトビムシ	トゲトビムシ科	Tomoceridae	6	3		3	2		2	2	
63			クモマルトビムシ	クモマルトビムシ科	Dicyrtomidae									1
64			ナガコムシ	ナガコムシ科	Campodeidae				1					
65			イシノミ	イシノミ	*Pedetontus nipponicus*									1
66				イシノミ科	Machilidae	2								
67			カワトンボ	ハグロトンボ	*Atrocalopteryx atrata*									1
68			カマキリ科	オオカマキリ	*Tenodera sinensis*									1
69			ミゾガシラシロアリ	ヤマトシロアリ	*Reticulitermes speratus speratus*	2								
70			マルムネハサミムシ	ヒゲジロハサミムシ	*Anisolabella marginalis*			2						
71			カマドウマ	カマドウマ科	Rhaphidophoridae	2		1	2			1		
72			コオロギ	コオロギ科	Gryllidae			2						1
73			ナナフシ	トゲナナフシ	*Neohirasea japonica*					1				
74			セミ	ニイニイゼミ	*Platypleura kaempferi*			2						2
75			ヨコバイ	トバヨコバイ	*Alobaldia tobae*	1								
76			オオホシカメムシ	オオホシカメムシ	*Physopelta gutta*			1			1			
77			ホソヘリカメムシ	ヒメクモヘリカメムシ	*Paraplesius unicolor*			1						
78			ヘリカメムシ	ホシハラビロヘリカメムシ	*Homoeocerus unipunctatus*						2			
79			ナガカメムシ	オオモンシロナガカメムシ	*Metochus abbreviatus*			1						
80				ルイスチャイロナガカメムシ	*Neolethaeus lewisi*						1			
81			タテハチョウ	クロコノマチョウ	*Melanitis phedima oitensis*						1			1
82			オビヒメガガンボ	ダイミョウガガンボ	*Pedicia daimio*						3			
83			ガガンボ	ミカドガガンボ	*Holorusia mikado*						1			
84				ガガンボ科	Tipulidae				1					
85			カ	カ科	Culicidae			12			10			10
86			クロバネキノコバエ	クロバネキノコバエ科	Sciaridae	2			6					
87			ミズアブ	ハキナガミズアブ	*Rhaphiocerina hakiensis*						1			
88			ムシヒキアブ	ナミマガリケムシヒキ	*Neoitamus angusticornis*						1			
89			アシナガバエ	アシナガバエ科	Dolichopodidae			2						
90			ノミバエ	ノミバエ科	Phoridae	2			3			2		
91			ハナアブ	シロスジナガハナアブ	*Milesia undulata*			1						
92			ハモグリバエ	ハモグリバエ科	Agromyzidae	2								
93			ショウジョウバエ	ショウジョウバエ科	Drosophilidae									1
94			ホソクビゴミムシ	オオホソクビゴミムシ	*Brachinus scotomedes*			1			1		1	
95			オサムシ	マヤサンオサムシ 鈴鹿山脈南東部亜種	*Carabus maiyasanus suzukanus*	2		9	3			4		5
96				オオアトボシアオゴミムシ	*Chlaenius micans*									3
97				アトボシアオゴミムシ	*Chlaenius naeviger*	17	16	23	4	7		24	8	8
98				クビボソゴミムシ	*Galerita orientalis*					2				
99				スジアオゴミムシ	*Haplochlaenius costiger*		1	1				1		
100				ヒメケゴモクムシ	*Harpalus jureceki*					1				
101				オオゴミムシ	*Lesticus magnus*			1						
102				クビナガゴモクムシ	*Oxycentrus argutoroides*		1						2	
103				コガシラナガゴミムシ	*Pterostichus microcephalus*							1		

表 6-6-2-4(3)　過年度との比較（動物相）

No.	門	綱	科	種名	学名	コナラ林			スギ林			竹林		
						R3	R5	R7	R3	R5	R7	R3	R5	R7
104	節足動物	昆虫	オサムシ	マルガタナガゴミムシ	*Pterostichus subovatus*				2					
105				マルガタツヤヒラタゴミムシ	*Synuchus arcuaticollis*				1					
106				キアシツヤヒラタゴミムシ	*Synuchus callitheres callitheres*									1
107				オオクロツヤヒラタゴミムシ	*Synuchus nitidus*									1
108				ルイスオオゴミムシ	*Trigonotoma lewisii*							1		
109			エンマムシ	コエンマムシ	*Margarinotus niponicus*						1			
110			タマキノコムシ	オチバヒメタマキノコムシ	*Dermatohomoeus terrena*	1						2		
111			ハネカクシ	ムネビロハネカクシ	*Algon grandicollis*						2			
112				ズグロアカヒメハネカクシ	*Atheta weisei*	1								
113				ツマグロムネスジハネカクシ	*Hesperus tiro*						1			
114				Scaphisoma 属	*Scaphisoma* sp.					1				
115				ハネカクシ科	Staphylinidae	3								
116			センチコガネ	センチコガネ	*Phelotrupes laevistriatus*						3			
117			コガネムシ	ナガチャコガネ	*Heptophylla picea*						1			
118				フトカドエンマコガネ	*Onthophagus fodiens*							1		
119				マメダルマコガネ	*Panelus parvulus*	2		1			2	1		
120				ツヤエンマコガネ	*Parascatonomus nitidus*						1			
121				カブトムシ	*Trypoxylus dichotomus septentrionalis*		1	1						
122			コメツキムシ	フタモンウバタマコメツキ	*Cryptalaus larvatus pini*	1								
123				ヒラタクシコメツキ	*Spheniscosomus koikei*			1			1			
124				コメツキムシ科	Elateridae	1	1							
125			キスイムシ	キスイムシ科	Cryptophagidae						1			
126			ケシキスイ	アカマダラケシキスイ	*Phenolia picta*			2						
127			ケシキスイ	ケシキスイ科	Nitidulidae						1			
128			ゴミムシダマシ	ニホンキマワリ本土亜種	*Plesiophthalmus nigrocyaneus nigrocyaneus*			1						
129				モトヨツコブエグリゴミムシダマシ	*Uloma bonzica*			1						
130			カミキリムシ	ホシベニカミキリ	*Eupromus ruber*						1			
131				ノコギリカミキリ	*Prionus insularis insularis*			4						
132			ハムシ	サメハダツブノミハムシ	*Aphthona strigosa*			1						
133			ヒゲナガゾウムシ	キマダラヒゲナガゾウムシ	*Tropideres naevulus*						1			
134			ゾウムシ	ホソゲチビツチゾウムシ	*Trachyphloeosoma advena*			2						
135				フトゲチビツチゾウムシ	*Trachyphloeosoma roelofsi*	1								
136			オサゾウムシ	スギキクイサビゾウムシ	*Dryophthorus japonicus*						1			
137			キクイムシ	キクイムシ科	Scolytidae			2			1			
138			アリ	オオハリアリ	*Brachyponera chinensis*	15	8	10	43	1	10	19	4	18
139				ムネアカオオアリ	*Camponotus obscuripes*	1	3	4	2					
140				キイロシリアゲアリ	*Crematogaster osakensis*				1					
141				ニセハリアリ	*Hypoponera sauteri*	1								
142				トビイロケアリ	*Lasius japonicus*			7			10	1		
143				ヒメアリ	*Monomorium intrudens*			10	1					
144				アメイロアリ	*Nylanderia flavipes*	3	1	1			1	2		1
145				テラニシハリアリ	*Ponera scabra*				1					
146				アミメアリ	*Pristomyrmex punctatus*			10						
147				ウロコアリ	*Strumigenys lewisi*	1	1		1					
148				ウメマツアリ	*Vollenhovia emeryi*				1					
149			スズメバチ	オオスズメバチ	*Vespa mandarinia*									1
150	脊椎動物	両生	イモリ	アカハライモリ	*Cynops pyrrhogaster*	1								
151			アマガエル	ニホンアマガエル	*Dryophytes japonicus*	1	1	1						
152		爬虫	タカチホヘビ	タカチホヘビ	*Achalinus spinalis*		1							
153			クサリヘビ	ニホンマムシ	*Gloydius blomhoffii*	1								1
種類数						24	12	36	29	11	45	35	23	57
合計確認個体数						104	26	90	103	21	117	135	54	164

表 6-6-2-5　多様度指数の推移

多様度指数	調査地点	令和 3 年度	令和 5 年度	令和 7 年度
シャノン多様度指数（H'）	コナラ林	2.69	2.42	3.45
	スギ林	2.46	2.11	3.03
	竹林	2.24	2.17	2.93
シンプソン多様度指数（$1-D$）	コナラ林	0.869	0.854	0.948
	スギ林	0.805	0.834	0.910
	竹林	0.825	0.846	0.912

第 3 項　植物相・植生

3-1　調査概要

増設事業の実施に伴い増設事業区域内の森林面積が減少することから、増設事業区域内の動物相に対する影響が予測されました。これに対する保全措置として、「残置森林・造成森林等の順応的管理」を行うこととしています。また、順応的管理の指標として、植物相の状況に応じて、管理手法の検討を継続的に実施することとしています。

事後調査のフローは図 6-6-3-1 に示すとおり、残置森林内に 3 ヵ所（コナラ林、スギ林、竹林）、造成森林内に 2 ヵ所、計 5 ヵ所にコドラートを設置し、同範囲内における植物相及び植生を調査し、工事の実施や森林施業による影響を受けた現状を把握するための基礎データの収集を行いました。

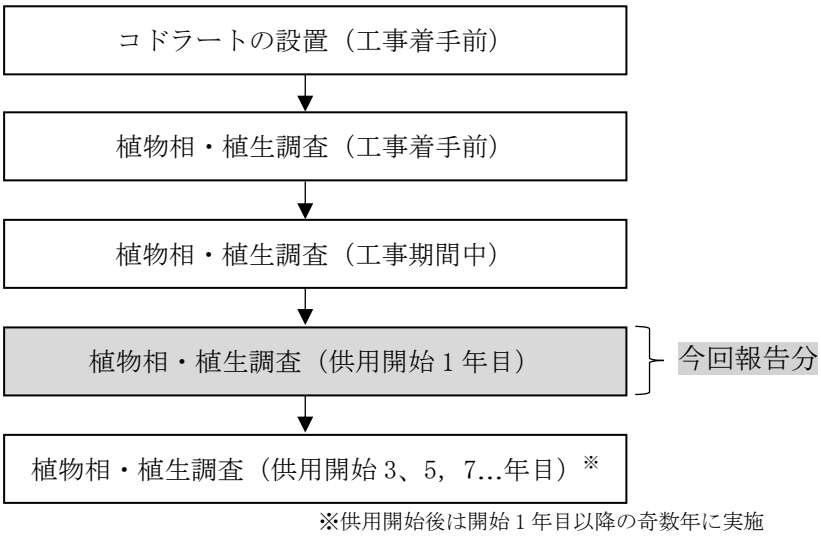


図 6-6-3-1　事後調査フロー

3-2　調査方法

10m×10mのコドラートを設置し、目視によりコドラート内の植物相を記録するとともに、植生調査票を作成しました。

3-3　調査範囲及び調査地点

設置したコドラートの位置は、前掲の図 6-6-2-2 および図 6-6-2-3 に示したとおりです。

3-4　調査時期

調査時期は表 6-6-3-1 に示すとおりです。

表 6-6-3-1　調査時期

対象	調査法	実施日
植物相・植生	・直接観察法 ・Braum-Blanquet による植生調査法	令和 7 年　7 月　7 日～　8 日

3-5　調査結果

調査の結果、残置森林のうち、コナラ林ゾーンでは 46 種、スギ林ゾーンでは 39 種、竹林ゾーンでは 41 種の植物種が確認されました。

また、造成森林のうち、造成森林 1 では 23 種、造成森林 2 では 28 種の植物種が確認されました。

確認種の一覧は表 6-6-3-2 に、各コドラートの植生調査票は表 6-6-3-3 に示すとおりです。

また、各コドラートの植生状況は以下のとおりです。

①コナラ林ゾーン

【コドラート内】

高木層にコナラが優占する落葉広葉樹林ですが、コナラ林としては衰退傾向にあり、タケ類が侵入、繁茂していました。立地は斜面中部の適湿地であり、亜高木層にハチク、低木層にシロダモ、草本層にフユイチゴとケチヂミザサが優占し、亜高木層のコナラ、低木層のクロバイ、ムラサキシキブ、エゴノキ、草本層のハシゴシダ、ムクノキ、カスミザクラ、ヤマウルシ、コバノガマズミ等、落葉樹林の構成種の生育が認められました。林内は比較的明るい環境にありました。

【コドラート周辺の植物相】

基本的にコドラート内と同様ですが、東側（山側）はシダ類や草本類の種数・個体数が減少、西側（谷側）は倒竹があり荒れた様相を呈しており、また、周辺にはコナラの枯死木が点在していました。高木層にコナラが優占する落葉広葉樹林ですが、コナラ林としては衰退傾向にあり、タケ類が侵入、繁茂していました。立地は、斜面中部の適湿地であり、亜高木層にハチク、低木層にシロダモ、草本層にフユイチゴが優占していました。

亜高木層のコナラ、低木層のクロバイ、ムラサキシキブ、エゴノキ、草本層のハシゴシダ、ムクノキ、カスミザクラ等、落葉林の名残と思われる種の生育がみられましたが、タケ類が無秩序に生育しているため、林内は明るいところとやや暗いところが混在している状況でした。

②スギ林ゾーン

【コドラート内】

高木層にスギが優占する荒れた針葉樹林で、立地は谷へ向かうやや湿った傾斜地となっており、亜高木層にタブノキ、低木層にアラカシ、シロダモ、ヒサカキ、草本層にベニシダ、フモトシダ、ネザサ、アラカシ、ハシゴシダが優占していました。常緑樹とシダ類が多く、林内は暗い環境にありました。

【コドラート周辺の植物相】

基本的にコドラート内と同様ですが、東側はタブノキが増加しスギが減少、北側（山側）はサカキが増加しシダ類が減少、南側は比較的明るい谷に近接しているため、ドクダミ、ミゾソバ、ノリウツギ等の湿生種の周辺にネザサ、セイタカアワダチソウの高茎草本類、アカメガシワ、クサギ、ヤマグワ等の低木類が生育していました。高木層にスギが優占する荒れた針葉植林であり、亜高木層にタブノキ、低木層にアラカシ、シロダモ、ヒサカキ、草本層にベニシダ、フモトシダ、ハシゴシダ等が優占していました。常緑樹とシダ類が多く、林内は暗い状況でした。

③竹林ゾーン

【コドラート内】

亜高木層にモウソウチクが優占する竹林であり、竹の幹茎が比較的揃っており、林内には低木類がほとんど見られず、草本層の出現種数は多いものの、植被率は低く見通しの良い状況にありました。立地は斜面中下部のやや湿～適湿の傾斜地となっており、高木層にスギが散生、低木層にタブノキ等が単生、草本層にベニシダが優占していました。

【コドラート周辺の植物相】

基本的にコドラート内と同様ですが、東側は谷側に移行するためにベニシダ、フモトシダ等のシダ類やフユイチゴ、ドクダミ等の湿った立地に生育する種が多く見られました。また竹類の倒木とともにスギが多くなる傾向がみられました。

④造成森林 1

【コドラート内】

新たに造成した平坦地に低木のアラカシを植栽しています。向陽の乾燥した立地のためギョウギシバ、エノコログサ、ヒメムカシヨモギ、セイタカアワダチソウ、ヒメジョオンなどの荒地雑草が疎らに生育していました。

【コドラート周辺の植物相】

基本的にコドラート内と同様な状況ですが、山側には残置森林である竹林が隣接しているために、比較的土壌が流入しやすい状況にあり、クサギ、アカメガシワ、マグワ、クズ等の林縁植物の他に、アキノエノコログサ、ヤブカラシ、コセンダングサ、ヒナタイノコヅチ、ヨモギ等多様な種が生育していました。

⑤造成森林 2

【コドラート内】

新たに造成した平坦地に低木のアラカシを植栽しています。向陽の乾燥した立地のためギョウギシバ、シロツメクサ、アレチハナガサ、ヒメムカシヨモギ、セイタカアワダチソウ、ヒメジョオンなどの荒地雑草が生育しており、造成地 1 とほぼ同様な環境でしたが、こちらの方が草本類の種数が多く、植被率も高くなっていました。

【コドラート周辺の植物相】

基本的にコドラート内と同様な状況でした。

表 6-6-3-2(1)　植物相確認種一覧

No.	門	科	種名	学名	コナラ林	スギ林	竹林	造成1	造成2
1	シダ植物	トクサ	スギナ	*Equisetum arvense*				○	○
2		ゼンマイ	ゼンマイ	*Osmunda japonica*		○			
3		ウラジロ	コシダ	*Dicranopteris linearis*	○				
4			ウラジロ	*Diplopterygium glaucum*	○				
5		コバノイシカグマ	コバノイシカグマ	*Dennstaedtia scabra*	○				
6			フモトシダ	*Microlepia marginata*	○	○	○		
7		イノモトソウ	イワガネゼンマイ	*Coniogramme intermedia*			○		
8		ヒメシダ	ハシゴシダ	*Thelypteris glanduligera*		○			
9			ハリガネワラビ	*Thelypteris japonica*	○				
10			ヤワラシダ	*Thelypteris laxa*	○				
11		オシダ	オニカナワラビ	*Arachniodes chinensis*		○	○		
12			ベニシダ	*Dryopteris erythrosora*	○	○	○		
13			オオベニシダ	*Dryopteris hondoensis*	○	○	○		
14		ウラボシ	ノキシノブ	*Lepisorus thunbergianus*		○			
15	種子植物	マキ	イヌマキ	*Podocarpus macrophyllus*		○			
16		ヒノキ	ヒノキ	*Chamaecyparis obtusa*		○			
17			スギ	*Cryptomeria japonica* var. *japonica*		○	○		
18		マツブサ	サネカズラ	*Kadsura japonica*		○	○		
19		ドクダミ	ドクダミ	*Houttuynia cordata*		○	○		
20		クスノキ	ヤブニッケイ	*Cinnamomum yabunikkei*	○	○			
21			ヤマコウバシ	*Lindera glauca*		○			
22			タブノキ	*Machilus thunbergii*	○	○	○		
23			シロダモ	*Neolitsea sericea* var. *sericea*	○	○	○		
24		ヤマノイモ	ヤマノイモ	*Dioscorea japonica*	○				
25			オニドコロ	*Dioscorea tokoro*	○		○		
26		ラン	キンラン	*Cephalanthera falcata*	○				
27			コクラン	*Liparis nervosa*	○		○		
28		クサスギカズラ	ナガバジャノヒゲ	*Ophiopogon japonicus* var. *umbrosus*		○	○		
29		ツユクサ	ツユクサ	*Commelina communis* var. *communis*			○		
30		イネ	ギョウギシバ	*Cynodon dactylon*				○	○
31			メヒシバ	*Digitaria ciliaris*				○	
32			コメヒシバ	*Digitaria radicosa*				○	
33			アオカモジグサ	*Elymus racemifer*					○
34			チガヤ	*Imperata cylindrica* var. *koenigii*				○	
35			ネズミホソムギ	*Lolium x hybridum*				○	○
36			ササクサ	*Lophatherum gracile*		○			
37			ケチヂミザサ	*Oplismenus undulatifolius* var. *undulatifolius*	○	○	○		
38			タチスズメノヒエ	*Paspalum urvillei*					○
39			モウソウチク	*Phyllostachys edulis*			○		
40			ハチク	*Phyllostachys nigra* var. *henonis*	○				
41			ネザサ	*Pleioblastus argenteostriatus*	○	○			
42			ヒエガエリ	*Polypogon fugax*				○	○
43			アキノエノコログサ	*Setaria faberi*					○
44			エノコログサ	*Setaria viridis* var. *minor*				○	○
45			ナギナタガヤ	*Vulpia myuros* var. *myuros*					○
46		アケビ	ミツバアケビ	*Akebia trifoliata* ssp. *trifoliata*		○	○		
47		ツヅラフジ	アオツヅラフジ	*Cocculus trilobus*		○	○		
48		ブドウ	ノブドウ	*Ampelopsis glandulosa* var. *heterophylla*		○			
49			ツタ	*Parthenocissus tricuspidata*	○		○		
50		マメ	ノササゲ	*Dumasia truncata*		○			
51			ヌスビトハギ	*Hylodesmum podocarpum* ssp. *oxyphyllum* var. *japonicum*		○			

表 6-6-3-2(2)　植物相確認種一覧

No.	門	科	種名	学名	コナラ林	スギ林	竹林	造成1	造成2
52	種子植物	マメ	メドハギ	*Lespedeza cuneata* var. *cuneata*				○	○
53			コメツブツメクサ	*Trifolium dubium*					○
54			シロツメクサ	*Trifolium repens*				○	○
55			フジ	*Wisteria floribunda*	○	○			
56		グミ	ツルグミ	*Elaeagnus glabra*	○		○		
57		アサ	ムクノキ	*Aphananthe aspera*	○	○	○		
58			エノキ	*Celtis sinensis*	○				
59		クワ	ヒメコウゾ	*Broussonetia monoica*	○				
60			ヤマグワ	*Morus australis*			○		
61		バラ	ヤマザクラ	*Cerasus jamasakura* var. *jamasakura*			○		
62			カナメモチ	*Photinia glabra*			○		
63			フユイチゴ	*Rubus buergeri*		○	○		
64		ブナ	ツブラジイ	*Castanopsis cuspidata*		○			
65			アラカシ	*Quercus glauca*	○	○	○	○	○
66			コナラ	*Quercus serrata* ssp. *Serrata* var. *serrata*	○				
67		カバノキ	ハンノキ	*Alnus japonica*			○		
68		カタバミ	オッタチカタバミ	*Oxalis dillenii*				○	○
69		トウダイグサ	エノキグサ	*Acalypha australis*				○	
70			オオニシキソウ	*Euphorbia nutans*					○
71			アカメガシワ	*Mallotus japonicus*	○	○	○		
72		スミレ	ツボスミレ	*Viola verecunda* var. *verecunda*		○			
73			シハイスミレ	*Viola violacea* var. *violacea*	○				
74		アカバナ	メマツヨイグサ	*Oenothera biennis*				○	○
75		ウルシ	ハゼノキ	*Toxicodendron succedaneum*	○				
76			ヤマウルシ	*Toxicodendron trichocarpum*	○	○	○		
77		アブラナ	マメグンバイナズナ	*Lepidium virginicum*				○	
78		タデ	ミズヒキ	*Persicaria filiformis*	○		○		
79			ヤナギタデ	*Persicaria hydropiper*				○	
80			スイバ	*Rumex acetosa*					○
81		ヒユ	イノコヅチ	*Achyranthes bidentata* var. *japonica*			○		
82			アカザ	*Chenopodium album* var. *centrorubrum*				○	○
83		アジサイ	ノリウツギ	*Heteromalla paniculata*			○		
84		サカキ	サカキ	*Cleyera japonica*	○				
85			ヒサカキ	*Eurya japonica*	○	○			
86		サクラソウ	カラタチバナ	*Ardisia crispa* var. *crispa*			○		
87		ツバキ	チャノキ	*Camellia sinensis* var. *sinensis*	○	○	○		
88		ハイノキ	クロバイ	*Symplocos prunifolia* var. *prunifolia*	○				
89		エゴノキ	エゴノキ	*Styrax japonicus*	○		○		
90		アオキ	アオキ	*Aucuba japonica* var. *japonica*	○	○	○		
91		アカネ	ヘクソカズラ	*Paederia foetida*			○		
92		キョウチクトウ	テイカカズラ	*Trachelospermum asiaticum*	○	○	○		
93		モクセイ	ネズミモチ	*Ligustrum japonicum* var. *japonicum*	○	○	○		
94		オオバコ	ツボミオオバコ	*Plantago virginica*					○
95		シソ	ムラサキシキブ	*Callicarpa japonica* var. *japonica*	○				
96			ヤブムラサキ	*Callicarpa mollis*	○				
97			クサギ	*Clerodendrum trichotomum*	○	○	○		
98		クマツヅラ	アレチハナガサ	*Verbena brasiliensis*				○	○
99		キク	ヨモギ	*Artemisia indica* var. *maximowiczii*					○

表 6-6-3-2(3)　植物相確認種一覧

No.	門	科	種名	学名	コナラ林	スギ林	竹林	造成1	造成2
100	種子植物	キク	コセンダングサ	*Bidens pilosa* var. *pilosa*				○	○
101			ヒメジョオン	*Erigeron annuus*				○	○
102			ヒメムカシヨモギ	*Erigeron canadensis*				○	○
103			オオアレチノギク	*Erigeron sumatrensis*				○	○
104			コウゾリナ	*Picris hieracioides* ssp. *Japonica* var. *japonica*					○
105			セイタカアワダチソウ	*Solidago altissima*				○	○
106			ヒロハホウキギク	*Symphyotrichum subulatum* var. *squamatum*					○
107		ウコギ	ウド	*Aralia cordata*	○				
108			タラノキ	*Aralia elata*	○		○		
109			カクレミノ	*Dendropanax trifidus*	○				
110			タカノツメ	*Gamblea innovans*	○				
種類数					41	110	39	46	23

表 6-6-3-3(1)　植生調査票（コナラ林ゾーン）

		調査期日	2025年7月23日		
No.3	調査地：新小山廃棄物処分センター			天候	晴
地形	山頂・尾根・斜面（上・中）下・凸・凹）・大地・扇状地・平地・谷			海抜	96m
位置	N34 967248, E136 24855（中心点の座標）			方位	N40E
群落	落葉広葉樹林	面積	10m×10m	傾斜	5°
土質	褐色森林土	日照	中陰	風当	弱
土湿	適				

群落名	コナラ群落

階層構造		高さ(m)	植被率(%)	優占種	胸高直径(cm)	種数
Ⅰ	高木層	～18.0	50	コナラ	−	1
Ⅱ	亜高木層	～8.0	80	ハチク	−	2
Ⅲ	低木層	～4.5	30	シロダモ	−	12
Ⅳ	草本層	～1.5	80	ﾌﾕｲﾁｺﾞ･ｹﾁﾁﾞﾐｻﾞｻ	−	45

階層	被度・群度	種名
Ⅰ	3・3	コナラ
Ⅱ	5・5	ハチク
	1・1	コナラ
Ⅲ	2・2	シロダモ
	1・1	アオキ
	1・1	ムラサキシキブ
	+	ヒメコウゾ
	+	ハチク
	+	タラノキ
	+	クロバイ
	+	サカキ
	+	エゴノキ
	+	ヒサカキ
	+	アカメガシワ
	+	フジ

階層	被度・群度	種名
Ⅳ	3・3	フユイチゴ
	3・3	ケチヂミザサ
	2・2	ベニシダ
	2・2	フジ
	2・2	オオベニシダ
	2・2	ヒサカキ
	1・1	フモトシダ
	1・1	タブノキ
	1・1	ヒサカキ
	1・1	ネザサ
	1・1	キンラン
	1・1	ハリガネワラビ
	1・1	カクレミノ
	1・1	コナラ
	+・2	ウド
	+・2	ヤマノイモ
	+・2	ネズミモチ
	+・2	コクラン
	+・2	ウド
	+	ヤマウルシ
	+	コシダ
	+	コバノイシカグマ
	+	ムクノキ
	+	ツタ
	+	クロバイ
	+	テイカカズラ
	+	ハゼノキ
	+	オニドコロ
	+	クサギ
	+	ヒメコウゾ

階層	被度・群度	種名
Ⅳ	+	タラノキ
	+	ヤワラシダ
	+	ウラジロ
	+	エノキ
	+	ヤブムラサキ
	+	ミズヒキ
	+	シロダモ
	+	アラカシ
	+	エゴノキ
	+	タカノツメ
	+	ツルグミ
	+	ヤブニッケイ
	+	チャノキ
	+	シハイスミレ
	+	カナメモチ

表 6-6-3-3(2)　植生調査票（スギ林ゾーン）

		調査期日	2025年7月23日		
No.1	調査地：新小山廃棄物処分センター			天候	晴
地形	山頂・尾根・斜面（上・中・下・凸・凹）・大地・扇状地・平地・谷			海抜	97m
位置	N34 967983, E136 524552（中心点の座標）			方位	S20E
群落	針葉植林	面積	10m×10m	傾斜	5°
土質	褐色森林土	日照	中陰	風当	弱
土湿	やや湿～適				

群落名	スギ―ヒノキ群落

階層構造		高さ(m)	植被率(%)	優占種	胸高直径(cm)	種数
Ⅰ	高木層	～18.0	80	スギ	－	1
Ⅱ	亜高木層	～9.0	80	タブノキ	－	6
Ⅲ	低木層	～4.0	30	ｱﾗｶｼ･ｼﾛﾀﾞﾓ･ﾋｻｶｷ	－	8
Ⅳ	草本層	～1.5	60	ベニシダ	－	36

階層	被度・群度	種名
Ⅰ	5・5	スギ
Ⅱ	3・3	タブノキ
	2・2	スギ
	2・2	ネズミモチ
	2・2	アラカシ
	+	ヒノキ
	+	ツブラジイ
Ⅲ	2・2	アラカシ
	2・2	シロダモ
	2・2	ヒサカキ
	+	ネズミモチ
	+	タブノキ
	+	イヌマキ
	+	ノキシノブ
	+	テイカカズラ

階層	被度・群度	種名
Ⅳ	3・3	ベニシダ
	2・2	フモトシダ
	2・2	ネザサ
	2・2	アラカシ
	2・2	ハシゴシダ
	1・1	オニカナワラビ
	1・1	テイカカズラ
	1・1	フユイチゴ
	1・1	シロダモ
	1・1	ヒサカキ
	1・1	ネズミモチ
	1・1	ドクダミ
	1・1	ノササゲ
	1・1	ナガバジャノヒゲ
	1・1	ケチヂミザサ
	1・1	アオキ
	1・1	オオベニシダ
	+・2	アオツヅラフジ
	+・2	ヤマコウバシ
	+・2	フジ
	+・2	ムクノキ
	+・2	ヌスビトハギ
	+	ゼンマイ
	+	チャノキ
	+	ヤマウルシ
	+	ノキシノブ
	+	ササクサ
	+	タブノキ
	+	アオキ
	+	サネカズラ

階層	被度・群度	種名
Ⅳ	+	ツボスミレ
	+	ノブドウ
	+	クサギ
	+	アカメガシワ
	+	ヤブニッケイ
	+	ミツバアケビ

表 6-6-3-3(3)　植生調査票（竹林ゾーン）

				調査期日	2025年7月23日	
No.2	調査地：新小山廃棄物処分センター				天候	晴
地形	山頂・尾根・斜面（上・中）下・凸・凹）・大地・扇状地・平地・谷				海抜	100m
位置	N34 967544, E136 524542（中心点の座標）				方位	N20E
群落	竹林	面積	10m×10m		傾斜	15°
土質	褐色森林土	日照	中陰		風当	弱
土湿	適					

群落名	モウソウチク群落

階層構造		高さ(m)	植被率(%)	優占種	胸高直径(cm)	種数
Ⅰ	高木層	～18.0	40	スギ	－	1
Ⅱ	亜高木層	～12.0	70	モウソウチク	－	2
Ⅲ	低木層	～2.0	3	タブノキ・ムクノキ・カナメモチ	－	3
Ⅳ	草本層	～1.5	40	ベニシダ・アラカシ	－	39

階層	被度・群度	種名
Ⅰ	3・3	スギ
Ⅱ	4・4	モウソウチク
	+	タブノキ
Ⅲ	+	タブノキ
	+	ムクノキ
	+	カナメモチ

階層	被度・群度	種名
Ⅳ	3・3	ベニシダ
	3・3	アラカシ
	2・2	ケチヂミザサ
	2・2	サネカズラ
	1・2	テイカカズラ
	1・1	ヤマウルシ
	1・1	カラタチバナ
	1・1	チャノキ
	+・2	アオツヅラフジ
	+・2	ムクノキ
	+	ドクダミ
	+	ミツバアケビ
	+	タブノキ
	+	ヘクソカズラ
	+	ハンノキ
	+	ヤマグワ
	+	ミズヒキ
	+	ナガバジャノヒゲ
	+	シロダモ
	+	ネズミモチ
	+	コクラン
	+	フユイチゴ
	+	オオベニシダ
	+	ヤマザクラ
	+	ツユクサ
	+	イワガネゼンマイ
	+	イノコヅチ
	+	フモトシダ
	+	オニカナワラビ
	+	ノリウツギ

階層	被度・群度	種名
Ⅳ	+	ツルグミ
	+	アオキ
	+	クサギ
	+	エゴノキ
	+	オニドコロ
	+	アマチャヅル
	+	タラノキ
	+	アカメガシワ
	+	ツタ

表 6-6-3-3(4)　植生調査票（造成森林 1）

		調査期日	2025年7月23日		
造成1	調査地：新小山廃棄物処分センター			天候	晴
地形	山頂・尾根・斜面(上・中・下・凸・凹)・大地・扇状地・(平地)・谷			海抜	
位置	N34.969451, E136.522386(中心点の座標)			方位	－
群落	常緑樹新植地	面積	10m×10m	傾斜	0
土質	未熟土	日照	陽	風当	強
土湿	乾				

群落名	アラカシ植栽地

階層構造		高さ(m)	植被率(%)	優占種	胸高直径(cm)	種数
Ⅰ	高木層	～				
Ⅱ	亜高木層	～				
Ⅲ	低木層	～1.5	20	アラカシ	－	1
Ⅳ	草本層	～0.7	30	ギョウギシバ	－	22

階層	被度・群度	種名
Ⅲ	3・3	アラカシ

表 6-6-3-3(5)　植生調査票（造成森林 2）

		調査期日	2025年7月23日		
造成2	調査地：新小山廃棄物処分センター			天候	晴
地形	山頂・尾根・斜面(上・中・下・凸・凹)・大地・扇状地 (平地)・谷			海抜	
位置	N34.34.971925, E136.522050(中心点の座標)			方位	－
群落	常緑樹新植地	面積	10m×10m	傾斜	0
土質	未熟土	日照	陽	風当	強
土湿	乾				

群落名	アラカシ植栽地

階層構造		高さ(m)	植被率(%)	優占種	胸高直径(cm)	種数
Ⅰ	高木層	～				
Ⅱ	亜高木層	～				
Ⅲ	低木層	～1.5	20	アラカシ	－	2
Ⅳ	草本層	～1.2	60	シロツメクサ	－	27

階層	被度・群度	種名
Ⅲ	2・3	アラカシ
	2・2	ヒメムカシヨモギ

3-6　過年度との比較

過年度（令和 3 年度、令和 5 年度）の結果と今年度調査結果との比較は、植物相については表 6-6-3-4 に、植生については表 6-6-3-5 に示したとおりです。

なお、造成森林については今年度が初めての調査であることから、次回以降に比較を行うこととします。

① 植物相

各ゾーンにおいて令和 5 年度と今年度とでは、確認された植物相に大きな変化はありませんでした。

一方、今年度新規に確認された種は、コナラ林ゾーンでは、ウラジロ、ヤブニッケイなど 7 種、スギ林ゾーンではゼンマイ、ハシゴシダなど 13 種、竹林ゾーンでイワガネゼンマイ、オオベニシダなど 17 種でした。ほとんどが草本植物であり、調査年度によって消長があるものと考えられますが、概ね安定した種数を維持していました。

② 植生

いずれのコドラートでも「Ⅳ　草本層」での新規出現や被度・群度の増加がみられ、施業におけるタケ類や灌木の除伐に伴い、林床が開け、下層植生が繁茂しやすい環境となったことが考えられます。

一方、竹林ゾーンでは灌木の成長や、ササ類の繁茂が確認され、低木層から草本層における除伐の再実施が必要であることが確認されました。

3-7　まとめ

今年度は、残置森林内で過年度に設置した 3 ヵ所のコドラートにおいて、コドラートの植物相及び植生の調査を実施しました。

その結果、令和 5 年度と比較して各コドラートにおける植物相の状況は大きな変化はなく、安定した状況が維持されていました。

一方、植生の状況から、追加で除伐が必要な箇所が確認されたことから、健全な植生の維持のために次年度は追加施業を実施することとします。

以降も施業の実施と、隔年での調査を実施し、残置森林の質の向上に向けた取り組みと、その効果の検証を継続していくこととします。

また、施設の供用に伴い、新たに造成森林の 2 カ所にコドラートを設置し、コドラート内の植物相及び植生の調査を実施しました。

以降も隔年での調査を実施し、造成森林の成長について確認を継続していくこととします。

表 6-6-3-4(1)　過年度との比較（植物相）

No.	門	科	種名	学名	コナラ			スギ			竹林		
					R3	R5	R7	R3	R5	R7	R3	R5	R7
1	シダ植物	ゼンマイ	ゼンマイ	*Osmunda japonica*						○	○	○	
2		ウラジロ	コシダ	*Dicranopteris linearis*	○	○	○						
3			ウラジロ	*Diplopterygium glaucum*			○						
4		コバノイシカグマ	コバノイシカグマ	*Dennstaedtia scabra*	○	○	○						
5			フモトシダ	*Microlepia marginata*	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6		イノモトソウ	イワガネゼンマイ	*Coniogramme intermedia*				○	○				○
7		ヒメシダ	ハシゴシダ	*Thelypteris glanduligera*	○	○				○	○	○	
8			ハリガネワラビ	*Thelypteris japonica*	○	○	○						
9			ヤワラシダ	*Thelypteris laxa*	○	○	○						
10		オシダ	オニカナワラビ	*Arachniodes chinensis*				○	○	○	○	○	○
11			ベニシダ	*Dryopteris erythrosora*	○	○	○		○	○	○	○	○
12			オオベニシダ	*Dryopteris hondoensis*	○	○	○		○	○			○
13		ウラボシ	ノキシノブ	*Lepisorus thunbergianus*						○	○	○	
14	種子植物	マキ	イヌマキ	*Podocarpus macrophyllus*						○	○	○	
15		ヒノキ	ヒノキ	*Chamaecyparis obtusa*						○	○	○	
16			スギ	*Cryptomeria japonica* var. *japonica*				○	○	○	○	○	○
17		マツブサ	サネカズラ	*Kadsura japonica*				○	○	○		○	○
18		ドクダミ	ドクダミ	*Houttuynia cordata*				○	○	○	○	○	○
19		モクレン	コブシ	*Magnolia kobus*		○							
20		クスノキ	ヤブニッケイ	*Cinnamomum yabunikkei*			○			○			
21			ヤマコウバシ	*Lindera glauca*						○	○	○	
22			タブノキ	*Machilus thunbergii*	○	○	○	○	○	○	○	○	○
23			シロダモ	*Neolitsea sericea* var. *sericea*	○	○	○	○	○	○	○	○	○
24		ヤマノイモ	ヤマノイモ	*Dioscorea japonica*	○	○	○						
25			オニドコロ	*Dioscorea tokoro*	○	○	○		○		○	○	○
26		ラン	キンラン	*Cephalanthera falcata*		○	○						
27			コクラン	*Liparis nervosa*	○	○	○	○	○				○
28		クサスギカズラ	ナガバジャノヒゲ	*Ophiopogon japonicus* var. *umbrosus*				○	○	○	○	○	○
29		ツユクサ	ツユクサ	*Commelina communis* var. *communis*				○	○				○
30		イネ	ササクサ	*Lophatherum gracile*						○			
31			ケチヂミザサ	*Oplismenus undulatifolius* var. *undulatifolius*	○	○	○		○	○		○	○
32			モウソウチク	*Phyllostachys edulis*	○			○	○				○
33			ハチク	*Phyllostachys nigra* var. *henonis*	○	○	○						
34			ネザサ	*Pleioblastus argenteostriatus*	○	○	○			○	○	○	
35		アケビ	ミツバアケビ	*Akebia trifoliata* ssp. *trifoliata*				○	○	○		○	○
36		ツヅラフジ	アオツヅラフジ	*Cocculus trilobus*					○	○		○	○
37		ブドウ	ノブドウ	*Ampelopsis glandulosa* var. *heterophylla*						○		○	
38			ツタ	*Parthenocissus tricuspidata*	○	○	○						○
39		マメ	ノササゲ	*Dumasia truncata*						○	○	○	
40			ヌスビトハギ	*Hylodesmum podocarpum* ssp. *oxyphyllum* var. *japonicum*						○		○	
41			フジ	*Wisteria floribunda*	○	○	○			○	○	○	
42		グミ	ツルグミ	*Elaeagnus glabra*			○		○			○	○
43		アサ	ムクノキ	*Aphananthe aspera*	○	○	○	○	○	○		○	○
44			エノキ	*Celtis sinensis*		○	○						
45		クワ	ヒメコウゾ	*Broussonetia monoica*	○	○	○						
46			ヤマグワ	*Morus australis*									○
47		バラ	ヤマザクラ	*Cerasus jamasakura* var. *jamasakura*				○	○				○
48			カスミザクラ	*Cerasus leveilleana*	○	○							
49			カナメモチ	*Photinia glabra*				○	○				○
50			フユイチゴ	*Rubus buergeri*	○	○		○	○	○	○	○	○
51		ブナ	ツブラジイ	*Castanopsis cuspidata*						○	○	○	
52			アラカシ	*Quercus glauca*		○	○	○	○	○	○	○	○

表 6-6-3-4(2)　過年度との比較（植物相）

No.	門	科	種名	学名	コナラ			スギ			竹林		
					R3	R5	R7	R3	R5	R7	R3	R5	R7
53	種子植物	ブナ	コナラ	*Quercus serrata* ssp. *serrata* var. *serrata*	○	○	○			○	○	○	
54		カバノキ	ハンノキ	*Alnus japonica*				○	○	○	○	○	○
55		ウリ	アマチャヅル	*Gynostemma pentaphyllum* var. *pentaphyllum*									
56		トウダイグサ	アカメガシワ	*Mallotus japonicus*	○	○	○		○				○
57		スミレ	ツボスミレ	*Viola verecunda* var. *verecunda*				○	○				
58			シハイスミレ	*Viola violacea* var. *violacea*			○			○		○	○
59		ウルシ	ハゼノキ	*Toxicodendron succedaneum*	○	○	○			○		○	
60			ヤマウルシ	*Toxicodendron trichocarpum*	○	○	○						
61		タデ	ミズヒキ	*Persicaria filiformis*		○	○						
62		ヒユ	イノコヅチ	*Achyranthes bidentata* var. *japonica*				○	○	○		○	○
63		アジサイ	ノリウツギ	*Heteromalla paniculata*				○	○				○
64		サカキ	サカキ	*Cleyera japonica*	○	○	○	○	○				○
65			ヒサカキ	*Eurya japonica*	○	○	○		○				○
66		サクラソウ	カラタチバナ	*Ardisia crispa* var. *crispa*									
67		ツバキ	チャノキ	*Camellia sinensis* var. *sinensis*			○			○	○	○	
68		ハイノキ	クロバイ	*Symplocos prunifolia* var. *prunifolia*	○	○	○		○				○
69		エゴノキ	エゴノキ	*Styrax japonicus*	○	○	○	○	○	○	○	○	○
70		アオキ	アオキ	*Aucuba japonica* var. *japonica*	○	○	○						
71		アカネ	ヘクソカズラ	*Paederia foetida*					○				○
72		キョウチクトウ	テイカカズラ	*Trachelospermum asiaticum*	○	○	○		○	○	○	○	○
73		モクセイ	ネズミモチ	*Ligustrum japonicum* var. *japonicum*	○	○	○	○	○				○
74		シソ	ムラサキシキブ	*Callicarpa japonica* var. *japonica*	○	○	○	○	○	○	○	○	○
75			ヤブムラサキ	*Callicarpa mollis*		○	○	○	○	○	○	○	○
76			クサギ	*Clerodendrum trichotomum*	○	○	○						
77		キク	ムラサキニガナ	*Paraprenanthes sororia*									
78		ウコギ	ウド	*Aralia cordata*	○	○	○		○	○		○	○
79			タラノキ	*Aralia elata*			○				○	○	
80			カクレミノ	*Dendropanax trifidus*	○	○	○						
81			タカノツメ	*Gamblea innovans*			○						○
種類数					38	43	46	26	38	39	27	39	41

表 6-6-3-5(1)　過年度との比較（植生）

調査地点		コナラ林ゾーン		
調査年度		R3	R5	R7
群落高(m)/植被率(%)	Ⅰ　高木層	16.0/50	16.0/50	18.0/50
	Ⅱ　亜高木層	8.0/70	6.0/65	8.0/80
	Ⅲ　低木層	3.0/30	3.0/30	4.5/30
	Ⅳ　草本層	1.0/75	1.0/75	1.5/80
階層	種名	被度・群度	被度・群度	被度・群度
Ⅰ	コナラ	3・3	3・3	3・3
Ⅱ	ハチク	4・4	4・4	5・5
	コナラ	1・1	1・1	1・1
	モウソウチク	1・1		
Ⅲ	シロダモ	2・2	2・2	2・2
	アオキ	1・1	1・1	1・1
	ムラサキシキブ	1・1	1・1	1・1
	ヒメコウゾ	+	+	+
	ハチク	+	+	+
	タラノキ	+	+	+
	クロバイ	+	+	+
	サカキ	+	+	+
	エゴノキ	+	+	+
	ヒサカキ	+	+	+
	アカメガシワ	+	+	+
	フジ	+	+	+
Ⅳ	フユイチゴ	3・3	3・3	3・3
	ベニシダ	2・2	2・2	2・2
	オオベニシダ	1・1	1・1	2・2
	ハシゴシダ	1・1	1・1	
	フジ	1・1	2・2	2・2
	フモトシダ	1・1	1・1	1・1
	タブノキ	1・1	1・1	1・1
	ケチヂミザサ	1・1	2・3	3・3
	ネザサ	1・1	1・1	1・1
	ヒサカキ		1・1	2・2
	キンラン		1・1	1・1
	ハリガネワラビ	+・2	+・2	1・1
	ネズミモチ	+・2	+・2	+・2
	コクラン	+・2	+・2	+・2
	ウド	+	+・2	+・2
	タラノキ	+		+
	カスミザクラ	+	+	
	コシダ	+	+	+
	テイカカズラ	+	+	+
	ハゼノキ	+	+	+
	ヤマウルシ	+	+	+
	ヤマノイモ	+	+	+・2
	コバノイシカグマ	+	+	+
	ムクノキ	+	+	+
	ツタ	+	+	+
	クロバイ	+	+	+
	カクレミノ	+	+	1・1
	コナラ	+	+	1・1
	オニドコロ	+	+	+
	クサギ	+	+	+
	ヤワラシダ	+	+	+
	ヒメコウゾ	+	+	+
	コブシ		+	
	エノキ		+	+
	ヤブムラサキ		+	+
	ミズヒキ		+	+
	シロダモ		+	+
	アラカシ		+	+
	ウラジロ			+
	エゴノキ			+
	タカノツメ			+
	ツルグミ			+
	ヤブニッケイ			+
	チャノキ			+
	シハイスミレ			+
	カナメモチ			+

調査地点		スギ林ゾーン		
調査年度		R3	R5	R7
群落高(m)/植被率(%)	Ⅰ　高木層	18.0/80	18.0/80	18.0/80
	Ⅱ　亜高木層	8.5/80	8.5/80	9.0/80
	Ⅲ　低木層	3.5/30	3.5/30	4.0/30
	Ⅳ　草本層	1.0/60	1.0/60	1.5/60
階層	種名	被度・群度	被度・群度	被度・群度
Ⅰ	スギ	5・5	5・5	5・5
Ⅱ	タブノキ	3・3	3・3	3・3
	スギ	2・2	2・2	2・2
	ネズミモチ	2・2	2・2	2・2
	アラカシ	2・2	2・2	2・2
	ヒノキ	+	+	+
	ツブラジイ	+	+	+
Ⅲ	アラカシ	2・2	2・2	2・2
	シロダモ	2・2	2・2	2・2
	ヒサカキ	2・2	2・2	2・2
	ネズミモチ	+	+	+
	タブノキ	+	+	+
	アオキ	+	+	
	ノキシノブ	+	+	+
	テイカカズラ		+	+
	ツルグミ		+	
	イヌマキ			+
Ⅳ	ベニシダ	3・3	3・3	3・3
	フモトシダ	2・2	2・2	2・2
	ネザサ	2・2	2・2	2・2
	アラカシ	2・2	2・2	2・2
	ハシゴシダ	2・2	2・2	2・2
	オニカナワラビ	1・1	1・1	1・1
	テイカカズラ	1・1	1・1	1・1
	フユイチゴ	1・1	1・1	1・1
	シロダモ	1・1	1・1	1・1
	ヒサカキ	1・1	1・1	1・1
	ネズミモチ	1・1	1・1	1・1
	ドクダミ	1・1	1・1	1・1
	ノササゲ	1・1	1・1	1・1
	ナガバジャノヒゲ	1・1	1・1	1・1
	ケチヂミザサ		1・1	1・1
	フジ	+・2	+・2	+・2
	ヤマコウバシ	+・2	+・2	+・2
	アオツヅラフジ		+・2	+・2
	ヤマウルシ		+・2	+
	ミツバアケビ		+・2	+
	ムクノキ		+・2	+・2
	ヌスビトハギ		+・2	+・2
	ゼンマイ	+	+	+
	チャノキ	+	+	+
	ムラサキニガナ	+	+	
	ノキシノブ	+	+	+
	オニドコロ	+	+	
	イヌマキ	+	+	
	アオキ		+	1・1
	サネカズラ		+	+
	ツボスミレ		+	+
	ノブドウ		+	+
	クサギ		+	+
	アカメガシワ		+	+
	オオベニシダ			1・1
	ササクサ			+
	タブノキ			+

：過年度から追加・増加

：過年度から消失・減少

表 6-6-3-5(2)　過年度との比較（植生）

調査地点		竹林ゾーン		
調査年度		R3	R5	R7
群落高(m)/植被率(%)	Ⅰ　高木層	17.0/40	18.0/40	18.0/40
	Ⅱ　亜高木層	12.0/100	12.0/70	12.0/70
	Ⅲ　低木層	2.0/3	2.0/3	2.0/3
	Ⅳ　草本層	1.0/25	1.0/30	1.5/40
階層	種名	被度･群度	被度･群度	被度･群度
Ⅰ	スギ	3･3	3･3	3･3
Ⅱ	モウソウチク	5･5	4･4	4･4
	タブノキ		+	+
Ⅲ	タブノキ	+	+	+
	ムクノキ	+	+	+
	カナメモチ		+	+
Ⅳ	ベニシダ	3･3	3･3	3･3
	アラカシ	1･1	2･2	3･3
	テイカカズラ	1･1	1･2	1･2
	サネカズラ	1･1	1･1	2･2
	ケチヂミザサ		1･1	2･2
	カラタチバナ		1･1	1･1
	アオツヅラフジ		+･2	+･2
	アマチャヅル	+･2	+	+
	ドクダミ	+	+	+
	ミツバアケビ	+	+	+
	タブノキ	+	+	+
	ヘクソカズラ	+	+	+
	ムクノキ	+	+･2	+･2
	チャノキ	+	+	1･1
	ミズヒキ	+	+	+
	ナガバジャノヒゲ	+	+	+
	シロダモ	+	+	+
	ネズミモチ	+	+	+
	コクラン	+	+	+
	フユイチゴ	+	+	+
	ヤマウルシ	+	1･1	1･1
	ヤマザクラ	+	+	+
	ツユクサ	+	+	+
	イワガネゼンマイ	+	+	+
	イノコヅチ	+	+	+
	フモトシダ	+	+	+
	オニカナワラビ	+	+	+
	カナメモチ	+		
	ハンノキ		+	+
	オオベニシダ		+	+
	ノリウツギ		+	+
	ツルグミ		+	+
	アオキ		+	+
	クサギ		+	+
	エゴノキ		+	+
	オニドコロ		+	+
	ヤマグワ			+
	タラノキ			+
	アカメガシワ			+
	ツタ			+

：過年度から追加・増加

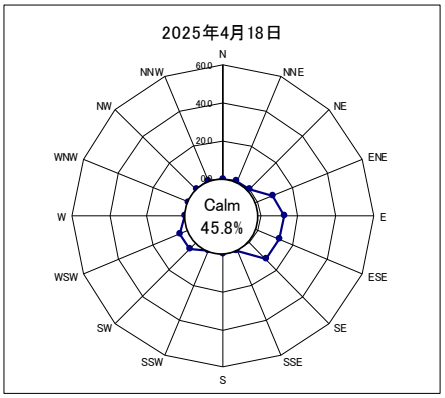
：過年度から消失・減少

資　料　編

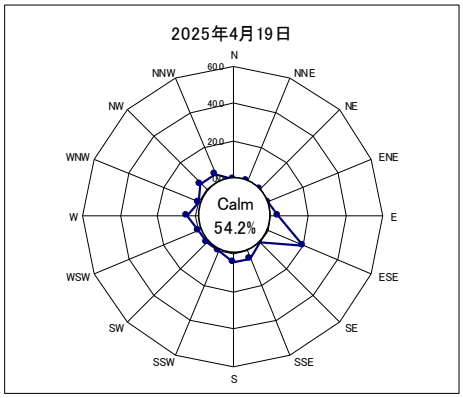
1.大気質風配図（図 1-1）

2.ダイオキシン類調査結果（表 1-1～1-4）

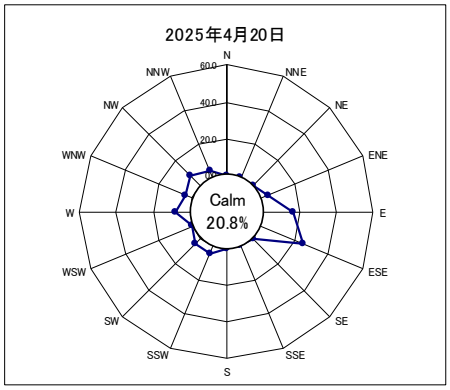
3.陸生植物移植個体活着状況調査結果（表 2-1～2-44）



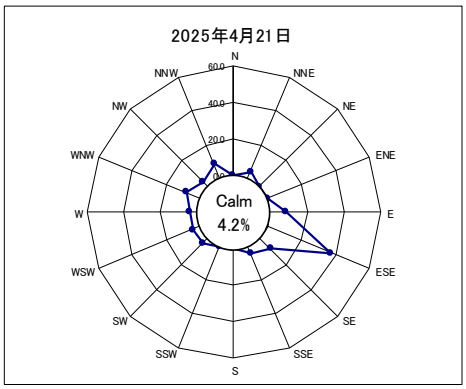
平均風速 0.8m/s



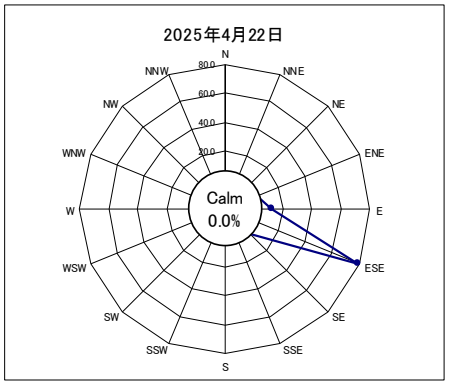
平均風速 0.7m/s



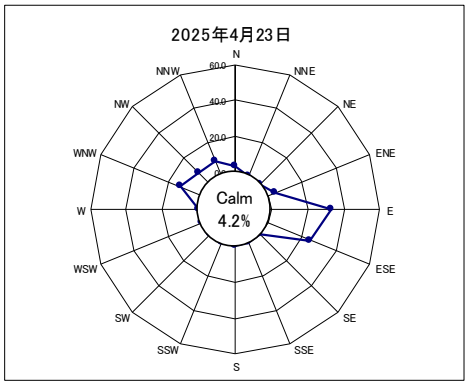
平均風速 1.1m/s



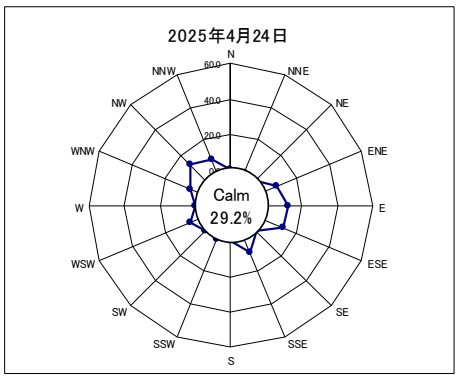
平均風速 1.7m/s



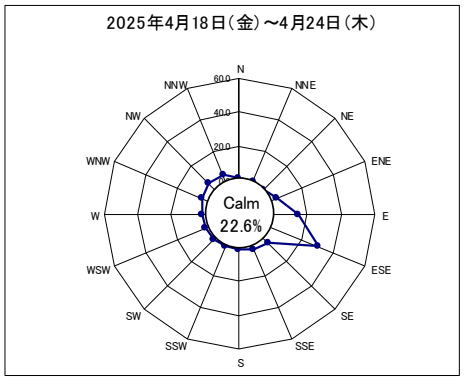
平均風速 2.8m/s



平均風速 1.6m/s

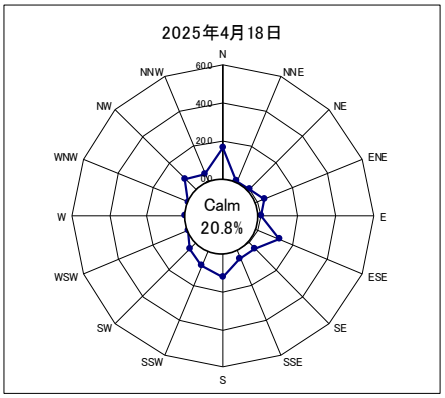


平均風速 1.0m/s

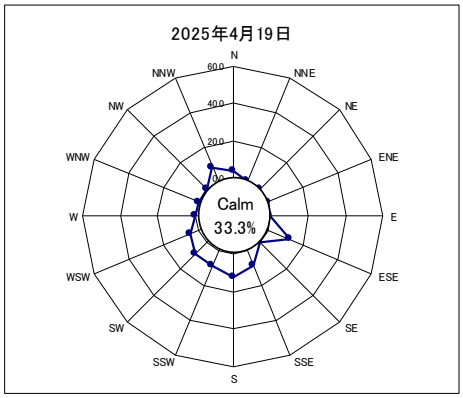


平均風速 1.4m/s

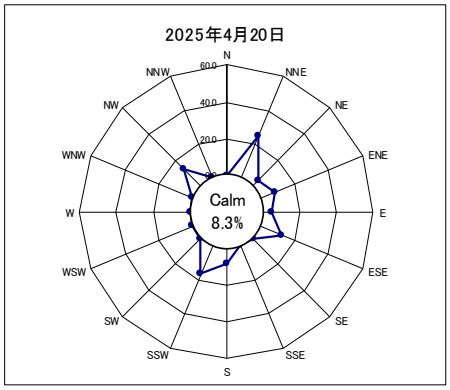
図 1-1(1)　測定当日の風配図（№1）（令和 7 年 4 月 18 日～24 日）



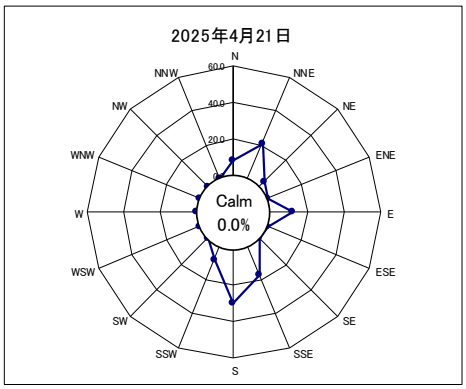
平均風速 1.2m/s



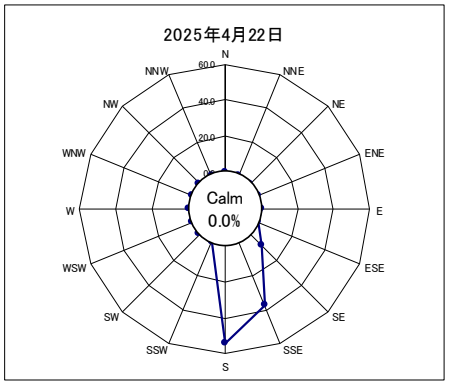
平均風速 1.0m/s



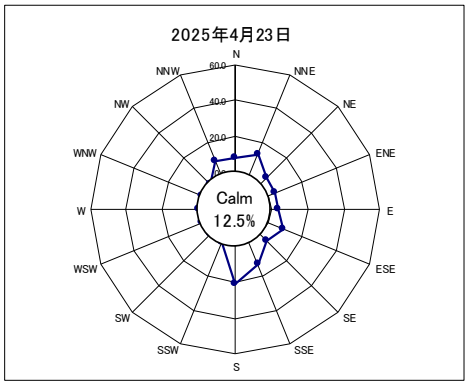
平均風速 1.6m/s



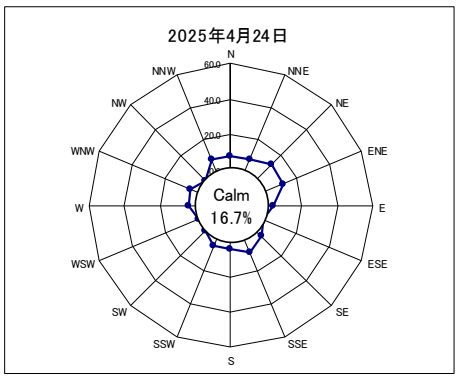
平均風速 2.4m/s



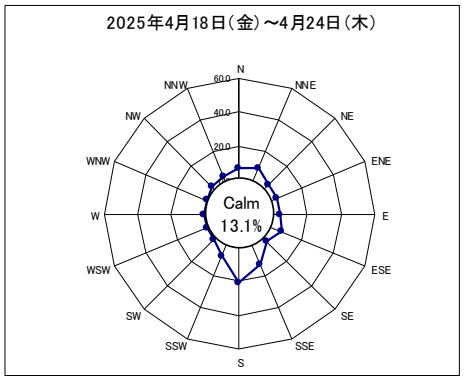
平均風速 3.2m/s



平均風速 2.1m/s

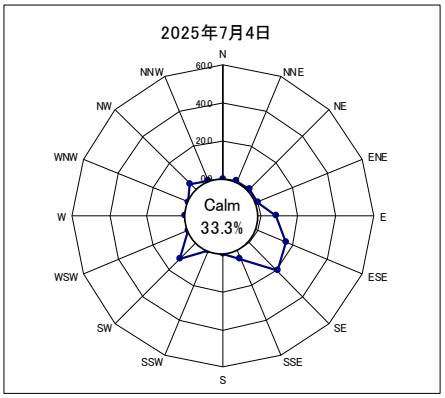


平均風速 1.5m/s

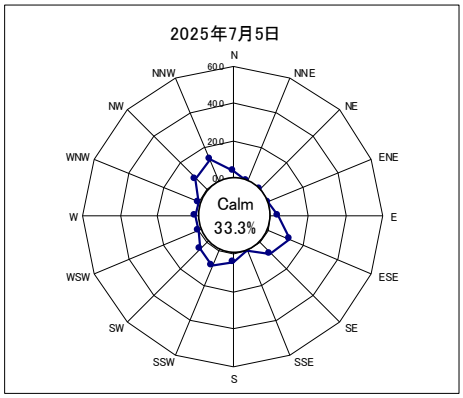


平均風速 1.9m/s

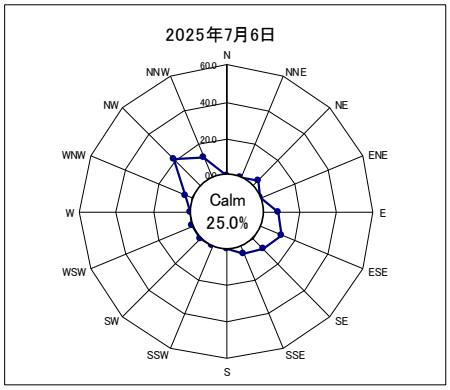
図 1-1(2)　測定当日の風配図（№2）（令和 7 年 4 月 18 日～24 日）



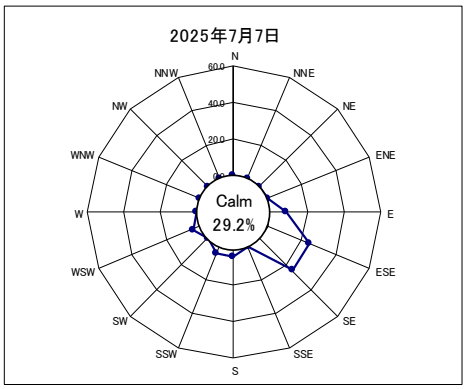
平均風速 0.8m/s



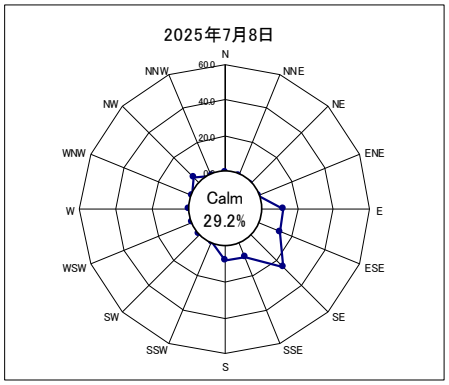
平均風速 0.7m/s



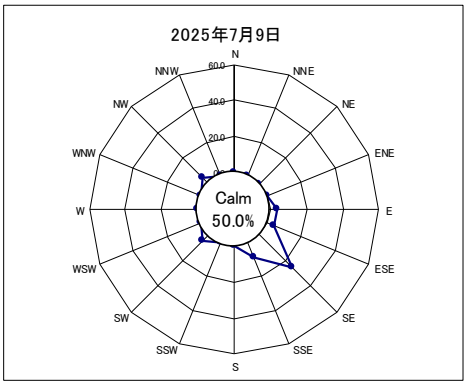
平均風速 0.9m/s



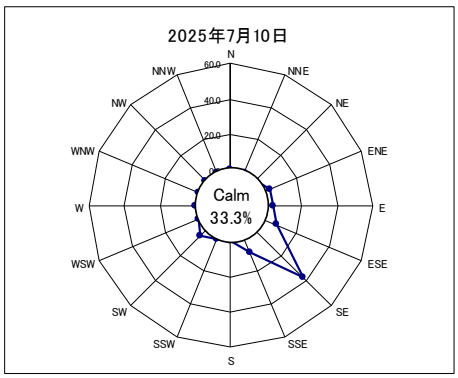
平均風速 1.1m/s



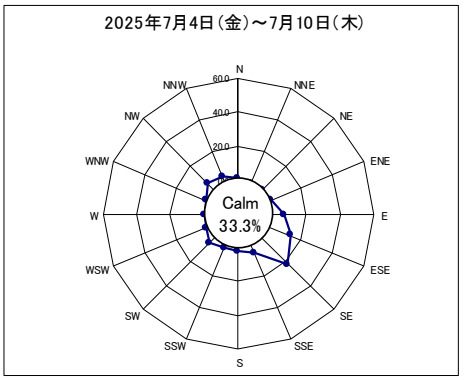
平均風速 1.0m/s



平均風速 1.1m/s

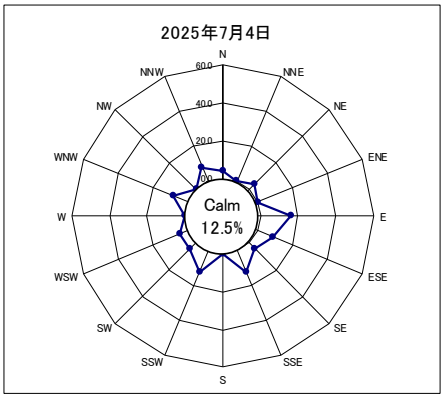


平均風速 1.0m/s

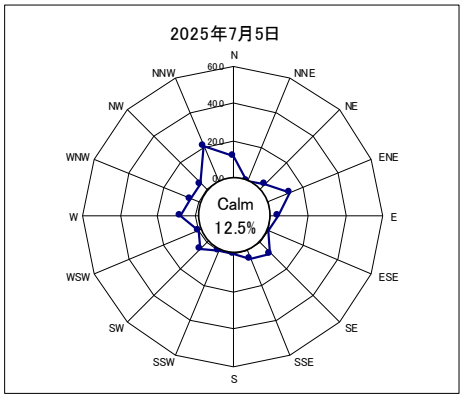


平均風速 0.9m/s

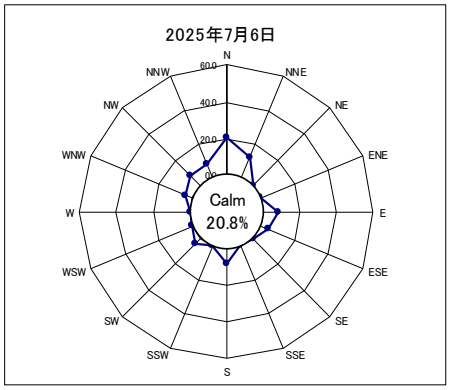
図 1-1(3)　測定当日の風配図（No.1）（令和 7 年 7 月 4 日～10 日）



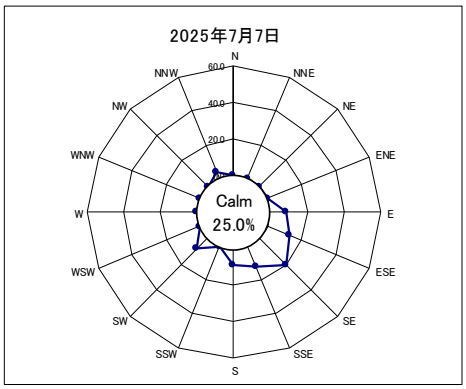
平均風速 1.1m/s



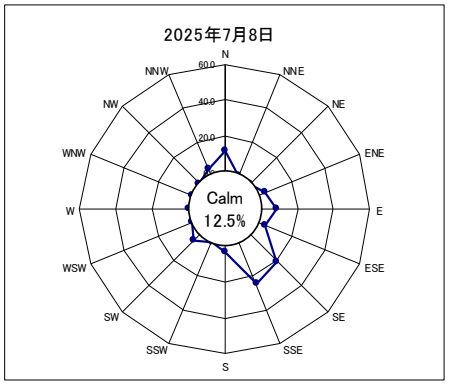
平均風速 1.2m/s



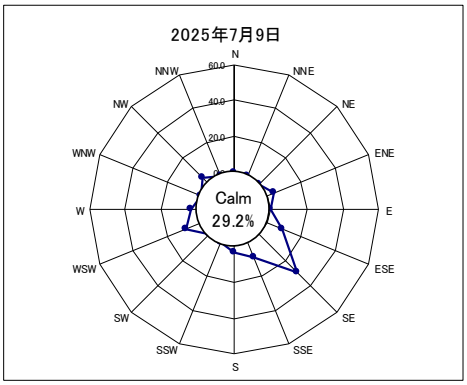
平均風速 1.3m/s



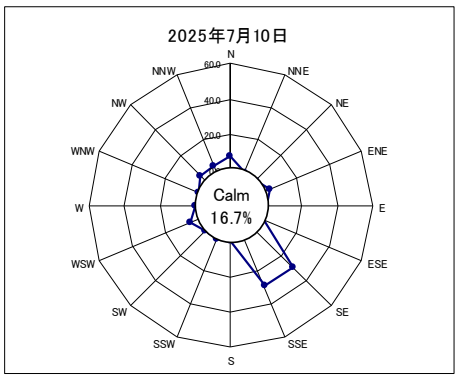
平均風速 1.3m/s



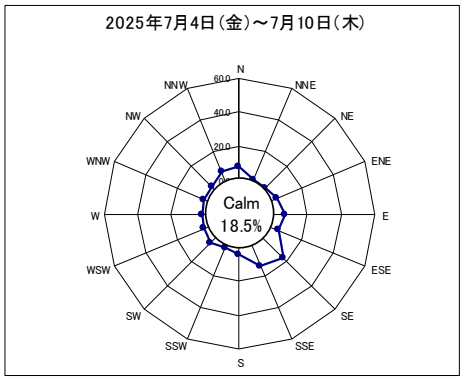
平均風速 1.5m/s



平均風速 1.4m/s

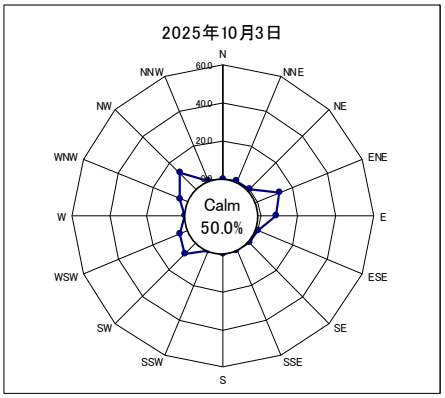


平均風速 1.4m/s

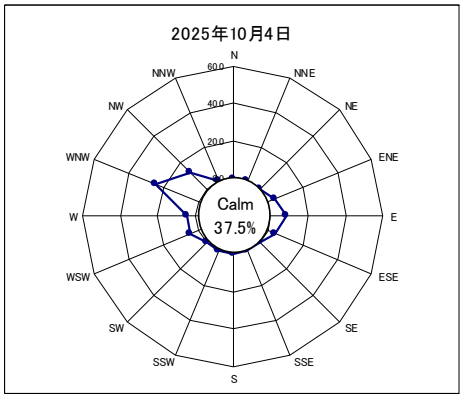


平均風速 1.3m/s

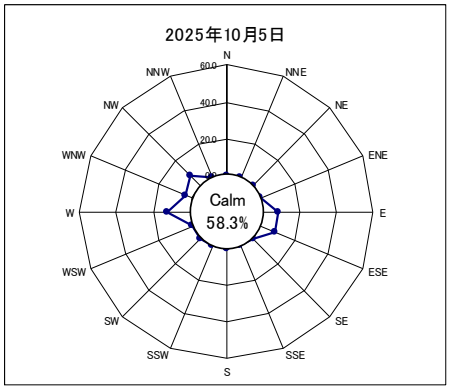
図 1-1(4)　測定当日の風配図（No.2）（令和 7 年 7 月 4 日～10 日）



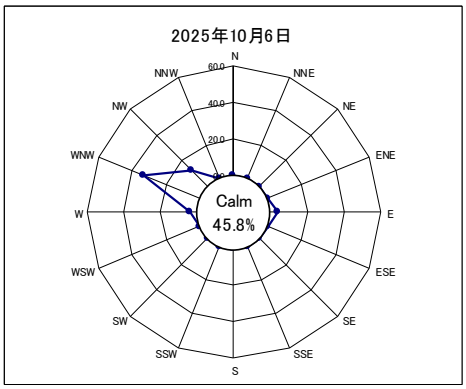
平均風速 0.6m/s



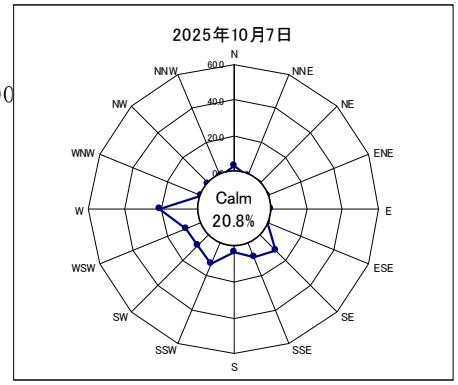
平均風速 0.8m/s



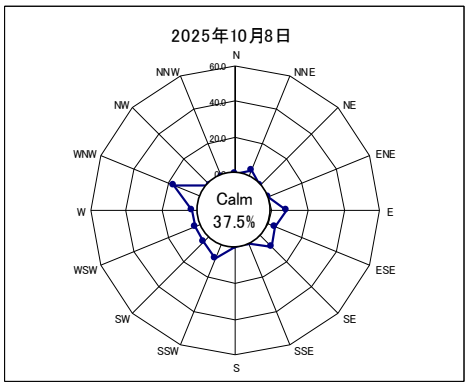
平均風速 0.4m/s



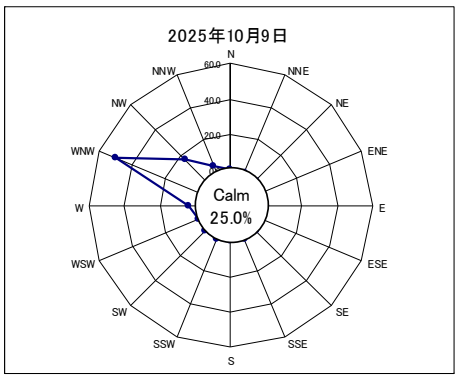
平均風速 1.1m/s



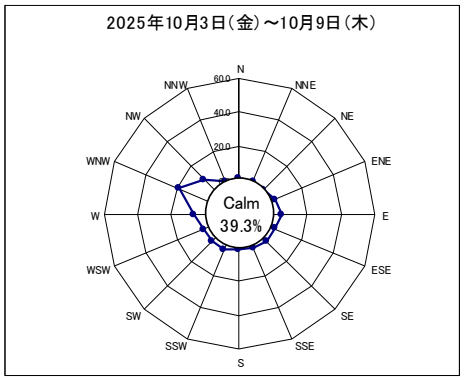
平均風速 1.1m/s



平均風速 0.6m/s

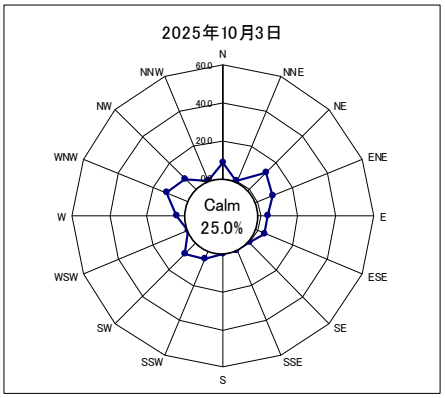


平均風速 2.0m/s

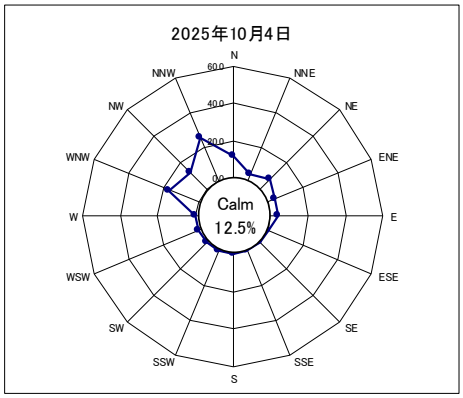


平均風速 1.0m/s

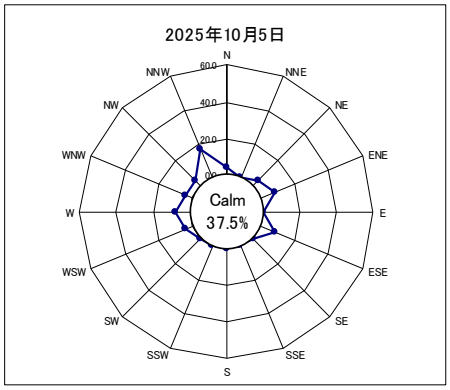
図 1-1(5)　測定当日の風配図（No.1）（令和 7 年 10 月 3 日～9 日）



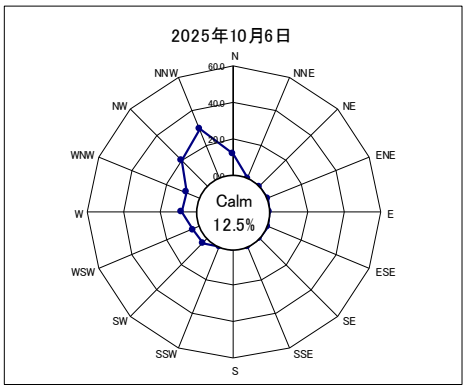
平均風速 0.9m/s



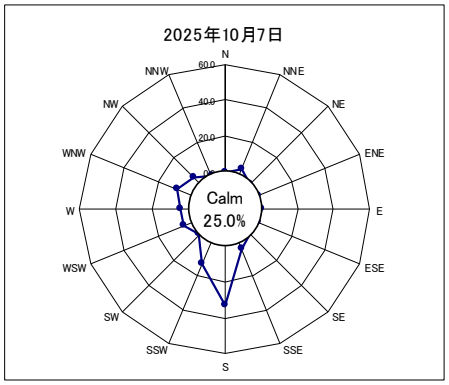
平均風速 1.3m/s



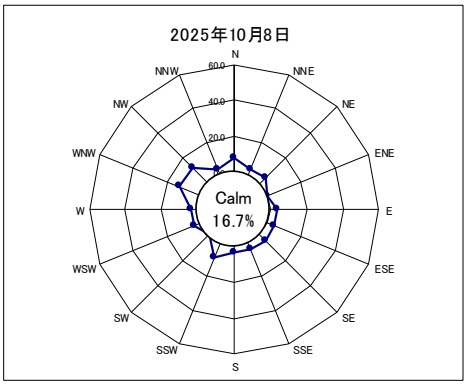
平均風速 0.6m/s



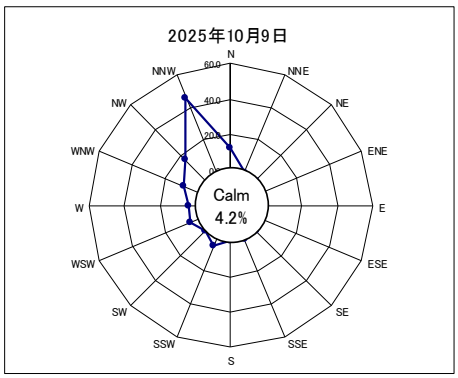
平均風速 1.6m/s



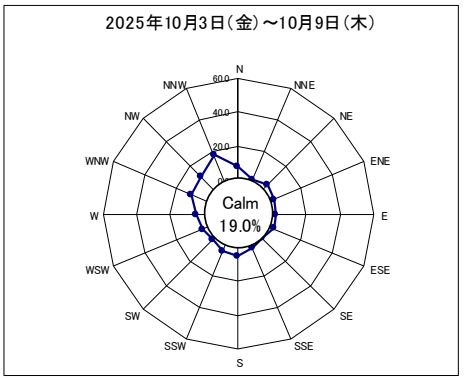
平均風速 1.4m/s



平均風速 1.0m/s

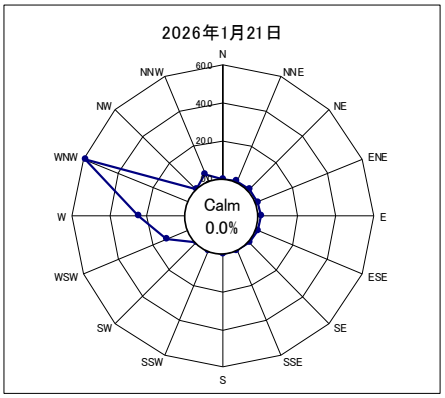


平均風速 2.8m/s

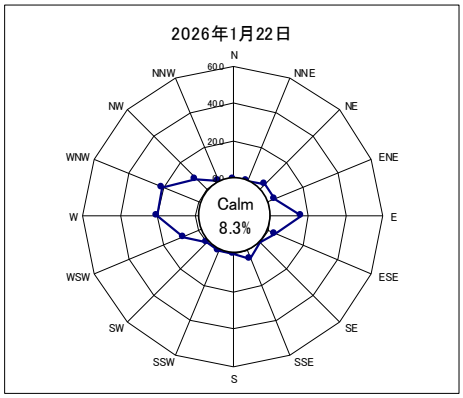


平均風速 1.4m/s

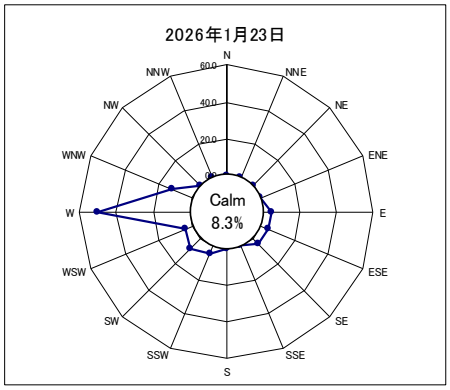
図 1-1(6)　測定当日の風配図（No.2）（令和 7 年 10 月 3 日～9 日）



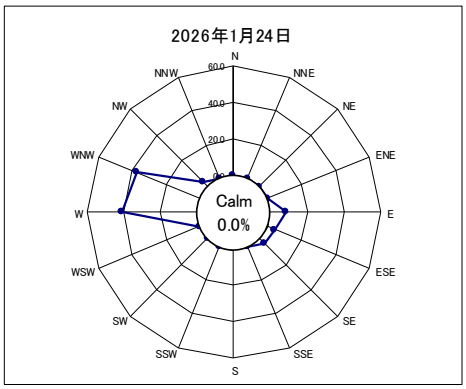
平均風速 3.2m/s



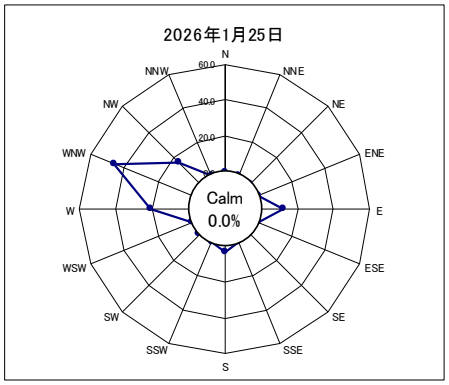
平均風速 1.5m/s



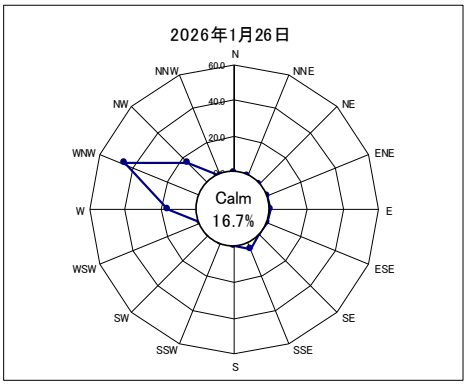
平均風速 2.6m/s



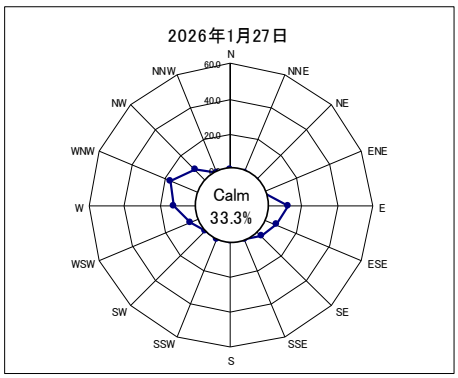
平均風速 3.4m/s



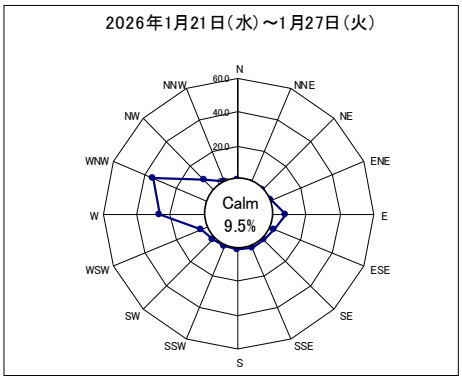
平均風速 2.0m/s



平均風速 1.5m/s

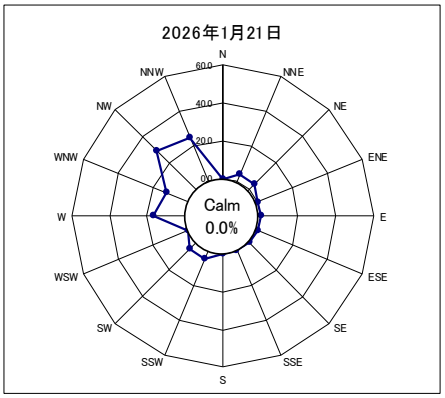


平均風速 0.8m/s

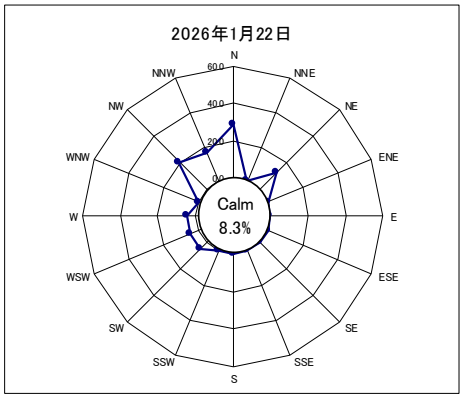


平均風速 2.1m/s

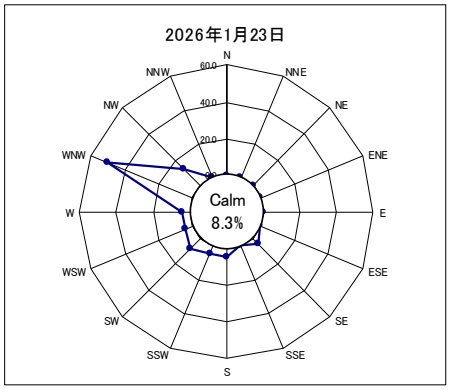
図 1-1(7)　測定当日の風配図（№1）（令和 8 年 1 月 21 日～27 日）



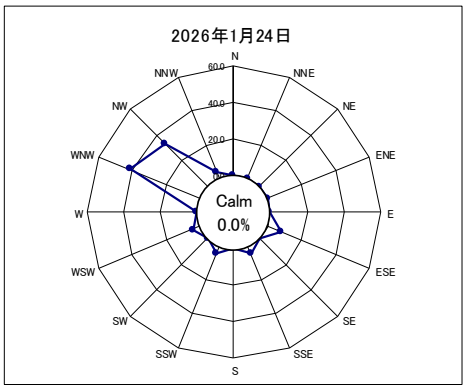
平均風速 3.1m/s



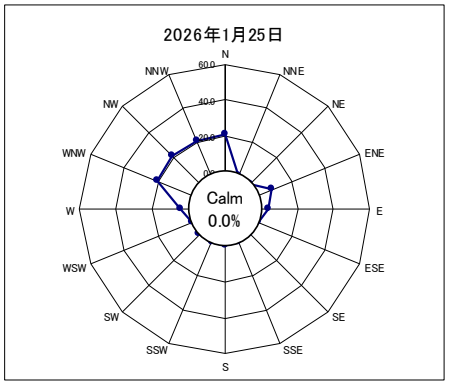
平均風速 2.1m/s



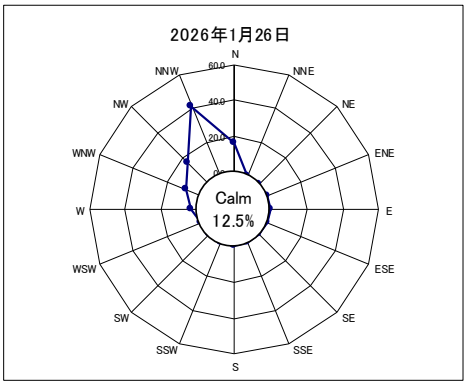
平均風速 2.0m/s



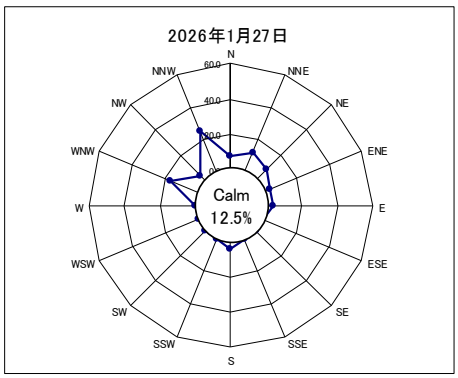
平均風速 2.5m/s



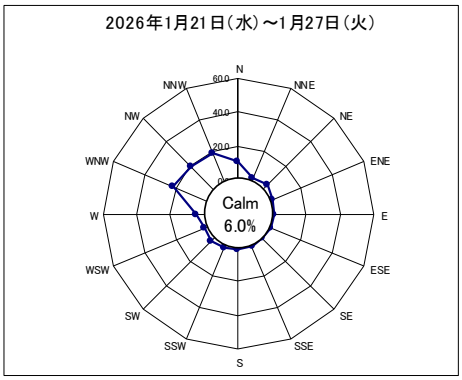
平均風速 2.1m/s



平均風速 2.6m/s



平均風速 1.3m/s



平均風速 2.2m/s

図 1-1(8)　測定当日の風配図（№2）（令和 8 年 1 月 21 日～27 日）

表 1-1(1)　河川水質試料中のダイオキシン類分析結果詳細（夏季：No.1）

計量結果詳細　　No. D251006111-001　P3/3

受付番号　D251006111 001　　試料名　環境水(河川水)

		実測濃度	試料における定量下限	試料における検出下限	毒性等価係数 TEF	毒性等量 TEQ その1	毒性等量 TEQ その2
	単位	pg/L	pg/L	pg/L	–	pg-TEQ/L	pg-TEQ/L
パラージオキシン	ポリ塩化ジベンゾ－						
	1,3,6,8-TeCDD	0.66	0.10	0.03	–	–	–
	1,3,7,9-TeCDD	0.16	0.10	0.03	–	–	–
	2,3,7,8-TeCDD	ND	0.10	0.03	1	0	0.015
	TeCDDs	0.82	0.10	0.03	–	–	–
	1,2,3,7,8-PeCDD	ND	0.09	0.03	1	0	0.015
	PeCDDs	0.19	0.09	0.03	–	–	–
	1,2,3,4,7,8-HxCDD	(0.04)	0.06	0.02	0.1	0	0.004
	1,2,3,6,7,8-HxCDD	(0.10)	0.16	0.05	0.1	0	0.010
	1,2,3,7,8,9-HxCDD	(0.11)	0.12	0.04	0.1	0	0.011
	HxCDDs	1.1	0.11	0.03	–	–	–
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDD	3.0	0.17	0.05	0.01	0.030	0.030
	HpCDDs	6.4	0.17	0.05	–	–	–
	1,2,3,4,6,7,8,9-OCDD	59	0.4	0.1	0.0003	0.0177	0.0177
	Total PCDDs	68	–	–	–	0.048	0.10
ポリ塩化ジベンゾフラン							
	1,2,7,8-TeCDF	ND	0.08	0.02	–	–	–
	2,3,7,8-TeCDF	ND	0.08	0.02	0.1	0	0.001
	TeCDFs	(0.06)	0.08	0.02	–	–	–
	1,2,3,7,8-PeCDF	ND	0.14	0.04	0.03	0	0.0006
	2,3,4,7,8-PeCDF	ND	0.17	0.05	0.3	0	0.0075
	PeCDFs	ND	0.16	0.05	–	–	–
	1,2,3,4,7,8-HxCDF	ND	0.15	0.05	0.1	0	0.0025
	1,2,3,6,7,8-HxCDF	ND	0.13	0.04	0.1	0	0.002
	1,2,3,7,8,9-HxCDF	ND	0.14	0.04	0.1	0	0.002
	2,3,4,6,7,8+1,2,3,6,8,9-HxCDF	ND	0.14	0.04	0.1	0	0.002
	HxCDFs	0.25	0.14	0.04	–	–	–
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDF	0.14	0.14	0.04	0.01	0.0014	0.0014
	1,2,3,4,7,8,9-HpCDF	ND	0.13	0.04	0.01	0	0.0002
	HpCDFs	0.36	0.13	0.04	–	–	–
	1,2,3,4,6,7,8,9-OCDF	0.4	0.4	0.1	0.0003	0.00012	0.00012
	Total PCDFs	1.1	–	–	–	0.0015	0.019
Total (PCDDs+PCDFs)		69	–	–	–	0.049	0.12
DLIPCBs							
	3,4,4',5-TeCB(#81)	ND	0.09	0.03	0.0003	0	0.0000045
	3,3',4,4'-TeCB(#77)	0.19	0.13	0.04	0.0001	0.000019	0.000019
	3,3',4,4',5-PeCB(#126)	ND	0.18	0.05	0.1	0	0.0025
	3,3',4,4',5,5'-HxCB(#169)	ND	0.18	0.05	0.03	0	0.00075
	Total ノンオルト体	0.19	–	–	–	0.000019	0.0033
	2',3,4,4',5-PeCB(#123)	ND	0.22	0.07	0.00003	0	0.00000105
	2,3',4,4',5-PeCB(#118)	1.3	0.20	0.06	0.00003	0.000039	0.000039
	2,3,3',4,4'-PeCB(#105)	0.61	0.22	0.06	0.00003	0.0000183	0.0000183
	2,3,4,4',5+3,3',4,5,5'-PeCB(#114+#127)	ND	0.13	0.04	0.00003	0	0.0000006
	2,3',4,4',5,5'-HxCB (#167)	(0.06)	0.15	0.05	0.00003	0	0.0000018
	2,3,3',4,4',5-HxCB(#156)	0.12	0.05	0.02	0.00003	0.0000036	0.0000036
	2,3,3',4,4',5'-HxCB(#157)	(0.04)	0.12	0.04	0.00003	0	0.0000012
	2,3,3',4,4',5,5'-HpCB(#189)	ND	0.14	0.04	0.00003	0	0.0000006
	Total モノオルト体	2.1	–	–	–	0.000061	0.000066
Total DL-PCBs		2.3	–	–	–	0.000080	0.0033
Total (PCDDs+PCDFs+DL-PCBs)		71	–	–	–	0.049	0.13

備考　1.実測濃度の欄中の括弧付の数値は、検出下限以上定量下限未満の濃度であることを示す。
2.実測濃度の欄中の"ND"は、検出下限未満であることを示す。
3.毒性等価係数は、WHO/IPCS(2006)のTEFを適用した。
4.毒性等量TEQその1は、定量下限未満の実測濃度を0(ゼロ)として算出したものである。
ダイオキシン類対策特別措置法施行規則(平成11年12月27日)により、水質排出基準の評価にはこの値を用いる。
5.毒性等量TEQその2は、定量下限未満検出下限以上の数値はそのままその値を用い、検出下限未満の数値は検出下限の1/2の値を用いて各異性体の毒性等量を算出したものである。
環水土第7号(平成12年1月12日)により、水質環境基準の評価にはこの値を用いる。

表 1-1(2)　河川水質試料中のダイオキシン類分析結果詳細（夏季：No.2）

計量結果詳細　　No. D251006112-001　P3/3

受付番号　D251006112 001　　試料名　環境水(河川水)

		実測濃度	試料における定量下限	試料における検出下限	毒性等価係数 TEF	毒性等量 TEQ その1	毒性等量 TEQ その2
	単位	pg/L	pg/L	pg/L	−	pg-TEQ/L	pg-TEQ/L
パラージオキシン	ポリ塩化ジベンゾ−ジオキシン						
	1,3,6,8-TeCDD	0.82	0.10	0.03	−	−	−
	1,3,7,9-TeCDD	0.28	0.10	0.03	−	−	−
	2,3,7,8-TeCDD	ND	0.10	0.03	1	0	0.015
	TeCDDs	1.1	0.10	0.03	−	−	−
	1,2,3,7,8-PeCDD	ND	0.09	0.03	1	0	0.015
	PeCDDs	0.09	0.09	0.03	−	−	−
	1,2,3,4,7,8-HxCDD	ND	0.06	0.02	0.1	0	0.001
	1,2,3,6,7,8-HxCDD	(0.07)	0.16	0.05	0.1	0	0.007
	1,2,3,7,8,9-HxCDD	(0.07)	0.12	0.04	0.1	0	0.007
	HxCDDs	0.70	0.11	0.03	−	−	−
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDD	2.6	0.17	0.05	0.01	0.026	0.026
	HpCDDs	5.4	0.17	0.05	−	−	−
	1,2,3,4,6,7,8,9-OCDD	52	0.4	0.1	0.0003	0.0156	0.0156
	Total PCDDs	59	−	−	−	0.042	0.087
	ポリ塩化ジベンゾフラン						
	1,2,7,8-TeCDF	ND	0.08	0.02	−	−	−
	2,3,7,8-TeCDF	ND	0.08	0.02	0.1	0	0.001
	TeCDFs	(0.05)	0.08	0.02	−	−	−
	1,2,3,7,8-PeCDF	ND	0.14	0.04	0.03	0	0.0006
	2,3,4,7,8-PeCDF	ND	0.17	0.05	0.3	0	0.0075
	PeCDFs	ND	0.16	0.05	−	−	−
	1,2,3,4,7,8-HxCDF	ND	0.15	0.05	0.1	0	0.0025
	1,2,3,6,7,8-HxCDF	ND	0.13	0.04	0.1	0	0.002
	1,2,3,7,8,9-HxCDF	ND	0.14	0.04	0.1	0	0.002
	2,3,4,6,7,8+1,2,3,6,8,9-HxCDF	ND	0.14	0.04	0.1	0	0.002
	HxCDFs	0.26	0.14	0.04	−	−	−
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDF	(0.12)	0.14	0.04	0.01	0	0.0012
	1,2,3,4,7,8,9-HpCDF	ND	0.13	0.04	0.01	0	0.0002
	HpCDFs	0.30	0.13	0.04	−	−	−
	1,2,3,4,6,7,8,9-OCDF	0.4	0.4	0.1	0.0003	0.00012	0.00012
	Total PCDFs	1.0	−	−	−	0.00012	0.019
Total (PCDDs+PCDFs)		60	−	−	−	0.042	0.11
DL-PCBs							
	3,4,4',5-TeCB(#81)	ND	0.09	0.03	0.0003	0	0.0000045
	3,3',4,4'-TeCB(#77)	0.15	0.13	0.04	0.0001	0.000015	0.000015
	3,3',4,4',5-PeCB(#126)	ND	0.18	0.05	0.1	0	0.0025
	3,3',4,4',5,5'-HxCB(#169)	ND	0.18	0.05	0.03	0	0.00075
	Total ノンオルト体	0.15	−	−	−	0.000015	0.0033
	2',3,4,4',5-PeCB(#123)	ND	0.22	0.07	0.00003	0	0.00000105
	2,3',4,4',5-PeCB(#118)	1.0	0.20	0.06	0.00003	0.000030	0.000030
	2,3,3',4,4'-PeCB(#105)	0.43	0.22	0.06	0.00003	0.0000129	0.0000129
	2,3,4,4',5+3,3',4,5,5'-PeCB(#114+#127)	ND	0.13	0.04	0.00003	0	0.0000006
	2,3',4,4',5,5'-HxCB (#167)	ND	0.15	0.05	0.00003	0	0.00000075
	2,3,3',4,4',5-HxCB(#156)	0.11	0.05	0.02	0.00003	0.0000033	0.0000033
	2,3,3',4,4',5'-HxCB(#157)	ND	0.12	0.04	0.00003	0	0.0000006
	2,3,3',4,4',5,5'-HpCB(#189)	ND	0.14	0.04	0.00003	0	0.0000006
	Total モノオルト体	1.5	−	−	−	0.000046	0.000050
Total DL-PCBs		1.7	−	−	−	0.000061	0.0033
Total (PCDDs+PCDFs+DL-PCBs)		62	−	−	−	0.042	0.11

備考　1.実測濃度の欄中の括弧付の数値は、検出下限以上定量下限未満の濃度であることを示す。
2.実測濃度の欄中の"ND"は、検出下限未満であることを示す。
3.毒性等価係数は、WHO/IPCS(2006)のTEFを適用した。
4.毒性等量TEQその1は、定量下限未満の実測濃度を0(ゼロ)として算出したものである。
ダイオキシン類対策特別措置法施行規則(平成11年12月27日)により、水質排出基準の評価にはこの値を用いる。
5.毒性等量TEQその2は、定量下限未満検出下限以上の数値はそのままその値を用い、検出下限未満の数値は検出下限の1/2の値を用いて各異性体の毒性等量を算出したものである。
環水土第7号(平成12年1月12日)により、水質環境基準の評価にはこの値を用いる。

表 1-1(3)　河川水質試料中のダイオキシン類分析結果詳細（夏季：No.3）

計量結果詳細　　No. D251006113-001　P3/3

受付番号　D251006113 001　　試料名　環境水(河川水)

		実測濃度	試料における定量下限	試料における検出下限	毒性等価係数 TEF	毒性等量 TEQ その1	毒性等量 TEQ その2
	単位	pg/L	pg/L	pg/L	–	pg-TEQ/L	pg-TEQ/L
ポリ塩化ジベンゾ－パラ－ジオキシン	1,3,6,8-TeCDD	1.0	0.10	0.03	–	–	–
	1,3,7,9-TeCDD	0.27	0.10	0.03	–	–	–
	2,3,7,8-TeCDD	ND	0.10	0.03	1	0	0.015
	TeCDDs	1.3	0.10	0.03	–	–	–
	1,2,3,7,8-PeCDD	ND	0.09	0.03	1	0	0.015
	PeCDDs	0.24	0.09	0.03	–	–	–
	1,2,3,4,7,8-HxCDD	0.06	0.06	0.02	0.1	0.006	0.006
	1,2,3,6,7,8-HxCDD	(0.10)	0.16	0.05	0.1	0	0.010
	1,2,3,7,8,9-HxCDD	(0.11)	0.12	0.04	0.1	0	0.011
	HxCDDs	1.2	0.11	0.03	–	–	–
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDD	3.4	0.17	0.05	0.01	0.034	0.034
	HpCDDs	7.0	0.17	0.05	–	–	–
	1,2,3,4,6,7,8,9-OCDD	65	0.4	0.1	0.0003	0.0195	0.0195
	Total PCDDs	75	–	–	–	0.060	0.11
ポリ塩化ジベンゾフラン	1,2,7,8-TeCDF	ND	0.08	0.02	–	–	–
	2,3,7,8-TeCDF	ND	0.08	0.02	0.1	0	0.001
	TeCDFs	0.08	0.08	0.02	–	–	–
	1,2,3,7,8-PeCDF	ND	0.14	0.04	0.03	0	0.0006
	2,3,4,7,8-PeCDF	ND	0.17	0.05	0.3	0	0.0075
	PeCDFs	(0.06)	0.16	0.05	–	–	–
	1,2,3,4,7,8-HxCDF	ND	0.15	0.05	0.1	0	0.0025
	1,2,3,6,7,8-HxCDF	ND	0.13	0.04	0.1	0	0.002
	1,2,3,7,8,9-HxCDF	ND	0.14	0.04	0.1	0	0.002
	2,3,4,6,7,8+1,2,3,6,8,9-HxCDF	ND	0.14	0.04	0.1	0	0.002
	HxCDFs	0.43	0.14	0.04	–	–	–
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDF	0.23	0.14	0.04	0.01	0.0023	0.0023
	1,2,3,4,7,8,9-HpCDF	ND	0.13	0.04	0.01	0	0.0002
	HpCDFs	0.57	0.13	0.04	–	–	–
	1,2,3,4,6,7,8,9-OCDF	0.7	0.4	0.1	0.0003	0.00021	0.00021
	Total PCDFs	1.8	–	–	–	0.0025	0.020
Total (PCDDs+PCDFs)		77	–	–	–	0.062	0.13
DLIPCBs	3,4,4',5-TeCB(#81)	ND	0.09	0.03	0.0003	0	0.0000045
	3,3',4,4'-TeCB(#77)	0.17	0.13	0.04	0.0001	0.000017	0.000017
	3,3',4,4',5-PeCB(#126)	ND	0.18	0.05	0.1	0	0.0025
	3,3',4,4',5,5'-HxCB(#169)	ND	0.18	0.05	0.03	0	0.00075
	Total ノンオルト体	0.17	–	–	–	0.000017	0.0033
	2',3,4,4',5-PeCB(#123)	ND	0.22	0.07	0.00003	0	0.00000105
	2,3',4,4',5-PeCB(#118)	1.4	0.19	0.06	0.00003	0.000042	0.000042
	2,3,3',4,4'-PeCB(#105)	0.66	0.21	0.06	0.00003	0.0000198	0.0000198
	2,3,4,4',5+3,3',4,5,5'-PeCB(#114+#127)	ND	0.12	0.04	0.00003	0	0.0000006
	2,3',4,4',5,5'-HxCB (#167)	(0.08)	0.15	0.05	0.00003	0	0.0000024
	2,3,3',4,4',5-HxCB(#156)	0.20	0.05	0.02	0.00003	0.0000060	0.0000060
	2,3,3',4,4',5'-HxCB(#157)	ND	0.12	0.04	0.00003	0	0.0000006
	2,3,3',4,4',5,5'-HpCB(#189)	ND	0.14	0.04	0.00003	0	0.0000006
	Total モノオルト体	2.3	–	–	–	0.000068	0.000073
Total DL-PCBs		2.5	–	–	–	0.000085	0.0033
Total (PCDDs+PCDFs+DL-PCBs)		79	–	–	–	0.062	0.13

備考　1.実測濃度の欄中の括弧付の数値は、検出下限以上定量下限未満の濃度であることを示す。
2.実測濃度の欄中の"ND"は、検出下限未満であることを示す。
3.毒性等価係数は、WHO/IPCS(2006)のTEFを適用した。
4.毒性等量TEQその1は、定量下限未満の実測濃度を0(ゼロ)として算出したものである。
ダイオキシン類対策特別措置法施行規則(平成11年12月27日)により、水質排出基準の評価にはこの値を用いる。
5.毒性等量TEQその2は、定量下限未満検出下限以上の数値はそのままその値を用い、検出下限未満の数値は検出下限の1/2の値を用いて各異性体の毒性等量を算出したものである。
環水土第7号(平成12年1月12日)により、水質環境基準の評価にはこの値を用いる。

表 1-1(4)　河川水質試料中のダイオキシン類分析結果詳細（夏季：No.4）

計量結果詳細　　No. D251006114-001　P3/3

受付番号　D251006114 001　　試料名　環境水(河川水)

		実測濃度	試料における定量下限	試料における検出下限	毒性等価係数 TEF	毒性等量 TEQ その1	毒性等量 TEQ その2
	単位	pg/L	pg/L	pg/L	–	pg-TEQ/L	pg-TEQ/L
パラージオキシン	ポリ塩化ジベンゾ－						
	1,3,6,8-TeCDD	1.2	0.10	0.03	–	–	–
	1,3,7,9-TeCDD	0.36	0.10	0.03	–	–	–
	2,3,7,8-TeCDD	ND	0.10	0.03	1	0	0.015
	TeCDDs	1.6	0.10	0.03	–	–	–
	1,2,3,7,8-PeCDD	ND	0.09	0.03	1	0	0.015
	PeCDDs	0.25	0.09	0.03	–	–	–
	1,2,3,4,7,8-HxCDD	ND	0.06	0.02	0.1	0	0.001
	1,2,3,6,7,8-HxCDD	(0.07)	0.16	0.05	0.1	0	0.007
	1,2,3,7,8,9-HxCDD	(0.08)	0.12	0.04	0.1	0	0.008
	HxCDDs	0.85	0.11	0.03	–	–	–
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDD	2.5	0.17	0.05	0.01	0.025	0.025
	HpCDDs	5.6	0.17	0.05	–	–	–
	1,2,3,4,6,7,8,9-OCDD	42	0.4	0.1	0.0003	0.0126	0.0126
	Total PCDDs	50	–	–	–	0.038	0.084
ポリ塩化ジベンゾフラン							
	1,2,7,8-TeCDF	ND	0.08	0.02	–	–	–
	2,3,7,8-TeCDF	ND	0.08	0.02	0.1	0	0.001
	TeCDFs	0.11	0.08	0.02	–	–	–
	1,2,3,7,8-PeCDF	ND	0.14	0.04	0.03	0	0.0006
	2,3,4,7,8-PeCDF	ND	0.17	0.05	0.3	0	0.0075
	PeCDFs	ND	0.16	0.05	–	–	–
	1,2,3,4,7,8-HxCDF	ND	0.15	0.05	0.1	0	0.0025
	1,2,3,6,7,8-HxCDF	ND	0.13	0.04	0.1	0	0.002
	1,2,3,7,8,9-HxCDF	ND	0.14	0.04	0.1	0	0.002
	2,3,4,6,7,8+1,2,3,6,8,9-HxCDF	ND	0.14	0.04	0.1	0	0.002
	HxCDFs	0.36	0.14	0.04	–	–	–
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDF	(0.13)	0.14	0.04	0.01	0	0.0013
	1,2,3,4,7,8,9-HpCDF	ND	0.13	0.04	0.01	0	0.0002
	HpCDFs	0.32	0.13	0.04	–	–	–
	1,2,3,4,6,7,8,9-OCDF	(0.3)	0.4	0.1	0.0003	0	0.00009
	Total PCDFs	1.1	–	–	–	0	0.019
Total (PCDDs+PCDFs)		51	–	–	–	0.038	0.10
DL-PCBs							
	3,4,4',5-TeCB(#81)	ND	0.09	0.03	0.0003	0	0.0000045
	3,3',4,4'-TeCB(#77)	0.16	0.13	0.04	0.0001	0.000016	0.000016
	3,3',4,4',5-PeCB(#126)	ND	0.18	0.05	0.1	0	0.0025
	3,3',4,4',5,5'-HxCB(#169)	ND	0.18	0.05	0.03	0	0.00075
	Total ノンオルト体	0.16	–	–	–	0.000016	0.0033
	2',3,4,4',5-PeCB(#123)	ND	0.22	0.07	0.00003	0	0.00000105
	2,3',4,4',5-PeCB(#118)	1.2	0.19	0.06	0.00003	0.000036	0.000036
	2,3,3',4,4'-PeCB(#105)	0.50	0.21	0.06	0.00003	0.000015	0.000015
	2,3,4,4',5+3,3',4,5,5'-PeCB(#114+#127)	ND	0.12	0.04	0.00003	0	0.0000006
	2,3',4,4',5,5'-HxCB (#167)	(0.06)	0.15	0.05	0.00003	0	0.0000018
	2,3,3',4,4',5-HxCB(#156)	0.13	0.05	0.02	0.00003	0.0000039	0.0000039
	2,3,3',4,4',5'-HxCB(#157)	(0.04)	0.12	0.04	0.00003	0	0.0000012
	2,3,3',4,4',5,5'-HpCB(#189)	ND	0.14	0.04	0.00003	0	0.0000006
	Total モノオルト体	1.9	–	–	–	0.000055	0.000060
Total DL-PCBs		2.1	–	–	–	0.000071	0.0033
Total (PCDDs+PCDFs+DL-PCBs)		53	–	–	–	0.038	0.11

備考　1.実測濃度の欄中の括弧付の数値は、検出下限以上定量下限未満の濃度であることを示す。
2.実測濃度の欄中の"ND"は、検出下限未満であることを示す。
3.毒性等価係数は、WHO/IPCS(2006)のTEFを適用した。
4.毒性等量TEQその1は、定量下限未満の実測濃度を0(ゼロ)として算出したものである。
ダイオキシン類対策特別措置法施行規則(平成11年12月27日)により、水質排出基準の評価にはこの値を用いる。
5.毒性等量TEQその2は、定量下限未満検出下限以上の数値はそのままその値を用い、検出下限未満の数値は検出下限の1/2の値を用いて各異性体の毒性等量を算出したものである。
環水土第7号(平成12年1月12日)により、水質環境基準の評価にはこの値を用いる。

表 1-2(1)　河川水質試料中のダイオキシン類分析結果詳細（冬季：No.1）

計量結果詳細　　No. D251006131-001　P3/3

受付番号　D251006131 001　　試料名　環境水(河川水)

		実測濃度	試料における定量下限	試料における検出下限	毒性等価係数 TEF	毒性等量 TEQ その1	毒性等量 TEQ その2
	単位	pg/L	pg/L	pg/L	–	pg-TEQ/L	pg-TEQ/L
ポリ塩化ジベンゾ－パラ－ジオキシン	1,3,6,8-TeCDD	0.31	0.10	0.03	–	–	–
	1,3,7,9-TeCDD	(0.09)	0.10	0.03	–	–	–
	2,3,7,8-TeCDD	ND	0.10	0.03	1	0	0.015
	TeCDDs	0.40	0.10	0.03	–	–	–
	1,2,3,7,8-PeCDD	ND	0.09	0.03	1	0	0.015
	PeCDDs	ND	0.09	0.03	–	–	–
	1,2,3,4,7,8-HxCDD	ND	0.06	0.02	0.1	0	0.001
	1,2,3,6,7,8-HxCDD	ND	0.16	0.05	0.1	0	0.0025
	1,2,3,7,8,9-HxCDD	ND	0.12	0.04	0.1	0	0.002
	HxCDDs	0.26	0.11	0.03	–	–	–
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDD	0.81	0.17	0.05	0.01	0.0081	0.0081
	HpCDDs	1.6	0.17	0.05	–	–	–
	1,2,3,4,6,7,8,9-OCDD	27	0.4	0.1	0.0003	0.0081	0.0081
	Total PCDDs	29	–	–	–	0.016	0.052
ポリ塩化ジベンゾフラン	1,2,7,8-TeCDF	ND	0.08	0.02	–	–	–
	2,3,7,8-TeCDF	ND	0.08	0.02	0.1	0	0.001
	TeCDFs	ND	0.08	0.02	–	–	–
	1,2,3,7,8-PeCDF	ND	0.14	0.04	0.03	0	0.0006
	2,3,4,7,8-PeCDF	ND	0.17	0.05	0.3	0	0.0075
	PeCDFs	ND	0.16	0.05	–	–	–
	1,2,3,4,7,8-HxCDF	ND	0.15	0.05	0.1	0	0.0025
	1,2,3,6,7,8-HxCDF	ND	0.13	0.04	0.1	0	0.002
	1,2,3,7,8,9-HxCDF	ND	0.14	0.04	0.1	0	0.002
	2,3,4,6,7,8+1,2,3,6,8,9-HxCDF	ND	0.14	0.04	0.1	0	0.002
	HxCDFs	ND	0.14	0.04	–	–	–
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDF	(0.04)	0.14	0.04	0.01	0	0.0004
	1,2,3,4,7,8,9-HpCDF	ND	0.13	0.04	0.01	0	0.0002
	HpCDFs	(0.11)	0.13	0.04	–	–	–
	1,2,3,4,6,7,8,9-OCDF	(0.2)	0.4	0.1	0.0003	0	0.00006
	Total PCDFs	0.31	–	–	–	0	0.018
Total (PCDDs+PCDFs)		30	–	–	–	0.016	0.070
DL-PCBs	3,4,4',5-TeCB(#81)	ND	0.09	0.03	0.0003	0	0.0000045
	3,3',4,4'-TeCB(#77)	(0.07)	0.13	0.04	0.0001	0	0.000007
	3,3',4,4',5-PeCB(#126)	ND	0.18	0.05	0.1	0	0.0025
	3,3',4,4',5,5'-HxCB(#169)	ND	0.18	0.05	0.03	0	0.00075
	Total ノンオルト体	0.07	–	–	–	0	0.0033
	2',3,4,4',5-PeCB(#123)	ND	0.22	0.07	0.00003	0	0.00000105
	2,3',4,4',5-PeCB(#118)	0.51	0.20	0.06	0.00003	0.0000153	0.0000153
	2,3,3',4,4'-PeCB(#105)	(0.19)	0.22	0.06	0.00003	0	0.0000057
	2,3,4,4',5+3,3',4,5,5'-PeCB(#114+#127)	ND	0.13	0.04	0.00003	0	0.0000006
	2,3',4,4',5,5'-HxCB (#167)	ND	0.15	0.05	0.00003	0	0.00000075
	2,3,3',4,4',5-HxCB(#156)	0.05	0.05	0.02	0.00003	0.0000015	0.0000015
	2,3,3',4,4',5'-HxCB(#157)	ND	0.12	0.04	0.00003	0	0.0000006
	2,3,3',4,4',5,5'-HpCB(#189)	ND	0.14	0.04	0.00003	0	0.0000006
	Total モノオルト体	0.75	–	–	–	0.000017	0.000026
Total DL-PCBs		0.82	–	–	–	0.000017	0.0033
Total (PCDDs+PCDFs+DL-PCBs)		30	–	–	–	0.016	0.073

備考　1.実測濃度の欄中の括弧付の数値は、検出下限以上定量下限未満の濃度であることを示す。
2.実測濃度の欄中の"ND"は、検出下限未満であることを示す。
3.毒性等価係数は、WHO/IPCS(2006)のTEFを適用した。
4.毒性等量TEQその1は、定量下限未満の実測濃度を0(ゼロ)として算出したものである。
ダイオキシン類対策特別措置法施行規則(平成11年12月27日)により、水質排出基準の評価にはこの値を用いる。
5.毒性等量TEQその2は、定量下限未満検出下限以上の数値はそのままその値を用い、検出下限未満の数値は検出下限の1/2の値を用いて各異性体の毒性等量を算出したものである。
環水土第7号(平成12年1月12日)により、水質環境基準の評価にはこの値を用いる。

表 1-2(2)　河川水質試料中のダイオキシン類分析結果詳細（冬季：No.2）

計量結果詳細　　No. D251006132-001　P3/3

受付番号　D251006132 001　　**試料名**　環境水(河川水)

		実測濃度	試料における定量下限	試料における検出下限	毒性等価係数 TEF	毒性等量 TEQ その1	毒性等量 TEQ その2
	単位	pg/L	pg/L	pg/L	−	pg-TEQ/L	pg-TEQ/L
ポリ塩化ジベンゾ−パラ−ジオキシン	1,3,6,8-TeCDD	0.41	0.10	0.03	−	−	−
	1,3,7,9-TeCDD	(0.09)	0.10	0.03	−	−	−
	2,3,7,8-TeCDD	ND	0.10	0.03	1	0	0.015
	TeCDDs	0.50	0.10	0.03	−	−	−
	1,2,3,7,8-PeCDD	ND	0.09	0.03	1	0	0.015
	PeCDDs	0.10	0.09	0.03	−	−	−
	1,2,3,4,7,8-HxCDD	ND	0.06	0.02	0.1	0	0.001
	1,2,3,6,7,8-HxCDD	ND	0.16	0.05	0.1	0	0.0025
	1,2,3,7,8,9-HxCDD	ND	0.12	0.04	0.1	0	0.002
	HxCDDs	0.34	0.11	0.03	−	−	−
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDD	0.83	0.17	0.05	0.01	0.0083	0.0083
	HpCDDs	1.7	0.17	0.05	−	−	−
	1,2,3,4,6,7,8,9-OCDD	27	0.4	0.1	0.0003	0.0081	0.0081
	Total PCDDs	30	−	−	−	0.016	0.052
ポリ塩化ジベンゾフラン	1,2,7,8-TeCDF	ND	0.08	0.02	−	−	−
	2,3,7,8-TeCDF	ND	0.08	0.02	0.1	0	0.001
	TeCDFs	(0.05)	0.08	0.02	−	−	−
	1,2,3,7,8-PeCDF	ND	0.14	0.04	0.03	0	0.0006
	2,3,4,7,8-PeCDF	ND	0.17	0.05	0.3	0	0.0075
	PeCDFs	ND	0.16	0.05	−	−	−
	1,2,3,4,7,8-HxCDF	ND	0.15	0.05	0.1	0	0.0025
	1,2,3,6,7,8-HxCDF	ND	0.13	0.04	0.1	0	0.002
	1,2,3,7,8,9-HxCDF	ND	0.14	0.04	0.1	0	0.002
	2,3,4,6,7,8+1,2,3,6,8,9-HxCDF	ND	0.14	0.04	0.1	0	0.002
	HxCDFs	ND	0.14	0.04	−	−	−
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDF	ND	0.14	0.04	0.01	0	0.0002
	1,2,3,4,7,8,9-HpCDF	ND	0.13	0.04	0.01	0	0.0002
	HpCDFs	(0.11)	0.13	0.04	−	−	−
	1,2,3,4,6,7,8,9-OCDF	(0.2)	0.4	0.1	0.0003	0	0.00006
	Total PCDFs	0.36	−	−	−	0	0.018
Total (PCDDs+PCDFs)		30	−	−	−	0.016	0.070
DL-PCBs	3,4,4',5-TeCB(#81)	ND	0.09	0.03	0.0003	0	0.0000045
	3,3',4,4'-TeCB(#77)	(0.10)	0.13	0.04	0.0001	0	0.000010
	3,3',4,4',5-PeCB(#126)	ND	0.18	0.05	0.1	0	0.0025
	3,3',4,4',5,5'-HxCB(#169)	ND	0.18	0.05	0.03	0	0.00075
	Total ノンオルト体	0.10	−	−	−	0	0.0033
	2',3,4,4',5-PeCB(#123)	ND	0.22	0.07	0.00003	0	0.00000105
	2,3',4,4',5-PeCB(#118)	0.43	0.19	0.06	0.00003	0.0000129	0.0000129
	2,3,3',4,4'-PeCB(#105)	(0.20)	0.21	0.06	0.00003	0	0.000006
	2,3,4,4',5+3,3',4,5,5'-PeCB(#114+#127)	ND	0.12	0.04	0.00003	0	0.0000006
	2,3',4,4',5,5'-HxCB (#167)	ND	0.15	0.05	0.00003	0	0.00000075
	2,3,3',4,4',5-HxCB(#156)	0.05	0.05	0.02	0.00003	0.0000015	0.0000015
	2,3,3',4,4',5'-HxCB(#157)	ND	0.12	0.04	0.00003	0	0.0000006
	2,3,3',4,4',5,5'-HpCB(#189)	ND	0.14	0.04	0.00003	0	0.0000006
	Total モノオルト体	0.68	−	−	−	0.000014	0.000024
Total DL-PCBs		0.78	−	−	−	0.000014	0.0033
Total (PCDDs+PCDFs+DL-PCBs)		31	−	−	−	0.016	0.073

備考　1.実測濃度の欄中の括弧付の数値は、検出下限以上定量下限未満の濃度であることを示す。
2.実測濃度の欄中の"ND"は、検出下限未満であることを示す。
3.毒性等価係数は、WHO/IPCS(2006)のTEFを適用した。
4.毒性等量TEQその1は、定量下限未満の実測濃度を0(ゼロ)として算出したものである。
ダイオキシン類対策特別措置法施行規則(平成11年12月27日)により、水質排出基準の評価にはこの値を用いる。
5.毒性等量TEQその2は、定量下限未満検出下限以上の数値はそのままその値を用い、検出下限未満の数値は検出下限の1/2の値を用いて各異性体の毒性等量を算出したものである。
環水土第7号(平成12年1月12日)により、水質環境基準の評価にはこの値を用いる。

表 1-2(3)　河川水質試料中のダイオキシン類分析結果詳細（冬季：No.3）

計量結果詳細　　No. D251006133-001　P3/3

受付番号　D251006133 001　　試料名　環境水(河川水)

		実測濃度	試料における定量下限	試料における検出下限	毒性等価係数 TEF	毒性等量 TEQ その1	毒性等量 TEQ その2
	単位	pg/L	pg/L	pg/L	−	pg-TEQ/L	pg-TEQ/L
ポリ塩化ジベンゾ−パラ−ジオキシン	1,3,6,8-TeCDD	0.41	0.10	0.03	−	−	−
	1,3,7,9-TeCDD	0.11	0.10	0.03	−	−	−
	2,3,7,8-TeCDD	ND	0.10	0.03	1	0	0.015
	TeCDDs	0.52	0.10	0.03	−	−	−
	1,2,3,7,8-PeCDD	ND	0.09	0.03	1	0	0.015
	PeCDDs	ND	0.09	0.03	−	−	−
	1,2,3,4,7,8-HxCDD	ND	0.06	0.02	0.1	0	0.001
	1,2,3,6,7,8-HxCDD	ND	0.16	0.05	0.1	0	0.0025
	1,2,3,7,8,9-HxCDD	ND	0.12	0.04	0.1	0	0.002
	HxCDDs	0.30	0.11	0.03	−	−	−
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDD	0.86	0.17	0.05	0.01	0.0086	0.0086
	HpCDDs	1.7	0.17	0.05	−	−	−
	1,2,3,4,6,7,8,9-OCDD	23	0.4	0.1	0.0003	0.0069	0.0069
	Total PCDDs	26	−	−	−	0.016	0.051
ポリ塩化ジベンゾフラン	1,2,7,8-TeCDF	ND	0.08	0.02	−	−	−
	2,3,7,8-TeCDF	ND	0.08	0.02	0.1	0	0.001
	TeCDFs	(0.04)	0.08	0.02	−	−	−
	1,2,3,7,8-PeCDF	ND	0.14	0.04	0.03	0	0.0006
	2,3,4,7,8-PeCDF	ND	0.17	0.05	0.3	0	0.0075
	PeCDFs	ND	0.16	0.05	−	−	−
	1,2,3,4,7,8-HxCDF	ND	0.15	0.05	0.1	0	0.0025
	1,2,3,6,7,8-HxCDF	ND	0.13	0.04	0.1	0	0.002
	1,2,3,7,8,9-HxCDF	ND	0.14	0.04	0.1	0	0.002
	2,3,4,6,7,8+1,2,3,6,8,9-HxCDF	ND	0.14	0.04	0.1	0	0.002
	HxCDFs	ND	0.14	0.04	−	−	−
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDF	(0.06)	0.14	0.04	0.01	0	0.0006
	1,2,3,4,7,8,9-HpCDF	ND	0.13	0.04	0.01	0	0.0002
	HpCDFs	0.14	0.13	0.04	−	−	−
	1,2,3,4,6,7,8,9-OCDF	(0.2)	0.4	0.1	0.0003	0	0.00006
	Total PCDFs	0.38	−	−	−	0	0.018
Total (PCDDs+PCDFs)		26	−	−	−	0.016	0.069
DL-PCBs	3,4,4',5-TeCB(#81)	ND	0.09	0.03	0.0003	0	0.0000045
	3,3',4,4'-TeCB(#77)	(0.10)	0.13	0.04	0.0001	0	0.000010
	3,3',4,4',5-PeCB(#126)	ND	0.18	0.05	0.1	0	0.0025
	3,3',4,4',5,5'-HxCB(#169)	ND	0.18	0.05	0.03	0	0.00075
	Total ノンオルト体	0.10	−	−	−	0	0.0033
	2',3,4,4',5-PeCB(#123)	ND	0.22	0.07	0.00003	0	0.00000105
	2,3',4,4',5-PeCB(#118)	0.54	0.19	0.06	0.00003	0.0000162	0.0000162
	2,3,3',4,4'-PeCB(#105)	0.26	0.21	0.06	0.00003	0.0000078	0.0000078
	2,3,4,4',5+3,3',4,5,5'-PeCB(#114+#127)	ND	0.12	0.04	0.00003	0	0.0000006
	2,3',4,4',5,5'-HxCB (#167)	ND	0.15	0.04	0.00003	0	0.0000006
	2,3,3',4,4',5-HxCB(#156)	0.10	0.05	0.02	0.00003	0.0000030	0.0000030
	2,3,3',4,4',5'-HxCB(#157)	ND	0.12	0.04	0.00003	0	0.0000006
	2,3,3',4,4',5,5'-HpCB(#189)	ND	0.14	0.04	0.00003	0	0.0000006
	Total モノオルト体	0.90	−	−	−	0.000027	0.000030
Total DL-PCBs		1.0	−	−	−	0.000027	0.0033
Total (PCDDs+PCDFs+DL-PCBs)		27	−	−	−	0.016	0.073

備考　1.実測濃度の欄中の括弧付の数値は、検出下限以上定量下限未満の濃度であることを示す。
2.実測濃度の欄中の"ND"は、検出下限未満であることを示す。
3.毒性等価係数は、WHO/IPCS(2006)のTEFを適用した。
4.毒性等量TEQその1は、定量下限未満の実測濃度を0(ゼロ)として算出したものである。
ダイオキシン類対策特別措置法施行規則(平成11年12月27日)により、水質排出基準の評価にはこの値を用いる。
5.毒性等量TEQその2は、定量下限未満検出下限以上の数値はそのままその値を用い、検出下限未満の数値は検出下限の1/2の値を用いて各異性体の毒性等量を算出したものである。
環水土第7号(平成12年1月12日)により、水質環境基準の評価にはこの値を用いる。

表 1-2(4)　河川水質試料中のダイオキシン類分析結果詳細（冬季：No.4）

計量結果詳細　　No. D251006134-001　P3/3

受付番号　D251006134 001　　試料名　環境水(河川水)

		実測濃度	試料における定量下限	試料における検出下限	毒性等価係数 TEF	毒性等量 TEQ その1	毒性等量 TEQ その2
	単位	pg/L	pg/L	pg/L	–	pg-TEQ/L	pg-TEQ/L
パラ－ジオキシン	ポリ塩化ジベンゾ－						
	1,3,6,8-TeCDD	0.35	0.10	0.03	–	–	–
	1,3,7,9-TeCDD	0.11	0.10	0.03	–	–	–
	2,3,7,8-TeCDD	ND	0.10	0.03	1	0	0.015
	TeCDDs	0.46	0.10	0.03	–	–	–
	1,2,3,7,8-PeCDD	ND	0.09	0.03	1	0	0.015
	PeCDDs	ND	0.09	0.03	–	–	–
	1,2,3,4,7,8-HxCDD	ND	0.06	0.02	0.1	0	0.001
	1,2,3,6,7,8-HxCDD	ND	0.16	0.05	0.1	0	0.0025
	1,2,3,7,8,9-HxCDD	ND	0.12	0.04	0.1	0	0.002
	HxCDDs	ND	0.11	0.03	–	–	–
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDD	0.45	0.17	0.05	0.01	0.0045	0.0045
	HpCDDs	0.96	0.17	0.05	–	–	–
	1,2,3,4,6,7,8,9-OCDD	10	0.4	0.1	0.0003	0.0030	0.0030
	Total PCDDs	11	–	–	–	0.0075	0.043
	ポリ塩化ジベンゾフラン						
	1,2,7,8-TeCDF	ND	0.08	0.02	–	–	–
	2,3,7,8-TeCDF	ND	0.08	0.02	0.1	0	0.001
	TeCDFs	(0.04)	0.08	0.02	–	–	–
	1,2,3,7,8-PeCDF	ND	0.14	0.04	0.03	0	0.0006
	2,3,4,7,8-PeCDF	ND	0.17	0.05	0.3	0	0.0075
	PeCDFs	ND	0.16	0.05	–	–	–
	1,2,3,4,7,8-HxCDF	ND	0.15	0.05	0.1	0	0.0025
	1,2,3,6,7,8-HxCDF	ND	0.13	0.04	0.1	0	0.002
	1,2,3,7,8,9-HxCDF	ND	0.14	0.04	0.1	0	0.002
	2,3,4,6,7,8+1,2,3,6,8,9-HxCDF	ND	0.14	0.04	0.1	0	0.002
	HxCDFs	ND	0.14	0.04	–	–	–
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDF	ND	0.14	0.04	0.01	0	0.0002
	1,2,3,4,7,8,9-HpCDF	ND	0.13	0.04	0.01	0	0.0002
	HpCDFs	(0.07)	0.13	0.04	–	–	–
	1,2,3,4,6,7,8,9-OCDF	(0.1)	0.4	0.1	0.0003	0	0.00003
	Total PCDFs	0.21	–	–	–	0	0.018
Total (PCDDs+PCDFs)		12	–	–	–	0.0075	0.061
DL-PCBs							
	3,4,4',5-TeCB(#81)	ND	0.09	0.03	0.0003	0	0.0000045
	3,3',4,4'-TeCB(#77)	(0.09)	0.13	0.04	0.0001	0	0.000009
	3,3',4,4',5-PeCB(#126)	ND	0.18	0.05	0.1	0	0.0025
	3,3',4,4',5,5'-HxCB(#169)	ND	0.18	0.05	0.03	0	0.00075
	Total ノンオルト体	0.09	–	–	–	0	0.0033
	2',3,4,4',5-PeCB(#123)	ND	0.22	0.07	0.00003	0	0.00000105
	2,3',4,4',5-PeCB(#118)	0.70	0.19	0.06	0.00003	0.000021	0.000021
	2,3,3',4,4'-PeCB(#105)	0.31	0.21	0.06	0.00003	0.0000093	0.0000093
	2,3,4,4',5+3,3',4,5,5'-PeCB(#114+#127)	ND	0.12	0.04	0.00003	0	0.0000006
	2,3',4,4',5,5'-HxCB (#167)	ND	0.15	0.05	0.00003	0	0.00000075
	2,3,3',4,4',5-HxCB(#156)	0.11	0.05	0.02	0.00003	0.0000033	0.0000033
	2,3,3',4,4',5'-HxCB(#157)	ND	0.12	0.04	0.00003	0	0.0000006
	2,3,3',4,4',5,5'-HpCB(#189)	ND	0.14	0.04	0.00003	0	0.0000006
	Total モノオルト体	1.1	–	–	–	0.000034	0.000037
Total DL-PCBs		1.2	–	–	–	0.000034	0.0033
Total (PCDDs+PCDFs+DL-PCBs)		13	–	–	–	0.0075	0.064

備考　1.実測濃度の欄中の括弧付の数値は、検出下限以上定量下限未満の濃度であることを示す。
2.実測濃度の欄中の"ND"は、検出下限未満であることを示す。
3.毒性等価係数は、WHO/IPCS(2006)のTEFを適用した。
4.毒性等量TEQその1は、定量下限未満の実測濃度を0(ゼロ)として算出したものである。
ダイオキシン類対策特別措置法施行規則(平成11年12月27日)により、水質排出基準の評価にはこの値を用いる。
5.毒性等量TEQその2は、定量下限未満検出下限以上の数値はそのままその値を用い、検出下限未満の数値は検出下限の1/2の値を用いて各異性体の毒性等量を算出したものである。
環水土第7号(平成12年1月12日)により、水質環境基準の評価にはこの値を用いる。

表 1-3(1)　地下水質試料中のダイオキシン類分析結果詳細（No.A）

計量結果詳細　　No. D251006135-001　P3/3

受付番号　D251006135 001　　試料名　環境水(地下水)

		実測濃度	試料における定量下限	試料における検出下限	毒性等価係数 TEF	毒性等量 TEQ その1	毒性等量 TEQ その2
	単位	pg/L	pg/L	pg/L	−	pg-TEQ/L	pg-TEQ/L
ポリ塩化ジベンゾ−パラ−ジオキシン	1,3,6,8-TeCDD	ND	0.10	0.03	−	−	−
	1,3,7,9-TeCDD	ND	0.10	0.03	−	−	−
	2,3,7,8-TeCDD	ND	0.10	0.03	1	0	0.015
	TeCDDs	ND	0.10	0.03	−	−	−
	1,2,3,7,8-PeCDD	ND	0.09	0.03	1	0	0.015
	PeCDDs	ND	0.09	0.03	−	−	−
	1,2,3,4,7,8-HxCDD	ND	0.06	0.02	0.1	0	0.001
	1,2,3,6,7,8-HxCDD	ND	0.16	0.05	0.1	0	0.0025
	1,2,3,7,8,9-HxCDD	ND	0.12	0.04	0.1	0	0.002
	HxCDDs	(0.07)	0.11	0.03	−	−	−
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDD	ND	0.17	0.05	0.01	0	0.00025
	HpCDDs	(0.07)	0.17	0.05	−	−	−
	1,2,3,4,6,7,8,9-OCDD	ND	0.4	0.1	0.0003	0	0.000015
	Total PCDDs	0.14	−	−	−	0	0.036
ポリ塩化ジベンゾフラン	1,2,7,8-TeCDF	ND	0.08	0.02	−	−	−
	2,3,7,8-TeCDF	ND	0.08	0.02	0.1	0	0.001
	TeCDFs	ND	0.08	0.02	−	−	−
	1,2,3,7,8-PeCDF	ND	0.14	0.04	0.03	0	0.0006
	2,3,4,7,8-PeCDF	ND	0.17	0.05	0.3	0	0.0075
	PeCDFs	ND	0.16	0.05	−	−	−
	1,2,3,4,7,8-HxCDF	ND	0.15	0.05	0.1	0	0.0025
	1,2,3,6,7,8-HxCDF	ND	0.13	0.04	0.1	0	0.002
	1,2,3,7,8,9-HxCDF	ND	0.14	0.04	0.1	0	0.002
	2,3,4,6,7,8+1,2,3,6,8,9-HxCDF	ND	0.14	0.04	0.1	0	0.002
	HxCDFs	(0.06)	0.14	0.04	−	−	−
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDF	ND	0.14	0.04	0.01	0	0.0002
	1,2,3,4,7,8,9-HpCDF	ND	0.13	0.04	0.01	0	0.0002
	HpCDFs	ND	0.13	0.04	−	−	−
	1,2,3,4,6,7,8,9-OCDF	ND	0.4	0.1	0.0003	0	0.000015
	Total PCDFs	0.06	−	−	−	0	0.018
Total (PCDDs+PCDFs)		0.20	−	−	−	0	0.054
DL-PCBs	3,4,4',5-TeCB(#81)	ND	0.09	0.03	0.0003	0	0.0000045
	3,3',4,4'-TeCB(#77)	(0.05)	0.13	0.04	0.0001	0	0.000005
	3,3',4,4',5-PeCB(#126)	ND	0.18	0.05	0.1	0	0.0025
	3,3',4,4',5,5'-HxCB(#169)	ND	0.18	0.05	0.03	0	0.00075
	Total ノンオルト体	0.05	−	−	−	0	0.0033
	2',3,4,4',5-PeCB(#123)	ND	0.22	0.07	0.00003	0	0.00000105
	2,3',4,4',5-PeCB(#118)	(0.11)	0.19	0.06	0.00003	0	0.0000033
	2,3,3',4,4'-PeCB(#105)	ND	0.21	0.06	0.00003	0	0.0000009
	2,3,4,4',5+3,3',4,5,5'-PeCB(#114+#127)	ND	0.12	0.04	0.00003	0	0.0000006
	2,3',4,4',5,5'-HxCB (#167)	ND	0.15	0.04	0.00003	0	0.0000006
	2,3,3',4,4',5-HxCB(#156)	(0.04)	0.05	0.02	0.00003	0	0.0000012
	2,3,3',4,4',5'-HxCB(#157)	ND	0.12	0.04	0.00003	0	0.0000006
	2,3,3',4,4',5,5'-HpCB(#189)	ND	0.14	0.04	0.00003	0	0.0000006
	Total モノオルト体	0.15	−	−	−	0	0.0000089
Total DL-PCBs		0.20	−	−	−	0	0.0033
Total (PCDDs+PCDFs+DL-PCBs)		0.40	−	−	−	0	0.057

備考　1.実測濃度の欄中の括弧付の数値は、検出下限以上定量下限未満の濃度であることを示す。
2.実測濃度の欄中の"ND"は、検出下限未満であることを示す。
3.毒性等価係数は、WHO/IPCS(2006)のTEFを適用した。
4.毒性等量TEQその1は、定量下限未満の実測濃度を0(ゼロ)として算出したものである。
ダイオキシン類対策特別措置法施行規則(平成11年12月27日)により、水質排出基準の評価にはこの値を用いる。
5.毒性等量TEQその2は、定量下限未満検出下限以上の数値はそのままその値を用い、検出下限未満の数値は検出下限の1/2の値を用いて各異性体の毒性等量を算出したものである。
環水土第7号(平成12年1月12日)により、水質環境基準の評価にはこの値を用いる。

表 1-3(2)　地下水質試料中のダイオキシン類分析結果詳細 (No.B)

計量結果詳細　　No. D251006136-001　P3/3

受付番号　D251006136 001　　試料名　環境水(地下水)

		実測濃度	試料における定量下限	試料における検出下限	毒性等価係数 TEF	毒性等量 TEQ その1	毒性等量 TEQ その2
	単位	pg/L	pg/L	pg/L	–	pg-TEQ/L	pg-TEQ/L
ポリ塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシン	1,3,6,8-TeCDD	ND	0.10	0.03	–	–	–
	1,3,7,9-TeCDD	ND	0.10	0.03	–	–	–
	2,3,7,8-TeCDD	ND	0.10	0.03	1	0	0.015
	TeCDDs	ND	0.10	0.03	–	–	–
	1,2,3,7,8-PeCDD	ND	0.09	0.03	1	0	0.015
	PeCDDs	(0.03)	0.09	0.03	–	–	–
	1,2,3,4,7,8-HxCDD	ND	0.06	0.02	0.1	0	0.001
	1,2,3,6,7,8-HxCDD	ND	0.16	0.05	0.1	0	0.0025
	1,2,3,7,8,9-HxCDD	ND	0.12	0.04	0.1	0	0.002
	HxCDDs	(0.04)	0.11	0.03	–	–	–
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDD	ND	0.17	0.05	0.01	0	0.00025
	HpCDDs	ND	0.17	0.05	–	–	–
	1,2,3,4,6,7,8,9-OCDD	(0.3)	0.4	0.1	0.0003	0	0.00009
	Total PCDDs	0.37	–	–	–	0	0.036
ポリ塩化ジベンゾフラン	1,2,7,8-TeCDF	ND	0.08	0.02	–	–	–
	2,3,7,8-TeCDF	ND	0.08	0.02	0.1	0	0.001
	TeCDFs	ND	0.08	0.02	–	–	–
	1,2,3,7,8-PeCDF	ND	0.14	0.04	0.03	0	0.0006
	2,3,4,7,8-PeCDF	ND	0.17	0.05	0.3	0	0.0075
	PeCDFs	ND	0.16	0.05	–	–	–
	1,2,3,4,7,8-HxCDF	ND	0.15	0.05	0.1	0	0.0025
	1,2,3,6,7,8-HxCDF	ND	0.13	0.04	0.1	0	0.002
	1,2,3,7,8,9-HxCDF	ND	0.14	0.04	0.1	0	0.002
	2,3,4,6,7,8+1,2,3,6,8,9-HxCDF	ND	0.14	0.04	0.1	0	0.002
	HxCDFs	ND	0.14	0.04	–	–	–
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDF	ND	0.14	0.04	0.01	0	0.0002
	1,2,3,4,7,8,9-HpCDF	ND	0.13	0.04	0.01	0	0.0002
	HpCDFs	ND	0.13	0.04	–	–	–
	1,2,3,4,6,7,8,9-OCDF	ND	0.3	0.1	0.0003	0	0.000015
	Total PCDFs	0	–	–	–	0	0.018
Total (PCDDs+PCDFs)		0.37	–	–	–	0	0.054
DL-PCBs	3,4,4',5-TeCB(#81)	ND	0.09	0.03	0.0003	0	0.0000045
	3,3',4,4'-TeCB(#77)	ND	0.13	0.04	0.0001	0	0.000002
	3,3',4,4',5-PeCB(#126)	ND	0.18	0.05	0.1	0	0.0025
	3,3',4,4',5,5'-HxCB(#169)	ND	0.18	0.05	0.03	0	0.00075
	Total ノンオルト体	0	–	–	–	0	0.0033
	2',3,4,4',5-PeCB(#123)	ND	0.22	0.07	0.00003	0	0.00000105
	2,3',4,4',5-PeCB(#118)	(0.11)	0.19	0.06	0.00003	0	0.0000033
	2,3,3',4,4'-PeCB(#105)	ND	0.21	0.06	0.00003	0	0.0000009
	2,3,4,4',5+3,3',4,5,5'-PeCB(#114+#127)	ND	0.12	0.04	0.00003	0	0.0000006
	2,3',4,4',5,5'-HxCB (#167)	ND	0.15	0.04	0.00003	0	0.0000006
	2,3,3',4,4',5-HxCB(#156)	ND	0.05	0.02	0.00003	0	0.0000003
	2,3,3',4,4',5'-HxCB(#157)	ND	0.12	0.04	0.00003	0	0.0000006
	2,3,3',4,4',5,5'-HpCB(#189)	ND	0.14	0.04	0.00003	0	0.0000006
	Total モノオルト体	0.11	–	–	–	0	0.0000080
Total DL-PCBs		0.11	–	–	–	0	0.0033
Total (PCDDs+PCDFs+DL-PCBs)		0.48	–	–	–	0	0.057

備考　1.実測濃度の欄中の括弧付の数値は、検出下限以上定量下限未満の濃度であることを示す。
2.実測濃度の欄中の"ND"は、検出下限未満であることを示す。
3.毒性等価係数は、WHO/IPCS(2006)のTEFを適用した。
4.毒性等量TEQその1は、定量下限未満の実測濃度を0(ゼロ)として算出したものである。
ダイオキシン類対策特別措置法施行規則(平成11年12月27日)により、水質排出基準の評価にはこの値を用いる。
5.毒性等量TEQその2は、定量下限未満検出下限以上の数値はそのままその値を用い、検出下限未満の数値は検出下限の1/2の値を用いて各異性体の毒性等量を算出したものである。
環水土第7号(平成12年1月12日)により、水質環境基準の評価にはこの値を用いる。

表 1-3(3)　地下水質試料中のダイオキシン類分析結果詳細 (No.C)

計量結果詳細　　No. D251006137-001　P3/3

受付番号　D251006137 001　　試料名　環境水(地下水)

		実測濃度	試料における定量下限	試料における検出下限	毒性等価係数 TEF	毒性等量 TEQ その1	毒性等量 TEQ その2
	単位	pg/L	pg/L	pg/L	–	pg-TEQ/L	pg-TEQ/L
ポリ塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシン	1,3,6,8-TeCDD	ND	0.10	0.03	–	–	–
	1,3,7,9-TeCDD	ND	0.10	0.03	–	–	–
	2,3,7,8-TeCDD	ND	0.10	0.03	1	0	0.015
	TeCDDs	ND	0.10	0.03	–	–	–
	1,2,3,7,8-PeCDD	ND	0.09	0.03	1	0	0.015
	PeCDDs	ND	0.09	0.03	–	–	–
	1,2,3,4,7,8-HxCDD	ND	0.06	0.02	0.1	0	0.001
	1,2,3,6,7,8-HxCDD	ND	0.16	0.05	0.1	0	0.0025
	1,2,3,7,8,9-HxCDD	ND	0.12	0.04	0.1	0	0.002
	HxCDDs	ND	0.11	0.03	–	–	–
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDD	ND	0.17	0.05	0.01	0	0.00025
	HpCDDs	ND	0.17	0.05	–	–	–
	1,2,3,4,6,7,8,9-OCDD	(0.3)	0.4	0.1	0.0003	0	0.00009
	Total PCDDs	0.3	–	–	–	0	0.036
ポリ塩化ジベンゾフラン	1,2,7,8-TeCDF	ND	0.08	0.02	–	–	–
	2,3,7,8-TeCDF	ND	0.08	0.02	0.1	0	0.001
	TeCDFs	(0.04)	0.08	0.02	–	–	–
	1,2,3,7,8-PeCDF	ND	0.14	0.04	0.03	0	0.0006
	2,3,4,7,8-PeCDF	ND	0.17	0.05	0.3	0	0.0075
	PeCDFs	ND	0.16	0.05	–	–	–
	1,2,3,4,7,8-HxCDF	ND	0.15	0.05	0.1	0	0.0025
	1,2,3,6,7,8-HxCDF	ND	0.13	0.04	0.1	0	0.002
	1,2,3,7,8,9-HxCDF	ND	0.14	0.04	0.1	0	0.002
	2,3,4,6,7,8+1,2,3,6,8,9-HxCDF	ND	0.14	0.04	0.1	0	0.002
	HxCDFs	ND	0.14	0.04	–	–	–
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDF	ND	0.14	0.04	0.01	0	0.0002
	1,2,3,4,7,8,9-HpCDF	ND	0.13	0.04	0.01	0	0.0002
	HpCDFs	ND	0.13	0.04	–	–	–
	1,2,3,4,6,7,8,9-OCDF	ND	0.4	0.1	0.0003	0	0.000015
	Total PCDFs	0.04	–	–	–	0	0.018
Total (PCDDs+PCDFs)		0.34	–	–	–	0	0.054
DL-PCBs	3,4,4',5-TeCB(#81)	ND	0.09	0.03	0.0003	0	0.0000045
	3,3',4,4'-TeCB(#77)	ND	0.13	0.04	0.0001	0	0.000002
	3,3',4,4',5-PeCB(#126)	ND	0.18	0.05	0.1	0	0.0025
	3,3',4,4',5,5'-HxCB(#169)	ND	0.18	0.05	0.03	0	0.00075
	Total ノンオルト体	0	–	–	–	0	0.0033
	2',3,4,4',5-PeCB(#123)	ND	0.22	0.07	0.00003	0	0.00000105
	2,3',4,4',5-PeCB(#118)	(0.10)	0.19	0.06	0.00003	0	0.000003
	2,3,3',4,4'-PeCB(#105)	ND	0.21	0.06	0.00003	0	0.0000009
	2,3,4,4',5+3,3',4,5,5'-PeCB(#114+#127)	ND	0.12	0.04	0.00003	0	0.0000006
	2,3',4,4',5,5'-HxCB (#167)	ND	0.15	0.04	0.00003	0	0.0000006
	2,3,3',4,4',5-HxCB(#156)	ND	0.05	0.02	0.00003	0	0.0000003
	2,3,3',4,4',5'-HxCB(#157)	ND	0.12	0.04	0.00003	0	0.0000006
	2,3,3',4,4',5,5'-HpCB(#189)	ND	0.14	0.04	0.00003	0	0.0000006
	Total モノオルト体	0.10	–	–	–	0	0.0000077
Total DL-PCBs		0.10	–	–	–	0	0.0033
Total (PCDDs+PCDFs+DL-PCBs)		0.44	–	–	–	0	0.057

備考　1.実測濃度の欄中の括弧付の数値は、検出下限以上定量下限未満の濃度であることを示す。
2.実測濃度の欄中の"ND"は、検出下限未満であることを示す。
3.毒性等価係数は、WHO/IPCS(2006)のTEFを適用した。
4.毒性等量TEQその1は、定量下限未満の実測濃度を0(ゼロ)として算出したものである。
ダイオキシン類対策特別措置法施行規則(平成11年12月27日)により、水質排出基準の評価にはこの値を用いる。
5.毒性等量TEQその2は、定量下限未満検出下限以上の数値はそのままその値を用い、検出下限未満の数値は検出下限の1/2の値を用いて各異性体の毒性等量を算出したものである。
環水土第7号(平成12年1月12日)により、水質環境基準の評価にはこの値を用いる。

表 1-3(4)　地下水質試料中のダイオキシン類分析結果詳細 (No.D)

計量結果詳細　　No. D251006138-001　P3/3

受付番号　D251006138 001　　試料名　環境水(地下水)

		実測濃度	試料における定量下限	試料における検出下限	毒性等価係数 TEF	毒性等量 TEQ その1	毒性等量 TEQ その2
	単位	pg/L	pg/L	pg/L	−	pg-TEQ/L	pg-TEQ/L
ポリ塩化ジベンゾ−パラ−ジオキシン	1,3,6,8-TeCDD	0.18	0.10	0.03	−	−	−
	1,3,7,9-TeCDD	(0.08)	0.10	0.03	−	−	−
	2,3,7,8-TeCDD	ND	0.10	0.03	1	0	0.015
	TeCDDs	0.27	0.10	0.03	−	−	−
	1,2,3,7,8-PeCDD	(0.07)	0.09	0.03	1	0	0.07
	PeCDDs	1.3	0.09	0.03	−	−	−
	1,2,3,4,7,8-HxCDD	(0.04)	0.06	0.02	0.1	0	0.004
	1,2,3,6,7,8-HxCDD	(0.14)	0.16	0.05	0.1	0	0.014
	1,2,3,7,8,9-HxCDD	0.15	0.12	0.04	0.1	0.015	0.015
	HxCDDs	2.5	0.11	0.03	−	−	−
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDD	ND	0.17	0.05	0.01	0	0.00025
	HpCDDs	ND	0.17	0.05	−	−	−
	1,2,3,4,6,7,8,9-OCDD	(0.2)	0.4	0.1	0.0003	0	0.00006
	Total PCDDs	4.3	−	−	−	0.015	0.12
ポリ塩化ジベンゾフラン	1,2,7,8-TeCDF	ND	0.08	0.02	−	−	−
	2,3,7,8-TeCDF	ND	0.08	0.02	0.1	0	0.001
	TeCDFs	0.43	0.08	0.02	−	−	−
	1,2,3,7,8-PeCDF	ND	0.14	0.04	0.03	0	0.0006
	2,3,4,7,8-PeCDF	ND	0.17	0.05	0.3	0	0.0075
	PeCDFs	0.71	0.16	0.05	−	−	−
	1,2,3,4,7,8-HxCDF	(0.13)	0.15	0.05	0.1	0	0.013
	1,2,3,6,7,8-HxCDF	(0.10)	0.13	0.04	0.1	0	0.010
	1,2,3,7,8,9-HxCDF	ND	0.14	0.04	0.1	0	0.002
	2,3,4,6,7,8+1,2,3,6,8,9-HxCDF	(0.12)	0.14	0.04	0.1	0	0.012
	HxCDFs	0.52	0.14	0.04	−	−	−
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDF	ND	0.14	0.04	0.01	0	0.0002
	1,2,3,4,7,8,9-HpCDF	ND	0.13	0.04	0.01	0	0.0002
	HpCDFs	ND	0.13	0.04	−	−	−
	1,2,3,4,6,7,8,9-OCDF	ND	0.4	0.1	0.0003	0	0.000015
	Total PCDFs	1.7	−	−	−	0	0.047
Total (PCDDs+PCDFs)		5.9	−	−	−	0.015	0.16
DL-PCBs	3,4,4',5-TeCB(#81)	(0.03)	0.09	0.03	0.0003	0	0.000009
	3,3',4,4'-TeCB(#77)	(0.06)	0.13	0.04	0.0001	0	0.000006
	3,3',4,4',5-PeCB(#126)	ND	0.18	0.05	0.1	0	0.0025
	3,3',4,4',5,5'-HxCB(#169)	(0.06)	0.18	0.05	0.03	0	0.0018
	Total ノンオルト体	0.15	−	−	−	0	0.0043
	2',3,4,4',5-PeCB(#123)	ND	0.22	0.07	0.00003	0	0.00000105
	2,3',4,4',5-PeCB(#118)	(0.09)	0.19	0.06	0.00003	0	0.0000027
	2,3,3',4,4'-PeCB(#105)	ND	0.21	0.06	0.00003	0	0.0000009
	2,3,4,4',5+3,3',4,5,5'-PeCB(#114+#127)	ND	0.12	0.04	0.00003	0	0.0000006
	2,3',4,4',5,5'-HxCB (#167)	ND	0.15	0.04	0.00003	0	0.0000006
	2,3,3',4,4',5-HxCB(#156)	0.13	0.05	0.02	0.00003	0.0000039	0.0000039
	2,3,3',4,4',5'-HxCB(#157)	ND	0.12	0.04	0.00003	0	0.0000006
	2,3,3',4,4',5,5'-HpCB(#189)	ND	0.14	0.04	0.00003	0	0.0000006
	Total モノオルト体	0.22	−	−	−	0.0000039	0.000011
Total DL-PCBs		0.37	−	−	−	0.0000039	0.0043
Total (PCDDs+PCDFs+DL-PCBs)		6.3	−	−	−	0.015	0.17

備考　1.実測濃度の欄中の括弧付の数値は、検出下限以上定量下限未満の濃度であることを示す。
2.実測濃度の欄中の"ND"は、検出下限未満であることを示す。
3.毒性等価係数は、WHO/IPCS(2006)のTEFを適用した。
4.毒性等量TEQその1は、定量下限未満の実測濃度を0(ゼロ)として算出したものである。
ダイオキシン類対策特別措置法施行規則(平成11年12月27日)により、水質排出基準の評価にはこの値を用いる。
5.毒性等量TEQその2は、定量下限未満検出下限以上の数値はそのままその値を用い、検出下限未満の数値は検出下限の1/2の値を用いて各異性体の毒性等量を算出したものである。
環水土第7号(平成12年1月12日)により、水質環境基準の評価にはこの値を用いる。

表 1-3(5)　地下水質試料中のダイオキシン類分析結果詳細 (No.E)

計量結果詳細　　No. D251006139-001　P3/3

受付番号　D251006139 001　　試料名　環境水(地下水)

		実測濃度	試料における定量下限	試料における検出下限	毒性等価係数 TEF	毒性等量 TEQ その1	毒性等量 TEQ その2
	単位	pg/L	pg/L	pg/L	−	pg-TEQ/L	pg-TEQ/L
ポリ塩化ジベンゾ−パラ−ジオキシン	1,3,6,8-TeCDD	ND	0.05	0.01	−	−	−
	1,3,7,9-TeCDD	ND	0.05	0.01	−	−	−
	2,3,7,8-TeCDD	ND	0.05	0.01	1	0	0.005
	TeCDDs	ND	0.05	0.01	−	−	−
	1,2,3,7,8-PeCDD	ND	0.05	0.01	1	0	0.005
	PeCDDs	ND	0.05	0.01	−	−	−
	1,2,3,4,7,8-HxCDD	ND	0.24	0.07	0.1	0	0.0035
	1,2,3,6,7,8-HxCDD	ND	0.22	0.06	0.1	0	0.003
	1,2,3,7,8,9-HxCDD	ND	0.18	0.05	0.1	0	0.0025
	HxCDDs	ND	0.21	0.06	−	−	−
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDD	ND	0.26	0.08	0.01	0	0.0004
	HpCDDs	(0.12)	0.26	0.08	−	−	−
	1,2,3,4,6,7,8,9-OCDD	(0.3)	0.4	0.1	0.0003	0	0.00009
	Total PCDDs	0.42	−	−	−	0	0.019
ポリ塩化ジベンゾフラン	1,2,7,8-TeCDF	ND	0.20	0.06	−	−	−
	2,3,7,8-TeCDF	ND	0.20	0.06	0.1	0	0.003
	TeCDFs	ND	0.20	0.06	−	−	−
	1,2,3,7,8-PeCDF	ND	0.20	0.06	0.03	0	0.0009
	2,3,4,7,8-PeCDF	ND	0.13	0.04	0.3	0	0.006
	PeCDFs	ND	0.16	0.05	−	−	−
	1,2,3,4,7,8-HxCDF	ND	0.06	0.02	0.1	0	0.001
	1,2,3,6,7,8-HxCDF	ND	0.13	0.04	0.1	0	0.002
	1,2,3,7,8,9-HxCDF	ND	0.15	0.05	0.1	0	0.0025
	2,3,4,6,7,8+1,2,3,6,8,9-HxCDF	ND	0.12	0.04	0.1	0	0.002
	HxCDFs	(0.04)	0.12	0.03	−	−	−
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDF	ND	0.23	0.07	0.01	0	0.00035
	1,2,3,4,7,8,9-HpCDF	ND	0.30	0.09	0.01	0	0.00045
	HpCDFs	ND	0.27	0.08	−	−	−
	1,2,3,4,6,7,8,9-OCDF	ND	0.4	0.1	0.0003	0	0.000015
	Total PCDFs	0.04	−	−	−	0	0.018
Total (PCDDs+PCDFs)		0.46	−	−	−	0	0.038
DL-PCBs	3,4,4',5-TeCB(#81)	ND	0.12	0.04	0.0003	0	0.000006
	3,3',4,4'-TeCB(#77)	ND	0.16	0.05	0.0001	0	0.0000025
	3,3',4,4',5-PeCB(#126)	ND	0.4	0.1	0.1	0	0.005
	3,3',4,4',5,5'-HxCB(#169)	ND	0.4	0.1	0.03	0	0.0015
	Total ノンオルト体	0	−	−	−	0	0.0065
	2',3,4,4',5-PeCB(#123)	ND	0.3	0.1	0.00003	0	0.0000015
	2,3',4,4',5-PeCB(#118)	(0.15)	0.28	0.09	0.00003	0	0.0000045
	2,3,3',4,4'-PeCB(#105)	ND	0.3	0.1	0.00003	0	0.0000015
	2,3,4,4',5+3,3',4,5,5'-PeCB(#114+#127)	ND	0.22	0.07	0.00003	0	0.00000105
	2,3',4,4',5,5'-HxCB (#167)	ND	0.3	0.1	0.00003	0	0.0000015
	2,3,3',4,4',5-HxCB(#156)	ND	0.19	0.06	0.00003	0	0.0000009
	2,3,3',4,4',5'-HxCB(#157)	ND	0.20	0.06	0.00003	0	0.0000009
	2,3,3',4,4',5,5'-HpCB(#189)	ND	0.18	0.05	0.00003	0	0.00000075
	Total モノオルト体	0.15	−	−	−	0	0.000013
Total DL-PCBs		0.15	−	−	−	0	0.0065
Total (PCDDs+PCDFs+DL-PCBs)		0.61	−	−	−	0	0.044

備考　1.実測濃度の欄中の括弧付の数値は、検出下限以上定量下限未満の濃度であることを示す。
2.実測濃度の欄中の"ND"は、検出下限未満であることを示す。
3.毒性等価係数は、WHO/IPCS(2006)のTEFを適用した。
4.毒性等量TEQその1は、定量下限未満の実測濃度を0(ゼロ)として算出したものである。
ダイオキシン類対策特別措置法施行規則(平成11年12月27日)により、水質排出基準の評価にはこの値を用いる。
5.毒性等量TEQその2は、定量下限未満検出下限以上の数値はそのままその値を用い、検出下限未満の数値は検出下限の1/2の値を用いて各異性体の毒性等量を算出したものである。
環水土第7号(平成12年1月12日)により、水質環境基準の評価にはこの値を用いる。

表 1-4　浸出水処理水のダイオキシン類分析結果詳細

計量結果詳細　　No. D251006130-001　P3/3

受付番号　D251006130 001　　試料名　浸出水処理施設処理水

		実測濃度	試料における定量下限	試料における検出下限	毒性等価係数 TEF	毒性等量 TEQ その1	毒性等量 TEQ その2
	単位	pg/L	pg/L	pg/L	−	pg-TEQ/L	pg-TEQ/L
ポリ塩化ジベンゾ－パラ－ジオキシン	1,3,6,8-TeCDD	ND	0.4	0.1	−	−	−
	1,3,7,9-TeCDD	ND	0.4	0.1	−	−	−
	2,3,7,8-TeCDD	ND	0.4	0.1	1	0	0.05
	TeCDDs	ND	0.4	0.1	−	−	−
	1,2,3,7,8-PeCDD	ND	0.3	0.1	1	0	0.05
	PeCDDs	ND	0.3	0.1	−	−	−
	1,2,3,4,7,8-HxCDD	ND	0.25	0.07	0.1	0	0.0035
	1,2,3,6,7,8-HxCDD	ND	0.6	0.2	0.1	0	0.01
	1,2,3,7,8,9-HxCDD	ND	0.5	0.1	0.1	0	0.005
	HxCDDs	ND	0.5	0.1	−	−	−
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDD	ND	0.7	0.2	0.01	0	0.001
	HpCDDs	ND	0.7	0.2	−	−	−
	1,2,3,4,6,7,8,9-OCDD	ND	1.5	0.5	0.0003	0	0.000075
	Total PCDDs	0	−	−	−	0	0.12
ポリ塩化ジベンゾフラン	1,2,7,8-TeCDF	ND	0.3	0.1	−	−	−
	2,3,7,8-TeCDF	ND	0.3	0.1	0.1	0	0.005
	TeCDFs	ND	0.3	0.1	−	−	−
	1,2,3,7,8-PeCDF	ND	0.6	0.2	0.03	0	0.003
	2,3,4,7,8-PeCDF	ND	0.7	0.2	0.3	0	0.03
	PeCDFs	ND	0.6	0.2	−	−	−
	1,2,3,4,7,8-HxCDF	ND	0.6	0.2	0.1	0	0.01
	1,2,3,6,7,8-HxCDF	ND	0.5	0.2	0.1	0	0.01
	1,2,3,7,8,9-HxCDF	ND	0.5	0.2	0.1	0	0.01
	2,3,4,6,7,8+1,2,3,6,8,9-HxCDF	ND	0.5	0.2	0.1	0	0.01
	HxCDFs	ND	0.6	0.2	−	−	−
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDF	ND	0.5	0.2	0.01	0	0.001
	1,2,3,4,7,8,9-HpCDF	ND	0.5	0.2	0.01	0	0.001
	HpCDFs	ND	0.5	0.2	−	−	−
	1,2,3,4,6,7,8,9-OCDF	ND	1.4	0.4	0.0003	0	0.00006
	Total PCDFs	0	−	−	−	0	0.080
Total (PCDDs+PCDFs)		0	−	−	−	0	0.20
DL-PCBs	3,4,4',5-TeCB(#81)	ND	0.4	0.1	0.0003	0	0.000015
	3,3',4,4'-TeCB(#77)	ND	0.5	0.2	0.0001	0	0.00001
	3,3',4,4',5-PeCB(#126)	ND	0.7	0.2	0.1	0	0.01
	3,3',4,4',5,5'-HxCB(#169)	ND	0.7	0.2	0.03	0	0.003
	Total ノンオルト体	0	−	−	−	0	0.013
	2',3,4,4',5-PeCB(#123)	ND	0.9	0.3	0.00003	0	0.0000045
	2,3',4,4',5-PeCB(#118)	ND	0.8	0.2	0.00003	0	0.000003
	2,3,3',4,4'-PeCB(#105)	ND	0.9	0.3	0.00003	0	0.0000045
	2,3,4,4',5+3,3',4,5,5'-PeCB(#114+#127)	ND	0.5	0.1	0.00003	0	0.0000015
	2,3',4,4',5,5'-HxCB (#167)	ND	0.6	0.2	0.00003	0	0.000003
	2,3,3',4,4',5-HxCB(#156)	ND	0.21	0.06	0.00003	0	0.0000009
	2,3,3',4,4',5'-HxCB(#157)	ND	0.5	0.1	0.00003	0	0.0000015
	2,3,3',4,4',5,5'-HpCB(#189)	ND	0.5	0.2	0.00003	0	0.000003
	Total モノオルト体	0	−	−	−	0	0.000022
Total DL-PCBs		0	−	−	−	0	0.013
Total (PCDDs+PCDFs+DL-PCBs)		0	−	−	−	0	0.21

備考　1.実測濃度の欄中の括弧付の数値は、検出下限以上定量下限未満の濃度であることを示す。
2.実測濃度の欄中の"ND"は、検出下限未満であることを示す。
3.毒性等価係数は、WHO/IPCS(2006)のTEFを適用した。
4.毒性等量TEQその1は、定量下限未満の実測濃度を0(ゼロ)として算出したものである。
ダイオキシン類対策特別措置法施行規則(平成11年12月27日)により、水質排出基準の評価にはこの値を用いる。
5.毒性等量TEQその2は、定量下限未満検出下限以上の数値はそのままその値を用い、検出下限未満の数値は検出下限の1/2の値を用いて各異性体の毒性等量を算出したものである。
環水土第7号(平成12年1月12日)により、水質環境基準の評価にはこの値を用いる。

表 2-1(1)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（A-1）

種名： キンラン　　No.： A-1

移植1週間後調査時写真		調査日： 令和 4 年 4 月 13 日（ 水 ）			
		順調に生育し、花芽を伸ばしている。			
		個体の状況	草丈：	17.5cm	葉数： 0枚
			花数：	0個	結実： 0個
			備考：		
移植2週間後調査時写真		調査日： 令和 4 年 4 月 22 日（ 金 ）			
		順調に生育し、花をつけ、一部はすでに開花している。			
		個体の状況	草丈：	33.0 cm	葉数： 6 枚
			花数：	6 個	結実： 0個
			備考：		
移植1ヶ月後調査時写真		調査日： 令和 4 年 5 月 17 日（ 火 ）			
		順調に生育し、果実を形成している。			
		個体の状況	草丈：	32.0cm	葉数： 6枚
			花数：	0個	結実： 3個
			備考：		
移植3ヶ月後調査時写真		調査日： 令和 4 年 7 月 14 日（ 木 ）			
		生育は良好、果実成熟過程。			
		個体の状況	草丈：	36.5cm	葉数： 6枚
			花数：	0個	結実： 3個
			備考：		

表 2-1(2)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（A-1）

種名： キンラン　　No.： A-1

補足調査時写真



調査日： 令和 4 年 8 月 31 日（ 水 ）

生育は良好、果実成熟過程。

個体の状況				
	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

移植6ヶ月後監視時写真



調査日： 令和 4 年 10 月 3 日（ 月 ）

生育は良好、果実成熟過程。

個体の状況				
	草丈：	36.5cm	葉数：	6枚
	花数：	個	結実：	3個
	備考：			

移植1年後監視時写真



調査日： 令和 5 年 5 月 1 日（ 月 ）

生育は良好。

個体の状況				
	草丈：	31.0cm	葉数：	6枚
	花数：	1 個	結実：	0 個
	備考：			

移植2年後監視時写真



調査日： 令和 6 年 5 月 1 日（ 水 ）

生育は良好。



個体の状況				
	草丈：	22.0cm	葉数：	7枚
	花数：	3個	結実：	0個
	備考：	花は株元に落下していた		

表 2-1(3)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（A-1）

種名： キンラン		№： A-1		
移植3年後監視時写真		調査日： 令和 7 年 5 月 1 日（ 木 ） 生育は良好。		
個体の状況	草丈：	36.5cm	葉数：	6枚
	花数：	2個	結実：	0個
	備考：			

表 2-2(1)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（A-2）

種名： キンラン　　No.： A-2

移植1週間後調査時写真



調査日： 令和 4 年 4 月 13 日（ 水 ）

順調に生育し、花芽を伸ばしている。

個体の状況				
	草丈：	14.5cm	葉数：	0枚
	花数：	0個	結実：	0個
	備考：			

移植2週間後調査時写真



調査日： 令和 4 年 4 月 22 日（ 金 ）

順調に生育し、花をつけている。
なお、開花はまだしていない。

個体の状況				
	草丈：	25.0cm	葉数：	6枚
	花数：	3個	結実：	0個
	備考：			

移植1ヶ月後調査時写真



調査日： 令和 4 年 5 月 17 日（ 火 ）

順調に生育し、果実を形成している。

個体の状況				
	草丈：	27.5cm	葉数：	5枚
	花数：	0 個	結実：	2個
	備考：			

移植3ヶ月後調査時写真



調査日： 令和 4 年 7 月 14 日（ 木 ）

生育は良好、果実成熟過程。

個体の状況				
	草丈：	27.5cm	葉数：	5枚
	花数：	0個	結実：	2個
	備考：			

表 2-2(2)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（A-2）

種名： キンラン　　No.： A-2

補足調査時写真



調査日： 令和 4 年 8 月 31 日（ 水 ）

生育は良好、果実成熟過程。

個体の状況				
	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

移植6ヶ月後監視時写真



調査日： 令和 4 年 10 月 3 日（ 月 ）

生育は良好、果実成熟過程。

個体の状況				
	草丈：	27.5cm	葉数：	5枚
	花数：	0個	結実：	2個
	備考：	結実2個を採取		

移植1年後監視時写真



調査日： 令和 5 年 5 月 1 日（ 月 ）

生育は良好。花は着けていない。

個体の状況				
	草丈：	15.5 cm	葉数：	6 枚
	花数：	0 個	結実：	0 個
	備考：			

移植2年後監視時写真



調査日： 令和 6 年 5 月 1 日（ 水 ）

生育は良好。



個体の状況				
	草丈：	29.0cm	葉数：	6枚
	花数：	4個	結実：	0個
	備考：	花は株元に落下していた。		

表 2-2(3)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（A-2）

種名： キンラン		№ ： A-2		
移植3年後監視時写真		調査日： 令和 7 年 5 月 1 日（ 木 ）		
		生育が遅く、シュートの伸長が遅れている。		
個体の状況	草丈：	16.0cm	葉数：	6枚
	花数：	0個	結実：	0個
	備考：			

表 2-3(1)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（A-3）

種名： キンラン　　No.： A-3

移植1週間後調査時写真		調査日： 令和 4 年 4 月 13 日（ 水 ）			
		順調に生育し、花芽を伸ばしている。			
		個体の状況	草丈：	18.0cm	葉数： 0枚
			花数：	0個	結実： 0個
			備考：		
移植2週間後調査時写真		調査日： 令和 4 年 4 月 22 日（ 金 ）			
		順調に生育し、花をつけ、一部は開花目前の状況である。			
		個体の状況	草丈：	31.0cm	葉数： 6枚
			花数：	4個	結実： 0個
			備考：		
移植1ヶ月後調査時写真		調査日： 令和 4 年 5 月 17 日（ 火 ）			
		順調に生育し、果実を形成している。最下部の葉は、枯れ傾向。			
		個体の状況	草丈：	31.5cm	葉数： 6枚
			花数：	0個	結実： 2個
			備考：		
移植3ヶ月後調査時写真		調査日： 令和 4 年 7 月 14 日（ 木 ）			
		生育は良好、果実成熟過程。			
		個体の状況	草丈：	31.5cm	葉数： 5枚
			花数：	0個	結実： 2個
			備考：		

表 2-3(2)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（A-3）

種名：キンラン　　No.：A-3

補足調査時写真



調査日：令和 4 年 8 月 31 日（水）

生育は良好、果実成熟過程。

個体の状況				
	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

移植6ヶ月後監視時写真



調査日：令和 4 年 10 月 3 日（月）

生育は良好、果実成熟過程。

個体の状況				
	草丈：	31.5cm	葉数：	5枚
	花数：	- 個	結実：	2個
	備考：			

移植1年後監視時写真



調査日：令和 5 年 5 月 1 日（月）

生育は良好。

個体の状況				
	草丈：	29.0 cm	葉数：	6 枚
	花数：	4 個	結実：	0 個
	備考：			

移植2年後監視時写真



調査日：令和 6 年 5 月 1 日（水）

生育は良好。



個体の状況				
	草丈：	29.0cm	葉数：	6枚
	花数：	3個	結実：	0個
	備考：	花は株元に落下していた。		

表 2-3(3)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（A-3）

種名： キンラン				№ ： A-3
移植3年後監視時写真		調査日： 令和 7 年 5 月 1 日（ 木 ）		
		生育は良好。		
個体の状況	草丈：	17.0cm	葉数：	6枚
	花数：	3個	結実：	0個
	備考：			

表 2-4(1)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（A-4）

種名： キンラン　　No.： A-4

移植1週間後調査時写真



調査日： 令和 4 年 4 月 13 日（ 水 ）

順調に生育し、花芽を伸ばしている。

個体の状況				
	草丈：	19.0cm	葉数：	0枚
	花数：	0個	結実：	0個
	備考：			

移植2週間後調査時写真



調査日： 令和 4 年 4 月 22 日（ 金 ）

順調に生育し、花をつけ、一部は開花目前の状況である。

個体の状況				
	草丈：	36.0cm	葉数：	6枚
	花数：	7個	結実：	0個
	備考：			

移植1ヶ月後調査時写真



調査日： 令和 4 年 5 月 17 日（ 火 ）

順調に生育し、果実を形成している。最下部の葉は、衰弱傾向。

個体の状況				
	草丈：	38.5cm	葉数：	6枚
	花数：	0 個	結実：	6個
	備考：			

移植3ヶ月後調査時写真



調査日： 令和 4 年 7 月 14 日（ 木 ）

生育は不良。
果実は2個枯れ。葉5枚のうち4枚は萎凋。

個体の状況				
	草丈：	38.0cm	葉数：	5枚
	花数：	0個	結実：	4個
	備考：	巻き付いたヤマノイモを除去。		

表 2-4(2)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（A-4）

種名：キンラン　　No.：A-4

補足調査時写真



調査日：令和 4 年 8 月 31 日（水）

枯れ

個体の状況				
	草丈：	-cm	葉数：	-枚
	花数：	-個	結実：	-個
	備考：			

移植6ヶ月後監視時写真



調査日：令和 4 年 10 月 3 日（月）

枯れ

個体の状況				
	草丈：	-cm	葉数：	-枚
	花数：	0個	結実：	0個
	備考：			

移植1年後監視時写真



調査日：令和 5 年 5 月 1 日（月）

生育が遅く、シュートの伸長が遅れている。

個体の状況				
	草丈：	6.5 cm	葉数：	0 枚
	花数：	0 個	結実：	0 個
	備考：			

移植2年後監視時写真



調査日：令和 6 年 5 月 1 日（水）

生育が遅く、シュートの伸長が遅れている。

個体の状況				
	草丈：	12.0cm	葉数：	5枚
	花数：	0個	結実：	0個
	備考：			

表 2-4(3)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（A-4）

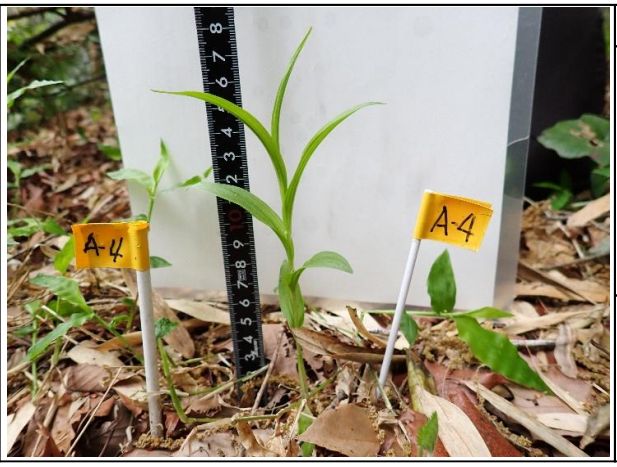
種名： キンラン		№： A-4		
移植3年後監視時写真		調査日： 令和　7　年　5　月　1　日（　木　）		
		生育が遅く、シュートの伸長が遅れている。		
個体の状況	草丈：	18.0cm	葉数：	6枚
	花数：	0個	結実：	0個
	備考：			

表 2-5(1)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（A-5）

種名：キンラン　　No.：A-5

移植1週間後調査時写真		調査日：令和 4 年 4 月 13 日（水）			
		良好な生育状況の個体と比較すると、花芽の伸長がやや遅れているものの、地上部は出現している。			
		個体の状況	草丈：	7.5cm	葉数：　0枚
			花数：	0個	結実：　0個
			備考：		
移植2週間後調査時写真		調査日：令和 4 年 4 月 22 日（金）			
		順調に生育しているが、シュートの伸長が遅れていたためか、まだ花をつけていない。			
		個体の状況	草丈：	19.0cm	葉数：　6枚
			花数：	0個	結実：　0個
			備考：		
移植1ヶ月後調査時写真		調査日：令和 4 年 5 月 17 日（火）			
		生育は良好であるが、開花・結実は確認していない。			
		個体の状況	草丈：	17.0cm	葉数：　6枚
			花数：	0個	結実：　0 個
			備考：		
移植3ヶ月後調査時写真		調査日：令和 4 年 7 月 14 日（木）			
		生育は良好であるが、開花・結実は確認していない。			
		個体の状況	草丈：	14.5cm	葉数：　5枚
			花数：	0個	結実：　0個
			備考：		

表 2-5(2)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（A-5）

種名： キンラン　　No.： A-5

補足調査時写真



調査日：　令和　4　年　8　月　31　日（　水　）

生育は良好であるが、開花・結実は無し。

個体の状況				
	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

移植6ヶ月後監視時写真



調査日：　令和　4　年　10　月　3　日（　月　）

生育は良好であるが、開花・結実は無し。

個体の状況				
	草丈：	14.5cm	葉数：	6枚
	花数：	0 個	結実：	0個
	備考：			

移植1年後監視時写真



調査日：　令和　5　年　5　月　1　日（　月　）

生育は良好。

個体の状況				
	草丈：	27.5 cm	葉数：	6 枚
	花数：	2 個	結実：	0 個
	備考：			

移植2年後監視時写真



調査日：　令和　6　年　5　月　1　日（　水　）

生育は良好。

個体の状況				
	草丈：	28.0cm	葉数：	5枚
	花数：	3個	結実：	0個
	備考：			

表 2-5(3)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（A-5）

種名： キンラン		№： A-5		
移植3年後監視時写真		調査日： 令和　7　年　5　月　1　日（　木　）		
		生育が遅く、シュートの伸長が遅れている。		
個体の状況	草丈：	15.5cm	葉数：	5枚
	花数：	0個	結実：	0個
	備考：			

表 2-6(1)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（A-6）

種名： キンラン　　No.： A-6

移植1週間後調査時写真



調査日： 令和 4 年 4 月 13 日（ 水 ）

良好な生育状況の個体と比較すると、花芽の伸長がやや遅れているものの、地上部は出現している。
（なお、右側に写っている個体はA-4）

個体の状況				
	草丈：	1.0cm	葉数：	0枚
	花数：	0個	結実：	0個
	備考：			

移植2週間後調査時写真



調査日： 令和 4 年 4 月 22 日（ 金 ）

順調に生育しているが、シュートの伸長が遅れていたためか、まだ花をつけていない。

個体の状況				
	草丈：	9.5cm	葉数：	3枚
	花数：	0個	結実：	0個
	備考：			

移植1ヶ月後調査時写真



調査日： 令和 4 年 5 月 17 日（ 火 ）

生育は良好であるが、開花・結実は確認していない。

個体の状況				
	草丈：	10.0cm	葉数：	3枚
	花数：	0 個	結実：	0個
	備考：			

移植3ヶ月後調査時写真



調査日： 令和 4 年 7 月 14 日（ 木 ）

生育は良好であるが、開花・結実は確認していない。

個体の状況				
	草丈：	10.0cm	葉数：	4枚
	花数：	0個	結実：	0個
	備考：			

表 2-6(2)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（A-6）

種名： キンラン　　No.： A-6

補足調査時写真

写真なし

調査日： 令和 4 年 8 月 31 日（ 水 ）

（空欄）

個体の状況				
	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：	目印消失により未確認		

移植6ヶ月後監視時写真



調査日： 令和 4 年 10 月 3 日（ 月 ）

生育は良好であるが、開花・結実は無し。

個体の状況				
	草丈：	9.0cm	葉数：	4枚
	花数：	0 個	結実：	0 個
	備考：			

移植1年後監視時写真



調査日： 令和 5 年 5 月 1 日（ 月 ）

地上部なし。芽が出ていない。

個体の状況				
	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

移植2年後監視時写真



調査日： 令和 6 年 5 月 1 日（ 水 ）

生育が遅く、シュートの伸長が遅れている。

個体の状況				
	草丈：	12.0cm	葉数：	5枚
	花数：	0個	結実：	0個
	備考：			

表 2-6(3)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（A-6）

種名： キンラン		№： A-6		
移植3年後監視時写真		調査日： 令和 7 年 5 月 1 日（ 木 ）		
		生育が遅く、シュートの伸長が遅れている。		
個体の状況	草丈：	15.0cm	葉数：	5枚
	花数：	0個	結実：	0個
	備考：			

表 2-7(1)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（A-7）

種名： キンラン　　No.： A-7

移植1週間後調査時写真



調査日： 令和 4 年 4 月 13 日（ 水 ）

順調に生育し、花芽を伸ばしている。

個体の状況				
	草丈：	12.0cm	葉数：	0枚
	花数：	0個	結実：	0個
	備考：			

移植2週間後調査時写真



調査日： 令和 4 年 4 月 22 日（ 金 ）

順調に生育し、花をつけ、一部は開花目前の状況である。

個体の状況				
	草丈：	23.5cm	葉数：	6枚
	花数：	5個	結実：	0個
	備考：			

移植1ヶ月後調査時写真



調査日： 令和 4 年 5 月 17 日（ 火 ）

順調に生育し、果実を形成している。

個体の状況				
	草丈：	24.0cm	葉数：	5枚
	花数：	0 個	結実：	4個
	備考：			

移植3ヶ月後調査時写真



調査日： 令和 4 年 7 月 14 日（ 木 ）

果実成熟過程。葉2枚が萎凋。

個体の状況				
	草丈：	24.5cm	葉数：	5枚
	花数：	0個	結実：	4個
	備考：			

表 2-7(2)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（A-7）

種名： キンラン　　No.： A-7

補足調査時写真

写真なし

令和　4　年　8　月　31　日（　水　）

（空欄）

個体の状況				
	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：	目印消失により未確認		

移植6ヶ月後監視時写真



調査日： 令和　4　年　10　月　3　日（　月　）

枯れ

個体の状況				
	草丈：	-cm	葉数：	-枚
	花数：	-個	結実：	-個
	備考：			

移植1年後監視時写真



調査日： 令和　5　年　5　月　1　日（　月　）

地上部なし。芽が出ていない。

個体の状況				
	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

移植2年後監視時写真



調査日： 令和　6　年　5　月　1　日（　水　）

生育が遅く、シュートの伸長が遅れている。

個体の状況				
	草丈：	8.0cm	葉数：	4枚
	花数：	0個	結実：	0個
	備考：			

表 2-7(3)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（A-7）

種名： キンラン		№： A-7		
移植3年後監視時写真		調査日： 令和　7　年　5　月　1　日（　木　）		
		生育が遅く、シュートの伸長が遅れている。		
個体の状況	草丈：	17.5cm	葉数：	5枚
	花数：	0個	結実：	0個
	備考：			

表 2-8(1)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（A-8）

種名： キンラン　　No.： A-8

移植1週間後調査時写真



調査日： 令和 4 年 4 月 13 日（ 水 ）

地上部（花芽）は確認できなかった。

個体の状況				
	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

移植2週間後調査時写真

写真なし

調査日： 令和 4 年 4 月 22 日（ 金 ）

地上部は確認できなかった。

個体の状況				
	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

移植1ヶ月後調査時写真



調査日： 令和 4 年 5 月 17 日（ 火 ）

地上部は確認できなかった。

個体の状況				
	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

移植3ヶ月後調査時写真



調査日： 令和 4 年 7 月 14 日（ 木 ）

地上部は確認できなかった。

個体の状況				
	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

表 2-8(2)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（A-8）

種名： キンラン　　No.： A-8

補足調査時写真

写真なし

調査日： 令和 4 年 8 月 31 日（ 水 ）

（空欄）

個体の状況				
	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：	目印消失により未確認		

移植6ヶ月後監視時写真



調査日： 令和 4 年 10 月 3 日（ 月 ）

地上部は確認できなかった。

個体の状況				
	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

移植1年後監視時写真



調査日： 令和 5 年 5 月 1 日（ 月 ）

地上部なし。芽が出ていない。

個体の状況				
	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

移植2年後監視時写真



調査日： 令和 6 年 5 月 1 日（ 水 ）

生育が遅く、シュートの伸長が遅れている。

個体の状況				
	草丈：	9.0cm	葉数：	4枚
	花数：	0個	結実：	0個
	備考：			

表 2-8(3)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（A-8）

種名： キンラン		№： A-8		
移植3年後監視時写真		調査日： 令和 7 年 5 月 1 日（ 木 ） 地上部なし。芽が出ていない。		
個体の状況	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

表 2-9(1)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（B-1）

種名：キンラン　　No.：B-1

移植1週間後調査時写真



調査日：令和 4 年 4 月 13 日（水）

順調に生育し、花芽を伸ばしている。

個体の状況				
	草丈：	17.0cm	葉数：	0枚
	花数：	0個	結実：	0個
	備考：			

移植2週間後調査時写真



調査日：令和 4 年 4 月 22 日（金）

順調に生育し、花をつけ、一部は開花目前の状況である。

個体の状況				
	草丈：	31.5cm	葉数：	6枚
	花数：	8個	結実：	0個
	備考：			

移植1ヶ月後調査時写真



調査日：令和 4 年 5 月 17 日（火）

順調に生育し、果実を形成している。

個体の状況				
	草丈：	35.5cm	葉数：	6枚
	花数：	0 個	結実：	5個
	備考：			

移植3ヶ月後調査時写真



調査日：令和 4 年 7 月 14 日（木）

生育は良好。果実成熟過程。

個体の状況				
	草丈：	36.5cm	葉数：	6枚
	花数：	0個	結実：	5個
	備考：			

表 2-9(2)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（B-1）

種名：キンラン　　No.：B-1

補足調査時写真



調査日：令和 4 年 8 月 31 日（水）

生育は良好。果実成熟過程。斜めに倒れている。

個体の状況				
	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

移植6ヶ月後監視時写真



調査日：令和 4 年 10 月 3 日（月）

生育は良好。果実成熟過程。斜めに倒れている。

個体の状況				
	草丈：	39.0cm	葉数：	6枚
	花数：	0 個	結実：	5個
	備考：			

移植1年後監視時写真



調査日：令和 5 年 5 月 1 日（月）

生育は良好。他の個体と比較して生育がやや遅い。

個体の状況				
	草丈：	18.5 cm	葉数：	5 枚
	花数：	0 個	結実：	0 個
	備考：			

移植2年後監視時写真



調査日：令和 6 年 5 月 1 日（水）

生育が遅く、シュートの伸長が遅れている。

個体の状況				
	草丈：	11.0cm	葉数：	5枚
	花数：	0個	結実：	0個
	備考：			

表 2-9(3)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（B-1）

種名： キンラン		№： B-1			
移植3年後監視時写真		調査日： 令和 7 年 5 月 1 日（ 木 ）			
		地上部なし。芽が出ていない。			
個体の状況	草丈：	- cm	葉数：	- 枚	
	花数：	- 個	結実：	- 個	
	備考：				

表 2-10(1)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（C-1）

種名： キンラン　　No.： C-1

移植1週間後調査時写真



調査日： 令和 4 年 4 月 13 日（ 水 ）

地上部（花芽）は確認できなかった。

個体の状況				
	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

移植2週間後調査時写真

写真なし

調査日： 令和 4 年 4 月 22 日（ 金 ）

地上部は確認できなかった。

個体の状況				
	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

移植1ヶ月後調査時写真



調査日： 令和 4 年 5 月 17 日（ 火 ）

地上部は確認できなかった。

個体の状況				
	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

移植3ヶ月後調査時写真



調査日： 令和 4 年 7 月 14 日（ 木 ）

地上部は確認できなかった。

個体の状況				
	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

表 2-10(2)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（C-1）

種名： キンラン　　No.： C-1

補足調査時写真



調査日： 令和 4 年 8 月 31 日（ 水 ）

地上部は確認できなかった。

個体の状況				
	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

移植6ヶ月後監視時写真



調査日： 令和 4 年 10 月 3 日（ 月 ）

地上部は確認できなかった。

個体の状況				
	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

移植1年後監視時写真



調査日： 令和 5 年 5 月 1 日（ 月 ）

地上部なし。芽が出ていない。

個体の状況				
	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

移植2年後監視時写真



調査日： 令和 6 年 5 月 1 日（ 水 ）

地上部なし。芽が出ていない。

個体の状況				
	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

表 2-10(3)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（C-1）

種名： キンラン　　№： C-1					
移植3年後監視時写真		調査日： 令和　7　年　5　月　1　日（　木　）			
		地上部なし。芽が出ていない。			
		個体の状況	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
			花数：	- 個	結実：	- 個
			備考：			

表 2-11(1)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（C-2）

種名： キンラン　　No.： C-2

移植1週間後調査時写真



調査日： 令和 4 年 4 月 13 日（ 水 ）

順調に生育し、花芽を伸ばしている。

個体の状況				
	草丈：	15.5cm	葉数：	0枚
	花数：	0個	結実：	0個
	備考：			

移植2週間後調査時写真



調査日： 令和 4 年 4 月 22 日（ 金 ）

順調に生育し、花をつけ、一部は開花目前の状況である。

個体の状況				
	草丈：	33.5cm	葉数：	6枚
	花数：	4個	結実：	0個
	備考：			

移植1ヶ月後調査時写真



調査日： 令和 4 年 5 月 17 日（ 火 ）

順調に生育し、果実を形成している。

個体の状況				
	草丈：	33.5cm	葉数：	6枚
	花数：	0個	結実：	4個
	備考：			

移植3ヶ月後調査時写真



調査日： 令和 4 年 7 月 14 日（ 木 ）

生育良好、果実成熟過程。

個体の状況				
	草丈：	38.5cm	葉数：	6枚
	花数：	0個	結実：	3個
	備考：			

表 2-11(2)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（C-2）

種名： キンラン　　No.： C-2

補足調査時写真



調査日： 令和 4 年 8 月 31 日（ 水 ）

生育良好、果実成熟過程。

個体の状況				
	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

移植6ヶ月後監視時写真



調査日： 令和 4 年 10 月 3 日（ 月 ）

生育良好、果実成熟過程。

個体の状況				
	草丈：	38.5cm	葉数：	5枚
	花数：	0 個	結実：	3個
	備考：			

移植1年後監視時写真



調査日： 令和 5 年 5 月 1 日（ 月 ）

生育は良好。

個体の状況				
	草丈：	35.5 cm	葉数：	6 枚
	花数：	7 個	結実：	0 個
	備考：			

移植2年後監視時写真



調査日： 令和 6 年 5 月 1 日（ 水 ）

生育は良好。



個体の状況				
	草丈：	20.0cm	葉数：	6枚
	花数：	4個	結実：	0個
	備考：	花は落下した痕跡。		

表 2-11(3)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（C-2）

種名： キンラン		№： C-2			
移植3年後監視時写真		調査日： 令和 7 年 5 月 1 日（ 木 ）			
		地上部なし。芽が出ていない。			
個体の状況	草丈：	- cm	葉数：	- 枚	
	花数：	- 個	結実：	- 個	
	備考：				

表 2-12(1)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（C-3-a）

種名： キンラン　　No.： C-3-a

移植1週間後調査時写真



調査日：　令和　4　年　4　月　13　日（　水　）

順調に生育し、花芽を伸ばしている。
（斜面下方からC-3を見た時、左側に位置する個体がC-3-aである。）

個体の状況				
	草丈：	25.5cm	葉数：	0枚
	花数：	0個	結実：	0個
	備考：			

移植2週間後調査時写真



調査日：　令和　4　年　4　月　22　日（　金　）

順調に生育し、花をつけ、一部はすでに開花している。

個体の状況				
	草丈：	41.0cm	葉数：	7枚
	花数：	7個	結実：	0個
	備考：			

移植1ヶ月後調査時写真



調査日：　令和　4　年　5　月　17　日（　火　）

順調に生育し、果実を形成している。

個体の状況				
	草丈：	44.0cm	葉数：	7枚
	花数：	0個	結実：	6個
	備考：			

移植3ヶ月後調査時写真



調査日：　令和　4　年　7　月　14　日（　木　）

生育は良好。果実成熟過程。

個体の状況				
	草丈：	45.5cm	葉数：	6枚
	花数：	0個	結実：	6個
	備考：			

表 2-12(2)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（C-3-a）

種名： キンラン　　No.： C-3-a

補足調査時写真



調査日：　令和　4　年　8　月　31　日（　水　）

生育は良好。果実成熟過程。

個体の状況				
	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

移植6ヶ月後監視時写真



調査日：　令和　4　年　10　月　3　日（　月　）

生育は良好。果実成熟過程。

個体の状況				
	草丈：	45.5cm	葉数：	6枚
	花数：	0個	結実：	6個
	備考：	結実6個をすべて採取		

移植1年後監視時写真



調査日：　令和　5　年　5　月　1　日（　月　）

生育は良好（右の個体）。

個体の状況				
	草丈：	36.0 cm	葉数：	7 枚
	花数：	4 個	結実：	0 個
	備考：			

移植2年後監視時写真



調査日：　令和　6　年　5　月　1　日（　水　）

生育は良好。



個体の状況				
	草丈：	35.0cm	葉数：	7枚
	花数：	5個	結実：	0個
	備考：	花序の元から折れて落下している。		

表 2-12(3)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（C-3-a）

種名： キンラン		№： C-3-a		
移植3年後監視時写真		調査日： 令和 7 年 5 月 1 日（ 木 ）		
		生育は良好。		
個体の状況	草丈：	41.5cm	葉数：	7枚
	花数：	7個	結実：	0個
	備考：			

表 2-13(1)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（C-3-b）

種名： キンラン　　No.： C-3-b

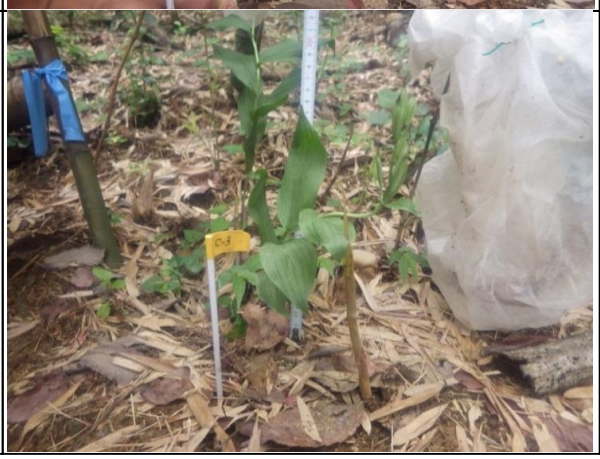
移植1週間後調査時写真		調査日： 令和 4 年 4 月 13 日（ 水 ）			
		順調に生育し、花芽を伸ばしている。 （斜面下方からC-3を見た時、右側に位置する個体がC-3-bである。）			
		個体の状況	草丈：	24.5cm	葉数： 0枚
			花数：	0個	結実： 0個
			備考：		
移植2週間後調査時写真		調査日： 令和 4 年 4 月 22 日（ 金 ）			
		順調に生育し、花をつけ、一部はすでに開花している。			
		個体の状況	草丈：	41.5cm	葉数： 7枚
			花数：	12個	結実： 0個
			備考：		
移植1ヶ月後調査時写真		調査日： 令和 4 年 5 月 17 日（ 火 ）			
		順調に生育し、果実を形成している。			
		個体の状況	草丈：	42.0cm	葉数： 7枚
			花数：	0個	結実： 7個
			備考：		
移植3ヶ月後調査時写真		調査日： 令和 4 年 7 月 14 日（ 木 ）			
		生育は良好。果実成熟過程。			
		個体の状況	草丈：	42.5cm	葉数： 7枚
			花数：	0個	結実： 7個
			備考：		

表 2-13(2)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（C-3-b）

種名： キンラン　　No.： C-3-b

補足調査時写真



調査日： 令和 4 年 8 月 31 日（ 水 ）

シュートと結実部が分離。葉の1枚は食害。

個体の状況				
	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	2個
	備考：	結実2個を回収		

移植6ヶ月後監視時写真



調査日： 令和 4 年 10 月 3 日（ 月 ）

葉の1枚は食害。

個体の状況				
	草丈：	36.0cm	葉数：	6枚
	花数：	0 個	結実：	0 個
	備考：	果実回収済		

移植1年後監視時写真



調査日： 令和 5 年 5 月 1 日（ 月 ）

生育は良好（左の個体）。

個体の状況				
	草丈：	35.5 cm	葉数：	7 枚
	花数：	4 個	結実：	0 個
	備考：			

移植2年後監視時写真



調査日： 令和 6 年 5 月 1 日（ 水 ）

生育は良好。



個体の状況				
	草丈：	41.0cm	葉数：	6枚
	花数：	7個	結実：	0個
	備考：	花は付け根から取れて落下		

表 2-13(3)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（C-3-b）

種名： キンラン		№： C-3-b		
移植3年後監視時写真		調査日： 令和 7 年 5 月 1 日（ 木 ）		
		生育は良好。		
個体の状況	草丈：	41.0cm	葉数：	7枚
	花数：	5個	結実：	0個
	備考：			

表 2-14(1)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（C-4）

種名： キンラン　　No.： C-4

移植1週間後調査時写真		調査日： 令和 4 年 4 月 13 日（ 水 ）			
		順調に生育し、花芽を伸ばしている。			
		個体の状況	草丈：	35.0cm	葉数： 0枚
			花数：	0個	結実： 0個
			備考：		
移植2週間後調査時写真		調査日： 令和 4 年 4 月 22 日（ 金 ）			
		順調に生育し、花をつけ、一部はすでに開花している。			
		個体の状況	草丈：	51.5cm	葉数： 6枚
			花数：	10個	結実： 0個
			備考：		
移植1ヶ月後調査時写真		調査日： 令和 4 年 5 月 17 日（ 火 ）			
		順調に生育し、果実を形成している。			
		個体の状況	草丈：	51.5cm	葉数： 6枚
			花数：	0個	結実： 10個
			備考：		
移植3ヶ月後調査時写真		調査日： 令和 4 年 7 月 14 日（ 木 ）			
		生育は良好。果実成熟過程。			
		個体の状況	草丈：	57.0cm	葉数： 6枚
			花数：	0個	結実： 10個
			備考：	フユイチゴ、キヅタ除去。	

表 2-14(2)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（C-4）

種名： キンラン　　No.： C-4

補足調査時写真



調査日：　令和　4　年　8　月　31　日（　水　）

シュートと結実部が分離。

個体の状況				
	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	10個
	備考：	結実10個を回収		

移植6ヶ月後監視時写真



調査日：　令和　4　年　10　月　3　日（　月　）

枯れ

個体の状況				
	草丈：	cm	葉数：	枚
	花数：	個	結実：	個
	備考：	果実回収済		

移植1年後監視時写真



調査日：　令和　5　年　5　月　1　日（　月　）

生育はやや不良。茎が折れ曲がっている。

個体の状況				
	草丈：	12.0 cm	葉数：	5 枚
	花数：	0 個	結実：	0 個
	備考：			

移植2年後監視時写真



調査日：　令和　6　年　5　月　1　日（　水　）

地上部なし

個体の状況				
	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

表 2-14(3)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（C-4）

種名： キンラン		№： C-4		
移植3年後監視時写真		調査日： 令和 7 年 5 月 1 日（ 木 ）		
		地上部なし。芽が出ていない。		
個体の状況	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

表 2-15(1)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（C-5）

種名： キンラン　　No.： C-5

移植1週間後調査時写真		調査日： 令和 4 年 4 月 13 日（ 水 ）			
		順調に生育し、花芽を伸ばしている。			
		個体の状況	草丈：	21.5cm	葉数： 0枚
			花数：	0個	結実： 0個
			備考：		
移植2週間後調査時写真		調査日： 令和 4 年 4 月 22 日（ 金 ）			
		順調に生育し、花をつけ、一部はすでに開花している。			
		個体の状況	草丈：	37.5cm	葉数： 7枚
			花数：	12個	結実： 0個
			備考：		
移植1ヶ月後調査時写真		調査日： 令和 4 年 5 月 17 日（ 火 ）			
		順調に生育し、果実を形成している。			
		個体の状況	草丈：	41.0cm	葉数： 7枚
			花数：	0個	結実： 12個
			備考：		
移植3ヶ月後調査時写真		調査日： 令和 4 年 7 月 14 日（ 木 ）			
		枯れ、カビが生えている。			
		個体の状況	草丈：	40.0cm	葉数： 7枚
			花数：	0個	結実： 12個
			備考：		

表 2-15(2)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（C-5）

種名： キンラン　　No.： C-5

補足調査時写真



調査日： 令和 4 年 8 月 31 日（ 水 ）

枯れ

個体の状況				
	草丈：	-cm	葉数：	-枚
	花数：	-個	結実：	-個
	備考：			

移植6ヶ月後監視時写真



調査日： 令和 4 年 10 月 3 日（ 月 ）

枯れ

個体の状況				
	草丈：	-cm	葉数：	-枚
	花数：	-個	結実：	-個
	備考：			

移植1年後監視時写真



調査日： 令和 5 年 5 月 1 日（ 月 ）

他個体と比較して生育がやや遅い。

個体の状況				
	草丈：	15.0 cm	葉数：	7 枚
	花数：	0 個	結実：	0 個
	備考：			

移植2年後監視時写真



調査日： 令和 6 年 5 月 1 日（ 水 ）

生育は良好。



個体の状況				
	草丈：	34.0cm	葉数：	5枚
	花数：	3個	結実：	3個
	備考：	実が少し大きくなっている。		

表 2-15(3)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（C-5）

種名： キンラン　　№： C-5

移植3年後監視時写真



調査日：　令和　　年　　月　　日（　　）

生育が遅く、シュートの伸長が遅れている。

個体の状況				
	草丈：	20.5cm	葉数：	5枚
	花数：	0個	結実：	0個
	備考：			

表 2-16(1)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（C-6）

種名： キンラン　　No.： C-6

移植1週間後調査時写真



調査日：　令和　4　年　4　月　13　日（　水　）

順調に生育し、花芽を伸ばしている。

個体の状況				
	草丈：	25.0cm	葉数：	0枚
	花数：	0個	結実：	0個
	備考：			

移植2週間後調査時写真

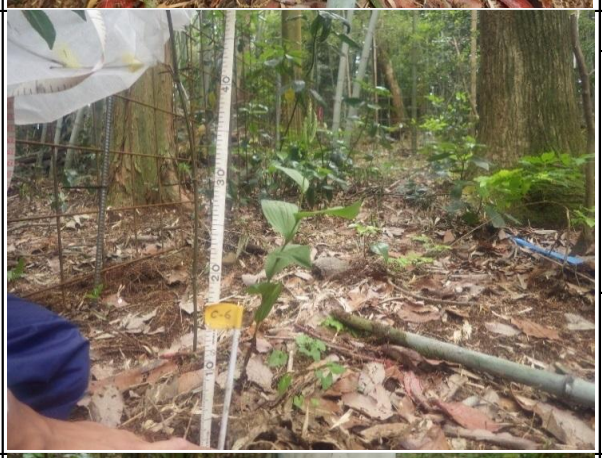


調査日：　令和　4　年　4　月　22　日（　金　）

順調に生育し、花をつけ、一部はすでに開花している。

個体の状況				
	草丈：	40.0cm	葉数：	7枚
	花数：	6個	結実：	0個
	備考：			

移植1ヶ月後調査時写真



調査日：　令和　4　年　5　月　17　日（　火　）

順調に生育し、果実を形成している。

個体の状況				
	草丈：	40.0cm	葉数：	7枚
	花数：	0個	結実：	4個
	備考：			

移植3ヶ月後調査時写真



調査日：　令和　4　年　7　月　14　日（　木　）

生育は良好。果実成熟過程。

個体の状況				
	草丈：	40.0cm	葉数：	7枚
	花数：	0個	結実：	4個
	備考：			

表 2-16(2)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（C-6）

種名： キンラン　　No.： C-6

補足調査時写真



調査日：　令和　4　年　8　月　31　日（　水　）

生育は良好。果実成熟過程。

個体の状況				
	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

移植6ヶ月後監視時写真



調査日：　令和　4　年　10　月　3　日（　月　）

生育は良好。果実成熟過程。

個体の状況				
	草丈：	40.0cm	葉数：	7枚
	花数：	- 個	結実：	4個
	備考：			

移植1年後監視時写真



調査日：　令和　5　年　5　月　1　日（　月　）

生育は良好。

個体の状況				
	草丈：	38.0 cm	葉数：	7 枚
	花数：	3 個	結実：	0 個
	備考：			

移植2年後監視時写真



調査日：　令和　6　年　5　月　1　日（　水　）

生育不良、枯れ。
スギの枯れ枝が被さっており、
成長できなかったもの。

個体の状況				
	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

表 2-16(3)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（C-6）

種名： キンラン		№： C-6		
移植3年後監視時写真		調査日： 令和 7 年 5 月 1 日（ 木 ）		
		生育は良好。		
個体の状況	草丈：	29.5cm	葉数：	6枚
	花数：	3個	結実：	0個
	備考：			

表 2-17(1)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（C-7）

種名：キンラン　　No.：C-7

移植1週間後調査時写真		調査日：令和 4 年 4 月 13 日（水）			
		生育はやや不良。 良好な生育状況の個体と比較すると、花芽の伸長がやや遅れているものの、地上部は出現している。			
		個体の状況	草丈：	1.0cm	葉数：　0枚
			花数：	0個	結実：　0個
			備考：		
移植2週間後調査時写真		調査日：令和 4 年 4 月 22 日（金）			
		生育は不良。 前回確認時よりもやや伸長しているものの、他の個体と比較して伸長が遅れている。			
		個体の状況	草丈：	2.0cm	葉数：　0枚
			花数：	0個	結実：　0個
			備考：		
移植1ヶ月後調査時写真		調査日：令和 4 年 5 月 17 日（火）			
		枯れ			
		個体の状況	草丈：	- cm	葉数：　- 枚
			花数：	- 個	結実：　- 個
			備考：		
移植3ヶ月後調査時写真		調査日：令和 4 年 7 月 14 日（木）			
		枯れ			
		個体の状況	草丈：	- cm	葉数：　- 枚
			花数：	- 個	結実：　- 個
			備考：		

表 2-17(2)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（C-7）

種名： キンラン　　No.： C-7

補足調査時写真



調査日： 令和 4 年 8 月 31 日（ 水 ）

地上部消滅。

個体の状況				
	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

移植6ヶ月後監視時写真



調査日： 令和 4 年 10 月 3 日（ 月 ）

地上部消滅。

個体の状況				
	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

移植1年後監視時写真



調査日： 令和 5 年 5 月 1 日（ 月 ）

地上部なし。芽が出ていない。

個体の状況				
	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

移植2年後監視時写真



調査日： 令和 6 年 5 月 1 日（ 水 ）

地上部なし。芽が出ていない。

個体の状況				
	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

表 2-17(3)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（C-7）

種名： キンラン		№： C-7		
移植3年後監視時写真		調査日： 令和 7 年 5 月 1 日（ 木 ）		
		地上部なし。芽が出ていない。		
個体の状況	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

表 2-18(1)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（C-8）

種名： キンラン　　No.： C-8

移植1週間後調査時写真



調査日：　令和　4　年　4　月　13　日（　水　）

順調に生育し、花芽を伸ばしている。

個体の状況				
	草丈：	15.5cm	葉数：	0枚
	花数：	0個	結実：	0個
	備考：			

移植2週間後調査時写真



調査日：　令和　4　年　4　月　22　日（　金　）

順調に生育し、花をつけ、一部はすでに開花している。

個体の状況				
	草丈：	27.5cm	葉数：	6枚
	花数：	2個	結実：	0個
	備考：			

移植1ヶ月後調査時写真



調査日：　令和　4　年　5　月　17　日（　火　）

順調に生育し、果実を形成している。茎は湾曲。最上部の葉は、上半分欠損。

個体の状況				
	草丈：	28.0cm	葉数：	6枚
	花数：	0個	結実：	2個
	備考：	隣接するヤマグワ除去。		

移植3ヶ月後調査時写真



調査日：　令和　4　年　7　月　14　日（　木　）

茎は湾曲している。果実1個は細く未成熟の状態。

個体の状況				
	草丈：	28.0cm	葉数：	6枚
	花数：	0個	結実：	2個
	備考：	隣接するスミレ除去。		

表 2-18(2)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（C-8）

種名： キンラン　　No.： C-8

補足調査時写真



調査日：　令和　4　年　8　月　31　日（　水　）

茎は湾曲している。果実成熟過程。

個体の状況				
	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

移植6ヶ月後監視時写真



調査日：　令和　4　年　10　月　3　日（　月　）

茎は湾曲している。果実成熟過程。

個体の状況				
	草丈：	29.5cm	葉数：	5枚
	花数：	0 個	結実：	2個
	備考：			

移植1年後監視時写真



調査日：　令和　5　年　5　月　1　日（　月　）

他個体と比較して生育がやや遅い。

個体の状況				
	草丈：	19.5 cm	葉数：	7 枚
	花数：	0 個	結実：	0 個
	備考：			

移植2年後監視時写真



調査日：　令和　6　年　5　月　1　日（　水　）

生育は良好。



個体の状況				
	草丈：	34.0cm	葉数：	7枚
	花数：	3個	結実：	0個
	備考：	花は落下している。		

表 2-18(3)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（C-8）

種名： キンラン		№： C-8		
移植3年後監視時写真		調査日： 令和 7 年 5 月 1 日（ 木 ）		
		茎の途中で折れ、 上部が枯れている。		
個体の状況	草丈：	33.0cm	葉数：	6枚
	花数：	3個	結実：	0個
	備考：	花を付けていることから、開花後に折れたものと思われる。		

表 2-19(1)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（C-9）

種名：キンラン　　No.：C-9

移植1週間後調査時写真



調査日：令和 4 年 4 月 13 日（水）

良好な生育状況の個体と比較すると、花芽の伸長がやや遅れているものの、地上部は出現している。

個体の状況				
	草丈：	5.0cm	葉数：	0枚
	花数：	0個	結実：	0個
	備考：			

移植2週間後調査時写真



調査日：令和 4 年 4 月 22 日（金）

順調に生育しているが、シュートの伸長が遅れていたためか、まだ花をつけていない。

個体の状況				
	草丈：	19.5cm	葉数：	3枚
	花数：	0個	結実：	0個
	備考：			

移植1ヶ月後調査時写真



調査日：令和 4 年 5 月 17 日（火）

生育は良好であるが、開花・結実は確認していない。

個体の状況				
	草丈：	22.5cm	葉数：	6枚
	花数：	0個	結実：	0個
	備考：			

移植3ヶ月後調査時写真



調査日：令和 4 年 7 月 14 日（木）

生育は良好であるが、開花・結実は確認していない。

個体の状況				
	草丈：	21.0cm	葉数：	6枚
	花数：	0個	結実：	0個
	備考：			

表 2-19(2)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（C-9）

種名： キンラン　　No.： C-9

補足調査時写真



調査日：　令和　4　年　8　月　31　日（　水　）

生育は良好であるが、開花・結実は無し。

個体の状況				
	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

移植6ヶ月後監視時写真



調査日：　令和　4　年　10　月　3　日（　月　）

生育は良好であるが、開花・結実は無し。

個体の状況				
	草丈：	21.0cm	葉数：	6枚
	花数：	0個	結実：	0 個
	備考：			

移植1年後監視時写真



調査日：　令和　5　年　5　月　1　日（　月　）

地上部なし。芽が出ていない。

個体の状況				
	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

移植2年後監視時写真



調査日：　令和　6　年　5　月　1　日（　水　）

生育は良好。
開花直前。



個体の状況				
	草丈：	26.0cm	葉数：	6枚
	花数：	2個	結実：	0個
	備考：			

表 2-19(3)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（C-9）

種名： キンラン		№： C-9		
移植3年後監視時写真		調査日： 令和 7 年 5 月 1 日（ 木 ）		
		地上部なし。芽が出ていない。		
個体の状況	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

表 2-20(1)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（C-10）

種名：キンラン　　No.：C-10

移植1週間後調査時写真



調査日：令和 4 年 4 月 13 日（水）

良好な生育状況の個体と比較すると、花芽の伸長がやや遅れているものの、地上部は出現している。

個体の状況				
	草丈：	5.5cm	葉数：	0枚
	花数：	0個	結実：	0個
	備考：			

移植2週間後調査時写真



調査日：令和 4 年 4 月 22 日（金）

生育はやや不良。
順調に生育しているが、シュートの伸長が遅れていたためか、展葉に至っていない。

個体の状況				
	草丈：	11.0cm	葉数：	0枚
	花数：	0個	結実：	0個
	備考：			

移植1ヶ月後調査時写真



調査日：令和 4 年 5 月 17 日（火）

生育は良好であるが、開花・結実は確認していない。

個体の状況				
	草丈：	13.5cm	葉数：	5枚
	花数：	0個	結実：	0個
	備考：			

移植3ヶ月後調査時写真



調査日：令和 4 年 7 月 14 日（木）

枯れ

個体の状況				
	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

表 2-20(2)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（C-10）

種名： キンラン　　No.： C-10

補足調査写真



調査日：　令和　4　年　8　月　31　日（　水　）

地上部は消滅。

個体の状況				
	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

移植6ヶ月後監視時写真



調査日：　令和　4　年　10　月　3　日（　月　）

地上部は消滅。

個体の状況				
	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

移植1年後監視時写真



調査日：　令和　5　年　5　月　1　日（　月　）

倒伏している。頂部に損傷あり。

個体の状況				
	草丈：	16.0 cm	葉数：	6 枚
	花数：	0 個	結実：	0 個
	備考：			

移植2年後監視時写真



調査日：　令和　6　年　5　月　1　日（　水　）

生育は良好。

個体の状況				
	草丈：	20.0cm	葉数：	6枚
	花数：	1個	結実：	0個
	備考：	花は枯れている		

表 2-20(3)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（C-10）

種名： キンラン		№： C-10		
移植3年後監視時写真		調査日： 令和 7 年 5 月 1 日（ 木 ）		
		地上部なし。芽が出ていない。		
個体の状況	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

表 2-21(1)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（D-1）

種名： キンラン　　No.： D-1

移植1週間後調査時写真		調査日： 令和 4 年 4 月 13 日（ 水 ）			
		順調に生育し、花芽を伸ばしている。			
		個体の状況	草丈：	19.5cm	葉数： 0枚
			花数：	0個	結実： 0個
			備考：		
移植2週間後調査時写真		調査日： 令和 4 年 4 月 22 日（ 金 ）			
		順調に生育し、花をつけ、一部はすでに開花している。			
		個体の状況	草丈：	35.5cm	葉数： 7枚
			花数：	6個	結実： 0個
			備考：		
移植1ヶ月後調査時写真		調査日： 令和 4 年 5 月 17 日（ 火 ）			
		順調に生育し、果実を形成している。			
		個体の状況	草丈：	49.0cm	葉数： 7枚
			花数：	0個	結実： 6個
			備考：		
移植3ヶ月後調査時写真		調査日： 令和 4 年 7 月 14 日（ 木 ）			
		生育は良好。果実が6個から2個に減少。			
		個体の状況	草丈：	36.5cm	葉数： 6枚
			花数：	0個	結実： 2個
			備考：		

表 2-21(2)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（D-1）

種名： キンラン　　No.： D-1

補足調査時写真



調査日：　令和　4　年　8　月　31　日（　水　）

シュートと地下部が分離。

個体の状況				
	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	2個
	備考：	結実2個を回収		

移植6ヶ月後監視時写真



調査日：　令和　4　年　10　月　3　日（　月　）

枯れ

個体の状況				
	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	-個
	備考：	果実回収済		

移植1年後監視時写真



調査日：　令和　5　年　5　月　1　日（　月　）

生育は良好。

個体の状況				
	草丈：	33.0 cm	葉数：	8 枚
	花数：	1 個	結実：	0 個
	備考：			

移植2年後監視時写真



調査日：　令和　6　年　5　月　1　日（　水　）

生育が遅く、シュートの伸長が遅れている。

個体の状況				
	草丈：	8.0cm	葉数：	4枚
	花数：	0個	結実：	0個
	備考：			

表 2-21(3)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（D-1）

種名： キンラン		№： D-1		
移植3年後監視時写真		調査日： 令和 7 年 5 月 1 日（ 木 ）		
		生育は良好。		
個体の状況	草丈：	30.5cm	葉数：	7枚
	花数：	1個	結実：	0個
	備考：			

表 2-22(1)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（D-2）

種名： キンラン　　No.： D-2

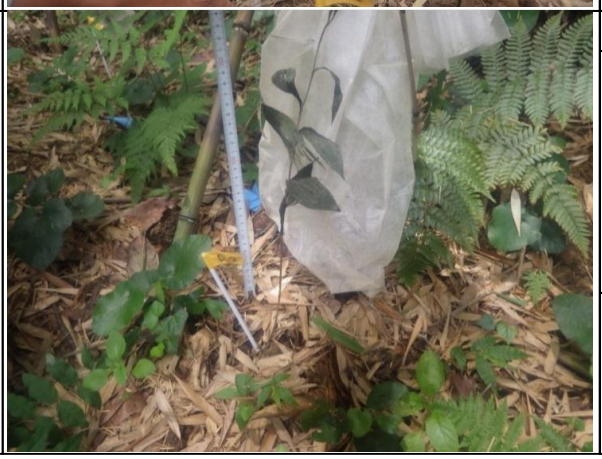
移植1週間後調査時写真		調査日： 令和 4 年 4 月 13 日（ 水 ）			
		順調に生育し、花芽を伸ばしている。			
		個体の状況	草丈：	24.0cm	葉数： 0枚
			花数：	0個	結実： 0個
			備考：		
移植2週間後調査時写真		調査日： 令和 4 年 4 月 22 日（ 金 ）			
		順調に生育し、花をつけ、一部はすでに開花している。			
		個体の状況	草丈：	35.5cm	葉数： 7枚
			花数：	4個	結実： 0個
			備考：		
移植1ヶ月後調査時写真		調査日： 令和 4 年 5 月 17 日（ 火 ）			
		順調に生育し、果実を形成している。			
		個体の状況	草丈：	41.0cm	葉数： 7枚
			花数：	0個	結実： 4個
			備考：		
移植3ヶ月後調査時写真		調査日： 令和 4 年 7 月 14 日（ 木 ）			
		枯れ寸前。カビが生える。			
		個体の状況	草丈：	41.0cm	葉数： 7枚
			花数：	0個	結実： 4個
			備考：		

表 2-22(2)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（D-2）

種名：キンラン　　No.：D-2

補足調査時写真



調査日：令和 4 年 8 月 31 日（水）

枯れ

個体の状況				
	草丈：	cm	葉数：	枚
	花数：	個	結実：	個
	備考：			

移植6ヶ月後監視時写真



調査日：令和 4 年 10 月 3 日（月）

枯れ

個体の状況				
	草丈：	cm	葉数：	枚
	花数：	個	結実：	個
	備考：			

移植1年後監視時写真



調査日：令和 5 年 5 月 1 日（月）

他個体と比較して生育がやや遅い。

個体の状況				
	草丈：	16.0 cm	葉数：	4 枚
	花数：	0 個	結実：	0 個
	備考：			

移植2年後監視時写真



調査日：令和 6 年 5 月 1 日（水）

生育は良好。
開花直前。

個体の状況				
	草丈：	29.0cm	葉数：	6枚
	花数：	3個	結実：	0個
	備考：			

表 2-22(3)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（D-2）

種名： キンラン		№： D-2		
移植3年後監視時写真		調査日： 令和 7 年 5 月 1 日（ 木 ）		
		生育は良好。		
個体の状況	草丈：	22.0cm	葉数：	7枚
	花数：	3個	結実：	0個
	備考：			

表 2-23(1)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（E-1）

種名： キンラン　　No.： E-1

移植1週間後調査時写真



調査日： 令和 4 年 4 月 13 日（ 水 ）

順調に生育し、花芽を伸ばしている。

個体の状況				
	草丈：	19.5cm	葉数：	0枚
	花数：	0個	結実：	0個
	備考：			

移植2週間後調査時写真



調査日： 令和 4 年 4 月 22 日（ 金 ）

順調に生育しているものの、花は確認できず。
（4/25の人工授粉時に4花を確認。）

個体の状況				
	草丈：	34.5cm	葉数：	6枚
	花数：	0個	結実：	0個
	備考：			

移植1ヶ月後調査時写真



調査日： 令和 4 年 5 月 17 日（ 火 ）

順調に生育し、果実を形成している。

個体の状況				
	草丈：	38.0cm	葉数：	6枚
	花数：	0個	結実：	4個
	備考：			

移植3ヶ月後調査時写真



調査日： 令和 4 年 7 月 14 日（ 木 ）

生育は良好。果実成熟過程。

個体の状況				
	草丈：	37.0cm	葉数：	6枚
	花数：	0 個	結実：	4個
	備考：			

表 2-23(2)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（E-1）

種名：キンラン　　No.：E-1

補足調査時写真



調査日：令和 4 年 8 月 31 日（水）

生育は良好。果実成熟過程。

個体の状況				
	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

移植6ヶ月後監視時写真



調査日：令和 4 年 10 月 3 日（月）

生育は良好。果実成熟過程。

個体の状況				
	草丈：	37.0cm	葉数：	6枚
	花数：	0 個	結実：	4個
	備考：			

移植1年後監視時写真



調査日：令和 5 年 5 月 1 日（月）

他個体と比較して生育がやや遅い。

個体の状況				
	草丈：	11.0 cm	葉数：	3 枚
	花数：	0 個	結実：	0 個
	備考：			

移植2年後監視時写真



調査日：令和 6 年 5 月 1 日（水）

生育は良好。花は付けていない。

個体の状況				
	草丈：	21.0cm	葉数：	7枚
	花数：	0個	結実：	0個
	備考：			

表 2-23(3)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（E-1）

種名： キンラン		№： E-1		
移植3年後監視時写真		調査日： 令和 7 年 5 月 1 日（ 木 ）		
		生育は良好。		
個体の状況	草丈：	34.0cm	葉数：	6枚
	花数：	2個	結実：	0個
	備考：			

表 2-24(1)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（F-1）

種名： キンラン　　No.： F-1

移植1週間後調査時写真



調査日：　令和　4　年　4　月　13　日（　水　）

順調に生育し、花芽を伸ばしている。

個体の状況				
	草丈：	20.0cm	葉数：	0枚
	花数：	0個	結実：	0個
	備考：			

移植2週間後調査時写真



調査日：　令和　4　年　4　月　22　日（　金　）

順調に生育し、花をつけ、一部は開花目前の状況である。

個体の状況				
	草丈：	41.5cm	葉数：	6枚
	花数：	8個	結実：	0個
	備考：			

移植1ヶ月後調査時写真



調査日：　令和　4　年　5　月　17　日（　火　）

順調に生育し、果実を形成している。

個体の状況				
	草丈：	48.5cm	葉数：	6枚
	花数：	0個	結実：	8個
	備考：			

移植3ヶ月後調査時写真



調査日：　令和　4　年　7　月　14　日（　木　）

生育は良好。果実成熟過程。

個体の状況				
	草丈：	47.0cm	葉数：	6枚
	花数：	0個	結実：	8個
	備考：			

表 2-24(2)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（F-1）

種名： キンラン　　No.： F-1

補足調査時写真



調査日： 令和 4 年 8 月 31 日（ 水 ）

生育は良好。果実成熟過程。

個体の状況				
	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

移植6ヶ月後監視時写真



調査日： 令和 4 年 10 月 3 日（ 月 ）

生育は良好。果実成熟過程。

個体の状況				
	草丈：	47.0cm	葉数：	6枚
	花数：	0個	結実：	8個
	備考：			

移植1年後監視時写真



調査日： 令和 5 年 5 月 1 日（ 月 ）

生育は良好。

個体の状況				
	草丈：	40.5 cm	葉数：	7 枚
	花数：	4 個	結実：	0 個
	備考：			

移植2年後監視時写真



調査日： 令和 6 年 5 月 1 日（ 水 ）

伸長しているが、
葉と花部分が
食害を受けている。



個体の状況				
	草丈：	23.0cm	葉数：	7枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

表 2-24(3)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（F-1）

種名： キンラン			№： F-1		
移植3年後監視時写真		調査日： 令和 7 年 5 月 1 日（ 木 ）			
		生育は良好。			
個体の状況	草丈：	28.0cm	葉数：	6枚	
	花数：	2個	結実：	0個	
	備考：				

表 2-25(1)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（G-1-a）

種名： キンラン　　No.： G-1-a

移植1週間後調査時写真		調査日： 令和 4 年 4 月 13 日（ 水 ）			
		生育はやや不良。 良好な生育状況の個体と比較すると、花芽の伸長がやや遅れているものの、地上部は出現している。			
		個体の状況	草丈：	1.5cm	葉数： 0枚
			花数：	0個	結実： 0個
			備考：		
移植2週間後調査時写真		調査日： 令和 4 年 4 月 22 日（ 金 ）			
		順調に生育しているが、シュートの伸長が遅れていたためか、まだ花をつけていない。			
		個体の状況	草丈：	16.5cm	葉数： 0枚
			花数：	0個	結実： 0個
			備考：		
移植1ヶ月後調査時写真		調査日： 令和 4 年 5 月 17 日（ 火 ）			
		順調に生育し、果実を形成している（自家結実）。			
		個体の状況	草丈：	40.0cm	葉数： 7枚
			花数：	0個	結実： 1個
			備考：	花茎に消失していた袋を付け直し。	
移植3ヶ月後調査時写真		調査日： 令和 4 年 7 月 14 日（ 木 ）			
		生育は良好。果実は消失。			
		個体の状況	草丈：	33.0cm	葉数： 7枚
			花数：	0個	結実： 0 個
			備考：	隣接するヤマノイモ、クサギを除去。	

表 2-25(2)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（G-1-a）

種名： キンラン　　No.： G-1-a

補足調査時写真

写真無し

調査日： 令和 4 年 8 月 31 日（ 水 ）

（空欄）

個体の状況				
	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：	目印消失により未確認		

移植6ヶ月後監視時写真



調査日： 令和 4 年 10 月 3 日（ 月 ）

生育は良好。果実は無し。

個体の状況				
	草丈：	32.0cm	葉数：	7枚
	花数：	0 個	結実：	0 個
	備考：			

移植1年後監視時写真



調査日： 令和 5 年 5 月 1 日（ 月 ）

生育は良好（左の個体）。

個体の状況				
	草丈：	43.0 cm	葉数：	7 枚
	花数：	5 個	結実：	0 個
	備考：			

移植2年後監視時写真



調査日： 令和 6 年 5 月 1 日（ 水 ）

生育は良好（左の個体）。開花している。

個体の状況				
	草丈：	44.0cm	葉数：	7枚
	花数：	6個	結実：	0個
	備考：			

表 2-25(3)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（G-1-a）

種名： キンラン	№： G-1-a

移植3年後監視時写真



調査日： 令和 7 年 5 月 1 日（ 木 ）

生育は良好（左の個体）。開花している。

個体の状況				
	草丈：	37.0cm	葉数：	6枚
	花数：	5個	結実：	0個
	備考：			

表 2-26(1)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（G-1-b）

種名： キンラン　　No.： G-1-b

移植1週間後調査時写真



調査日： 令和 4 年 4 月 13 日（ 水 ）

地上部（花芽）は確認できなかった。

個体の状況				
	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

移植2週間後調査時写真



調査日： 令和 4 年 4 月 22 日（ 金 ）

地上部は確認できなかった。

個体の状況				
	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

移植1ヶ月後調査時写真



調査日： 令和 4 年 5 月 17 日（ 火 ）

地上部確認。順調に生育している。

個体の状況				
	草丈：	25.0cm	葉数：	6枚
	花数：	0個	結実：	0個
	備考：			

移植3ヶ月後調査時写真



調査日： 令和 4 年 7 月 14 日（ 木 ）

生育は良好。果実は無し。

個体の状況				
	草丈：	21.0cm	葉数：	6枚
	花数：	0個	結実：	0個
	備考：			

表 2-26(2)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（G-1-b）

種名： キンラン　　No.： G-1-b

補足調査時写真

写真無し

調査日： 令和 4 年 8 月 31 日（ 水 ）

（空欄）

個体の状況				
	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：	目印消失により未確認		

移植6ヶ月後監視時写真



調査日： 令和 4 年 10 月 3 日（ 月 ）

生育は良好。果実は無し。

個体の状況				
	草丈：	16.5cm	葉数：	6枚
	花数：	0 個	結実：	0 個
	備考：			

移植1年後監視時写真



調査日： 令和 5 年 5 月 1 日（ 月 ）

生育は良好（右の個体）。左の個体よりも
生育がやや遅い。

個体の状況				
	草丈：	25.0 cm	葉数：	7 枚
	花数：	0 個	結実：	0 個
	備考：			

移植2年後監視時写真



調査日： 令和 6 年 5 月 1 日（ 水 ）

生育は良好（右の個体）。開花している。

個体の状況				
	草丈：	40.0cm	葉数：	7枚
	花数：	4個	結実：	0個
	備考：			

表 2-26(3)　キンラン移植個体活着状況調査結果詳細（G-1-b）

種名： キンラン		№： G-1-b		
移植3年後監視時写真		調査日： 令和 7 年 5 月 1 日（ 木 ）		
		生育は良好（右の個体）。開花している。		
個体の状況	草丈：	40.0cm	葉数：	6枚
	花数：	4個	結実：	0個
	備考：			

表 2-27(1)　カラタチバナ移植個体活着状況調査結果詳細（①）

種名： カラタチバナ　　№： ①

移植1週間後調査時写真



調査日：　令和　4　年　4　月　13　日（　水　）

順調に生育している。
なお、移植の際に枝葉の剪定を行っている為、過年度の確認状況よりも葉数等は減少している。

個体の状況				
	草丈：	20.5cm	葉数：	1枚
	花序数：	0個	果序数：	0個
	備考：			

移植2週間後調査時写真



調査日：　令和　4　年　4　月　22　日（　金　）

移植1週間後と比較して、大きな変化は認められず。

個体の状況				
	草丈：	20.5cm	葉数：	1枚
	花序数：	0個	果序数：	0個
	備考：			

移植1ヶ月後調査時写真

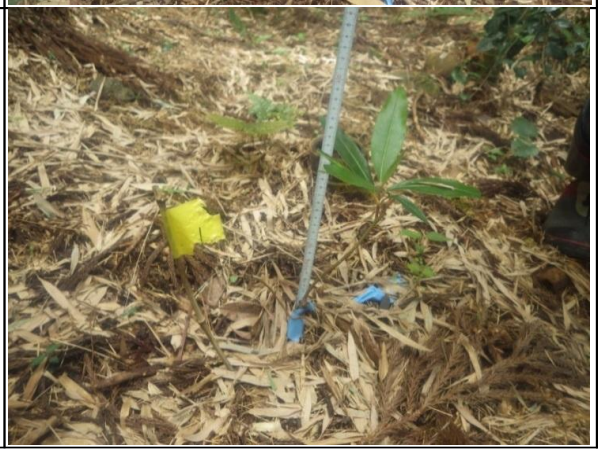


調査日：　令和　4　年　5　月　17　日（　火　）

草丈・葉数ともに変化はないが、側芽は活性化している。

個体の状況				
	草丈：	20.5cm	葉数：	1枚
	花序数：	0個	果序数：	0個
	備考：			

移植3ヶ月後調査時写真



調査日：　令和　4　年　7　月　14　日（　木　）

側芽が伸長。主軸は折れている。

個体の状況				
	草丈：	22.0cm	葉数：	7枚
	花序数：	0個	果序数：	0個
	備考：			

表 2-27(2)　カラタチバナ移植個体活着状況調査結果詳細（①）

種名：　カラタチバナ　　No.：　①

移植6ヶ月後監視時写真



調査日：　令和　4　年　10　月　3　日（　月　）

順調に生育

個体の状況				
	草丈：	23.0cm	葉数：	10枚
	花序数：	- 個	果序数：	- 個
	備考：			

移植1年後監視時写真



調査日：　令和　5　年　6　月　26　日（　月　）

生育は良好

個体の状況				
	草丈：	28.0cm	葉数：	13枚
	花数：	7 個	結実：	- 個
	備考：			

移植2年後監視時写真



調査日：　令和　6　年　6　月　11　日（　火　）

生育は良好

個体の状況				
	草丈：	31.0cm	葉数：	21枚
	花数：	5個	結実：	- 個
	備考：			

移植3年後監視時写真



調査日：　令和　7　年　6　月　9　日（　月　）

主幹は枯死
約3cmの脇芽が出ている



個体の状況				
	草丈：	7 cm	葉数：	0 枚
	花数：	0 個	結実：	0 個
	備考：			

表 2-28(1)　カラタチバナ移植個体活着状況調査結果詳細（②）

種名： カラタチバナ　　№.： ②

移植1週間後調査時写真		調査日：　令和　4　年　4　月　13　日（　水　）			
		順調に生育している。 なお、移植の際に枝葉の剪定を行っている為、過年度の確認状況よりも葉数等は減少している。			
		個体の状況	草丈：	44.5cm	葉数： 3枚
			花序数：	0個	果序数： 0個
			備考：		
移植2週間後調査時写真		調査日：　令和　4　年　4　月　22　日（　金　）			
		移植1週間後と比較して、大きな変化は認められず。			
		個体の状況	草丈：	44.5cm	葉数： 3枚
			花序数：	0個	果序数： 0個
			備考：		
移植1ヶ月後調査時写真		調査日：　令和　4　年　5　月　17　日（　火　）			
		ほとんど変化無し。葉の3枚は虫による食害あり。			
		3枚の	草丈：	45.0cm	葉数： 3枚
			花序数：	0個	果序数： 0個
			備考：		
移植3ヶ月後調査時写真		調査日：　令和　4　年　7　月　14　日（　木　）			
		葉10枚のうち3枚は枯れの傾向。			
		個体の状況	草丈：	48.0cm	葉数： 10枚
			花序数：	0個	果序数： 0個
			備考：		

表 2-28(2)　カラタチバナ移植個体活着状況調査結果詳細（②）

種名：カラタチバナ　　No.：②

移植6ヶ月後監視時写真



調査日：　令和　4　年　10　月　3　日（　月　）

生育は良好。

個体の状況				
	草丈：	51.0cm	葉数：	13枚
	花数：	- 個	果序数：	- 個
	備考：			

移植1年後監視時写真



調査日：　令和　5　年　6　月　26　日（　月　）

生育は良好。

個体の状況				
	草丈：	53.0cm	葉数：	12枚
	花数：	1 個	結実：	- 個
	備考：			

移植2年後監視時写真



調査日：　令和　6　年　6　月　11　日（　火　）

生育は良好。

個体の状況				
	草丈：	61.0cm	葉数：	28枚
	花数：	0個	結実：	- 個
	備考：			

移植3年後監視時写真



調査日：　令和　7　年　6　月　9　日（　月　）

主幹、脇芽ともに葉は食害を受け、樹勢は弱い。
第２軸の途中から10㎝および6㎝の新芽が出ている。

個体の状況				
	草丈：	35 cm	葉数：	11 枚
	花数：	0 個	結実：	0 個
	備考：			

表 2-29(1)　カラタチバナ移植個体活着状況調査結果詳細（③-a）

種名：カラタチバナ　　№：③-a

移植1週間後調査時写真



調査日：　令和　4　年　4　月　13　日（水）

順調に生育している。本個体は2株立ちをしている。
なお、移植の際に枝葉の剪定を行っている為、過年度の確認状況よりも葉数等は減少している。

個体の状況				
	草丈：	24.0cm	葉数：	4枚
	花序数：	0個	果序数：	0個
	備考：			

移植2週間後調査時写真



調査日：　令和　4　年　4　月　22　日（金）

移植1週間後と比較して、大きな変化は認められず。

個体の状況				
	草丈：	24.0cm	葉数：	4枚
	花序数：	0個	果序数：	0個
	備考：			

移植1ヶ月後調査時写真



調査日：　令和　4　年　5　月　17　日（火）

ほとんど変化無し。葉の2枚は虫による食害あり。

個体の状況				
	草丈：	24.0cm	葉数：	4枚
	花序数：	0個	果序数：	0個
	備考：			

移植3ヶ月後調査時写真



調査日：　令和　4　年　7　月　14　日（木）

生育は良好。側芽が伸長。

個体の状況				
	草丈：	30.0cm	葉数：	10枚
	花序数：	0個	果序数：	0個
	備考：			

表 2-29(2)　カラタチバナ移植個体活着状況調査結果詳細（③-a）

種名： カラタチバナ　　No.： ③-a

移植6ヶ月後監視時写真



調査日：　令和　4　年　10　月　3　日（　月　）

生育は良好。

個体の状況				
	草丈：	34.0cm	葉数：	11枚
	花序数：	- 個	果序数：	- 個
	備考：			

移植1年後監視時写真



調査日：　令和　5　年　6　月　26　日（　月　）

生育は良好。
花序は食害を受けた様子。

個体の状況				
	草丈：	31.0cm	葉数：	13枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

移植2年後監視時写真



調査日：　令和　6　年　6　月　11　日（　火　）

生育は良好（右の個体）。葉の一部が食害を受けている。

個体の状況				
	草丈：	45.0cm	葉数：	24枚
	花数：	9個	結実：	- 個
	備考：			

移植3年後監視時写真



調査日：　令和　7　年　6　月　9　日（　月　）

枯死



個体の状況				
	草丈：	27 cm	葉数：	0 枚
	花数：	0 個	結実：	0 個
	備考：			

表 2-30(1)　カラタチバナ移植個体活着状況調査結果詳細（③-b）

種名：カラタチバナ　　№：③-b

移植1週間後調査時写真



調査日：　令和　4　年　4　月　13　日（水）

順調に生育している。本個体は2株立ちをしている。
なお、移植の際に枝葉の剪定を行っている為、過年度の確認状況よりも葉数等は減少している。

個体の状況				
	草丈：	26.5cm	葉数：	6枚
	花序数：	0個	果序数：	0個
	備考：			

移植2週間後調査時写真



調査日：　令和　4　年　4　月　22　日（金）

移植1週間後と比較して、大きな変化は認められず。

個体の状況				
	草丈：	26.5cm	葉数：	6枚
	花序数：	0個	果序数：	0個
	備考：			

移植1ヶ月後調査時写真



調査日：　令和　4　年　5　月　17　日（火）

ほとんど変化無し。葉の2枚は虫による食害あり。

個体の状況				
	草丈：	26.5cm	葉数：	6枚
	花序数：	0個	果序数：	0個
	備考：			

移植3ヶ月後調査時写真



調査日：　令和　4　年　7　月　14　日（木）

生育は良好。側芽が伸長。
葉の1枚は黄変している。

個体の状況				
	草丈：	30.5cm	葉数：	12枚
	花序数：	0個	果序数：	0個
	備考：			

表 2-30(2)　カラタチバナ移植個体活着状況調査結果詳細（③-b）

種名： カラタチバナ　　No.： ③-b

移植6ヶ月後監視時写真



調査日：　令和　4　年　10　月　3　日（月）

生育は良好。

個体の状況				
	草丈：	34.0cm	葉数：	11枚
	花序数：	- 個	果序数：	- 個
	備考：			

移植1年後監視時写真

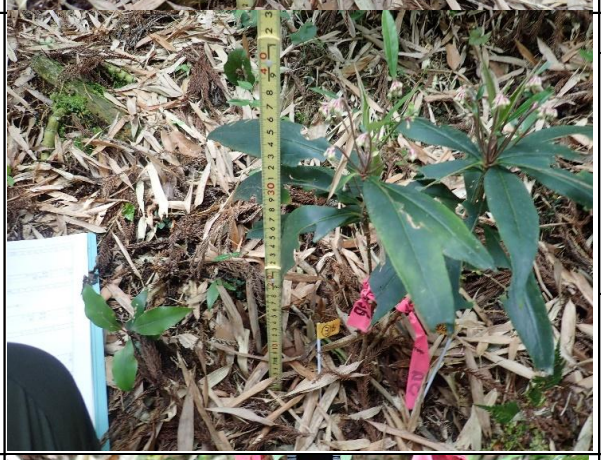


調査日：　令和　5　年　6　月　26　日（月）

生育は良好。

個体の状況				
	草丈：	50.0cm	葉数：	8枚
	花数：	6 個	結実：	- 個
	備考：			

移植2年後監視時写真



調査日：　令和　6　年　6　月　11　日（火）

生育は比較的良好（左の個体）。
葉の一部が食害を受けている。

個体の状況				
	草丈：	47.0cm	葉数：	19枚
	花数：	11個	結実：	- 個
	備考：			

移植3年後監視時写真



調査日：　令和　7　年　6　月　9　日（月）

主幹は枯死
株元から14㎝の芽が出ているが、芽と葉は食害を受けている。葉の残骸が4枚残る。

個体の状況				
	草丈：	37 cm	葉数：	0 枚
	花数：	0 個	結実：	0 個
	備考：			

表 2-31(1)　カラタチバナ移植個体活着状況調査結果詳細（④）

種名： カラタチバナ　　№.： ④

移植1週間後調査時写真		調査日： 令和 4 年 4 月 13 日（ 水 ）			
		順調に生育している。 なお、移植の際に枝葉の剪定を行っている為、過年度の確認状況よりも葉数等は減少している。			
		個体の状況	草丈：	37.0cm	葉数： 0枚
			花序数：	0個	果序数： 0個
			備考：		
移植2週間後調査時写真		調査日： 令和 4 年 4 月 22 日（ 金 ）			
		移植1週間後と比較して、大きな変化は認められず。			
		個体の状況	草丈：	37.0cm	葉数： 0枚
			花序数：	0個	果序数： 0個
			備考：		
移植1ヶ月後調査時写真		調査日： 令和 4 年 5 月 17 日（ 火 ）			
		順調に生育している。新葉が展開中。			
		個体の状況	草丈：	40.5cm	葉数： 2枚
			花序数：	0個	果序数： 0個
			備考：		
移植3ヶ月後調査時写真		調査日： 令和 4 年 7 月 14 日（ 木 ）			
		生育は良好。			
		個体の状況	草丈：	42.0cm	葉数： 5枚
			花序数：	0個	果序数： 0個
			備考：		

表 2-31(2)　カラタチバナ移植個体活着状況調査結果詳細（④）

種名：カラタチバナ　　No.：④

移植6ヶ月後監視時写真



調査日：　令和　4　年　10　月　3　日（月）

生育は良好。

個体の状況				
	草丈：	43.5cm	葉数：	9枚
	花序数：	- 個	果序数：	- 個
	備考：			

移植1年後監視時写真



調査日：　令和　5　年　6　月　26　日（月）

生育は良好。

個体の状況				
	草丈：	32.0cm	葉数：	18枚
	花数：	7 個	結実：	- 個
	備考：			

移植2年後監視時写真



調査日：　令和　6　年　6　月　11　日（火）

花序は形成されていない。
葉の一部に食害がある。

個体の状況				
	草丈：	45.0cm	葉数：	15枚
	花数：	0個	結実：	- 個
	備考：			

移植3年後監視時写真



調査日：　令和　7　年　6　月　9　日（月）

主幹は新芽、葉ともに食害を受け、葉の残骸が残る。樹勢は弱い。
株元から3cmの新芽が出る。



個体の状況				
	草丈：	41 cm	葉数：	0 枚
	花数：	0 個	結実：	0 個
	備考：			

表 2-32(1)　カラタチバナ移植個体活着状況調査結果詳細（⑤）

種名： カラタチバナ　　№.： ⑤

移植1週間後調査時写真



調査日：　令和　4　年　4　月　13　日（　水　）

順調に生育している。
なお、移植の際に枝葉の剪定を行っている為、過年度の確認状況よりも葉数等は減少している。

個体の状況				
	草丈：	19.0cm	葉数：	2枚
	花序数：	0個	果序数：	0個
	備考：			

移植2週間後調査時写真

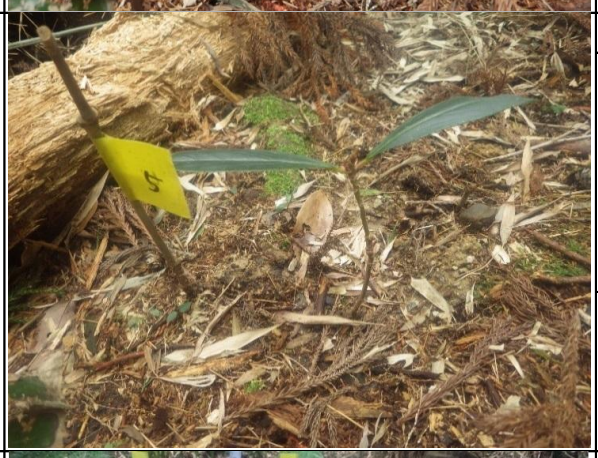


調査日：　令和　4　年　4　月　22　日（　金　）

移植1週間後と比較して、大きな変化は認められず。

個体の状況				
	草丈：	19.0cm	葉数：	2枚
	花序数：	0個	果序数：	0個
	備考：			

移植1ヶ月後調査時写真



調査日：　令和　4　年　5　月　17　日（　火　）

草丈・葉数ともに変化はないが、側芽は活性化している。葉の2枚は虫による食害あり。

個体の状況				
	草丈：	19.0cm	葉数：	2枚
	花序数：	0個	果序数：	0個
	備考：			

移植3ヶ月後調査時写真



調査日：　令和　4　年　7　月　14　日（　木　）

生育は良好。側芽が伸長。

個体の状況				
	草丈：	22.0cm	葉数：	10枚
	花序数：	0個	果序数：	0個
	備考：			

表 2-32(2)　カラタチバナ移植個体活着状況調査結果詳細（⑤）

種名： カラタチバナ　　No.： ⑤

移植6ヶ月後監視時写真



調査日：　令和　4　年　10　月　3　日（　月　）

生育は良好。

個体の状況				
	草丈：	23.5cm	葉数：	11枚
	花序数：	- 個	果序数：	- 個
	備考：			

移植1年後監視時写真



調査日：　令和　5　年　6　月　26　日（　月　）

生育は良好。

個体の状況				
	草丈：	32.0cm	葉数：	18枚
	花数：	7 個	結実：	- 個
	備考：			

移植2年後監視時写真



調査日：　令和　6　年　6　月　11　日（　火　）

葉が食害を受け、草丈、葉数は大きく減少。
樹勢弱く、衰弱している。
新芽や花序は見られない。

個体の状況				
	草丈：	20.0cm	葉数：	3枚
	花数：	0個	結実：	- 個
	備考：			

移植3年後監視時写真



調査日：　令和　7　年　6　月　9　日（　月　）

新芽、葉が食害を受ける。
樹勢は弱い。

個体の状況				
	草丈：	29 cm	葉数：	7 枚
	花数：	0 個	結実：	0 個
	備考：			

表 2-33(1)　カラタチバナ移植個体活着状況調査結果詳細（⑥）

種名： カラタチバナ　　№： ⑥

移植1週間後調査時写真



調査日：　令和　4　年　4　月　13　日（　水　）

順調に生育している。
なお、移植の際に枝葉の剪定を行っている為、過年度の確認状況よりも葉数等は減少している。

個体の状況				
	草丈：	31.5cm	葉数：	4枚
	花序数：	0個	果序数：	0個
	備考：			

移植2週間後調査時写真



調査日：　令和　4　年　4　月　22　日（　金　）

移植1週間後と比較して、大きな変化は認められず。

個体の状況				
	草丈：	31.5cm	葉数：	4枚
	花序数：	0個	果序数：	0個
	備考：			

移植1ヶ月後調査時写真



調査日：　令和　4　年　5　月　17　日（　火　）

順調に生育している。頂芽展開中。

個体の状況				
	草丈：	34.0cm	葉数：	8枚
	花序数：	0個	果序数：	0個
	備考：			

移植3ヶ月後調査時写真



調査日：　令和　4　年　7　月　14　日（　木　）

生育は良好。花序が形成されている。

個体の状況				
	草丈：	38.0cm	葉数：	15枚
	花序数：	3個	果序数：	0個
	備考：	1個の花序に5～8の花・蕾あり。		

表 2-33(2)　カラタチバナ移植個体活着状況調査結果詳細（⑥）

種名： カラタチバナ　　No.： ⑥

移植6ヶ月後監視時写真



調査日：　令和　4　年　10　月　3　日（　月　）

生育は良好。果実が成熟過程。

個体の状況				
	草丈：	38.0cm	葉数：	18枚
	花序数：	-個	果序数：	3 個
	備考：	果実数：18個		

移植1年後監視時写真



調査日：　令和　5　年　6　月　26　日（　月　）

生育は良好。

個体の状況				
	草丈：	43.0cm	葉数：	22枚
	花数：	10 個	結実：	- 個
	備考：			

移植2年後監視時写真



調査日：　令和　6　年　6　月　11　日（　火　）

主幹は枯死。
脇芽が出ているが、食害された葉の柄部のみ残る。
新芽、花序は無くかなり衰弱した状態。

個体の状況				
	草丈：	11.0cm	葉数：	2枚
	花数：	0個	結実：	- 個
	備考：			

移植3年後監視時写真



調査日：　令和　7　年　6　月　9　日（　月　）

主幹は枯死。
脇芽が出ているが、新芽と葉は食害によりすべて消失。
かなり衰弱した状態。

個体の状況				
	草丈：	19 cm	葉数：	0 枚
	花数：	0 個	結実：	0 個
	備考：			

表 2-34(1)　カラタチバナ移植個体活着状況調査結果詳細（⑦）

種名：カラタチバナ　　No.：⑦

移植1週間後調査時写真



調査日：　令和　4　年　4　月　13　日（水）

順調に生育している。
なお、移植の際に枝葉の剪定を行っている為、過年度の確認状況よりも葉数等は減少している。

個体の状況				
	草丈：	13.5cm	葉数：	9枚
	花序数：	0個	果序数：	0個
	備考：			

移植2週間後調査時写真

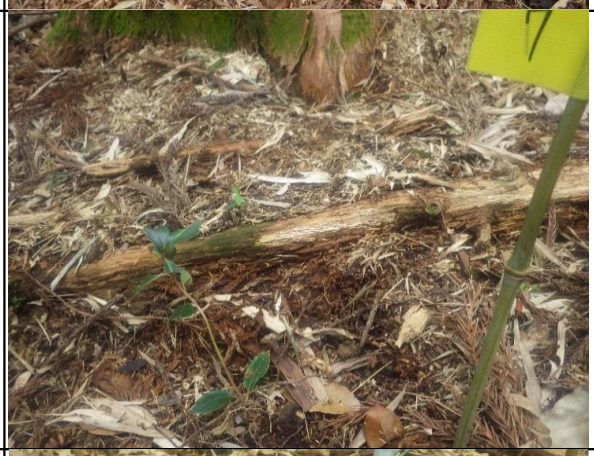


調査日：　令和　4　年　4　月　22　日（金）

移植1週間後と比較して、大きな変化は認められず。

個体の状況				
	草丈：	13.5cm	葉数：	9枚
	花序数：	0個	果序数：	0個
	備考：			

移植1ヶ月後調査時写真



調査日：　令和　4　年　5　月　17　日（火）

生育は良好ではあるが、葉の7枚は虫による食害あり。

個体の状況				
	草丈：	14.5cm	葉数：	9枚
	花序数：	0個	果序数：	0個
	備考：			

移植3ヶ月後調査時写真



調査日：　令和　4　年　7　月　14　日（木）

倒伏している。活性は低く、衰弱している。

個体の状況				
	草丈：	15.0cm	葉数：	8枚
	花序数：	0個	果序数：	0個
	備考：			

表 2-34(2)　カラタチバナ移植個体活着状況調査結果詳細（⑦）

種名：　カラタチバナ　　No.：　⑦

移植6ヶ月後監視時写真



調査日：　令和　4　年　10　月　3　日（　月　）

生育良好。

個体の状況				
	草丈：	14cm	葉数：	9枚
	花序数：	- 個	果序数：	- 個
	備考：			

移植1年後監視時写真



調査日：　令和　5　年　6　月　26　日（　月　）

生育良好。

個体の状況				
	草丈：	9.5cm	葉数：	7枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

移植2年後監視時写真



調査日：　令和　6　年　6　月　11　日（　火　）

主幹は枯死。
脇芽が残るが葉は食害を受ける。
新芽、花序は無く、衰弱した状態。

個体の状況				
	草丈：	6.0cm	葉数：	4枚
	花数：	0個	結実：	- 個
	備考：			

移植3年後監視時写真



調査日：　令和　7　年　6　月　9　日（　月　）

脇芽の葉の大部分は食害を受ける。
新芽の葉数枚は健全。

個体の状況				
	草丈：	13.5 cm	葉数：	9 枚
	花数：	0 個	結実：	0 個
	備考：			

表 2-35(1)　カラタチバナ移植個体活着状況調査結果詳細（⑧）

種名：カラタチバナ　　№.：⑧

移植1週間後調査時写真



調査日：　令和　4　年　4　月　13　日（　水　）

順調に生育している。
なお、移植の際に枝葉の剪定を行っている為、過年度の確認状況よりも葉数等は減少している。

個体の状況				
	草丈：	39.0cm	葉数：	9枚
	花序数：	0個	果序数：	0個
	備考：			

移植2週間後調査時写真



調査日：　令和　4　年　4　月　22　日（　金　）

移植1週間後と比較して、大きな変化は認められず。

個体の状況				
	草丈：	39.0cm	葉数：	9枚
	花序数：	0個	果序数：	0個
	備考：			

移植1ヶ月後調査時写真



調査日：　令和　4　年　5　月　17　日（　火　）

生育は良好ではあるが、新葉の1枚以外は虫による食害あり。

個体の状況				
	草丈：	42.5cm	葉数：	15枚
	花序数：	0個	果序数：	0個
	備考：			

移植3ヶ月後調査時写真



調査日：　令和　4　年　7　月　14　日（　木　）

生育は良好。果序が形成されている。
果実は成熟過程。

個体の状況				
	草丈：	46.0cm	葉数：	21枚
	花序数：	0個	果序数：	5個
	備考：	1個の果序に5～8の果実あり。		

表 2-35(2)　カラタチバナ移植個体活着状況調査結果詳細（⑧）

種名：カラタチバナ　　No.：⑧

移植6ヶ月後監視時写真



調査日：　令和　4　年　10　月　3　日（　月　）

生育は良好。果序が形成されている。
果実は成熟過程。

個体の状況				
	草丈：	47.0cm	葉数：	20枚
	花序数：	- 個	果序数：	6 個
	備考：	果実数：33個		

移植1年後監視時写真



調査日：　令和　5　年　6　月　26　日（　月　）

茎が折れて倒伏している。
茎を起こし、添え木で応急措置済み。

個体の状況				
	草丈：	39.5cm	葉数：	13枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

移植2年後監視時写真



調査日：　令和　6　年　6　月　11　日（　火　）

主幹は枯死。
脇芽が残っているが、葉はすべて落ちている。
新芽、花序は無く、かなり衰弱した状態。

個体の状況				
	草丈：	22.0cm	葉数：	0枚
	花数：	0個	結実：	- 個
	備考：			

移植3年後監視時写真



調査日：　令和　7　年　6　月　9　日（　月　）

脇芽の葉はすべて食害を受けるが、先端脇から新芽が出ており新芽の葉2枚は健全な状態。



個体の状況				
	草丈：	29 cm	葉数：	2 枚
	花数：	0 個	結実：	0 個
	備考：			

表 2-36(1)　カラタチバナ移植個体活着状況調査結果詳細（⑨）

種名： カラタチバナ　　№.： ⑨

移植1週間後調査時写真



調査日：　令和　4　年　4　月　13　日（　水　）

順調に生育している。
なお、移植の際に枝葉の剪定を行っている為、過年度の確認状況よりも葉数等は減少している。

個体の状況				
	草丈：	13.0cm	葉数：	2枚
	花序数：	0個	果序数：	0個
	備考：			

移植2週間後調査時写真



調査日：　令和　4　年　4　月　22　日（　金　）

移植1週間後と比較して、大きな変化は認められず。

個体の状況				
	草丈：	13.0cm	葉数：	2枚
	花序数：	0個	果序数：	0個
	備考：			

移植1ヶ月後調査時写真



調査日：　令和　4　年　5　月　17　日（　火　）

順調に生育している。頂芽が伸長。

個体の状況				
	草丈：	15.0cm	葉数：	2枚
	花序数：	0個	果序数：	0個
	備考：			

移植3ヶ月後調査時写真



調査日：　令和　4　年　7　月　14　日（　木　）

生育は良好。

個体の状況				
	草丈：	15.0cm	葉数：	6枚
	花序数：	0個	果序数：	0個
	備考：	隣接するスズメウリを除去。		

表 2-36(2)　カラタチバナ移植個体活着状況調査結果詳細（⑨）

種名：カラタチバナ　　No.：⑨

移植6ヶ月後監視時写真		調査日：令和 4 年 10 月 3 日（月）			
		生育は良好。			
		個体の状況	草丈：	16.0cm	葉数： 7枚
			花序数：	- 個	果序数： - 個
			備考：		
移植1年後監視時写真		調査日：令和 5 年 6 月 26 日（月）			
		ほとんど成長が見られない。			
		個体の状況	草丈：	16.5cm	葉数： 4枚
			花数：	- 個	結実： - 個
			備考：		
移植2年後監視時写真		調査日：令和 6 年 6 月 11 日（火）			
		わずかに成長している。 新芽、花序は形成されていない。 葉の一部に食害がある。			
		個体の状況	草丈：	19.0cm	葉数： 7枚
			花数：	0個	結実： - 個
			備考：		
移植3年後監視時写真		調査日：令和 7 年 6 月 9 日（月）			
		葉は大部分が食害を受け、1枚のみ残る。 樹勢はかなり衰弱した状態。			
		個体の状況	草丈：	18 cm	葉数： 1 枚
			花数：	0 個	結実： 0 個
			備考：		

表 2-37(1)　カラタチバナ移植個体活着状況調査結果詳細（⑩）

種名：カラタチバナ　　No.：⑩

移植1週間後調査時写真



調査日：　令和　4　年　4　月　13　日（　水　）

順調に生育している。
なお、移植の際に枝葉の剪定を行っている為、過年度の確認状況よりも葉数等は減少している。

個体の状況				
	草丈：	18.0cm	葉数：	0枚
	花序数：	0個	果序数：	0個
	備考：			

移植2週間後調査時写真



調査日：　令和　4　年　4　月　22　日（　金　）

移植1週間後と比較して、大きな変化は認められず。

個体の状況				
	草丈：	18.0cm	葉数：	0枚
	花序数：	0個	果序数：	0個
	備考：			

移植1ヶ月後調査時写真



調査日：　令和　4　年　5　月　17　日（　火　）

草丈・葉数ともに変化なし。茎の頂部に食害。

個体の状況				
	草丈：	18.0cm	葉数：	0枚
	花序数：	0個	果序数：	0個
	備考：			

移植3ヶ月後調査時写真



調査日：　令和　4　年　7　月　14　日（　木　）

生育は良好。

個体の状況				
	草丈：	18.0cm	葉数：	5枚
	花序数：	0個	果序数：	0個
	備考：			

表 2-37(2)　カラタチバナ移植個体活着状況調査結果詳細（⑩）

種名：カラタチバナ　　No.：⑩

移植6ヶ月後監視時写真



調査日：　令和　4　年　10　月　3　日（　月　）

生育は良好。

個体の状況				
	草丈：	19.5cm	葉数：	6枚
	花序数：	- 個	果序数：	- 個
	備考：			

移植1年後監視時写真



調査日：　令和　5　年　6　月　26　日（　月　）

ほとんど成長が見られない。

個体の状況				
	草丈：	19.0cm	葉数：	5枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

移植2年後監視時写真



調査日：　令和　6　年　6　月　11　日（　火　）

ほとんど成長が見られない。
花序、新芽は無し。一部の葉に食害あり。

個体の状況				
	草丈：	17.0cm	葉数：	9枚
	花数：	0個	結実：	- 個
	備考：			

移植3年後監視時写真



調査日：　令和　7　年　6　月　9　日（　月　）

生育は良好。
食害を受けていない。

個体の状況				
	草丈：	24 cm	葉数：	8 枚
	花数：	2 個	結実：	0 個
	備考：			

表 2-38(1)　カラタチバナ移植個体活着状況調査結果詳細（⑪）

種名： カラタチバナ　　No.： ⑪

移植1週間後調査時写真



調査日：　令和　4　年　4　月　13　日（　水　）

順調に生育している。
なお、移植の際に枝葉の剪定を行っている為、過年度の確認状況よりも葉数等は減少している。

個体の状況				
	草丈：	40.0cm	葉数：	7枚
	花序数：	0個	果序数：	0個
	備考：			

移植2週間後調査時写真



調査日：　令和　4　年　4　月　22　日（　金　）

移植1週間後と比較して、大きな変化は認められず。

個体の状況				
	草丈：	40.0cm	葉数：	7枚
	花序数：	0個	果序数：	0個
	備考：			

移植1ヶ月後調査時写真



調査日：　令和　4　年　5　月　17　日（　火　）

生育は良好ではあるが、葉の6枚は食害。側芽伸長。

個体の状況				
	草丈：	41.0cm	葉数：	7枚
	花序数：	0個	果序数：	0個
	備考：			

移植3ヶ月後調査時写真



調査日：　令和　4　年　7　月　14　日（　木　）

生育は良好。葉の2枚は食害を受けている。

個体の状況				
	草丈：	42.0cm	葉数：	19枚
	花序数：	0個	果序数：	0個
	備考：			

表 2-38(2)　カラタチバナ移植個体活着状況調査結果詳細（⑪）

種名：カラタチバナ　　No.：⑪

移植6ヶ月後監視時写真



調査日：　令和　4　年　10　月　3　日（月）

生育は良好。

個体の状況				
	草丈：	43.5cm	葉数：	11枚
	花序数：	- 個	果序数：	- 個
	備考：			

移植1年後監視時写真



調査日：　令和　5　年　6　月　26　日（月）

生育は良好。
花序は食害を受けた様子。

個体の状況				
	草丈：	46cm	葉数：	16枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

移植2年後監視時写真



調査日：　令和　6　年　6　月　11　日（火）

生育は良好。
複数の花序と葉が食害を受けている。

個体の状況				
	草丈：	51.0cm	葉数：	31枚
	花数：	8個	結実：	- 個
	備考：			

移植3年後監視時写真



調査日：　令和　7　年　6　月　9　日（月）

2本のうち草丈の高い片側が枯死。
残存した個体は比較的生育良好。

個体の状況				
	草丈：	22 cm	葉数：	10 枚
	花数：	3 個	結実：	0 個
	備考：			

表 2-39(1)　カラタチバナ移植個体活着状況調査結果詳細（⑫）

種名：カラタチバナ　　No.：⑫

移植1週間後調査時写真



調査日：　令和　4　年　4　月　13　日（水）

順調に生育している。
なお、移植の際に枝葉の剪定を行っている為、過年度の確認状況よりも葉数等は減少している。

個体の状況				
	草丈：	39.5cm	葉数：	6枚
	花序数：	0個	果序数：	0個
	備考：			

移植2週間後調査時写真



調査日：　令和　4　年　4　月　22　日（金）

移植1週間後と比較して、大きな変化は認められず。

個体の状況				
	草丈：	39.5cm	葉数：	6枚
	花序数：	0個	果序数：	0個
	備考：			

移植1ヶ月後調査時写真



調査日：　令和　4　年　5　月　17　日（火）

順調に生育している。頂芽伸長。

個体の状況				
	草丈：	45.0cm	葉数：	15枚
	花序数：	0個	果序数：	0個
	備考：			

移植3ヶ月後調査時写真



調査日：　令和　4　年　7　月　14　日（木）

生育は良好。果序が形成されている。果実は成熟過程。
葉のうち5枚は食害を受けている。

個体の状況				
	草丈：	46.0cm	葉数：	15枚
	花序数：	0個	果序数：	4個
	備考：	1個の果序に5～8の果実あり。		

表 2-39(2)　カラタチバナ移植個体活着状況調査結果詳細（⑫）

種名：カラタチバナ　　No.：⑫

移植6ヶ月後監視時写真		調査日：令和 4 年 10 月 3 日（月）			
		生育は良好。果序が形成されている。果実は成熟過程。			
		個体の状況	草丈：	46.0cm	葉数：12枚
			花序数：	- 個	果序数：4個
			備考：	果実数：35個	
移植1年後監視時写真		調査日：令和 5 年 6 月 26 日（月）			
		枯死			
		個体の状況	草丈：	40.5cm	葉数：- 枚
			花数：	- 個	結実：- 個
			備考：		
移植2年後監視時写真		調査日：令和 6 年 6 月 11 日（火）			
		枯死 地上部は無し			
		個体の状況	草丈：	- cm	葉数：- 枚
			花数：	- 個	結実：- 個
			備考：		
移植3年後監視時写真		調査日：令和 7 年 6 月 9 日（月）			
		枯死 地上部は無し			
		個体の状況	草丈：	- cm	葉数：- 枚
			花数：	- 個	結実：- 個
			備考：		

表 2-40(1)　カラタチバナ移植個体活着状況調査結果詳細（⑬）

種名：カラタチバナ　　№.：⑬

移植1週間後調査時写真



調査日：　令和　4　年　4　月　13　日（　水　）

順調に生育している。
なお、移植の際に枝葉の剪定を行っている為、過年度の確認状況よりも葉数等は減少している。

個体の状況				
	草丈：	33.5cm	葉数：	2枚
	花序数：	0個	果序数：	0個
	備考：			

移植2週間後調査時写真



調査日：　令和　4　年　4　月　22　日（　金　）

移植1週間後と比較して、大きな変化は認められず。

個体の状況				
	草丈：	33.5cm	葉数：	2枚
	花序数：	0個	果序数：	0個
	備考：			

移植1ヶ月後調査時写真



調査日：　令和　4　年　5　月　17　日（　火　）

順調に生育している。頂芽伸長。

個体の状況				
	草丈：	36.0cm	葉数：	3枚
	花序数：	0個	果序数：	0個
	備考：			

移植3ヶ月後調査時写真



調査日：　令和　4　年　7　月　14　日（　木　）

生育は良好。

個体の状況				
	草丈：	36.0cm	葉数：	15枚
	花序数：	0個	果序数：	0個
	備考：			

表 2-40(2)　カラタチバナ移植個体活着状況調査結果詳細（⑬）

種名：カラタチバナ　　No.：⑬

移植6ヶ月後監視時写真



調査日：　令和　4　年　10　月　3　日（月）

生育は良好。

個体の状況				
	草丈：	38.0cm	葉数：	17枚
	花序数：	- 個	果序数：	- 個
	備考：			

移植1年後監視時写真



調査日：　令和　5　年　6　月　26　日（月）

ほとんど成長が見られない。
他個体よりも葉の緑色が薄い。
花序が伸長過程。

個体の状況				
	草丈：	37.5cm	葉数：	13枚
	花数：	6個	結実：	- 個
	備考：			

移植2年後監視時写真



調査日：　令和　6　年　6　月　11　日（火）

主幹は枯死。脇芽も出ていない。

個体の状況				
	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

移植3年後監視時写真



調査日：　令和　7　年　6　月　9　日（月）

枯死
地上部なし

個体の状況				
	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

表 2-41(1)　カラタチバナ移植個体活着状況調査結果詳細（⑭）

種名： カラタチバナ　　No.： ⑭

移植1週間後調査時写真



調査日：　令和　4　年　4　月　13　日（　水　）

順調に生育している。
なお、移植の際に枝葉の剪定を行っている為、過年度の確認状況よりも葉数等は減少している。

個体の状況				
	草丈：	14.5cm	葉数：	2枚
	花序数：	0個	果序数：	0個
	備考：			

移植2週間後調査時写真



調査日：　令和　4　年　4　月　22　日（　金　）

移植1週間後と比較して、大きな変化は認められず。

個体の状況				
	草丈：	14.5cm	葉数：	2枚
	花序数：	0個	果序数：	0個
	備考：			

移植1ヶ月後調査時写真



調査日：　令和　4　年　5　月　17　日（　火　）

草丈・葉数ともに変化なし。側芽活性化。2枚の葉に食害。

個体の状況				
	草丈：	14.5cm	葉数：	2枚
	花序数：	0個	果序数：	0個
	備考：			

移植3ヶ月後調査時写真



調査日：　令和　4　年　7　月　14　日（　木　）

生育は良好。

個体の状況				
	草丈：	18.0cm	葉数：	10枚
	花序数：	0個	果序数：	0個
	備考：			

表 2-41(2)　カラタチバナ移植個体活着状況調査結果詳細（⑭）

種名：カラタチバナ　　No.：⑭

移植6ヶ月後監視時写真



調査日：　令和　4　年　10　月　3　日（月）

生育は良好。

個体の状況				
	草丈：	19.5cm	葉数：	12枚
	花序数：	- 個	果序数：	- 個
	備考：	葉2枚が食害		

移植1年後監視時写真



調査日：　令和　5　年　6　月　26　日（月）

生育は良好。

個体の状況				
	草丈：	22.0cm	葉数：	10枚
	花数：	8 個	結実：	- 個
	備考：			

移植2年後監視時写真



調査日：　令和　6　年　6　月　11　日（火）

主幹は枯死。
脇芽が伸び、新葉を付けている。

個体の状況				
	草丈：	14.0cm	葉数：	3枚
	花数：	0個	結実：	- 個
	備考：			

移植3年後監視時写真



調査日：　令和　7　年　6　月　9　日（月）

新芽の生育は良好。
葉の一部が食害を受ける。

個体の状況				
	草丈：	27 cm	葉数：	13 枚
	花数：	4 個	結実：	0 個
	備考：			

表 2-42(1)　カラタチバナ移植個体活着状況調査結果詳細（⑮）

種名：カラタチバナ　　№.：⑮

移植1週間後調査時写真		調査日：令和 4 年 4 月 13 日（水）			
		順調に生育している。 なお、移植の際に枝葉の剪定を行っている為、過年度の確認状況よりも葉数等は減少している。			
		個体の状況	草丈：	21.0cm	葉数：3枚
			花序数：	0個	果序数：0個
			備考：		
移植2週間後調査時写真		調査日：令和 4 年 4 月 22 日（金）			
		移植1週間後と比較して、大きな変化は認められず。			
		個体の状況	草丈：	21.0cm	葉数：3枚
			花序数：	0個	果序数：0個
			備考：		
移植1ヶ月後調査時写真		調査日：令和 4 年 5 月 17 日（火）			
		草丈・葉数ともに大きな変化なし。頂芽良好。			
		個体の状況	草丈：	22.0cm	葉数：3枚
			花序数：	0個	果序数：0個
			備考：		
移植3ヶ月後調査時写真		調査日：令和 4 年 7 月 14 日（木）			
		生育は良好。果序が形成されている。 果実は成熟過程。			
		個体の状況	草丈：	22.0cm	葉数：7枚
			花序数：	0個	果序数：1個
			備考：	1個の果序に5～8の果実あり。	

表 2-42(2)　カラタチバナ移植個体活着状況調査結果詳細（⑮）

種名：　カラタチバナ　　No.：　⑮

移植6ヶ月後監視時写真



調査日：　令和　4　年　10　月　3　日（　月　）

生育は良好。果序が形成されている。
果実は成熟過程。

個体の状況				
	草丈：	23.0cm	葉数：	8枚
	花序数：	- 個	果序数：	1個
	備考：	果実数：3個 葉2枚が食害		

移植1年後監視時写真



調査日：　令和　5　年　6　月　26　日（　月　）

ほとんど成長が見られない。
花序の形成はない。

個体の状況				
	草丈：	21.5cm	葉数：	8枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

移植2年後監視時写真



調査日：　令和　6　年　6　月　11　日（　火　）

成長は見られない。
新芽、花序は無い。
葉は食害を受ける。衰弱した状態。

個体の状況				
	草丈：	8cm	葉数：	3枚
	花数：	0個	結実：	- 個
	備考：			

移植3年後監視時写真



調査日：　令和　7　年　6　月　9　日（　月　）

新芽、葉は食害を受ける。
衰弱した状態。

個体の状況				
	草丈：	11 cm	葉数：	7 枚
	花数：	0 個	結実：	0 個
	備考：			

表 2-43(1)　カラタチバナ移植個体活着状況調査結果詳細（⑯）

種名：カラタチバナ　　№：⑯

移植1週間後調査時写真



調査日：　令和　4　年　4　月　13　日（　水　）

順調に生育している。
なお、移植の際に枝葉の剪定を行っている為、過年度の確認状況よりも葉数等は減少している。

個体の状況				
	草丈：	19.5cm	葉数：	2枚
	花序数：	0個	果序数：	0個
	備考：			

移植2週間後調査時写真



調査日：　令和　4　年　4　月　22　日（　金　）

移植1週間後と比較して、大きな変化は認められず。

個体の状況				
	草丈：	19.5cm	葉数：	2枚
	花序数：	0個	果序数：	0個
	備考：			

移植1ヶ月後調査時写真



調査日：　令和　4　年　5　月　17　日（　火　）

草丈に変化はないが、1葉増加。茎頂部衰弱傾向。

個体の状況				
	草丈：	19.5 cm	葉数：	3枚
	花序数：	0個	果序数：	0個
	備考：			

移植3ヶ月後調査時写真



調査日：　令和　4　年　7　月　14　日（　木　）

生育は良好。花序が形成されている。

個体の状況				
	草丈：	19.5cm	葉数：	6枚
	花序数：	1個	果序数：	0個
	備考：	1個の花序に5～8の花・蕾あり。		

表 2-43(2)　カラタチバナ移植個体活着状況調査結果詳細（⑯）

種名：カラタチバナ　　No.：⑯

移植6ヶ月後監視時写真



調査日：　令和　4　年　10　月　3　日（月）

生育は良好。花序は消失。

個体の状況				
	草丈：	19.5cm	葉数：	6枚
	花序数：	-個	果序数：	-個
	備考：			

移植1年後監視時写真



調査日：　令和　5　年　6　月　26　日（月）

生育は良好。花序が形成されている。

個体の状況				
	草丈：	22.5cm	葉数：	5枚
	花数：	4個	結実：	-個
	備考：			

移植2年後監視時写真



調査日：　令和　6　年　6　月　11　日（火）

枯死。
地上部は無し。

個体の状況				
	草丈：	-cm	葉数：	-枚
	花数：	-個	結実：	-個
	備考：			

移植3年後監視時写真



調査日：　令和　7　年　6　月　9　日（月）

新芽が出ており、生育は良好。
食害は受けていない。

個体の状況				
	草丈：	20 cm	葉数：	6 枚
	花数：	0 個	結実：	0 個
	備考：			

表 2-44(1)　タシロラン移植個体活着状況調査結果詳細（①）

種名：タシロラン　　No.：①

移植1週間後調査時写真



調査日：令和 4 年 4 月 13 日（水）

地上部は認められなかった。
なお、本種の花序の確認は6～7月の事例も多く、年によって地上部が出現しないこともあることから、継続的な調査が必要。

個体の状況				
	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

移植2週間後調査時写真



調査日：令和 4 年 4 月 22 日（金）

地上部は認められなかった。

個体の状況				
	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

移植1ヶ月後調査時写真



調査日：令和 4 年 5 月 17 日（火）

地上部は認められなかった。

個体の状況				
	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

移植3ヶ月後調査時写真



調査日：令和 4 年 7 月 14 日（木）

地上部は認められなかった。

個体の状況				
	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

表 2-44(2)　タシロラン移植個体活着状況調査結果詳細（①）

種名：タシロラン　　No.：①

移植6ヶ月後監視時写真



調査日：令和 4 年 10 月 3 日（月）

地上部は認められなかった。

個体の状況				
	草丈：	- cm	葉数：	- 枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

移植1年後監視時写真



調査日：令和 5 年 6 月 26 日（月）

地上部は認められなかった。

個体の状況				
	草丈：	cm	葉数：	枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

移植2年後監視時写真



調査日：令和 6 年 6 月 11 日（火）

地上部は認められなかった。

個体の状況				
	草丈：	cm	葉数：	枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			

移植3年後監視時写真



調査日：令和 7 年 6 月 9 日（月）

地上部は認められなかった。

個体の状況				
	草丈：	cm	葉数：	枚
	花数：	- 個	結実：	- 個
	備考：			